

# 山形城三の丸跡

## 第4・6次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第190集



2010

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



やま が た じょう さ ん まる あと  
山形城三の丸跡

第4・6次発掘調査報告書

---

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第190集

平成 22 年

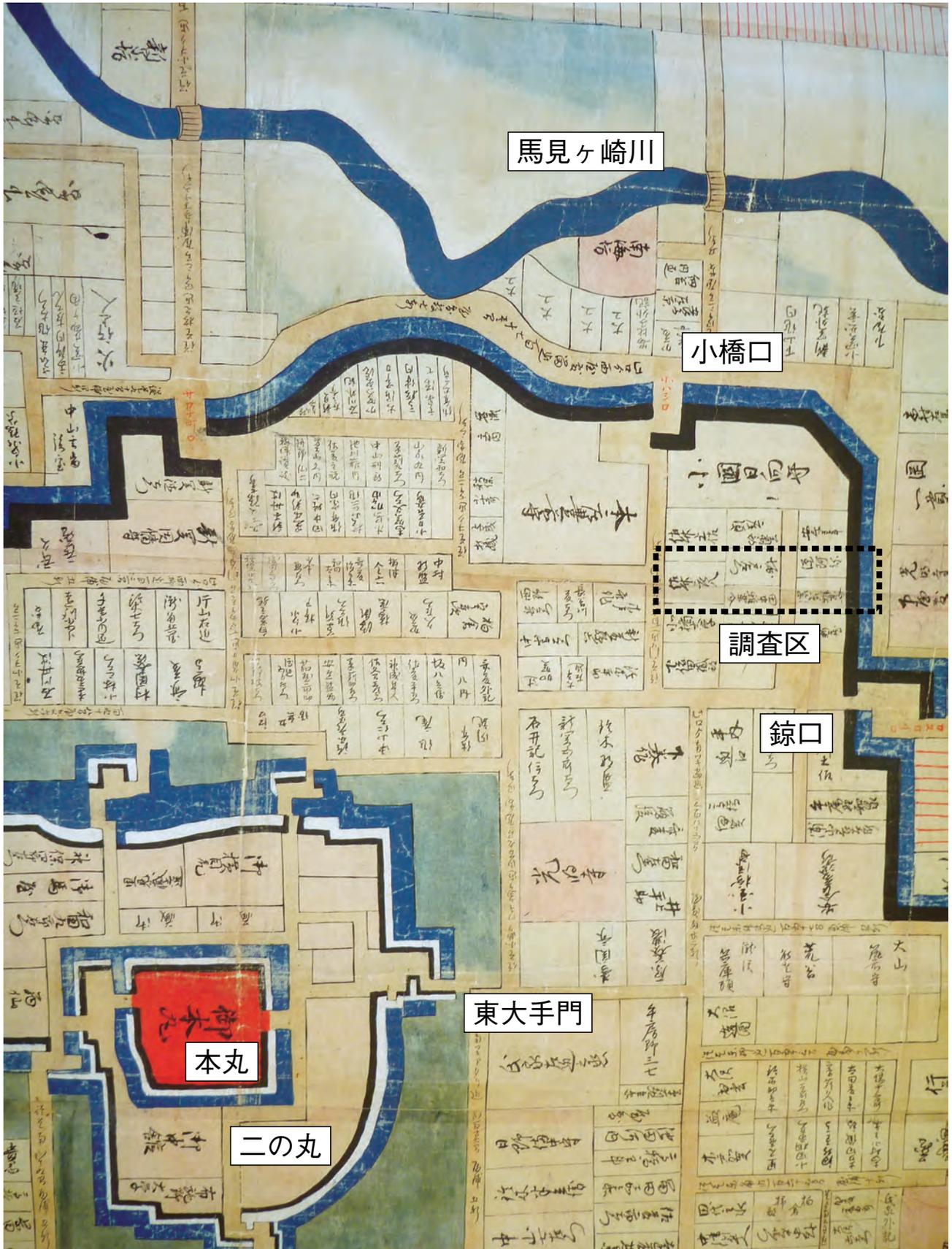
財団法人 山形県埋蔵文化財センター







第6次調査2区SD202 堀跡19層（西から）



『最上家在城諸家中町割圖』／山形県立図書館蔵

# 序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、山形城三の丸跡の調査成果をまとめたものです。

山形城三の丸跡は、山形盆地中央に位置する山形市の市街地に所在し、現在の霞城公園（本丸跡・二の丸跡）の周辺を取り囲むように形成されています。山形市は、中世から近世初頭までは、最上氏の城下町として栄えました。とくに近世初頭には最上義光によって山形城が本格的に整備され大規模なものになりました。現在は、山形県の県庁所在地として、県の政治・経済の中心的都市として発展しています。

この度、一般国道112号霞城改良事業にかかわり、山形城三の丸跡の発掘調査を実施しました。調査では、山形城三の丸に伴う掘立柱建物跡や土坑など数多くの遺構が見つかり、また三の丸を囲む堀についてこれまで確定できなかった部分を確認することができました。これらの遺構に関連した陶磁器や瓦等多くの遺物も出土しました。これらの調査成果は、これからの三の丸跡の史実を究明していく上で、貴重な資料となることでしょう。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の啓蒙や普及、学術研究や教育活動などの一助になれば幸いです。

最後になりますが、調査において御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成22年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 山口常夫

# 凡 例

- 1 本書は、一般国道112号霞城改良事業に係る「山形城三の丸跡」の発掘調査報告書である。
- 2 既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の執筆は、佐竹弘嗣、伊藤純子が担当し、柏倉俊夫、小笠原正道、鎌上勝則、安部実、阿部明彦、黒坂雅人、伊藤邦弘が監修した。
- 5 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系（世界測地系）により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

S T…竪穴住居跡	S B…掘立柱建物跡	S K…土坑	S D…堀跡・溝跡	S P…ピット
S X…性格不明遺構	R P…登録土器	R Q…登録石製品		
P…土器・陶磁器	S…石・石製品	W…木・木製品		
- 7 遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示した。
- 8 遺物実測図および拓本は、各々スケールを付した。なお、土器実測図の断面を黒く塗りつぶしたものは須恵器を、網点を入れたものは黒色処理を表している。
- 9 基本層序および遺構覆土の色調記載については、2005年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

# 調査要項

遺跡名	やまがたじょうさん まるあと 山形城三の丸跡第4・6次
遺跡番号	山形県中世城館遺跡調査報告書番号201-002
所在地	山形県山形市旅籠町一丁目
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター
受託期間	平成20年4月1日～平成22年3月31日
現地調査	第4次調査 平成20年6月16日～10月31日 第6次調査 平成21年5月11日～7月30日
調査担当者	平成20年度 調査課長 長橋至 整理課長 安部実 課長補佐 伊藤邦弘（調査・整理主任） 主任調査研究員 佐竹弘嗣 調査員 高木茜 平成21年度 調査課長 阿部明彦 整理課長 安部実 課長補佐 伊藤邦弘 課長補佐 黒坂雅人 専門調査研究員 佐竹弘嗣（調査・整理主任） 調査員 伊藤純子
調査指導	山形県教育庁文化遺産課（平成20年度） 山形県教育庁文化財保護推進課（平成21年度）
調査協力	山形ガス株式会社 山形市上下水道部 山形市教育委員会 山形県教育庁村山教育事務所
業務委託	基準点測量業務 東和測量設計株式会社 遺構測量業務 株式会社寒河江測量設計事務所 デジタルトレース業務 株式会社東都文化財保存研究所 保存処理業務 株式会社東都文化財保存研究所 理化学分析業務 パリノ・サーヴェイ株式会社
発掘作業員	板垣牧子 上野健治 氏家健輔 鏡広子 柏倉賢助 片倉富代 加藤道子 木村弘一 草刈多喜 小林弘 斉藤健二郎 酒井秀雄 佐藤茂 澤口與助 斯波久一郎 東海林仁助 中野俊夫 中村幸治郎 原峯生 三澤国昭 山川章衛 山口秀男 渡辺佳子 渡辺庄一 渡邊みゆき（五十音順）
整理作業員	春日民子 金沢美由紀 後藤絵美 齋藤和子 白田光芳 中村史子 向田香織 （五十音順）

# 目次

I 調査の経緯	III 調査の成果
1 調査に至る経緯 …………… 1	1 第4次調査 …………… 9
2 調査の概要 …………… 1	2 第6次調査 …………… 13
II 遺跡の概要	IV 理化学的分析 …………… 16
1 地理的環境 …………… 3	V 調査のまとめ …………… 22
2 歴史的環境 …………… 3	
3 基本層序 …………… 4	報告書抄録 …………… 巻末

## 表

表1 発掘調査工程表 …………… 2	表4 薄片観察結果 …………… 20
表2 試料一覧 …………… 16	表5 遺物観察表 …………… 78
表3 蛍光X線分析結果 …………… 18	

## 図版

第1図 地形分類図 …………… 5	第23図 第4次調査4区出土遺物 …………… 36
第2図 遺跡位置図 …………… 6	第24図 第4次調査5区全体図・層序 …………… 37
第3図 遺構配置図 …………… 7	第25図 第4次調査5区遺構・出土遺物 …………… 38
第4図 山形城虎口および遺跡配置図 …………… 7	第26図 第4次調査6区全体図・層序 …………… 39
第5図 大グリッド設定図 …………… 7	第27図 第4次調査6区遺構(1) …………… 40
第6図 調査区概要図 …………… 7	第28図 第4次調査6区遺構(2) …………… 41
第7図 胎土薄片 …………… 19	第29図 第4次調査6区遺構(3)・出土遺物(1) …………… 42
第8図 胎土化学組成散布図 …………… 20	第30図 第4次調査6区出土遺物(2) …………… 43
第9図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(%)および 砂の粒径組成 …………… 21	第31図 第4次調査7区全体図・層序 …………… 44
第10図 碎屑物・基質・孔隙の割合 …………… 21	第32図 第4次調査7区遺構(1) …………… 45
第11図 第4次調査1区全体図・層序 …………… 24	第33図 第4次調査7区遺構(2) …………… 46
第12図 第4次調査1区遺構(1) …………… 25	第34図 第4次調査7区遺構(3) …………… 47
第13図 第4次調査1区遺構(2)・出土遺物(1) …………… 26	第35図 第4次調査7区出土遺物(1) …………… 48
第14図 第4次調査1区出土遺物(2) …………… 27	第36図 第4次調査7区出土遺物(2) …………… 49
第15図 第4次調査2区全体図・層序・遺構 …………… 28	第37図 第4次調査7区出土遺物(3) …………… 50
第16図 第4次調査3区全体図・層序・遺構(1) …………… 29	第38図 第4次調査8区全体図・層序・遺構(1) …………… 51
第17図 第4次調査3区遺構(2) …………… 30	第39図 第4次調査8区遺構(2) …………… 52
第18図 第4次調査2・3区出土遺物 …………… 31	第40図 第4次調査8区出土遺物(1) …………… 53
第19図 第4次調査4区全体図・層序 …………… 32	第41図 第4次調査8区出土遺物(2) …………… 54
第20図 第4次調査4区遺構(1) …………… 33	第42図 第4次調査9区全体図・層序・遺構(1) …………… 55
第21図 第4次調査4区遺構(2) …………… 34	第43図 第4次調査9区遺構(2) …………… 56
第22図 第4次調査4区遺構(3) …………… 35	第44図 第4次調査9区遺構(3) …………… 57
	第45図 第4次調査9区出土遺物(1) …………… 58

第46図	第4次調査9区出土遺物(2)	59	第55図	第6次調査2区遺構(2)	69
第47図	第4次調査9区出土遺物(3)	60	第56図	第6次調査2区出土遺物(1)	70
第48図	第6次調査1区全体図・層序	61	第57図	第6次調査2区出土遺物(2)	71
第49図	第6次調査1区遺構(1)	63	第58図	第6次調査2区出土遺物(3)	72
第50図	第6次調査1区遺構(2)・出土遺物(1)	64	第59図	第6次調査2区出土遺物(4)	73
第51図	第6次調査1区出土遺物(2)	65	第60図	第6次調査2区出土遺物(5)	74
第52図	第6次調査1区出土遺物(3)	66	第61図	第6次調査2区出土遺物(6)	75
第53図	第6次調査1区出土遺物(4)	67	第62図	第6次調査2区遺構外出土遺物(1)	76
第54図	第6次調査2区全体図・層序・遺構(1)	68	第63図	第6次調査2区遺構外出土遺物(2)	77

## 写真図版

巻頭写真1	第6次調査2区SD202 堀跡19層(西から)	写真図版30	第4次調査7区出土遺物(5)
巻頭写真2	「最上家在城諸家中町割圖」(山形県立図書館蔵)	写真図版31	第4次調査8区出土遺物(1)
写真図版1	第4次調査1区～3区完掘状況	写真図版32	第4次調査8区出土遺物(2)
写真図版2	第4次調査4区～6区完掘状況	写真図版33	第4次調査8区出土遺物(3)
写真図版3	第4次調査7区～9区完掘状況	写真図版34	第4次調査8区出土遺物(4)、9区出土遺物(1)
写真図版4	第4次調査1区～3区検出遺構	写真図版35	第4次調査9区出土遺物(2)
写真図版5	第4次調査4区検出遺構	写真図版36	第4次調査9区出土遺物(3)
写真図版6	第4次調査5区、6区検出遺構(1)	写真図版37	第4次調査9区出土遺物(4)
写真図版7	第4次調査6区検出遺構(2)	写真図版38	第6次調査1区出土遺物(1)
写真図版8	第4次調査7区検出遺構(1)	写真図版39	第6次調査1区出土遺物(2)
写真図版9	第4次調査7区検出遺構(2)、8区検出遺構(1)	写真図版40	第6次調査1区出土遺物(3)
写真図版10	第4次調査8区検出遺構(2)、9区検出遺構	写真図版41	第6次調査1区出土遺物(4)
写真図版11	第6次調査1区完掘状況	写真図版42	第6次調査1区出土遺物(5)
写真図版12	第6次調査2区完掘状況、SD202 4・6層遺物出土状況	写真図版43	第6次調査2区SD202 堀跡2層出土遺物
写真図版13	第6次調査2区SD202 7・10・11・21層完掘状況	写真図版44	第6次調査2区SD202 堀跡3層出土遺物(1)
写真図版14	第6次調査1区遺構検出状況(1)	写真図版45	第6次調査2区SD202 堀跡3層出土遺物(2)・堀跡7層出土遺物(1)
写真図版15	第6次調査1区遺構検出状況(2)	写真図版46	第6次調査2区SD202 堀跡7層出土遺物(2)
写真図版16	第6次調査2区SD202 石組検出状況	写真図版47	第6次調査2区SD202 堀跡8層出土遺物・堀跡9層出土遺物(1)
写真図版17	第6次調査2区SK204	写真図版48	第6次調査2区SD202 堀跡9層出土遺物(2)・堀跡10・11層出土遺物
写真図版18	第4次調査1区出土遺物(1)	写真図版49	第6次調査2区SD202 堀跡13・15・17・19・20・22層出土遺物
写真図版19	第4次調査1区出土遺物(2)	写真図版50	第6次調査2区SD202 堀跡層不明出土遺物、堀跡石組1・石組4出土遺物
写真図版20	第4次調査2区出土遺物	写真図版51	第6次調査2区SD202 石組5、SK204土坑出土遺物
写真図版21	第4次調査3区出土遺物、4区出土遺物(1)	写真図版52	第6次調査2区遺構外出土遺物(1)
写真図版22	第4次調査4区出土遺物(2)	写真図版53	第6次調査2区遺構外出土遺物(2)
写真図版23	第4次調査4区出土遺物(3)、5区出土遺物	写真図版54	第6次調査2区遺構外出土遺物(3)、泥面子・賽子
写真図版24	第4次調査6区出土遺物(1)	写真図版55	第6次調査2区出土金属製品(1)～(3)
写真図版25	第4次調査6区出土遺物(2)		
写真図版26	第4次調査6区出土遺物(3)、7区出土遺物(1)		
写真図版27	第4次調査7区出土遺物(2)		
写真図版28	第4次調査7区出土遺物(3)		
写真図版29	第4次調査7区出土遺物(4)		



# I 調査の経緯

## 1 調査に至る経緯

山形城跡は現在国指定史跡となっている本丸・二の丸と、その周辺を取り囲む三の丸を含め、東西1,480m、南北1,881mの範囲で遺跡として登録されている。

山形城跡の発掘調査は、山形市教育委員会、財団法人山形県埋蔵文化財センター等によって幾度か行われ大きな成果をあげている。平成15年度の本丸復元工事に伴う発掘調査では、金箔瓦や鯨瓦などの最上氏時代の城郭建設に関わる重要な遺物が数多く出土し注目された。また、平成20年度山形城三の丸跡第5次調査では、三の丸西側の堀跡の一部を確認することができた。

今回の調査は、一般国道112号霞城改良事業に伴う道路拡張部分の発掘調査である。平成19年11月に、県教育委員会によって試掘調査が行われた。国道拡張予定地に3本の試掘トレンチを設定し、壁面と床面を精査した結果、近世以前の遺構が検出された。合わせて古代・中世・近世以降の遺物が出土し、時期的に複合したエリアと想定された。試掘調査を実施した三の丸内部は、後世の攪乱も認められるが、盛土や表土下に良好に遺構が残されていると確認されたことにより、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、山形県教育委員会、財団法人山形県埋蔵文化財センターの三者による協議を行い、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託を受け、財団法人山形県埋蔵文化財センターが調査主体となり、記録保存の発掘調査を行うことになった。

## 2 調査の概要

### A 発掘調査

調査は、国道112号の旅籠町一丁目付近の道路拡幅部分約2200㎡を対象とし、2次（平成20年度第4次調査、平成21年度第6次調査）に分けて実施した（表1）。調査区は、隣接する民家および工事事務所への進入路・駐車場を確保する必要性から11箇所に分割して設定した（第6図）。

発掘調査では、遺構・遺物の明確な位置を記録するために、国土座標関係を平面直角座標系第X系（世界測地系）を基準にした方眼座標（グリッド）網を設定した。基準点は国土地理院設置の街区基準点から5点を視準点として調査区内に公共座標杭を設置し、本遺跡のグリッド設定の基準杭にした。グリッドは、山形城の全域を囲むように南北をX軸、東西をY軸とし、1グリッドあたり300m四方の大グリッドを設定した（第5図）。さらに大グリッド一つをさらに南から北へ00～99、西から東へ00～99と3m四方の小グリッドに分割した。よってグリッド番号を「大グリッド南北・大グリッド東西・小グリッド南北・小グリッド東西」の順で示すために、「AA0000」のように6桁のアルファベットと数字で示した（本調査では、調査区が大グリッドの「FF」「FG」「GF」に含まれる）。

調査方法は、まず各調査区の範囲を確定した後、重機を使って基本的にVI層の遺構検出面まで60～90cmほど表土を掘削した。それと並行してジョレンなどを使って遺構の検出・確認作業を行った。その作業が終わると移植コテなどで遺構を半裁して土層の確認作業をし全体を掘り下げる遺構精査作業を行った。その間に適宜、土層断面や遺構平面図等の図面の作成や写真撮影等の記録作業を行った。今回の調査では、図面作成の効率化を図るため業者委託による遺構測量および図化業務作業を行い、撮影データから断面図や遺構平面図の作成、さらに報告書作成までと一貫した作業を行った。

### 第4次調査

現地調査は平成20年6月16日から10月31日まで行った。調査部分は、国道112号旅籠町交差点から西側へ150mの地点から大手町交差点までの道路拡張部分である。調査は、地域の方々の日常生活に支障が生じないように調査区を9箇所に分割して行った。1区画を約2週間かけて調査し、一つの区の調査が終わると埋め戻して、次の調査区に移ることを繰り返した。調査工程は以下のとおりである。

I 調査の経緯

- 1区 6月16日～6月27日
- 2区 6月30日～7月10日
- 9区 7月14日～7月25日
- 8区 7月28日～8月8日
- 5区 8月18日～8月29日
- 6区 9月1日～9月12日
- 7区 9月16日～10月3日
- 4区 10月6日～10月17日
- 3区 10月20日～10月31日

各調査区の期間中に業務委託による遺構配置図および平面図作成のための等高線測量を実施した。また現地での調査説明会を10月25日に行い、調査は予定どおり平成20年10月31日に終了した。

第6次調査

現地調査は平成21年5月11日から行った。調査部分は、第4次調査1区と道路を挟んだ東側の道路拡張部である。現存する江戸時代の絵図面などから、山形城三の丸の土塁跡と堀跡があったと推定される部分で、調査は1区が6月12日まで、2区が6月15日～7月30日までとし、それぞれ調査期間中に業務委託による遺構配置図および平面図作成のための等高線測量を実施した。現地での調査説明会を7月18日に行い、調査は予定どおり平成21年7月30日に終了した。

の調査説明会を7月18日に行い、調査は予定どおり平成21年7月30日に終了した。

B 整理作業

報告書作成のための整理作業は、平成20年度と平成21年度の2カ年にわたり作業を実施した。

平成20年度は、第4次調査の図面、写真等の記録類の整理と遺物の基礎整理（洗浄・注記・復元）を行った。図面整理は、遺構測量業務委託の遺構平面図と断面図の校正を行った。

平成21年度は、7月まで第4次調査の実測作業を行い、8月から第6次調査の基礎整理（洗浄・注記・復元）と第4次・第6次調査の実測、トレース、拓本の遺物整理作業と、各種図版の作成、遺物の写真撮影、版組みを行った。遺構全体図および遺構個別図は、遺構測量業務委託のデジタルデータから作成した。写真図版は、撮影したものから報告書に掲載するものを選出した。その後、遺構図・遺物図・写真図版の版組みを順次行っていった。報告書作成の版組み作業と並行して本文執筆を行った。

また、第4次・第6次調査の金属製品の保存処理と、瓦と須恵器の理化学的分析を業務委託した。

表1 発掘調査工程表

平成20年度発掘調査（第4次調査）

月	6月			7月				8月				9月					10月				
	3	4	5	2	3	4	5	2	3	4	5	1	2	3	4	5	2	3	4	5	
機材搬入	○6/16																				
機材搬出																					
1区			☆6/26																		
2区					☆7/10																
3区																					
4区																				☆10/17	
5区												☆8/28									
6区													☆9/11								
7区																	☆10/2				
8区									☆8/6												
9区							☆7/25														
調査説明会																				10/25	

平成21年度発掘調査（第6次調査）

月	5月			6月					7月			
	3	4	5	1	2	3	4	5	2	3	4	5
機材搬入	○5/11											
機材搬出												
1区						☆6/4						
2区												☆7/29
調査説明会										7/18		

- 機材搬入
- ◎機材搬出
- ☆等高線測量

## II 遺跡の概要

### 1 地理的環境

山形城が所在する山形盆地は、南北40km、東西20kmにおよび、東側は蔵王連峰から御所山に連なる奥羽山脈に、西側は白鷹山などの白鷹丘陵によって囲まれている。山形市はその東南部に位置し、その東は宮城県（仙台市）に境を接している。山形市の市街地は蔵王山系を源流とし南東から北西方向に北流している馬見ヶ崎川によって形成された扇状地に広がっている（第1図）。現在の馬見ヶ崎川は、近世初期に山形藩主鳥居忠政により改修された流路とされており、近世初頭頃は、本遺跡東側、現在の山形県郷土館「文翔館」辺りを西流していたと推定されている。馬見ヶ崎川は、流域が浅く流路が狭くて蛇行しているために、一旦豪雨があるとすぐ氾濫が起り、幾度も市街地が洪水の被害に見舞われたことが記録に残されている。特に遺跡周辺は、南東から北西に緩やかに傾斜しており、濁流が流れ込むなどの被害に見舞われたと推定される。今回の調査区は、山形城三の丸の堀および土塁付近に位置するが、調査により堀が何度も改修された跡があり、このことから当時の馬見ヶ崎川の暴れ川の様子が想像される。

扇状地では、扇頂部から扇中部にかけて透水性の大きい礫層が堆積し、河川水や降水はすみやかに浸透して伏流水となり、扇端部で泉となって湧きだし湧水帯を形成する。山形城の本丸・二の丸は、馬見ヶ崎川扇状地の扇端部にあたり、湧水帯が南北に走っているため二の丸堀はかなりの地下水の湧出があったと想像される。城南一丁目遺跡では、山形駅西側の調査で中世から近世にかけての井戸が数多く見ついている。いずれも深さが2m程度で、地下水面が今よりずっと浅かったことが推定される。一方本遺跡は馬見ヶ崎川扇状地の扇中部にあたり、土砂が厚く堆積し、地下水位が深く乏水地となるため、調査区の三の丸堀は常時水不足であったと推定される。調査区で見つかった近代のものと思われる井戸は、深さが7.5mあったが枯渇しており、水源に恵まれなかったことを証明している。

### 2 歴史的環境

山形城は、山形市の市街地中心部に位置する大規模な輪郭式平城で、別名「霞ヶ城」と呼ばれている。初めて山形城を築いたのは、延文元年（1356年）に羽州探題として山形に入部した斯波兼頼といわれている。斯波氏（後に最上氏を名乗る）は、山形において周囲の領主と養子縁組や姻戚関係を結ぶことで勢力を拡大していく。

初代兼頼によって築かれた山形城は、後世の山形城の本丸ぐらいの広さであったと推定され、村山盆地に散在する城館ほどの小規模なものであった。現在のように大規模に改修されたのは、11代当主最上義光の時代で、最上氏の版図は最大となる。特に慶長5年（1600年）の出羽の関ヶ原合戦と言われる出羽合戦の恩賞で、それまで山形周辺の石高20万石を支配するにすぎなかったのが、新たに最上地方や庄内地方も支配下となり石高57万石（実質石高は100万石）の大大名となる。

山形城の改修工事が行われたのは、16世紀末から17世紀初めごろのようである。実際に文禄元年（1592年）、朝鮮出兵のため肥前名護屋に出陣していた最上義光が、家臣に城の普請について指示している書状が残されている。この改修工事によって、本丸（東西144m、南北133m）、二の丸（東西433m、南北474m）、三の丸（東西1553m、南北1617m）と同心円状に三重の堀を構えた輪郭式城郭となる。当時の絵図面によると、本丸には義光が居住し、二の丸・三の丸内には一族や重臣などの上・中家臣の屋敷が置かれていた。特に十一口の出入門付近には、重臣を配して城へ出入りする人々の管理を行わせていたようである。

三の丸外の南・東・北の三方に城下町が建設された。城外は大別して武家屋敷と町屋敷に分かれ、武家屋敷は三の丸の東側に下級家臣団の屋敷が配置された。町屋敷は、羽州街道沿いに市日名のつく市場町と、肴町や旅籠町などの交通運輸の町、銅町や鍛冶町などの職人町が配置された。山形城外の商工業の中心地は、こうした町割に基づいて形成された。

最上氏は義光の死後、元和8年(1622年)に最上家中の御家騒動で改易を受け、代わって譜代大名の鳥居忠政が石高20万石で入部することとなる。忠政は最上氏時代の縄張り図をもとにして本丸・二の丸の大改築を行っている。現存する二の丸堀は、鳥居氏の時代に築かれたものである。しかし、鳥居氏の後に石高20万石で入部した保科正之が奥州会津に移ってからは、計10氏もの領主が山形藩への入部・転封を繰り返すこととなる。それに伴い山形藩の石高も減少していく。明和4年(1767年)に入部した秋元氏は、18世紀後半に山形城の改修を行い、二の丸大手門外の東方に「新御殿」を建設し自ら居住する。また三の丸東側には侍長屋を建設する。しかし最後の藩主である水野氏時代には、わずか5万石と最上氏時代の10分の1以下となり、これにより最上氏時代に造られた広大な山形城を維持していくことは困難となり、城の東側の大手門や商工業地以外の三の丸内はほとんどが畑となったようである。

明治維新以後山形城は廃城となり、三の丸堀が次第に埋め立てられていく。明治期には東半はほとんど埋め立てられた。明治29年(1896年)には、本丸・二の丸跡に大日本帝国陸軍歩兵32連隊が置かれ、終戦まで利用されている。

今回調査を実施した地点は鯨口から小橋口の間部分で、ちょうど三の丸堀が北西側へと屈曲する手前部分である。「最上家在城諸家中町割図」では、調査区に6名の武家屋敷の記載がある。この中で分限帳で確認できたのは、「小(北)楯大学」と「佐竹庄(彦)八」の2名である。前者は、「最上義光分限帳」と「最上家中分限帳」で、後者は「最上家中分限帳」で確認できた。それぞれ石高300石と650石で召抱えられていることが確認された。他の4名は分限帳において確認することができなかった。調査区付近に「一ト通」という名の通りがある。その由来は、最上義光の時代に「岡一ト齊」という伯楽(馬などを診る医者)が30石の知行を与えられ居住していたところから名づけられた地名である。

### 3 基本層序

第4次調査区の地表面の標高は、東端付近で136.9m前後、西端付近で134.6m前後を測り、概ね東から西に約2.3mの比高差をもって低くなっている。そのため、

東側1区～5区までの調査区は、各層ともほぼ平らに堆積しているが、西側の6区～9区調査区は全体的に掘り込みが深くなり、各層の検出面は一律でなく複雑な様相を呈している。また、調査対象地は民家の敷地であったこともあり、建物基礎部分や水道管、ガス管等が埋設されて、表土付近はかなりの範囲で攪乱されていた。遺構確認面までの深さは、58～95cmであった。

遺跡の基本層序は、概ね以下の土質による。

- I. 建物建設の際の攪乱や現代の盛土層
- II. 近代の整地層
- III. 近世の整地層
- IV. 旧河川の堆積層
- V～VII. 近世の自然堆積層

各層とも、黒褐色系の堆積土が基本であり、若干の砂礫、炭化物等の混入が見られるものの、ほぼ均質である。以下、各層を詳述する。

I層は、建物の造成に伴い基礎工事の礫・砂利・砂などの攪乱、盛土が中心である。特に5～8区は破壊されたコンクリート等を含む土層で、重機による点圧のため、非常に硬くしまっている。

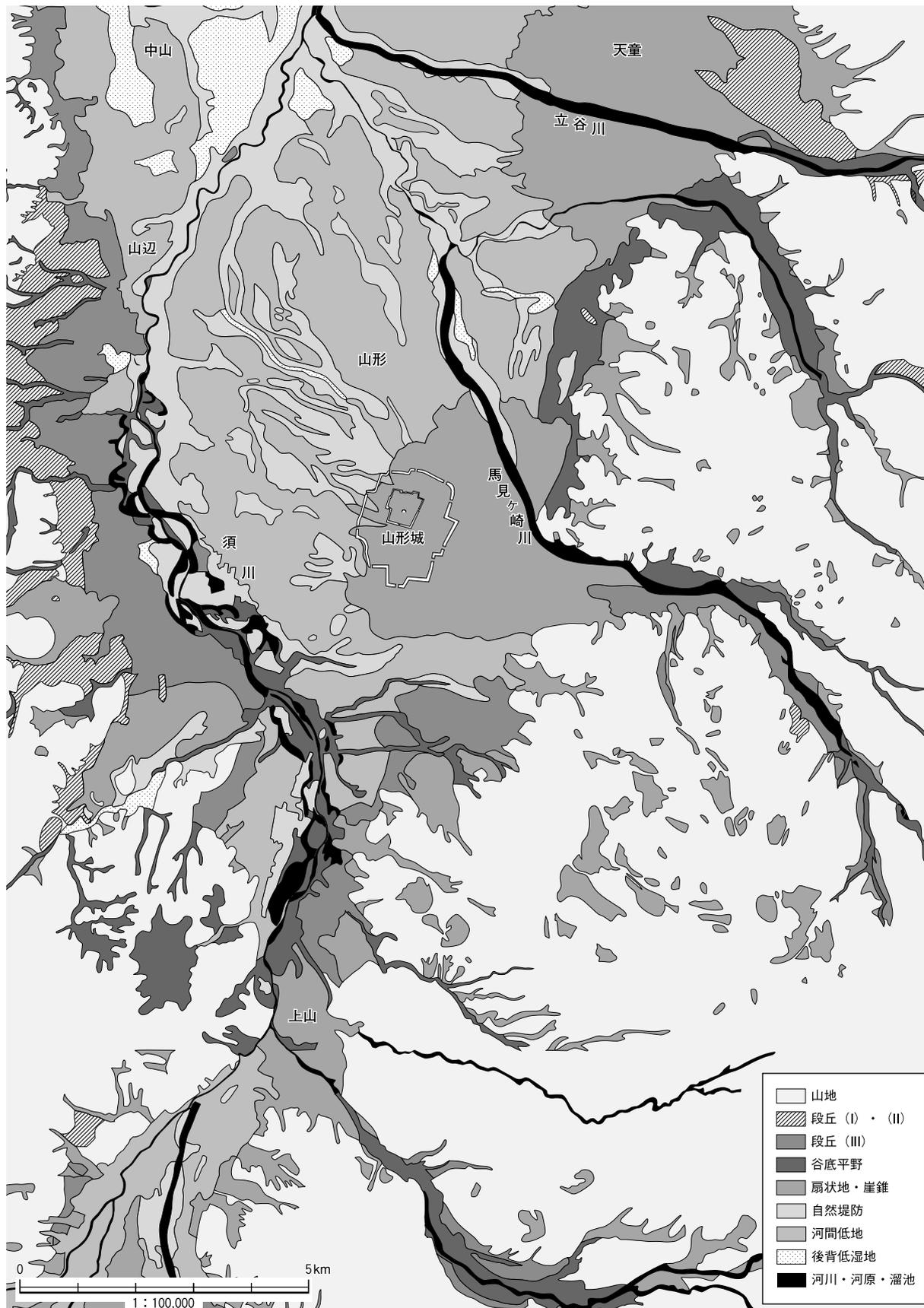
II層は、近代以降と推定される整地層で、ほとんどの調査区で炭化物や焼土が含まれ、堆積状況から明治期の火災の跡と思われる。7区では、近代と思われる瓦器や陶磁器が出土した。

III層は、近世の層で江戸時代の整地層と思われる。7区では、三の丸時代の瓦が大量に出土している。古絵図面から武家屋敷があった場所であり、屋根瓦に使用されたものと思われる。8・9区では、旧河川の流れ込みにより粗砂と小礫を含み、奈良平安期の土師器と須恵器の破片が出土した。

IV層は、2区と3区の東側の土層で検出され、粗砂や小礫が大量に含まれていることから、この場所に水路などの何らかの流路があったと考えられる。

V～VII層は、近世の自然堆積土。粘性があり、かたくしまる。それぞれこの上面で近世の遺構が確認された。

第6次調査区は土塁跡・堀跡を含み、第4次調査区の基本層序とは若干様相を異にする。1区のI・II層と2区のI～IV層は現代の整地層で4次のI層にあたる。2区のV～VII層は炭化物を多量に含み、明治期に発生した火災後の整地層と思われ4次のII層にあたる。



第1図 地形分類図

II 遺跡の概要



第2図 遺跡位置図（国土地理院発行2万5千万分の1地形図「山形北部」・「山形南部」を使用）

## Ⅲ 調査の成果

### 1 第4次調査

#### 1区

東西約14m、南北約9.5mの範囲で掘削を行った。一部攪乱が見られるが、検出状況は良好である。地表面から遺構検出面（Ⅳ層）までの深さは約58cmである。

検出された遺構は、土坑14基、ピット43基、溝跡7条、性格不明遺構4基である。ピットは東側に集中して見つかり、柱穴の構成状況から掘立柱建物跡の存在が推定される。炭化物を含む土坑や、一辺約1.2mの石組の遺構が検出された。遺構からは土師器・須恵器の小破片が出土するが、多くは流れ込みの可能性が高い。

出土遺物は1～19の19点を掲載した。1・8はピット、2・5・12は溝跡、7・9・16・17は土坑、15・18は性格不明遺構から出土した。その他は遺構外出土である。1は返りを有する須恵器の坏蓋で、7世紀末から8世紀初頭の所産と推定される。2は須恵器の高台付坏、5は須恵器の甕で、8世紀後半から9世紀初め頃のものと思われる。12は青花の角形皿である。7・9は同一遺構から出土し、7は土師器の甕、9は鎚蓮弁文をもつ青磁碗の破片である。8は関東系土師器の坏で8世紀前半の所産と思われる。遺構外出土遺物は、3が須恵器の坏、4が須恵器の甕、6が土師器の小型甕である。10は肥前陶器の皿で、16世紀末から17世紀初めの所産と思われる。11は肥前磁器の段重の蓋で、19世紀初めの所産と思われる。13・14は型打皿で瀬戸美濃産と考えられるが、13には目跡が残る。15・16は黒色の平瓦である。瓦は1区と7・8・9区で大量に出土した。ほとんどが三の丸時代の近世の瓦である。17・18は金属製品の和釘で頭部が残る。金属製品はすべての区から出土した。特に四角い断面をもつ日本古来の和釘が多く出土し、何らかの建築物の存在が推定される。19は中国明の「宣徳通宝」で、調査区東端から出土した。銭貨は第4次調査全体で9点を図示した。

#### 2区

東西約12m、南北約10mの範囲で掘削を行った。中央

部付近にマンホール設置等による攪乱が見られる。地表面から遺構検出面（Ⅵ層）までの深さは約95cmである。

検出された遺構は、土坑14基、ピット50基、溝跡3条、性格不明遺構3基である。ピットは概ね浅く、覆土は粗砂・小礫を含んでいる。調査区の南側では長さ8m、幅1.5mの落ち込みが見られ、砂礫層であることからこのあたり一帯が近世の川跡だったと推定される。東側1区との境界にあるS X 2054と南側に連続するS X 1055の性格不明遺構には直径10～20cmほどの礫が集中している。河川の流路に伴い堆積したものと思われる。

出土遺物は20～32の13点を掲載した。21・27・31がピット、25が溝跡、20・24・26・30・32が性格不明遺構からの出土で、それ以外は遺構外出土である。1区同様土師器・須恵器の出土は流れ込みの可能性が高い。21は土師器の有段坏で、内面に黒色処理が施されている。27は陶器の脚部で、器種は不明である。31は渡来銭で熙寧元宝である。25は天目茶碗の破片で、中世のものと思われる。24は肥前陶器の皿、30は釘、32は永楽通宝で、S X 2054から出土した。20は須恵器の大型の甕の破片で8世紀のものと思われる。26は在地産の染付の碗である。遺構外出土遺物は、22が土師器の長胴甕で、底部に木葉痕が認められる。23は瀬戸美濃陶器の折縁皿の破片で、16世紀末から17世紀初めの所産と思われる。28は円盤状石製品で中央部が穿孔される。29は煙管の吸口部分である。

#### 3区

東西約10m、南北約9mの範囲で掘削を行った。西側は建物基礎による攪乱のため、遺構は確認できない。地表面から検出面（Ⅵ層）までの深さは、約70cmである。

検出された遺構は、土坑13基、ピット36基、溝跡5条で、このうち柱穴と思われるピットは15基である。全体の規模や形は不明だが、掘立柱建物跡（S B 3101・3102・3103）を3棟検出する。北西方向に主軸を持つ建物がわずかに位置を変え、2度の建て替えを行っている様子がかがえる。南東側から北西側に向かい砂礫層が広がり、S K 3046土坑を切っている。南側のピットでは河川

### Ⅲ 調査の成果

による浸食が見られる。東側の1・2区では砂礫層の上に遺構が見られ、3区は1・2区より早く砂礫が流れ込み堆積したと推定される。また東側遺構検出面の下層から南北に直径10~20cmの集石が検出された。

出土遺物は33~43の11点を掲載した。遺構内からの遺物として、S K3049土坑とS D3035溝跡から古代の遺物が多く出土した。33・37・38がS K3049出土で、33は須恵器の坏蓋、37は土師器の高台坏、38は土師器の坏である。土師器はどちらも内面が黒色処理されていて年代は37が9世紀前半、38が8世紀中頃と考えられる。34~36はS D3035から出土した。いずれも須恵器の甕で破片の調整や色調から同一個体と推定される。同じ遺構から永楽通宝14枚(43)が癒着したまま出土した。40・41は土坑からの出土である。40はかわらけの灯明皿で、口縁部から内面上部にかけて煤が付着し、黒く変色している。遺構外ではあるが、同じかわらけの灯明皿39が付近から出土している。41は肥前陶器の皿で、16世紀末から17世紀初めの所産と思われる。42は遺構外の遺物で、肥前磁器の香炉と考えられる。年代は17世紀半ばから18世紀半ばの所産と思われる。

#### 4区

東西約14.3m、南北約11.7mの範囲で掘削を行った。東側約4分の1と西側の一部は建物基礎による攪乱のため、遺構は残っていない。地表面から遺構検出面(VI層)までの深さは約64cmである。

4区にも全体の規模は不明であるが、3棟の掘立柱建物(S B4101・4102・4103)が想定される。3棟ともほぼ同じ場所にあり、建て替えしたものと考えられる。また、主軸方向や建て替え状況など、3区の建物跡との共通性も認められ、関連がうかがえる。建物跡周辺の土坑やピットには、焼土や炭化物を多量に含むものが多く、火災にあった可能性も推測される。検出された遺構は、土坑24基、ピット34基、溝跡4条で、このうち柱穴と思われる土坑、ピットは23基である。柱穴の深さは、3棟とも40cm~60cmの間でほとんどは底部から大量の礫が出土し、敷石・根固め石として使用されたものと思われる。特にS K4002は根固め石が現状のままで検出されており、柱を抜き取った後そのまま放置されたものと考えられる。S B4101の掘立柱建物構成柱穴となるS K4048・S P4045・S P4043・S P4040・S P4037はS P4043~

S P4040間が約1.5mをのぞいて約2.4m間隔であり、S P4037の東にはS K4002が約2.4mの間隔で並ぶ。S B4102掘立柱建物構成柱穴となるS P4046・S P4044・S P4042・S P4038は約2m・1.2m・2mの間隔で並ぶ。さらにS P4042の東にはS P4032・S P4064・S P4011が1.6m・2m・2m・2.4mの間隔で、S P4038の東にはS P4034・S P4063・S P4007が約1.2m・2m・2.4mの間隔で並ぶ。S B4103掘立柱建物構成柱穴となるS P4047・S P4026・S P4027・S P4029・S K4033は約1.5m・1.2m・1.5m・2.4mの間隔で並ぶ。S K4033の東にはS P4005・S P4008が1.2m・2.4mの間隔で並ぶ。これらの事からS B4101は、南北4間×東西1間以上、S B4102は、南北2間×東西3間以上に1間の庇付き、S B4103は、南北4間×東西2間以上の掘立柱建物が想定されるが、調査範囲に制限があり詳細の確認には至らなかった。

出土遺物は、44~68の25点を掲載した。45・46・53は建物を構成するピット、土坑内から出土した。45・46は須恵器の坏で、8世紀中頃の所産と考えられる。53は瀬戸美濃の天目茶碗で、16世紀後半の所産である。47・49もピット出土で、47は須恵器の瓶である。49は土師器甕の体部で、継ぎ目の加工痕が明確に残る。50~52・62・63・68は土坑から出土した。50は瓷器系陶器の鉢、51は須恵器系陶器の播鉢である。播鉢は播り目から13世紀~14世紀の所産と思われる。52は肥前陶器の皿で、同じ遺構から両端が細く尖った棒状鉄製品68が出土した。62は中央部が窪んだ円形の石製品で、遺構外出土の61はこれに類似する。63は中央部穿孔の円盤状石製品である。54・55・58・64は溝跡出土である。54は青磁の碗で、13世紀の所産と思われる。同じ遺構から、肥前陶器の小形の瓶58と漆を濾すのに使われる和紙の漆濾64が出土した。55は青花の端反皿で、15世紀~16世紀の所産と思われる。以下は遺構外の遺物で、すべてV層から出土している。44は須恵器の坏蓋で、8世紀中頃の所産と思われる。48は土師器甕で底に木葉痕が残る。56は肥前磁器で段重の蓋、57は在地産の陶器で鍋、59は器台形土製品で、径1.5cm程の孔が開けられている。60は山文軒丸瓦で、「山形」の地名か「山形城」の名称を表していると考えられる。

#### 5区

東西約12m、南北約7.6mの範囲で掘削を行った。中

中央部約3分の1は排水パイプ、水道管など近現代の埋設物が多く、遺構の遺存状況は良くない。地表面から遺構検出面（V層）までの深さは約78cmである。

検出された遺構は、土坑12基、ピット16基、溝跡2条である。S D5005（a・b・c）は、幅約2m、最深約2m、長さ約10mまで検出した。出土遺物は、69～76の8点を掲載した。69・75・76が溝跡S D5005、72・74が土坑から出土した。69は青磁碗で15～16世紀の所産と思われる。75・76は釘である。74も釘で、72は砥石である。以下は遺構外出土で、70は15～16世紀の青磁碗、71は肥前磁器の合子蓋、73は煙管の吸口である。

### 6区

市道鯨口北小路線を挟み、調査区を東西に二分して調査を行った。西側部分は、東西約7.1m、南北約8.5m、東側部分は、東西約2.2m、南北4.3mの範囲で調査した。西側部分の南側約3分の1は建物基礎により深い地点まで攪乱がおよんでいるが、土坑等の遺構が検出された。覆土の状態から三の丸の時期と判断される。西側部分の北側と東側部分については古代の遺構が主体である。地表面から遺構検出面（VI層）までの深さは約80cmである。

検出された遺構は、土坑22基、ピット16基、溝跡6条、竪穴住居跡2棟（S T6002、S T6016）である。検出されたピットのうちS P6048はS T6002の、S P6006はS T6016の遺構内柱穴と考えられる。竪穴住居跡は、2棟とも調査区際での検出で、S T6002は攪乱に南側を切られているが、一辺が約3mの方形と考えられる。S T6002は深さ約10cm、S T6016も深さ約10cmで貼り床がなされ、いずれも奈良時代の竪穴住居跡と考えられる。S T6002からは土師器の高坏82が、S T6016からは土師器の坏87が出土している。また2棟の竪穴住居に挟まれた溝（S D6001）からも同時期と考えられる土器が多く出土しており、一帯で古代の集落が営まれたと考えられる。

出土遺物は77～117の41点を掲載した。S D6001からは多数の遺物が出土し、8世紀前半の所産と考えられる須恵器の坏蓋（80）、土師器坏（84・93～97）、土師器の甕（104）がある。土師器坏には、有段坏（84）や、内面を黒色処理したもの（93）が見られる。この他にも、ピット、土坑、溝跡などから遺物が出土している。77・

78・79は遺構出土であるが、縄文時代後期の深鉢の破片で流れ込みと考えられる。81は須恵器の高台坏、82は土師器の高坏脚部、83は当初古代の遺物と考えたが古代のものではない。85～90は土師器の有段坏で内面が黒色処理されている。98・100・101・103は土師器の長胴甕である。105は陶器と考えられる。106・107・108はかわらけ、112は陶磁器の焼成に使用される焼台、114は七輪のミニチュアで子どもの遊び道具と思われる。116は煙管の吸口である。以下は遺構外の遺物で、91・92は土師器の坏で、92は内面を黒色処理されている。99・102は土師器の長胴甕、109は香炉か。110は在地産の土瓶、111は肥前磁器の仏花瓶で19世紀後半以降の所産と思われる。113は焼台、115は円盤状石製品で、117は煙管の吸口である。

### 7区

東西約18m、南北約9mの範囲で掘削を行った。調査区中央にコンクリート塀の基礎が残るため、東西に二分して調査を行った。東側部分は、東西約10m、南北約8.8m、西側部分は東西7.3m、南北9.2mの範囲で調査した。東西とも南側に深い攪乱がおよんでいるが、北側は比較的安定している。地表面から遺構検出面（VII層）までの深さは約75cmである。

検出された遺構は、土坑32基、ピット21基、溝跡9条、性格不明遺構2基、竪穴住居跡5棟（S T7001～7005）である。遺構は全体的に掘り込みが深く、特に土坑は深さ50cmを超えるものが多い。竪穴住居跡は、重複が著しく全形等、不明な点が多い。6区から7区の東側部分までは古代の遺構が多く認められるが、7区西側部分の遺構の多くは、近世の土坑やピットである。西側中央部で検出された長さ4.5m、幅1mの南北の石積み遺構（S X7047）には多量の近世瓦が混入していた。三の丸時代のものと思われ、8・9区でも同様の瓦が出土したことから、当地区に瓦葺きの建物が想定される。この地点は三の丸内であり、瓦屋根の建物という点を考慮すると武家屋敷跡と推定される。

出土遺物は整理箱6箱におよぶ。そのうち118～174の57点を掲載した。古代の遺物として、S T7001から出土した9世紀末の横瓶の破片（128）の他、8世紀前半の所産と思われる須恵器の坏蓋（118）、高台坏（122）、坏（123）、9世紀前半の須恵器の坏蓋（119・120・121）、

坏 (124)、瓶 (126) が出土した。130・133は土師器の坏で、130は8世紀前半所産の関東系土師器と考えられる。131は土師器の有段坏で131と133は内面黒色処理されている。134・135・136は土師器の長胴甕、137は8世紀の所産と思われる土師器の長胴甕である。古代の遺構外出土遺物は、125・127が須恵器の甕、129が土師器の高坏、132が土師器の坏、134が土師器の長胴甕、138は土師器の甕である。近世の遺物はS X7047から大量の黒色瓦、陶器、石製品が出土しており、154・156は唐草文軒平瓦、160は連珠三巴軒丸瓦、162は丸瓦、140は17世紀前半の所産と思われる瀬戸美濃の折縁皿、165は砥石、166・167は温石である。その他の遺構出土遺物として、141は16世紀後半の所産と思われる瀬戸美濃陶器皿、144は16世紀末の肥前陶器皿で内面に胎土目が残る。147は肥前陶器の瓶類、150は在地産播鉢、152は瓦質土器の火鉢、157は裏面に縦横の線刻を施した唐草文軒平瓦、164は石鉢、170は鉄製品であるが用途不明、172・173は釘、174は永楽通宝である。遺構外で出土した遺物として、139はかわらけ、142・143は18世紀初めの肥前陶器で143は向付、145は瀬戸美濃磁器の端反碗、146は肥前磁器の碗、148は在地産の香炉、149は肥前磁器の蜻唐草文の仏花瓶、151は17世紀前半の所産と思われる瓦質土器の火鉢、153は同じく瓦質土器の七輪、155は唐草文軒平瓦、159は18世紀前半の赤瓦である。赤瓦は、黒瓦に比べ水を吸わないため耐久性がよいとされた。161は黒瓦の丸瓦である。163は柑塙か取瓶と考えられ高温で被熱した痕跡がある。168は円盤状石製品で16世紀末から17世紀初めの出土例がある。169は錆の付着が著しく原型の推定が難しいが、鉄製の短刀と考えられ、長さ295mm、刃渡り推定225mm、厚さ4.5mmを測る。年代は不明である。171は煙管の吸口である。

### 8区

東西約6m、南北約9mの範囲で掘削を行った。調査区の北半分程から整地層と考えられる面を検出。南側は後世の掘削により失われているが、遺構は確認できる。地表面から検出面(Ⅶ層)までの深さは約80cmである。

検出された遺構は、土坑12基、ピット17基、溝跡3条、性格不明遺構1基、河川跡が1条である。調査区北東側で検出された溝跡S D8005の下層から、旧河川を検出した。深さは約1.5m、幅は4m以上と推測される。

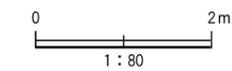
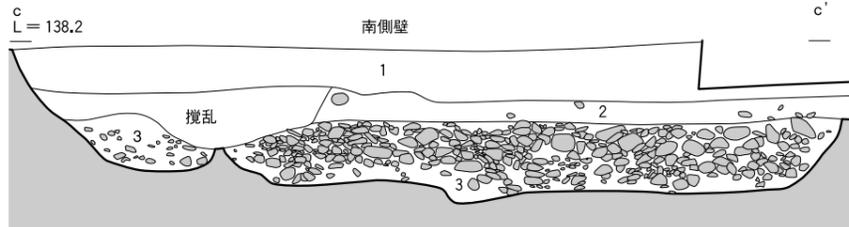
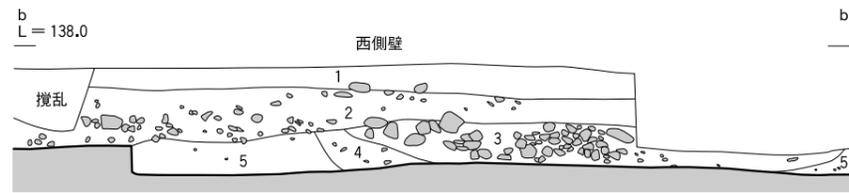
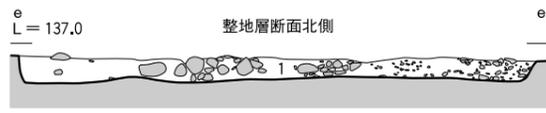
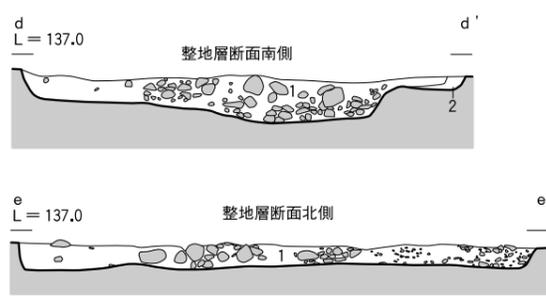
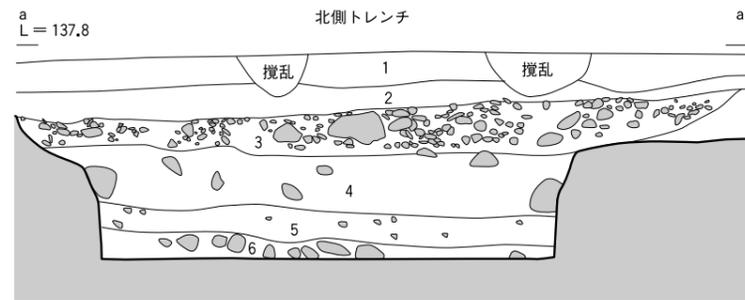
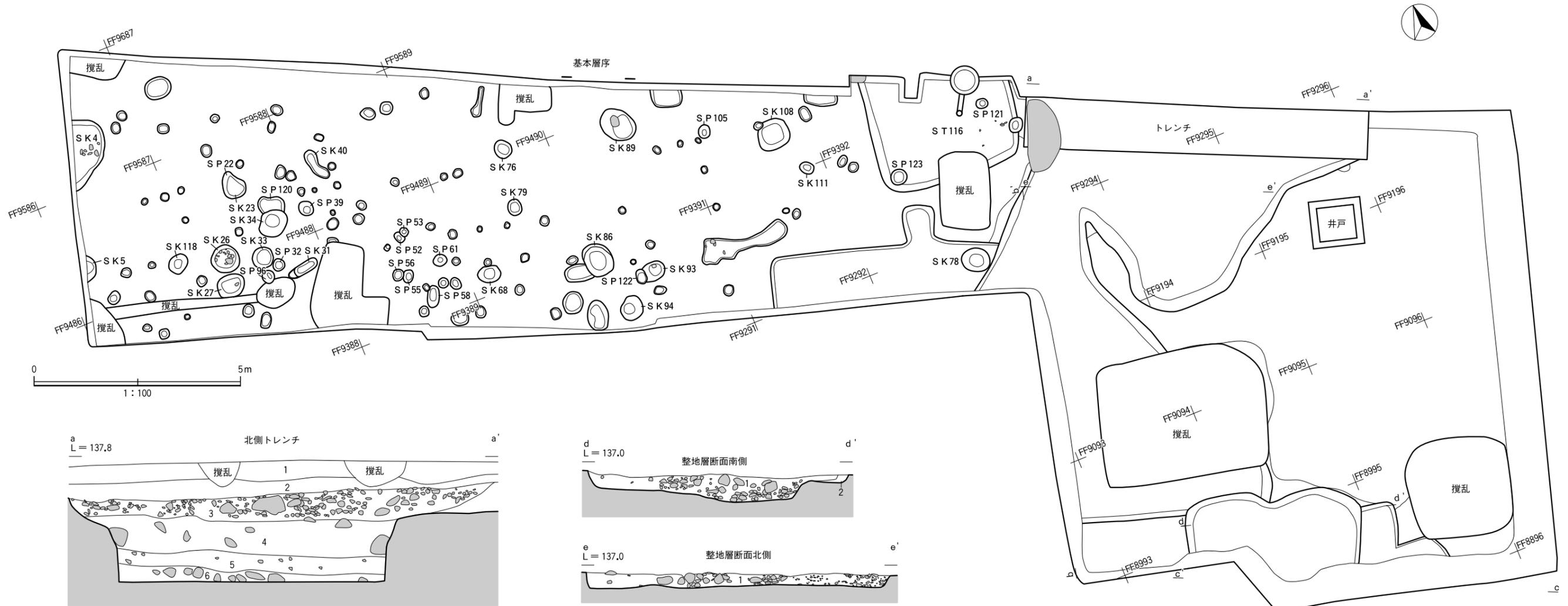
旧河川からは土師器・須恵器の小破片が出土する。調査区北半分の土坑の多くは炭化物・焼土粒を1～3層に含んでいる。

出土遺物は175～225の51点を掲載した。古代のものがわずかに見られるがほとんどが近世以降の遺物である。S K8008からは9世紀前の所産と思われる須恵器の高台坏(175)、かわらけの皿(180)、中砥と思われる砥石(211)、中央部が円形に窪んだ石製品(216)、金属製の煙管の吸口(217・218)、和釘(221)が出土した。その他の遺構から出土した遺物で、176は8世紀後半の所産と思われる須恵器の有段坏、177は8世紀前半から中頃の所産と思われる内面が黒色処理された土師器の坏、181は胎土目が残る16世紀末の肥前陶器の皿、182・183は瀬戸美濃の志野皿、184は肥前陶器の碗、185は17世紀前半の肥前陶器の溝縁皿、186は17世紀前半の瀬戸美濃陶器の織部の茶碗、202は陶器の瓶、208は丸瓦、212・213は砥石と思われる円盤状石製品、215は硯、219・220は和釘、223は銭である。北東角の遺構からは、在地産陶器の皿(187・188・189)、碗(190)、鉢(191)、油徳利(203)、在地産磁器の型打皿(198・199)、碗(195)、会津本郷産の陶器の仏飯器(201)、18世紀中頃と思われる肥前磁器の蓋(192)、18世紀末から19世紀初頭の所産と思われる瀬戸美濃磁器の碗(196・197)、蛇の目凹形高台を持つ18世紀後半の肥前磁器の皿(200)、砥石(209・210)、赤瓦の平瓦(205)、金属製品の簪(222)、洪武通宝(224)が出土した。遺構外から出土した遺物として178は土師器の長胴甕、179は9世紀中頃の土師器の坏、194は瀬戸美濃磁器の碗で19世紀中頃の所産と思われる。204は焼成に使用される焼台、206は黒瓦の連珠三巴軒丸瓦、207は赤瓦の連珠三巴軒丸瓦、214は円盤状石製品、225は、漆器の碗だが年代は不明である。

### 9区

東西約10.5m、南北約10mの範囲で掘削を行った。調査区の西端で、以前駐車場だったため基礎等の攪乱が多く見られる。地表面から遺構検出面(Ⅶ層)までの深さは約90cmで、Ⅰ層とⅡ層は敷地造成用の盛土である。

検出された遺構は、土坑18基、ピット14基、溝跡9条、性格不明遺構4基である。柱穴の他に方形や楕円形を呈する大型の土坑が検出された。概して掘り込みが深く、60～70cmの深さを持つ遺構が多い。本区からも多く



**北側トレンチ**

1. 砂礫層 (現代の整地層)
2. 10YR3/2黒褐色砂質シルト 礫を含む。
3. 10YR3/1黒褐色砂質シルト 大礫多量含む。
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 中礫多量含む。
5. 10YR5/3にぶい黄褐色砂 小礫多量含む。
6. 10YR5/3にぶい黄褐色砂 中礫多量含む。

**西側壁**

1. 砂礫層 (現代の整地層)
2. 10YR3/2黒褐色砂質シルト 礫を含む。
3. 10YR3/1黒褐色砂質シルト 大礫多量含む。
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 10YR2/2黒褐色シルトを30%含む。
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 小・中礫多量含む。(地山)

**南側壁**

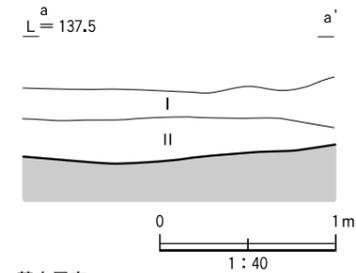
1. 砂礫層 (現代の整地層)
2. 10YR3/2黒褐色砂質シルト 礫を含む。
3. 10YR3/1黒褐色砂質シルト 大礫多量含む。

**整地層断面南側**

1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト 大礫多量含む。
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 小・中礫多量含む。(地山)

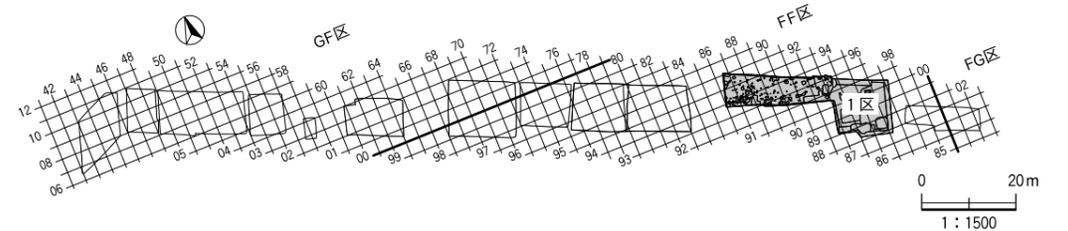
**整地層断面北側**

1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト 大礫多量含む。



**基本層序**

- I. 10YR3/2黒褐色砂質シルト 礫を含む。
- II. 10YR3/2砂 小礫を含む。



第48図 第6次調査1区全体図・層序

の瓦が出土しており、瓦葺きの建物が想定される。遺物は北側で土師器・須恵器など古代の遺物の出土が多いが、明確に古代の遺構と判断されるものはなく、三の丸造成時の混入と考えられる。南側は近世の遺物が多い。

出土した遺物は226～276の51点を掲載した。注目すべき遺物は遺構から出土した平安時代の平瓦258・259である。凹面に布目痕を残す。226は8世紀の所産と思われる須恵器壺の肩部分、227は須恵器の高台坏、228は8世紀中頃から後半の所産である須恵器の坏、229・230は9世紀中頃から後半の所産である須恵器の坏、231・232は9世紀後半所産である内面が黒色処理された土師器の高台坏、234は9世紀中頃から後半の所産である土師器の長胴甕、235は9世紀後半所産の土師器の長胴甕、236はかわらけの皿である。244は16世紀末の所産と思われる胎土目が残る肥前陶器の皿、247は蛇の目凹形高台を持つ在地産磁器の皿、250は19世紀初頭以降の瀬戸美濃磁器の徳利、251は瀬戸美濃磁器の小徳利、255は在地産と思われる壺である。237はかわらけの皿である。238・239は16世紀後半所産の瀬戸美濃陶器の折縁皿である。241は16世紀末から17世紀初頭にかけての肥前陶器の向付である。242・243は18世紀初頭の肥前陶器の皿である。243には内面に胎土目が残る。246は19世紀以降の瀬戸美濃磁器の小杯である。256は瓦質土器の鉢である。269・270は石鉢である。272・273・274はそれぞれ金属製品の刀子、和釘、環状金属製品である。遺構外の遺物としては、233は土師器の長胴甕、240は16世紀末所産の肥前陶器の皿、245は19世紀中頃から後半の所産と思われる瀬戸美濃磁器の碗である。248・249は瀬戸美濃磁器の型打皿である。252・253は在地産の搦鉢、254は17世紀前半所産の備前産の搦鉢である。257は瓦質土器の羽釜である。260～267は同じ層から出土した瓦である。260は黒瓦の唐草文軒平瓦、261は文様は不明であるが赤瓦の軒平瓦、262は黒瓦の平瓦、263・264は黒瓦の丸瓦、265・266は赤瓦の丸瓦、267は装飾瓦の一部と推定される。268は石鉢である。271は石製品の硯で年代は不明である。275は寛永通宝の破片である。

## 2 第6次調査

### 1区

東西約35m、南北は西端約7m、東端約11mのL字形の範囲で掘削を行った。一部に攪乱が見られるが、遺構の検出状況は良好である。地表面から遺構検出面までの深さは約42cmである。遺構は主に調査区西側で検出され、堅穴住居跡1棟（S T 116）と多数の土坑、ピットが確認された。土坑、ピットは近世の遺構と推定される。ピットは集中して見つかり、その構成から掘立柱建物跡の存在が推定されるが、確定には至らなかった。

S T 116は一部、攪乱が床面に達しているが、比較的良好な状態で検出された。東西約3.5m、遺構北側は調査区外に伸びている。深さ約16cmで、貼り床は認められず、床面からE P 121・123が検出された。E P 121・123は柱穴とも考えられるが、E P 121は直径約28cm、深さ約11cm、E P 123は直径約38cm、深さ約9cmとやや浅い。S T 116覆土中には、須恵器片、土師器片が見られ、8世紀前半のものと推定される須恵器の高台坏（281）、坏（283）が出土した。隣接するトレンチからも同時期と考えられる須恵器の坏（282）、蓋（280）が出土している。

調査区東側は遺構の空白域で、近代の井戸と、整地層と考えられる不定形の礫層が認められるのみである。この空白域は幅約13mで、S D 202堀跡と隣接する位置関係にあることから土塁跡と推定され、整地層は土塁廃絶時のものである可能性が考えられる。

1区の出土遺物は277～352の76点を掲載した。277～283が須恵器、284が土師器、285・286がかわらけ、287～321が磁器、322～325・339～341が陶器、326～331が瓦質土器、332～338が瓦、342が土製品、343～347が石製品、348～352が金属製品である。東側整地層からの出土が多く、遺構出土の遺物はS T 116の須恵器2点と、S K 98の寛永通宝（352）のみで、その他は粗掘時の検出遺物である。352は写真のみ掲載した。

整地層から出土した遺物は、279・285・289・292・294・296・298・300～304・306・310・312・315・317・318・321～324・326・332・334・336・337・339・341・343・347の計31点である。須恵器は8世紀前半のもので、流れ込みと考えられる。かわらけは灯明皿で、煤の付着が見られる。陶磁器類は19世紀前半のものが主体

で、碗蓋、碗、皿、猪口などの食膳具類が大半を占める。289・294・298・302～304・310・312・315・317は肥前磁器で、315・317は同一個体の鉢と考えられる。296・300・301・306・318は瀬戸美濃産の磁器である。292・321は在地産と考えられる。322～324は灯火具の乗燭、339は素焼きで皿状を呈し、複数の穴が開けられているが用途は不明である。341は陶磁器の焼成に使用された焼台で、製品とともに持ち込まれたものと推測される。326は瓦質土器の火鉢である。瓦は332が平瓦、334が連珠三巴文の軒丸瓦、336・337が丸瓦である。343は石鉢、347は風間産の砥石である。

粗掘時の遺物は、277・278・284・286～288・290・291・293・295・297・299・305・307～309・311・313・314・316・319・320・325・327～331・333・335・338・340・342・344～346・348～351の40点を掲載した。須恵器・土師器は8世紀前半のものと考えられる。陶磁器は、主に19世紀代の所産と考えられ、多くが食膳具類である。287・288・291・293・295・297・299・308・309・311・313・314・316が肥前磁器、290・305・307・319は瀬戸美濃産である。320・325は在地産と考えられる。340は焼台である。瓦質土器はいずれも火鉢と考えられるが、329は香炉の可能性もある。瓦は333が赤瓦、335は連珠三巴文の軒丸瓦である。342は土製の賽子、344は石臼、345・346は砥石で、風間産と考えられる。いずれも石材採取時の工具痕が認められ、345は近代のものとして推定される。金属製品は348が火箸、349が鏝、350が煙管、351が寛永通宝である。

## 2区

調査区は東西約16m、南北約5mで、地表面から遺構検出面までの深さは最大で約165cmである。三の丸堀と考えられるS D202と土坑1基(S K204)が検出された。

S K204は径約140cm、深さ約70cmの土坑である。S D202東岸の石組4の下で検出され、堀が機能していた段階で掘られた土坑と考えられる。出土遺物は497～501の5点を掲載した。497は19世紀初頭の肥前磁器の碗である。498は土製品で、ミニチュアと考えられる。499は丸瓦、500・501は用途不明の石製品で、中央部に窪みを持つ。この他に赤色の漆器碗が出土している。

S D202は幅約8.5m、深さは最大約3.8mで、調査区を南北に横切っている。西側が城内、東側が城外にあ

り、東側岸に護岸のためと考えられる石組が確認された。石組は1～6まで確認でき、少なくとも5回の補修が行われている。初期の石組5からは17世紀前半の遺物が検出されており、17世紀代には護岸がなされていた可能性が高い。この時期の堀の深さは最大でも1.7m程で、1～18層がこの時期に当たる。その下には短期間に堆積したと考えられる砂層19～25層が確認され、砂層下には東岸の崩落層と考えられる27～32層が確認された。最下の33層は泥層で初期の堀底の堆積層と考えられる。遺構の様相から、堀は当初4m近い深さを持っていたが、短期間に砂で埋まり、その後元の深さに復旧されることなく廃絶となったことが窺われる。砂の堆積層については、元和9年(1623年)の馬見ヶ崎川の洪水により山形城の外堀が破損していることから、このときに流れ込んだものである可能性が考えられる。

遺物は2・3・7～13・15・17・19・20・22層、石組1・4・5から出土しており、砂層堆積後の1～18層の間で多く検出されている。2層出土の遺物は353～368の16点を掲載した。主体は陶磁器で、353・354が肥前磁器の碗、355が瀬戸美濃の碗、356が瀬戸美濃の小坏、357～359は肥前磁器の皿、360・361は型打皿で瀬戸美濃産と考えられる。いずれも、18世紀末から19世紀の所産である。362・363は在地の陶器で、362が甕、363が乗燭。364～368は金属製品で、364・365が釘、366～368は寛永通宝と考えられ、366・367は鉄銭である。

3層は369～385の17点を掲載した。369～384が陶磁器で、385は火鉢と考えられる瓦質土器である。369・370・372は大堀相馬の陶器で、碗、香炉、小坏である。369は18世紀前半、372は18世紀後半の所産と考えられる。371は在地産の碗、373が皿である。374～379は磁器で、375・377・378が肥前磁器、374・376・379は瀬戸美濃産と考えられる。374～376は碗でいずれも19世紀代の所産である。377は肥前磁器の皿で、裏面に「一ト」の朱書きがある。378は肥前磁器の八角鉢と考えられる。379は型打皿である。380は播鉢で、在地産と考えられる。381は肥前陶器の甕で、二彩唐津と呼ばれるものである。382・383は在地産の乗燭、384は在地産の植木鉢である。

7層は多数の遺物が出土し、386～413の28点を掲載した。386は8世紀前半の須恵器で、流れ込みと考えられ

る。387～407は陶磁器類で18世紀末から19世紀にかけてのものが主体となる。387～389・401は陶器で、387が大堀相馬の小坏、388は肥前陶器の碗、389は在地産の鉢である。401は大堀相馬産の徳利と考えられる。390～400は磁器で、390・391は肥前磁器の蓋、392・393は碗で18世紀中頃のものと考えられる。394・395は瀬戸美濃、396・397は在地産の碗である。398は肥前磁器の広東碗で、18世紀末から19世紀初頭の所産と考えられる。399は肥前磁器の皿で、400は在地産の徳利である。402は在地産の乗燭である。403・404は在地産の挿鉢である。405は土師質土器で火鉢、406・407は窯道具の焼台である。408は砥石で、仕上砥と考えられる。409～413は金属製品で、409～411が小型の釘、413は煙管の吸口、412は篋状であるが、用途不明である。

8層は出土遺物414～430の17点を掲載した。時期は19世紀代が中心か。414は流れ込みの土師器で、高坏の脚と考えられる。415はかわらけである。416は瀬戸美濃磁器の小坏で、器厚がごく薄い。417は肥前磁器の碗、418～420は磁器皿で、418が瀬戸美濃産、419・420は在地産と考えられる。421は肥前磁器の角鉢である。422は在地産の挿鉢、423・424は乗燭である。425は泥面子と考えたが、下部に穴が設けられており、別の用途も考えられる。426は焼台である。427～430は金属製品で、427は小型、428はやや大型の釘、429は端がコイル状の金属製品で用途不明、430は鉄銭である。

9層では431～448の18点を掲載した。431がかわらけ、432～444が陶磁器、446が砥石、447・448が釘である。432は瀬戸美濃の陶器碗、433・434は大堀相馬産で433が碗、434が蓋物である。435～440は磁器で、435は瀬戸美濃の端反碗で焼継がある。436は19世紀前半と考えられる肥前産の段重蓋である。437は肥前磁器の猪口、438・439は皿で438が瀬戸美濃、439が在地産と考えられる。440は肥前産の仏飯器である。441～444は陶器で、441・442が在地産の乗燭、443が益子産の土瓶、444は焼台である。445はミニチュアの土製品である。

10層以下は遺物が少ない。10層は449・450の2点で、18世紀前半と考えられる肥前磁器の碗である。11層は4点で、451～453が肥前磁器、454は火箸である。13層は5点で、455はかわらけ、456・458は肥前磁器で碗と徳利、457・459は在地産の皿と鉢である。15層は2点で、

460が土師器甕、461が在地産の挿鉢、17層は土師器の有段坏462が出土している。460・462は流れ込みと考えられる。19層は陶器3点が出土しており、463・464は在地産の瓶と碗、465は瀬戸美濃産の瓶である。20層ではかわらけの466、22層では16世紀末頃の肥前産陶器皿467が出土した。

石組は比較的攪乱が少なく、護岸の開始と最終期の年代を窺うことができる。石組1は477～490の14点を掲載した。477～480は陶器で、477は肥前陶器の向付、478は肥前陶器の碗で17世紀代、479・480は大堀相馬の碗と小坏で、18世紀代のものと考えられる。481は肥前磁器の碗である。482～485は瓦で、平瓦、丸瓦がある。486は石鉢、487はおはじき型の泥面子、488～490は金属製品で、488が釘、489が鏝、490は煙管の雁首である。石組4は491・492の2点を掲載した。491は流れ込みの須恵器。492は平瓦である。石組5は護岸の初期段階と考えられ、出土遺物は493～496の4点を掲載した。494・495は瀬戸美濃の陶器で、494が16～17世紀の志野皿、495が17世紀前半の四耳壺と考えられる。493は素焼きの乗燭、496は石鉢である。

他にS D202の出土層不明遺物468～476の9点を掲載した。468が土師器、469・470が肥前磁器碗、471が焼台、472が泥面子、473が毛抜き、474～476が寛永通宝である。476は鉄銭で損傷が激しく写真のみの掲載とした。

この他、遺構外出土の遺物として、502～543の42点を掲載した。502～504は須恵器の蓋と坏、505・506は土師器の甕で8世紀前半のものと考えられる。507～511は磁器碗で、507・508は肥前、509・510は瀬戸美濃産、511は在地産である。513～516は磁器皿で、513・515・516が肥前、517～519は瀬戸美濃産の型打皿、514は在地産で438と同形である。512・520～526は陶器で、512は大堀相馬産の碗、520は在地の卸皿、522は在地の乗燭、521は醤油徳利で付近の商家越前屋の名入りである。523は関西系、524は肥前系の挿鉢である。525・526は焼台、527・528は瓦、529・530は瓦質土器で529が火鉢、530は五徳か。531は円筒状で開口部を持つ石製品、532～534は砥石、535は硯である。536～543は金属製品で、536～538が釘、539が煙管の吸口、540が飾金具、541～543は鉄銭で541が文久通宝、542・543は寛永通宝と考えられ、543は鉄銭である。

## IV 理化学的分析

### 山形城三の丸跡出土瓦および須恵器の胎土分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

#### A はじめに

今回の分析調査では、山形城三の丸跡の第4・6次調査で出土した瓦および須恵器の胎土分析を行い、同時に、山形盆地内に所在する平安時代の窯跡である小松原窯跡および平野山古窯跡より出土した瓦と須恵器の胎土分析も行うことにより、瓦および須恵器の産地について検討を行う。また、山形県内各地の窯跡出土資料の当社による分析例との比較も行い、その産地に関わる資料を作成する。

#### B 試料

試料は、いずれも奈良・平安時代のものでされている瓦および須恵器片合計9点である。受領試料には、試料番号1～9までが付されている。試料番号1～3は、山形城三の丸跡第4・6次調査で出土した遺物であり、試料番号1、2が平瓦、試料番号3は須恵器の蓋である。試料番号4～6は、山形盆地南部の山形市松原に所在する小松原窯跡から出土した遺物であり、試料番号4、5が平瓦、試料番号6は須恵器の甕である。試料番号7～9は、山形盆地西部の寒河江市に所在する平野山古窯跡群より出土した須恵器の甕である。各試料の試料番号、出土遺跡名、種別・器種などを一覧にして表2に示す。

表2 試料一覧

試料番号	種別・器種	注記等	出土遺跡	時代	分析	
					薄片	蛍光X線
1	平瓦	S P 9023 F 2	山形城三の丸跡	奈良・平安	○	○
2	平瓦	S K 9007 F 2	山形城三の丸跡	奈良・平安	○	○
3	須恵器・蓋	S P 1059 F 2	山形城三の丸跡	奈良・平安		○
4	平瓦	S Q 2 H F 4	小松原窯跡	奈良・平安	○	○
5	平瓦	S Q 2 H	小松原窯跡	奈良・平安	○	○
6	須恵器・甕	D43	小松原窯跡	奈良・平安	○	○
7	須恵器・甕	S Q 33 Y	平野山古窯跡群	奈良・平安	○	○
8	須恵器・甕	S Q 33 Y 炭下層	平野山古窯跡群	奈良・平安	○	○
9	須恵器・甕	S Q 4 ⑥	平野山古窯跡群	奈良・平安	○	○

#### C 分析方法

当社では、これまでも山形盆地や庄内平野に分布する古代の遺跡から出土した須恵器の胎土分析を行っている。高温焼成と胎土中の砂粒が少ないという須恵器の胎土の特性により、分析手法は薄片作製観察と蛍光X線分析を併用し、それらの結果を合わせて解析を行っている。本報告においても、瓦試料も含めて同様の分析手法を用いるが、山形城三の丸跡出土の須恵器試料、試料番号3については、破片が少量であるため、蛍光X線分析のみを行う。したがって、薄片作製観察に供する試料は8点、蛍光X線分析は9点である。以下に各手法の処理過程を述べる。

##### (1) 薄片作製観察

薄片観察は、胎土中における砂粒の量はもちろんのこと、その粒径組成や砂を構成する鉱物、岩石片および微化石の種類なども捉えることが可能であり、得られる情報は多い。この情報をより客観的な方法で表現したものとして、松田ほか(1999)の方法がある。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、ここでは薄片観察法による胎土分析を行う。以下に手順を述べる。

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。なお、径0.5mm以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基

質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

## (2) 蛍光X線分析

SiO<sub>2</sub>、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、TiO<sub>2</sub>、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、MnO、MgO、CaO、Na<sub>2</sub>O、K<sub>2</sub>O、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>の主要10元素およびRb、Sr、Y、Zr、Baの微量5元素について蛍光X線分析法によって分析する。以下に各分析条件を記す。

### a) 装置

理学電機工業社製RIX1000 (FP法のグループ定量プログラム)

### b) 試料調製

試料を振動ミル(平工製作所製TI100; 10ml容タングステンカーバイト容器)で微粉碎し、105℃で4時間乾燥する。この微粉碎試料についてガラスビートを以下の条件で作成する。なお、胎土表面に塗彩または釉薬が確認される試料については、これらを除去し、試料として供する。

溶融装置; 自動剥離機構付理学電機工業社製高周波ビートサンプラー(3491A1)

溶剤および希釈率; 融剤(ホウ酸リチウム)5.000g: 試料0.500g

剥離剤; LiI(溶融中1回投入)

溶融温度; 1200℃ 約7分

### c) 測定条件

X線管; Cr(50Kv-50mA)

スペクトル; 全元素K $\alpha$

分光結晶; LiF, PET, TAP, Ge

検出器; F-PC, SC

計数時間; PeaK40 sec, Back20 sec

## D 結果

### (1) 薄片作製観察

結果を表4、第9・10図に示す。砂粒の種類構成を見ると、いずれの試料も石英の鉱物片を多く含み、少量の斜長石の鉱物片を伴う組成を示す。石英と斜長石以外の鉱物片および岩石片の種類構成も、8点の試料においてほぼ同様であり、鉱物片では微量のカリ長石が含まれ、岩石片では、頁岩、珪質頁岩および砂岩の堆積岩類と凝

灰岩および流紋岩・デイサイトの火砕岩・火山岩類が少量または微量含まれ、さらには花崗岩類や変質岩、珪化岩および火山ガラスも微量含まれている。また、試料によっては微化石である植物珪酸体も少量または微量認められた。各試料における各砂粒の量比は異なるが、8点の中で分類できるほどの組成のまとまりは認められない。

なお瓦試料では、試料番号1と4に結核状に濃集する酸化鉄の散在が認められた。また、試料番号2にはカリ長石の溶融と斜長石表面におけるムライトの晶出が認められ、試料番号5においても斜長石表面におけるムライトの晶出と凝灰岩の溶融が認められた。須恵器試料では、試料番号6と7で斜長石のムライト化が著しく認められ、試料番号8では斜長石表面のムライト晶出が認められたが、試料番号9ではこれらの現象は認められなかった。カリ長石の溶融は、焼成温度が1150℃以上で発生し、ムライトの晶出は1200℃前後、顕著なムライト化は1200℃~1250℃で生じる(五十嵐, 2007)ことから、試料番号2と5の瓦の焼成温度は1200℃前後であり、試料番号1と4の瓦の焼成温度は、それよりも低いことが推定される。また須恵器でも、試料番号6と7の焼成温度が最も高く1200℃~1250℃であり、試料番号8はそれよりやや低い1200℃前後、試料番号9はさらに低い1200℃未満であることが推定される。なお試料番号9には、花崗岩に微文象状組織を示すものが認められ、珪化岩は緑レン石やセリサイトなどを伴い、火山ガラスのほとんどは平板状のいわゆるバブル型を呈している。

胎土中の砂の粒径組成では、瓦試料4点に共通性は認められず、モードとなる粒径は、試料番号1、2、4、5で順に粗粒シルト、中粒砂、極細粒砂、中粒砂と極細粒砂となっている。須恵器試料では、小松原窯跡出土の試料番号6は中粒砂をモードとするが、平野山古窯跡群出土の試料番号7、8は細粒砂をモードとし、試料番号9は中粒砂をモードとしている。

碎屑物・基質・孔隙の割合では、瓦試料4点がいずれも碎屑物の量比7%前後を示し、須恵器試料のうち、試料番号6~8の3点は約12%、試料番号9は約15%を示す。

### (2) 蛍光X線分析

結果を表3に示す。ここでは試料間の組成を比較する

方法として、以下に示す元素を選択し、それらの値を縦軸・横軸とした散布図を作成した（第8図）。

- a) 化学組成中で最も主要な元素（SiO<sub>2</sub>, Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）
- b) 粘土の母材を考える上で長石類（主にカリ長石、斜長石）の種類構成は重要である。このことから、指標として長石類の主要元素であるCaO、Na<sub>2</sub>O、K<sub>2</sub>Oの3者を選択し、長石全体におけるアルカリ長石およびカリ長石の割合を定性的に見る。実際には、長石類全体におけるアルカリ長石の割合（Na<sub>2</sub>O+K<sub>2</sub>O）／（CaO+Na<sub>2</sub>O+K<sub>2</sub>O）を横軸とし、アルカリ長石におけるカリ長石の割合K<sub>2</sub>O／（Na<sub>2</sub>O+K<sub>2</sub>O）を縦軸とする。
- c) 輝石類や黒雲母、角閃石など有色鉱物における主要な元素。この場合、指標としてこれらの有色鉱物の主要な元素のうち、TiO<sub>2</sub>、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、MgOを選択し、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>を分母としたTiO<sub>2</sub>、MgOの割合を見る。
- d) 各微量元素を選択する。組み合わせは、Rb-SrとZr-Baとする。また、これらの散布図では、出土遺跡さらに瓦と須恵器で、それぞれ異なる記号で示した。作成した5つの散布図を概観すると、いずれの図においても、瓦試料4点は互いに非常に近接した位置にプロットされていることが確認できる。

須恵器試料では、SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、長石類主要、有色鉱物主要元素の各散布図において、小松原窯跡出土の試料番号6が、平野山古窯跡群出土試料の3点から離れた位置にプロットされている。また、長石類主要元素と有色鉱物主要元素の各散布図において、山形城三の丸跡出土の試料番号3が、他の須恵器試料から離れた位置にあることが指摘される。さらに詳細にみれば、平野山古窯跡群出土試料3点の中でも、Rb-Sr散布図以外の各散布図において、試料番号7と8の近似性とこれら2点か

らやや離れた位置にある試料番号9という関係が看取される。

### E 考 察

今回の分析試料のうち、試料番号4以降の6点は窯跡出土試料であることから、胎土中の砂粒の鉱物・岩石組成は、窯跡周辺の地質を反映していると考えてよい。大沢ほか（1986）や日本の地質「東北地方」編集委員会（1989）などを参照すれば、平野山古窯跡群も小松原窯跡も山形盆地西縁を構成する山地を背後にしているがこの山地を構成する地質の主体は、草薙層や水沢層、本郷層といったいずれも頁岩、珪質頁岩、凝灰岩を主要な構成要素とする新第三紀中新世の堆積岩類である。

また、同時期の流紋岩・デイサイトからなる溶岩も分布している。さらに、これら新第三紀の地質の背後には白亜紀～古第三紀に貫入した花崗岩類の分布も記載されている。このような地質からなる山地の縁辺部に堆積した碎屑物は、上述した各地質に由来する岩石片が混在していることが推定され、それは今回の窯跡試料に認められた岩石組成とよく一致する。なお、同様の地質学的背景は、米沢盆地から山形盆地、新庄盆地を経て庄内平野に至る最上川沿いの地域に共通するものであるため、この地域に分布する窯跡出土の須恵器の岩石組成は、今回の小松原窯跡試料と平野山古窯跡群試料との間で認められたような類似性を示すと考えられる。

したがって、現時点では、薄片観察のみによる窯跡の判別は難しい。ただし、今後の分析例の蓄積によっては、詳細なレベルでの違いを見出せる可能性はあると考えられる。また山形城三の丸跡出土の瓦および須恵器についても、薄片観察からは最上川流域の窯跡産であることはほぼ確実であると言えるが、その地域内での絞り込

表3 蛍光X線分析結果

試料番号	主要元素												微量元素				
	SiO <sub>2</sub> (%)	TiO <sub>2</sub> (%)	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (%)	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (%)	MnO (%)	MgO (%)	CaO (%)	Na <sub>2</sub> O (%)	K <sub>2</sub> O (%)	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> (%)	Ig.loss (%)	合計 (%)	Rb (ppm)	Sr (ppm)	Y (ppm)	Zr (ppm)	Ba (ppm)
1	65.98	1.17	23.17	5.04	0.02	0.55	0.41	0.47	1.09	0.10	2.00	100.00	71	52	22	222	309
2	67.37	1.24	22.13	5.18	0.02	0.60	0.42	0.49	1.12	0.05	1.38	100.00	69	50	25	238	296
3	69.58	0.98	19.80	3.27	0.03	0.98	0.43	0.65	2.24	0.03	2.01	100.00	103	67	18	195	369
4	66.83	1.21	22.73	4.88	0.01	0.54	0.39	0.41	1.11	0.01	1.88	100.00	65	51	26	232	318
5	66.54	1.22	22.97	4.91	0.01	0.52	0.38	0.49	0.98	0.01	1.97	100.00	62	47	20	234	373
6	72.51	0.84	16.92	4.61	0.02	0.49	0.54	0.48	1.54	0.03	2.02	100.00	83	59	27	221	372
7	67.04	0.86	21.13	5.80	0.02	0.93	0.49	1.02	2.04	0.04	0.63	100.00	113	75	21	237	422
8	66.81	0.85	21.36	5.94	0.02	0.96	0.42	0.99	1.91	0.03	0.71	100.00	98	69	25	231	401
9	68.49	0.77	18.95	4.64	0.02	0.76	0.54	1.05	1.85	0.19	2.74	100.00	116	82	26	176	436

みはできない。

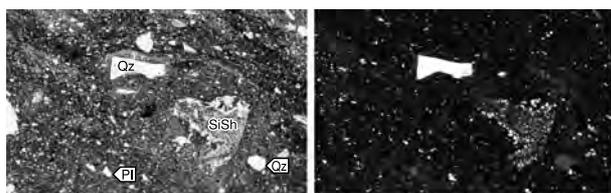
一方、蛍光X線分析による化学組成値からは、山形城三の丸跡出土瓦と小松原窯跡出土瓦との間に非常に高い近似性が認められた。

また、これまでに当社により分析事例が得られている、山形盆地南部に位置するオサヤズ窯跡出土瓦の組成と比べると、有意な差が認められる。薄片観察により、鉱物・岩石組成の類似も確認され、さらに焼成温度の違いが混在することまで一致したことから、現状では山形城三の丸跡出土瓦の産地が小松原窯跡である可能性が高いと判断される。今後とも、古代瓦の産地の分析事例を得ることができれば、上述した産地推定の確度をさらに検証することが可能になると考えられる。

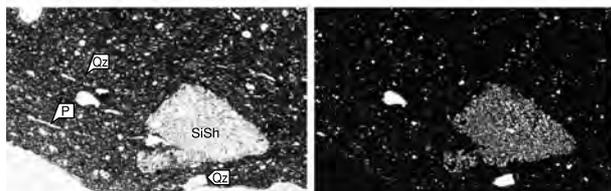
須恵器試料については、山形城三の丸跡出土の試料番号3と各窯跡出土試料との間に、化学組成の近似性は認められない。したがって、山形城三の丸跡出土須恵器の産地は、小松原窯跡および平野山古窯跡群以外の窯跡で

ある可能性がある。

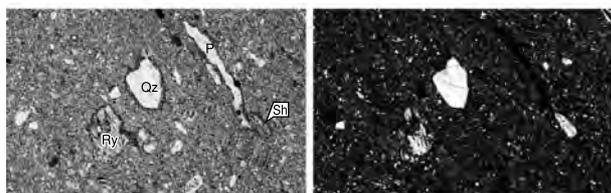
山形県内で確認された古代の須恵器窯跡出土試料の当社による分析事例としては、庄内平野に位置する荒沢遺跡、泉森南窯跡、山形盆地東部の天童市に位置する二子沢古窯跡、小松原窯跡に近い山形盆地南縁の丘陵に位置するオサヤズ、三本木の各窯跡、そして長井盆地に位置する蛇崩窯跡と米沢盆地北部に位置する平野古窯跡の各遺跡がある。現時点では、各窯跡試料ともに分析試料数が少ないために、同一窯跡出土試料間の組成のばらつき状況が明瞭でない部分もあるが、今回の試料番号3の組成と近似する試料は認められない。やや近似する傾向が認められるのは、長井盆地の蛇崩窯跡や米沢盆地の平野古窯跡の一部試料である。もちろん、これだけでは試料番号3の須恵器が長井盆地や米沢盆地からの搬入ということとはできないが、今後はそのような可能性も含めて分析事例の蓄積を行う必要があると考える。



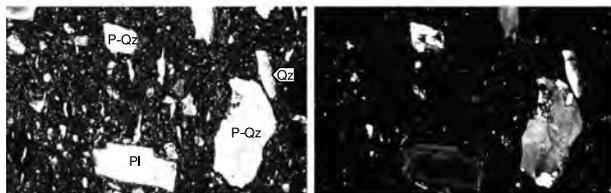
1. 試料番号1 (山形城三の丸跡 平瓦)



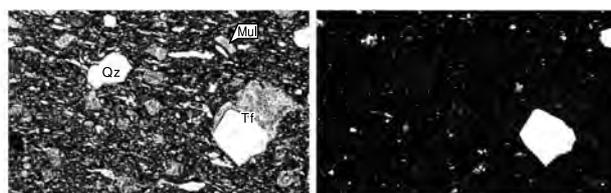
2. 試料番号2 (山形城三の丸跡 平瓦)



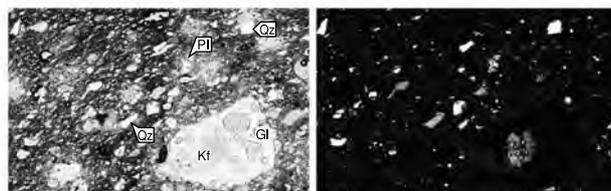
3. 試料番号3 (小松原窯跡 平瓦)



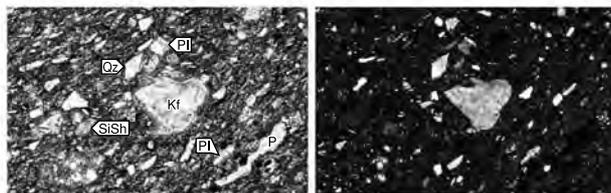
4. 試料番号4 (小松原窯跡 平瓦)



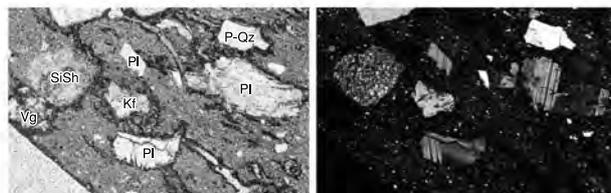
5. 試料番号5 (小松原窯跡 須恵器・甕)



6. 試料番号6 (平野山古窯跡群 須恵器・甕)



7. 試料番号7 (平野山古窯跡群 須恵器・甕)



8. 試料番号8 (平野山古窯跡群 須恵器・甕)

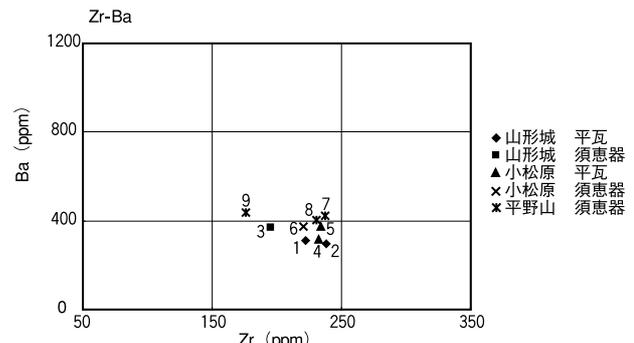
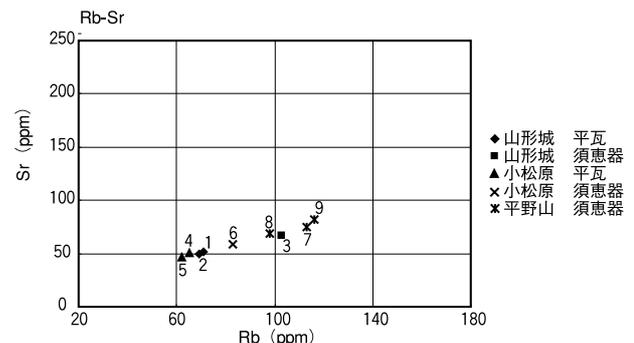
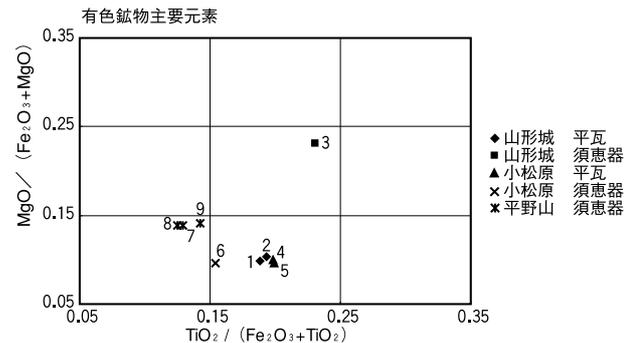
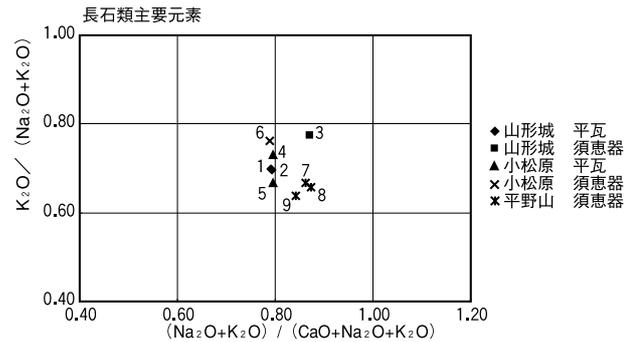
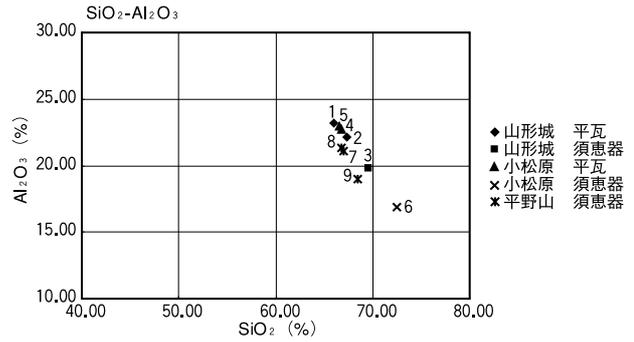
Qz:石英, Kf:カリ長石, Pl:斜長石, Sh:真岩, Ry:流紋岩, SiSh:珪質真岩, Tf:凝灰岩,  
P-Qz:多結晶石英, Vg:火山ガラス, Mul:ムライト, Gl:熔融ガラス, P:孔隙。  
写真左は下方ポーラー、写真右は直交ポーラー下。

0.5mm

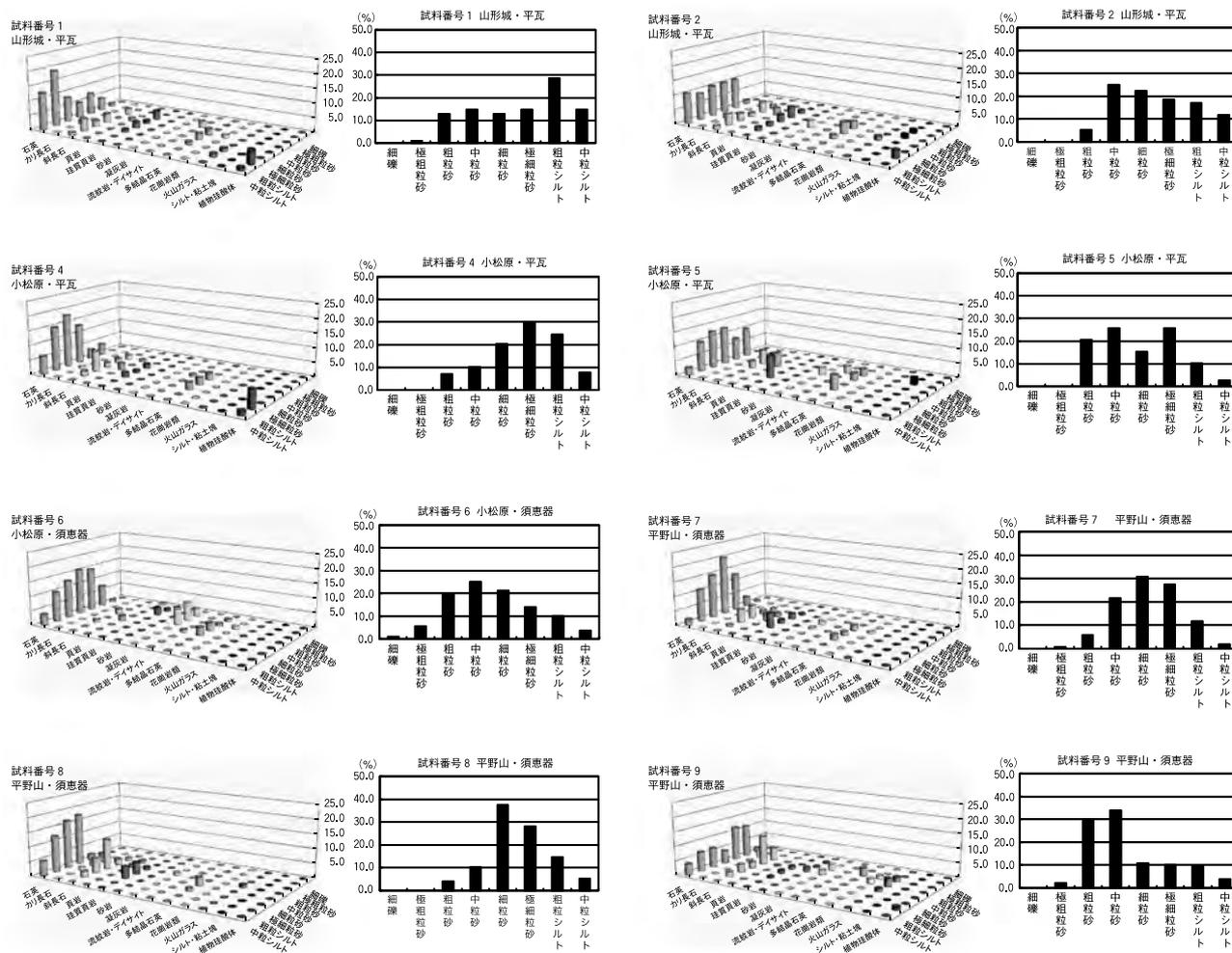
第7図 胎土薄片

表4 薄片観察結果

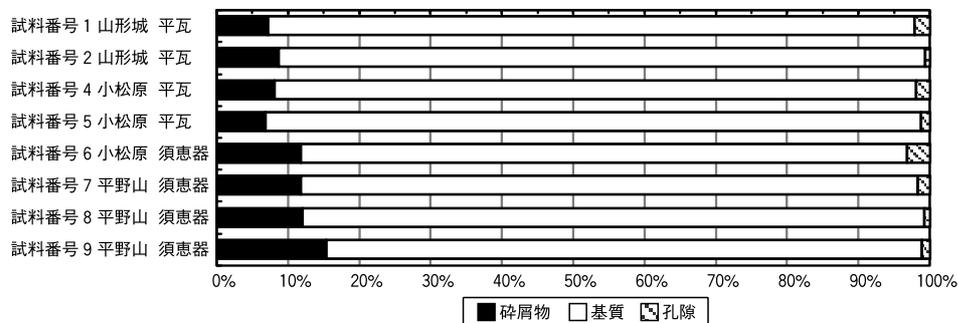
試料番号	砂粒区分	砂粒の種類構成											合計							
		鉱物片				岩石片				その他										
		石英	カリ長石	斜長石	黒雲母	不透明鉱物	眞岩	珪質頁岩	砂岩	スコリア	凝灰岩・デイサイト	安山岩		多結晶石英	花崗岩類	変質岩	珪化岩	火山ガラス	珪シルト・粘土塊	植物珪酸体
1	細礫																			0
	極粗粒砂	1																		1
	粗粒砂	4		2							2						1		12	
	中粒砂	7					1	1				2	1			2			14	
	細粒砂	5		3								2							12	
	極細粒砂	8	1	2													1		14	
	粗粒シルト	18		4												1		4	27	
	中粒シルト	12		1														1	14	
	基質																		1191	
	孔隙																		28	
2	細礫																		0	
	極粗粒砂																		0	
	粗粒砂	1		1					1									1	4	
	中粒砂	8		3			2	3				2						1	19	
	細粒砂	8	1	1					2		2		3				1		17	
	極細粒砂	8	1	2	1				1			1							14	
	粗粒シルト	7		3														2	13	
	中粒シルト	8		1															9	
	基質																		799	
	孔隙																		6	
4	細礫																		0	
	極粗粒砂																		0	
	粗粒砂	5		2		1	1												9	
	中粒砂	4		2						1		3		1					13	
	細粒砂	17		2			3	1				3							26	
	極細粒砂	23	1	9				2				3							38	
	粗粒シルト	19		2		2												8	31	
	中粒シルト	8																2	10	
	基質																		1416	
	孔隙																		30	
5	細礫																		0	
	極粗粒砂																		0	
	粗粒砂	4		1						1		1					1		8	
	中粒砂	3		2			2			1		1				1			10	
	細粒砂	5		1															6	
	極細粒砂	5						3				2							10	
	粗粒シルト	4																	4	
	中粒シルト	1																	1	
	基質																		527	
	孔隙																		7	
6	細礫						1												1	
	極粗粒砂	1						1		3		1							6	
	粗粒砂	8					3		7		1	1			1				21	
	中粒砂	16		2				6		3									27	
	細粒砂	17					2			1		3							23	
	極細粒砂	14		1							1								15	
	粗粒シルト	11																	11	
	中粒シルト	4																	4	
	基質																		786	
	孔隙																		29	
7	細礫																		0	
	極粗粒砂	1																	1	
	粗粒砂	5		1	1			1								1			9	
	中粒砂	20		2			2	3		2		3	1						33	
	細粒砂	31		7			4	2		1		2							47	
	極細粒砂	23		7			1	8				3							42	
	粗粒シルト	17		1															18	
	中粒シルト	3																	3	
	基質																		1122	
	孔隙																		22	
8	細礫																		0	
	極粗粒砂																		0	
	粗粒砂	1		1					1										4	
	中粒砂	2	2	2			1	1		1							1		10	
	細粒砂	17	2	10				4				3							36	
	極細粒砂	16	1	5				4				1							27	
	粗粒シルト	12		2															14	
	中粒シルト	5																	5	
	基質																		699	
	孔隙																		6	
9	細礫																		0	
	極粗粒砂	3							1										4	
	粗粒砂	20		5	8				1	4		5	2	1	3	3			52	
	中粒砂	21	1	18	1		1	2	3	3		1	5	2	1	3	3		60	
	細粒砂	8	1	4	1				2						1	2			19	
	極細粒砂	12		5					1										18	
	粗粒シルト	12		3														2	17	
	中粒シルト	7																	7	
	基質																		965	
	孔隙																		13	



第8図 胎土化学組成散布図



第9図 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (%) および砂の粒径組成



第10図 碎屑物・基質・孔隙の割合

## V 調査のまとめ

今回の発掘調査は、一般国道112号霞城改良事業に伴う山形城三の丸跡の緊急発掘調査である。

発掘調査は道路拡幅部分の2,170m<sup>2</sup>を対象として、平成20年度から平成21年度までの2カ年で行った。調査の成果は以下のとおりである。

主な検出遺構は、土坑、柱穴、溝跡、掘立柱建物跡、竪穴住居跡などである。調査区に制限があることや、市街地の調査ということで攪乱も随所に見られたが、大局的に見ると各区により遺構の粗密が認められることや、各区別における検出遺構の性格の違いを見ることができる。また、出土遺物の内容も、その区の役割を考える情報を提供している。これらのことを総合して、三の丸における当該地区の様子を考察してみる。

当該地区は遺構の時期や性格・役割により大きく三つに分けることができる。一つ目は奈良・平安時代にさかのぼる古代の集落跡である。第4次調査で7棟、第6次調査で1棟の計8棟の竪穴住居跡が検出された。残念ながらどの住居跡も調査区外との際であったり、攪乱により切られたりして全形を知ることは困難であるが、出土遺物等からその様相の一端を知ることができる。S T 6002の土師器の高坏脚部、S T 6016の土師器の有段坏、S T 7001の須恵器の横瓶、S T 116の須恵器の高台坏は7世紀末～9世紀前半の特徴を備え、奈良・平安時代に造られたものと思われる。竪穴住居跡以外からの出土遺物も8世紀前半が主であり、この地での古代の集落の存在が考えられる。

二つ目は中世以降の掘立柱建物跡を主体とする建物の検出である。建物を構成する柱穴が第4次調査の1区・3区・4区で見つかった。特に3区と4区では、北西方向に主軸を持つ建物跡が合わせて6棟見つかった。全体の規模や形は不明であるが、わずかに位置を変えて繰り返し建て替えている。馬見ヶ崎川による水害や火災などの被害により、このような遺構が残ったことが推測される。

三つ目は近世の堀跡の検出である。S D 202は、その規模や検出位置から山形城三の丸堀跡と判断した。これ

まで江戸時代に作られた数種の山形城下絵図面により当該地における三の丸堀跡の大体の位置を知ることができたが、正確な位置関係を把握することはできなかった。しかし今回の発掘調査で堀跡の存在とその規模を確認し、城下絵図に描かれた堀と遺構としての堀跡の位置を特定することができたことは大きな成果と言える。また、調査を進める過程の中で、東側岸に護岸のための石組（1～6）が確認された。

堀跡の土層断面から4回の底面の変遷が推定された。新しい順に第1期（1～18層）はシルト層で、初期の石組5からは17世紀前半の遺物が出土しており、17世紀には護岸がなされ、崩落のたびに石組を補修していたと考えられる。この時期の堀の深さは最大でも1.7m程である。第2期（19～25層）はその下に短期間に堆積したと考えられる砂層である。22層から16世紀末頃の肥前陶器が出土した。第3期（26～32層）は砂層の下の東岸の崩落層である。遺物はほとんど出土しない。第4期（33層）は最下の泥層で初期の堀底の堆積層である。遺構の様相から、堀は当初4m近い深さを持っていたが、短期間に砂で埋まり、その後元の深さに復旧することなく廃絶となったことが推定される。堀跡からの出土遺物は、第1期の層が中心で、18世紀初頭から後半の陶磁器が多く確認された。また、乗燭や基石、泥面子などの生活用品、子供の遊び道具が出土し、当時の生活の一端が窺われる。

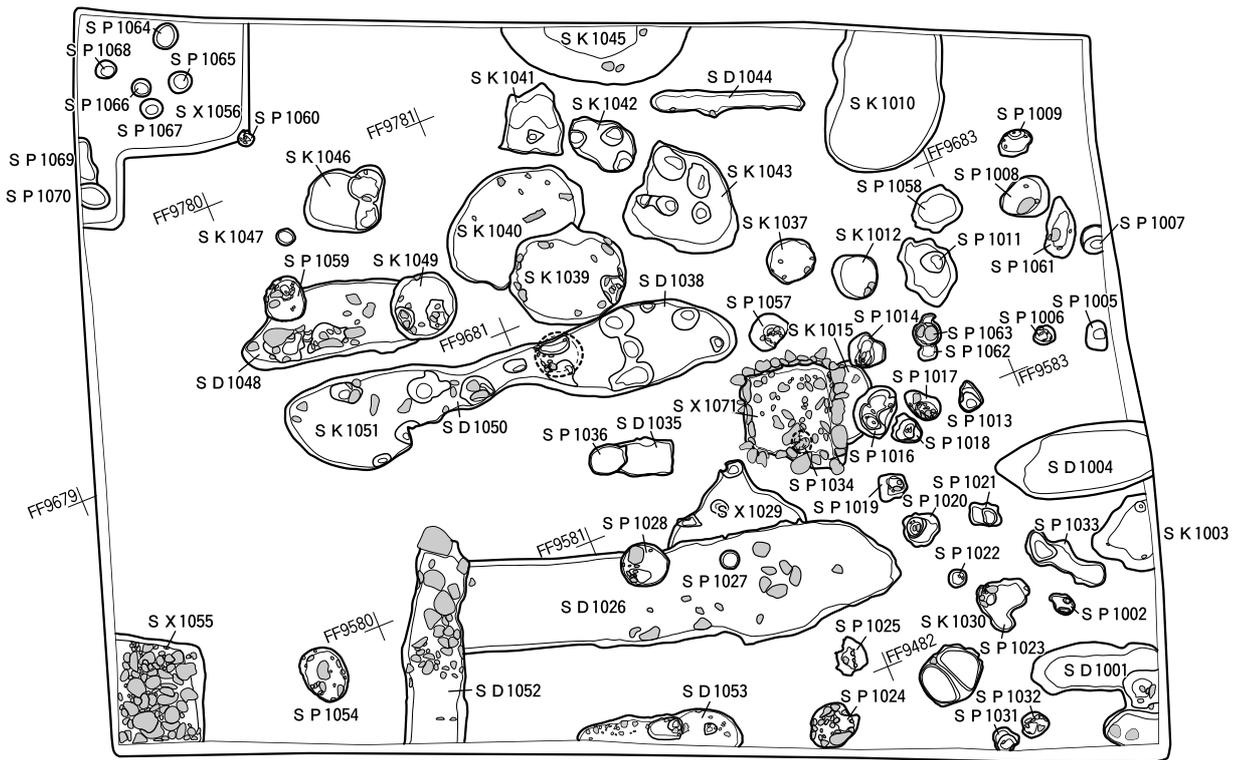
当該地区の調査で平安時代の瓦片が出土した。これまで山形盆地において、生産地以外で古代瓦が出土することは稀であった。しかし今回理化学的分析の胎土分析により、山形城三の丸跡出土瓦と小松原窯跡出土瓦との間に非常に高い近似性が認められた。小松原窯跡は山形市の南西部の山形盆地の西縁に位置し、当該地区とは約3km足らずの距離にある。小松原窯跡で生産された瓦が使用されたことは容易に想像できる。小松原窯跡は年代測定により9世紀前半という結果が出ており、当該の古代集落跡の時期と合致する。当時の役所や寺院の建物の存在や集落との関係等、今後さらに検討が必要と考える。

## 参考文献

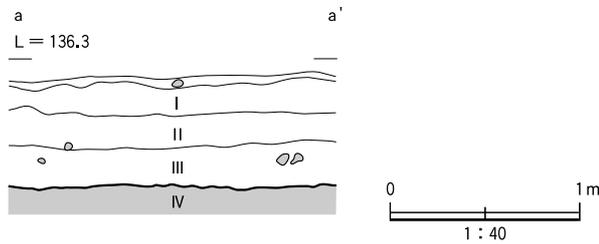
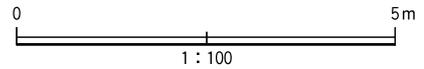
- 山形市 1976 『山形市史 別巻2 生活・文化編』  
山形市 1973 『山形市史 資料編1 最上氏関係資料生活・文化編』  
愛知県瀬戸市 1998 『瀬戸市史 陶磁史編6』  
藤澤良祐 2002 『瀬戸・美濃大窯編年の再検討』(財瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第10輯抜刷)  
大橋康二 1994 『古伊万里の文様』  
九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年 九州近世陶磁会10周年記念』  
東北大学埋蔵文化財調査委員会 1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報7』  
東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1999 『東北大学埋蔵文化財調査年報11』  
江戸遺跡研究会 2001 『図説 江戸考古学研究事典』  
高橋信敬 1973 『最上時代 山形城下絵図』誌趣会  
さあべい同人会 2009 『さあべい 第25号』  
(財)山形市文化振興事業団 最上義光歴史館 2005 『発掘された山形城三の丸』  
(財)山形県生涯学習文化財団 2000 『報告「山形学」シンポジウム'00 城下町山形』  
山形市教育委員会 2003 『山形城三の丸跡(山形市立第一小学校敷地内)発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財調査報告書第15集)  
山形市教育委員会 2004 『双葉町遺跡(山形城三の丸跡)発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財調査報告書第17集)  
山形市教育委員会 2009 『山形城三の丸跡(城北遺跡)発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財調査報告書第30集)  
財団法人山形県埋蔵文化財センター 1998 『平野山古窯跡群第12地点遺跡発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財調査報告書第52集)  
財団法人山形県埋蔵文化財センター 1999 『城南一丁目遺跡発掘調査報告書』(山形市埋蔵文化財調査報告書第69集)  
財団法人山形県埋蔵文化財センター 2005 『山形城三の丸跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第142集)  
財団法人山形県埋蔵文化財センター 2006 『小松原窯跡 長者屋敷遺跡 坂ノ上遺跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第147集)

## 理化学的分析 引用参考文献

- 五十嵐俊雄 2007 『土師器・須恵器等に関する焼成温度推定手法の開発 徳永重元博士献呈論集』パリオ・サーヴェイ株式会社  
p.281-297  
松田順一郎・三輪若葉・別所秀高 1999 『瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察-岩石学的・堆積学的による-』日  
本文化財科学会第16回大会発表要旨集 p.120-121  
日本の地質「東北地方」編集委員会 1989 『日本の地質2 東北地方』共立出版 p.338  
大沢穠・三村弘二・久保和也・広島俊男・村田泰章 1986 『20万分の1地質図幅「仙台」』地質調査所

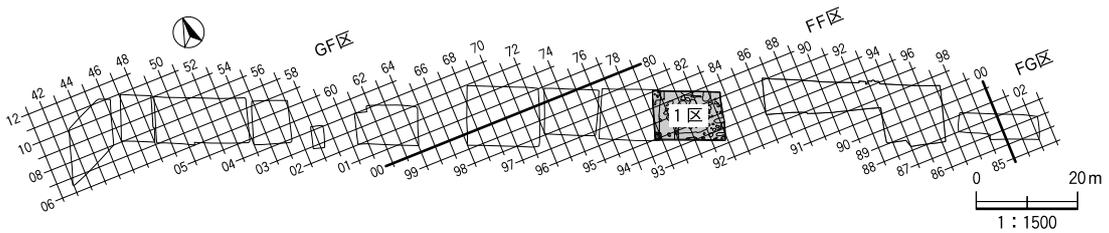


基本層序

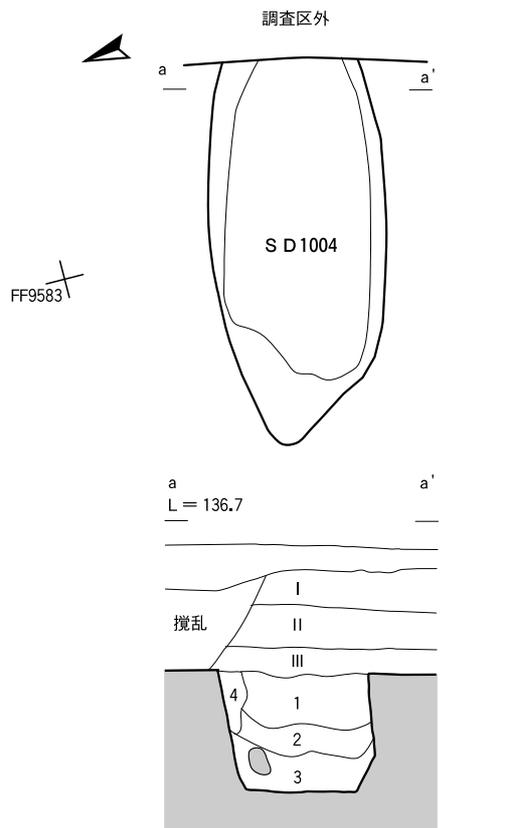


基本層序

- I. 10YR3/1黒褐色シルト 粗砂、炭化物少量含む。
- II. 10YR3/2黒褐色シルト 弱い粘性、炭化物少量含む。
- III. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、小礫含む。
- IV. 10YR3/3暗褐色砂 粗砂、小礫含む、遺構検出面。

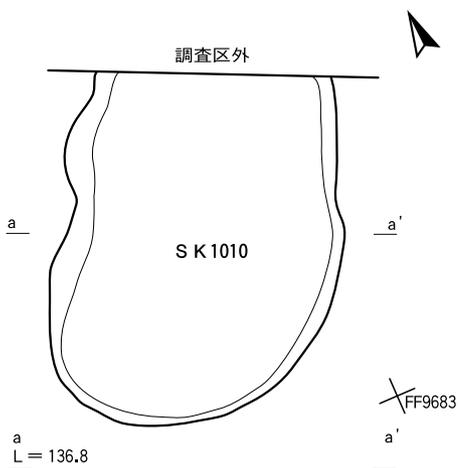


第11図 第4次調査1区全体図・層序



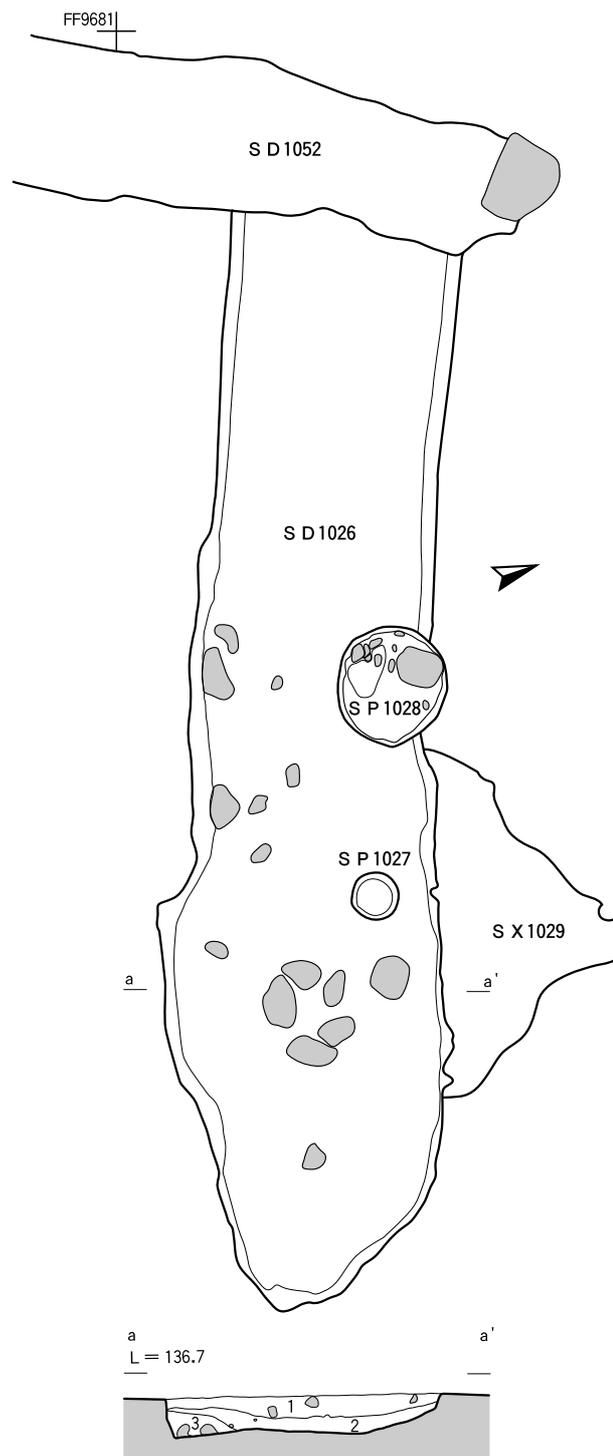
**S D 1004**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 土器混入、炭化物、小礫少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/1黒色シルト 焼土粒、小礫少量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/1黒色シルト 粗砂、小礫含む、かたくしまる。



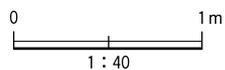
**S K 1010**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 粗砂、焼土少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土、小礫含む、かたくしまる。
3. 10YR3/2黒褐色シルト 粗砂、小礫多量含む、もろく崩れやすい。
4. 10YR3/2黒褐色砂 黒褐色シルト、小礫少量含む、もろく崩れやすい。

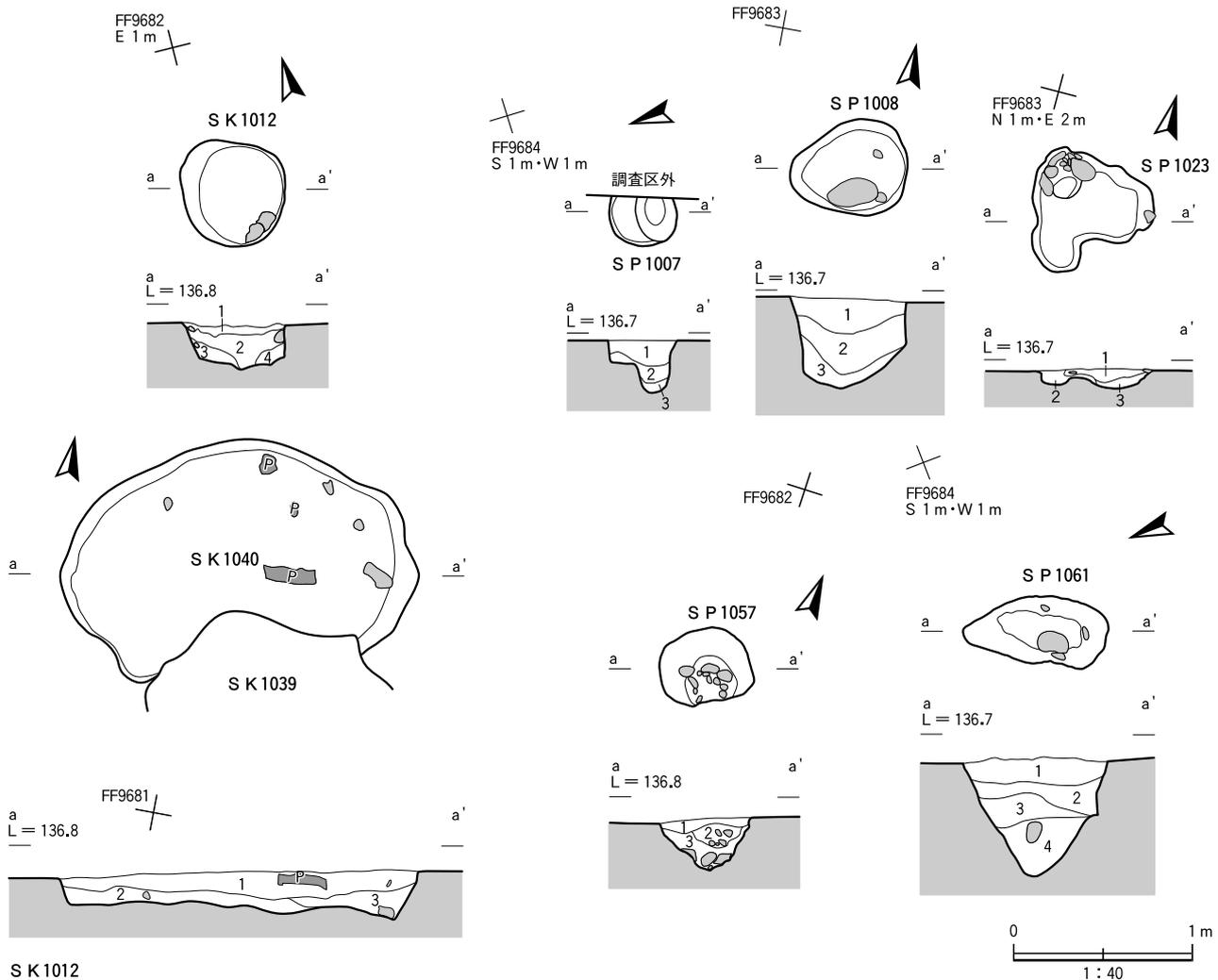


**S D 1026**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 粗砂、小礫少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/1黒色砂 炭化物少量含む、かたくしまる。
3. 10YR3/2黒褐色砂 礫多量含む、かたくしまる。



第12図 第4次調査1区遺構(1)



**SK 1012**

1. 10YR2/3黒褐色シルト 小礫、中礫を含む、粘性中、しまり中。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 小礫、中礫を含む、粘性中、しまり中。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 10YR3/3暗褐色砂質シルトがまだら状に混入、粘性中、しまり中。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 10YR3/3暗褐色砂質シルトのブロックを少量含む。粘性、しまり中。

**SK 1040**

1. 10YR3/2黒褐色シルト 炭化物多量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト粒、炭化物少量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物多量含む、やわらかい。

**SP 1007**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 中礫、炭化物少量含む。粘性中、しまり中。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 10YR3/3暗褐色砂質シルトのブロック、中礫を含む。粘性、しまり中。
3. 10YR3/3暗褐色砂質シルト 10YR2/2黒褐色シルトを少量含む。粘性、しまり中。

**SP 1008**

1. 10YR2/3黒褐色シルト 中礫を含む、粘性中、しまり強。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 10YR3/3砂質シルトを含む、小礫を含む、粘性中、しまり中。
3. 10YR3/3暗褐色シルト質砂 小礫を多量に含む、粘性弱、しまり弱。

**SP 1023**

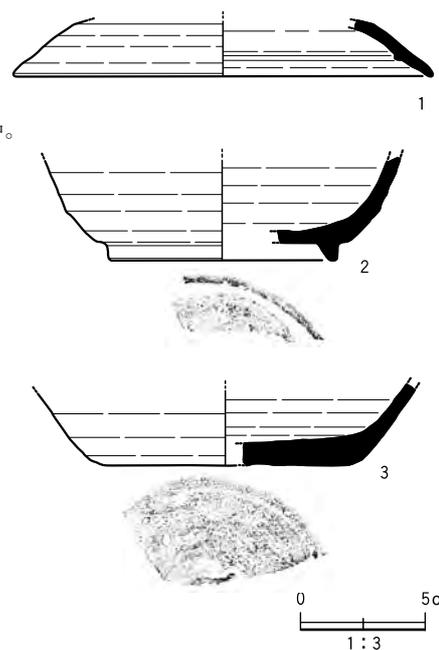
1. 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂含む、かたくしまる。
2. 10YR5/3におい黄褐色砂 黒褐色シルト少量含む、もろく崩れやすい。
3. 10YR3/3暗褐色細砂 暗褐色シルト少量含む、しまり良。

**SP 1057**

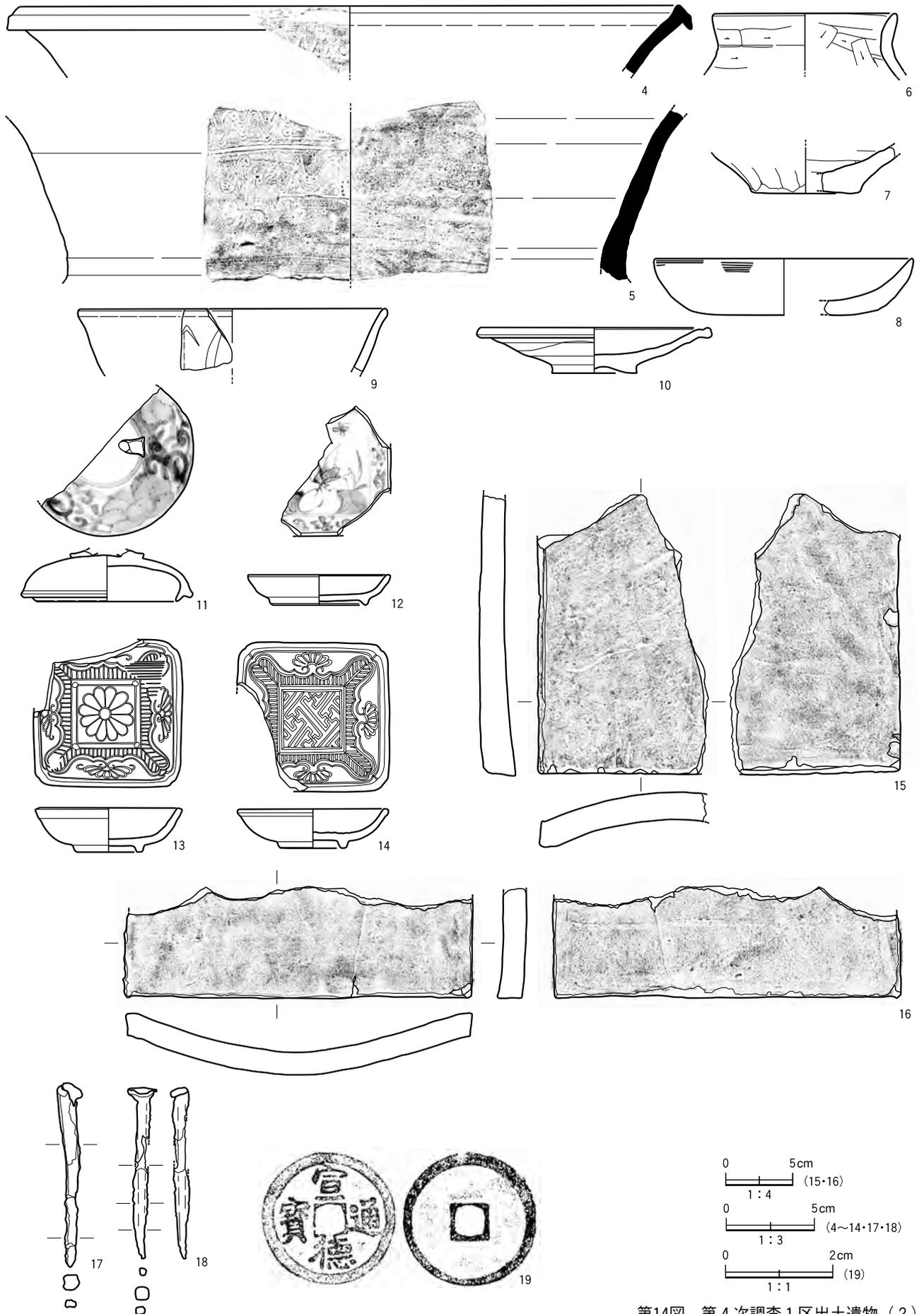
1. 10YR3/2黒褐色シルト 小礫少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粗砂、小礫多量含む、かたくしまる。
3. 10YR4/3におい黄褐色細砂 黒褐色シルト、粗砂含む。

**SP 1061**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト、粗砂、小礫少量含む、かたくしまる。
2. 10YR3/3暗褐色砂 黒褐色シルト少量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 粗砂少量含む、かたくしまる。
4. 10YR3/2黒褐色砂 黒褐色シルト含む、やわらかくもろい。

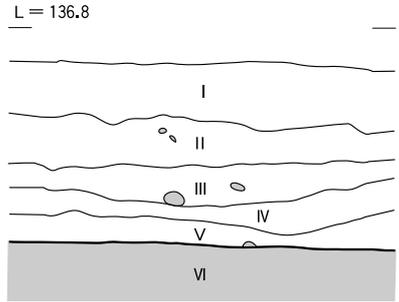
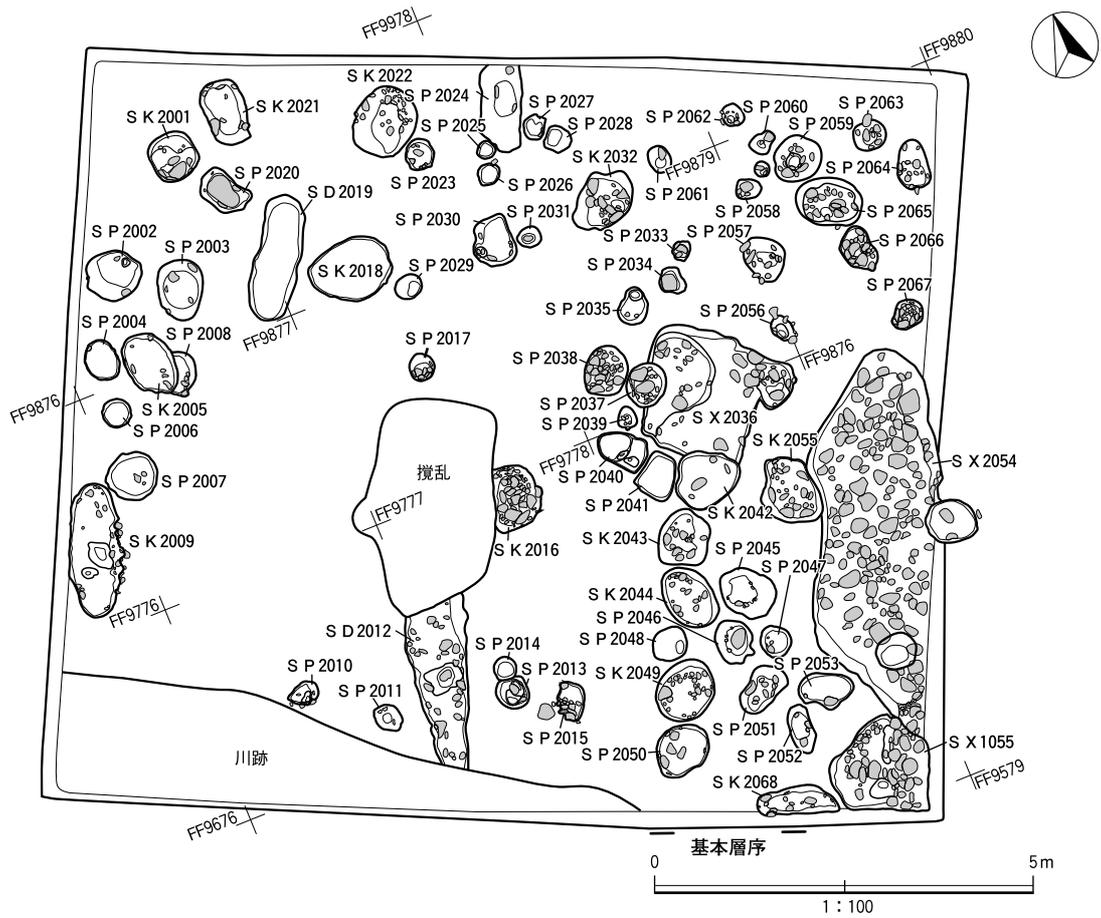


第13図 第4次調査1区遺構(2)・出土遺物(1)



0 5cm  
1:4 (15-16)  
0 5cm  
1:3 (4~14·17-18)  
0 2cm  
1:1 (19)

第14図 第4次調査1区出土遺物(2)

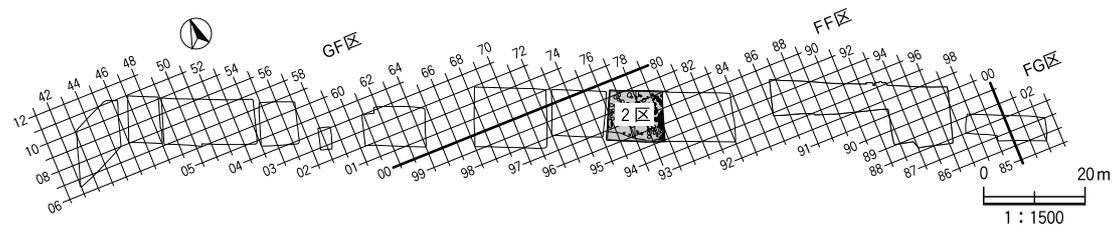
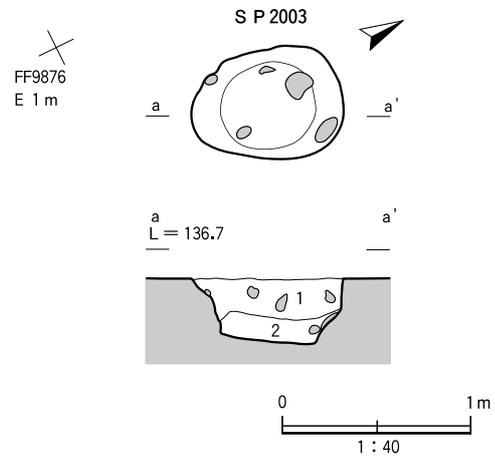


**基本層序**

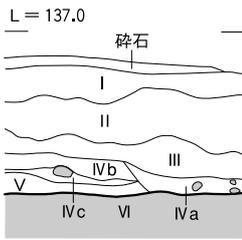
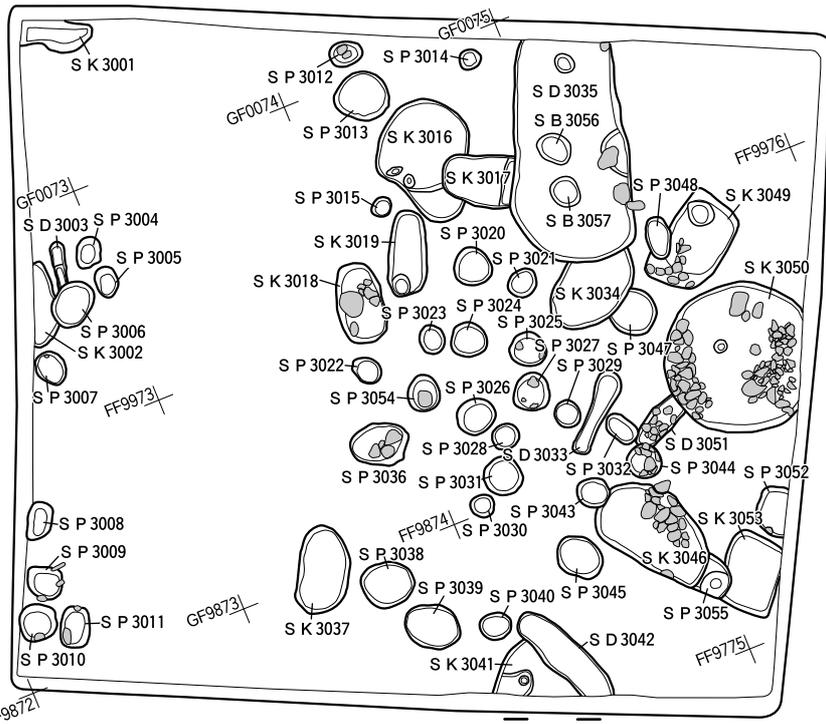
- I. 10YR2/2黒褐色シルト 盛土。
- II. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、小礫含む、かたくしまる、整地層。
- III. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色砂含む、礫少量含む。
- IV. 10YR3/2黒褐色シルト 粗砂、小礫含む、酸化鉄層含む。
- V. 10YR2/2黒褐色シルト 黒褐色砂少量含む、酸化鉄層含む。
- VI. 10YR3/3暗褐色シルト 遺構検出面。

**S P 2003**

- 1. 10YR2/3黒褐色シルト 10YR3/4暗褐色シルト、礫、炭化物含む、かたくしまる。
- 2. 10YR3/4暗褐色シルト 細砂を含む、かたくしまる。

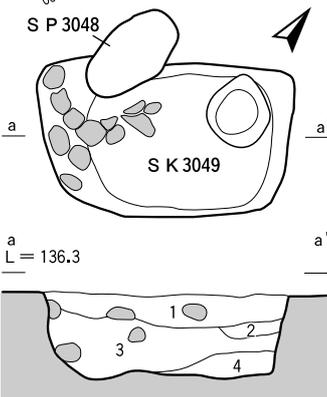
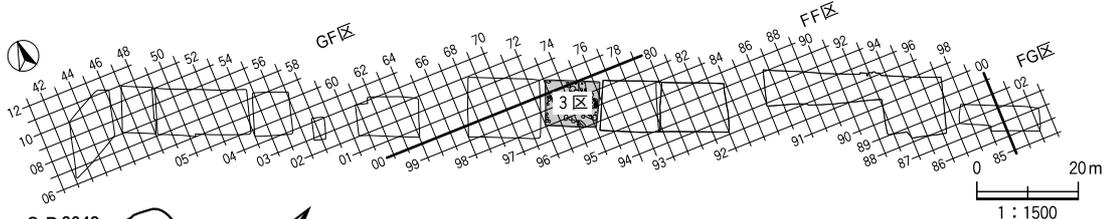


第15図 第4次調査2区全体図・層序・遺構



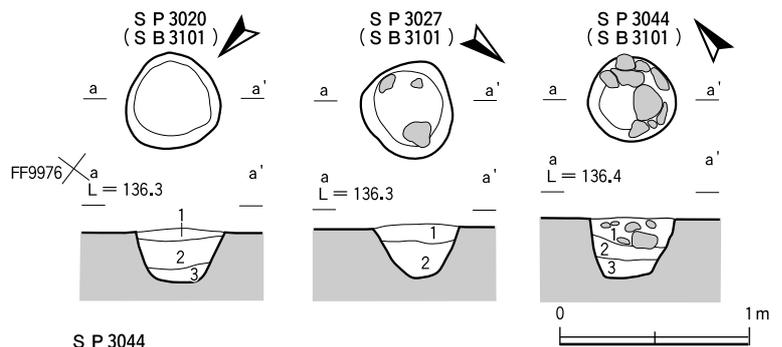
**基本層序**

- I. 10YR2/2黒褐色シルト 礫多量に含む、かたくしまる。
- II. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、小礫、粗砂含む、かたくしまる。
- III. 10YR3/3暗褐色シルト 小礫、粗砂多量に含む、黒褐シルトブロック状に含む、かたくしまる。
- IVa. 10YR3/2黒褐色シルト 粗砂多量に含む、礫含む、やわらかいがしまる。
- IVb. 10YR3/4暗褐色シルト 黒褐シルト、細砂多量に含む、やわらかいがしまる。
- IVc. 10YR4/4褐色砂 礫、小礫含む、やわらかくもろい。
- V. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物多量に含む、粘性あり、かたくしまる。
- VI. 10YR3/3黒褐色シルト 炭化物多量に含む、粘性あり、かたくしまる。



**S K 3049**

1. 10YR2/3黒褐色シルト 褐シルトごく少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 小礫含む、かたくしまる。
4. 10YR3/3暗褐色シルト 小礫、粗砂含む、やわらかいがしまる。



**S P 3044**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 礫多く含む、かたくしまる。
2. 10YR2/3黒褐色シルト 褐シルト含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト かたくしまる。

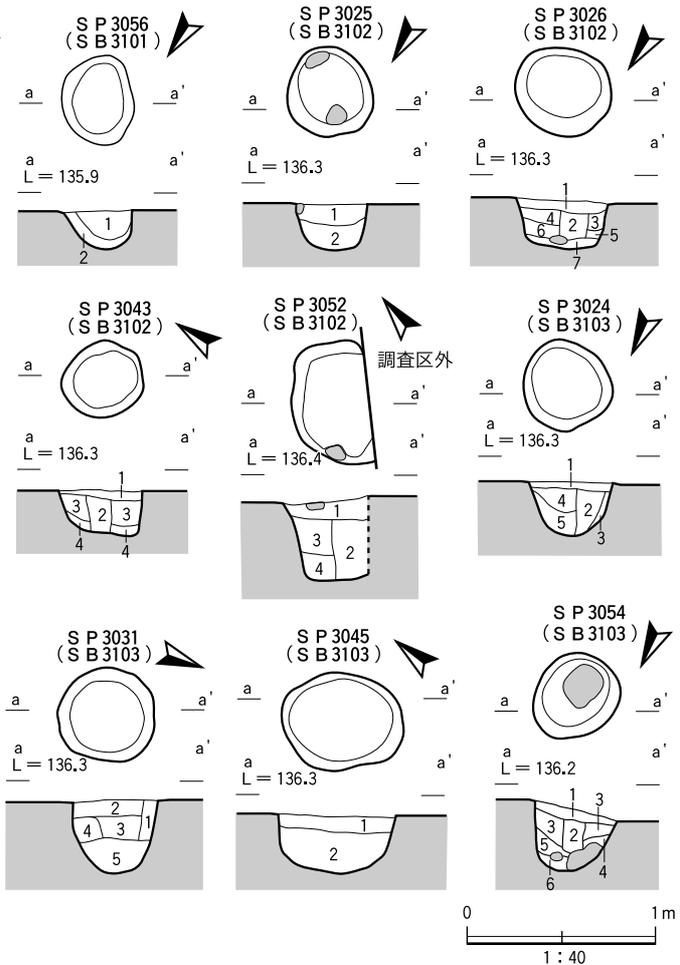
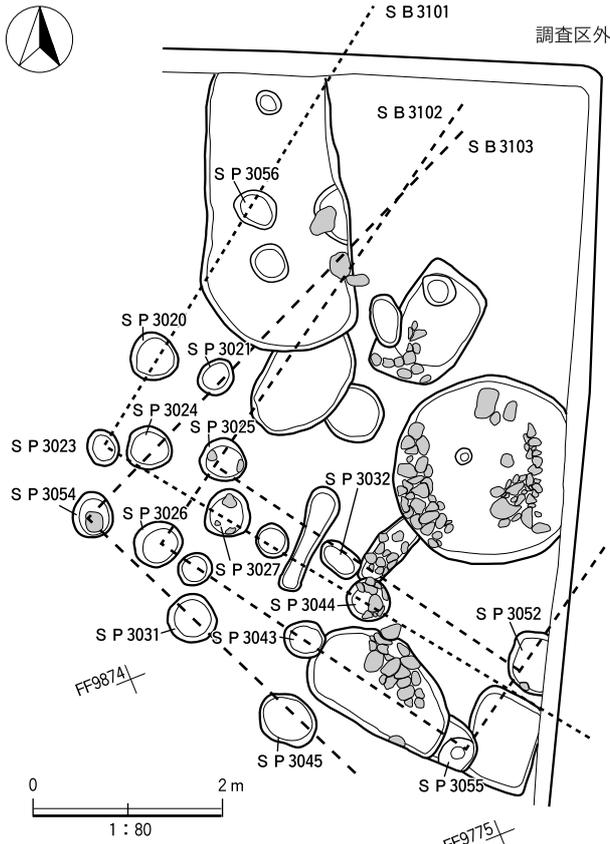
**S P 3020**

1. 10YR3/3暗褐色シルト 小礫、粗砂含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルトごく少量含む、粘性あり、かたくしまる。
3. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。

**S P 3027**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト、小礫含む。

第16図 第4次調査3区全体図・層序・遺構(1)



**S P 3056**

- 10YR2/3黒褐色シルト 褐シルト、粗砂多量に含む、粘性あり、かたくしまる。
- 10YR3/3暗褐色シルト 暗褐色シルト、小礫含む、粘性あり、かたくしまる。

**S P 3025**

- 10YR2/3黒褐色シルト 黒色シルトブロック、暗褐色シルト含む、やわらかくもろい。
- 10YR3/2黒褐色シルト 暗褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。

**S P 3026**

- 10YR3/1黒褐色シルト かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐シルト含む、粘性あり、かたくしまる。
- 10YR2/3黒褐色シルト かたくしまる。
- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。
- 10YR3/2黒褐色シルト 粘性あり、やわらかいがしまる。
- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性あり、やわらかいがしまる。
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性あり、やわらかいがしまる。

**S P 3043**

- 10YR2/3黒褐色シルト 暗褐シルトまだら状に含む、粘性あり、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 黒褐シルトまだら状に含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト かたくしまる。
- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性あり、やわらかいがしまる。

**S P 3052**

- 10YR3/3暗褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。
- 10YR2/3黒褐色シルト かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 粗砂含む、かたくしまる。
- 10YR4/4褐色砂 小礫含む、やわらかいがしまる。

**S P 3024**

- 10YR2/2黒褐色シルト かたくしまる。
- 10YR2/3黒褐色シルト 褐シルト含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。
- 10YR3/2黒褐色シルト 褐シルト含む、粘性あり、かたくしまる。
- 10YR2/3黒褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。

**S P 3031**

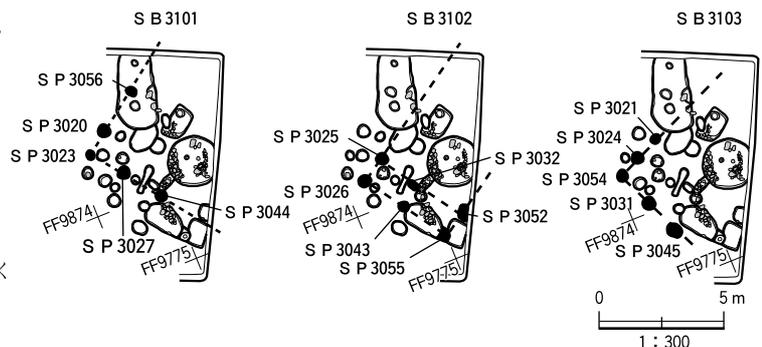
- 10YR2/2黒褐色シルト 黄褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
- 10YR2/3黒褐色シルト 黒色シルト少量含む。
- 10YR2/2黒褐色シルト 黄褐色シルト含む、しまりない。
- 10YR3/2黒褐色シルト 黄褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
- 10YR3/3暗褐色シルト 黒褐色シルト、粗砂多量含む。

**S P 3045**

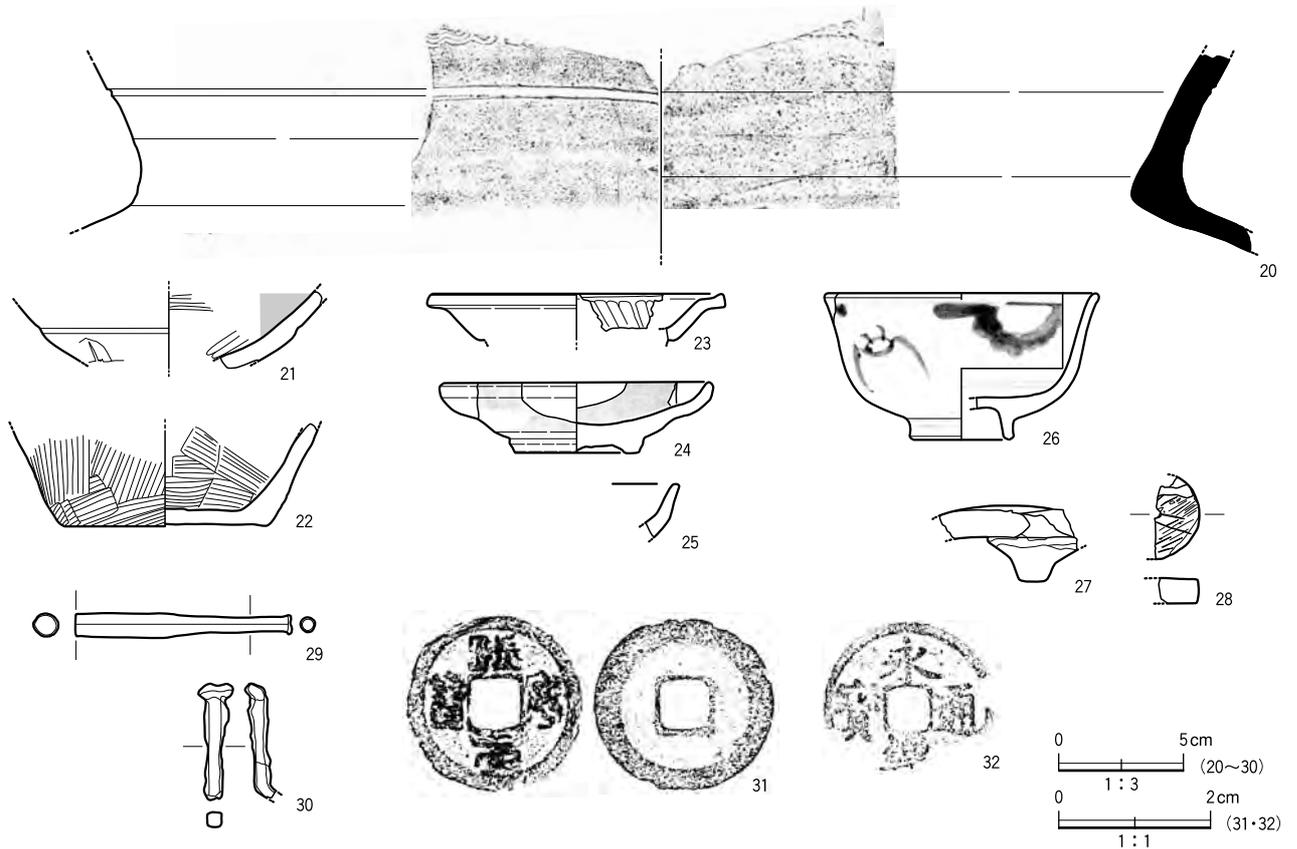
- 10YR2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト、粗砂含む、かたくしまる。
- 10YR3/3暗褐色シルト 小礫多量に含む、かたくしまる。

**S P 3054**

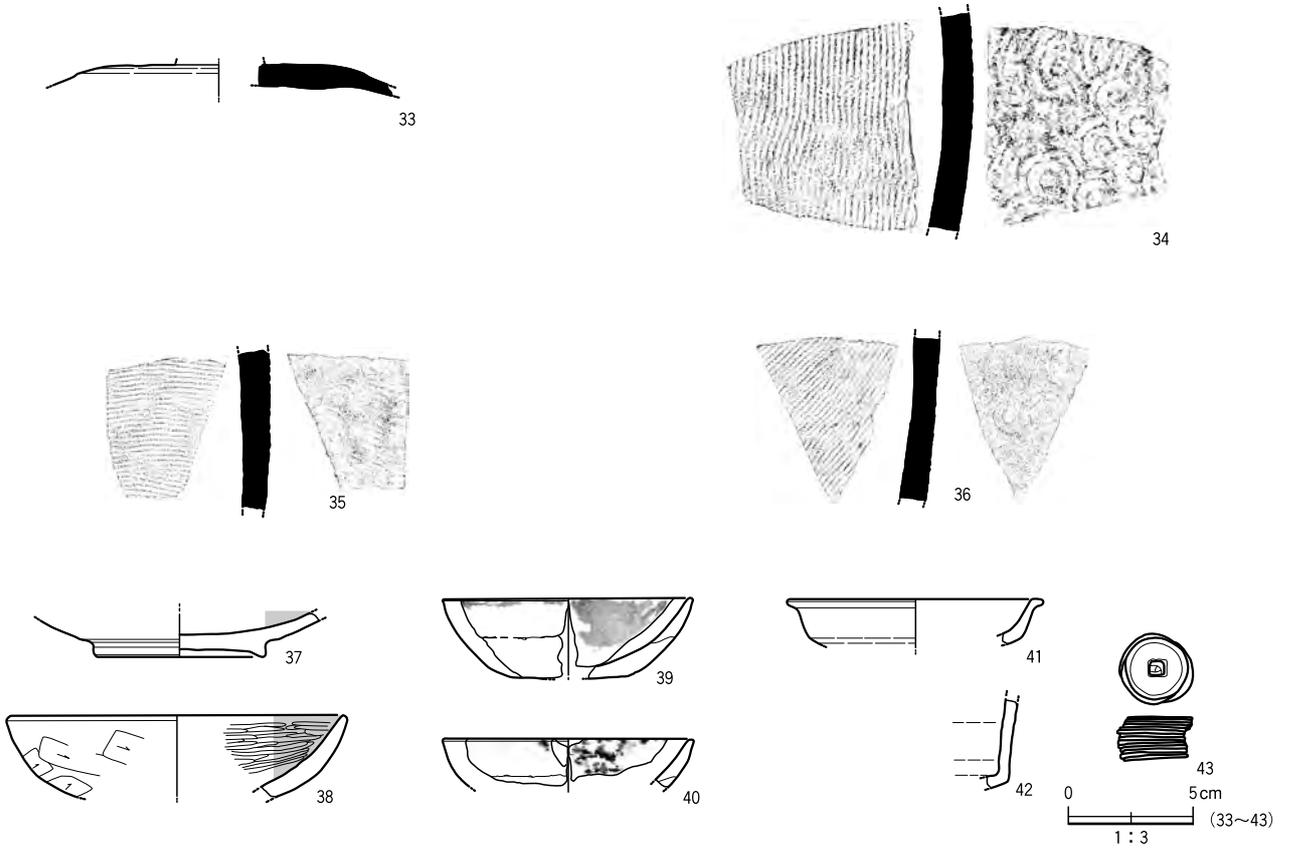
- 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト粒含む。
- 10YR2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト含む、かたくしまる。
- 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。
- 10YR3/2黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む。
- 10YR3/2黒褐色シルト かたくしまる。
- 10YR3/2黒褐色シルト 粗砂少量含む。



第17図 第4次調査3区遺構(2)

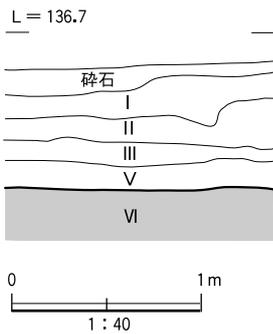
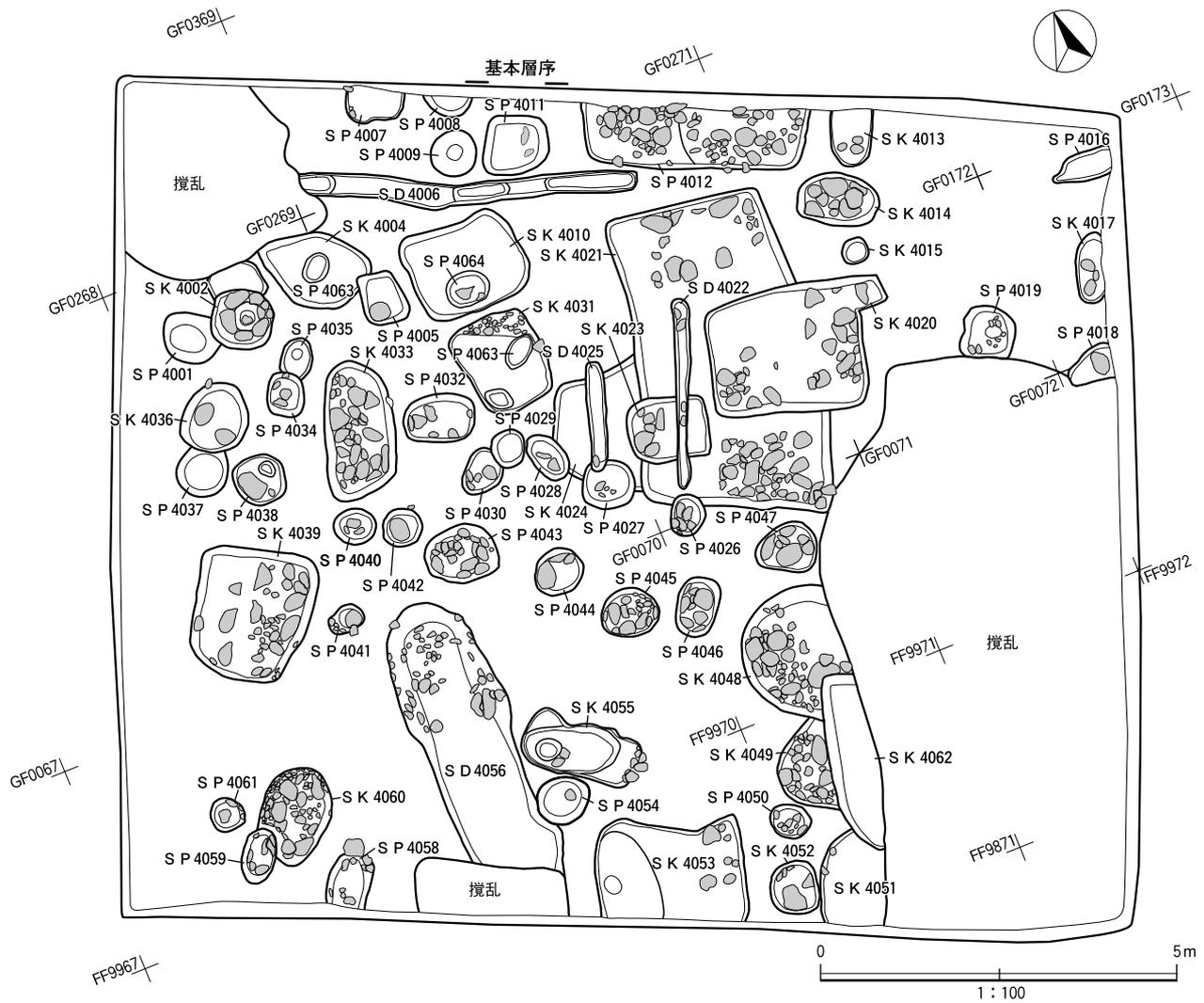


2区出土遺物



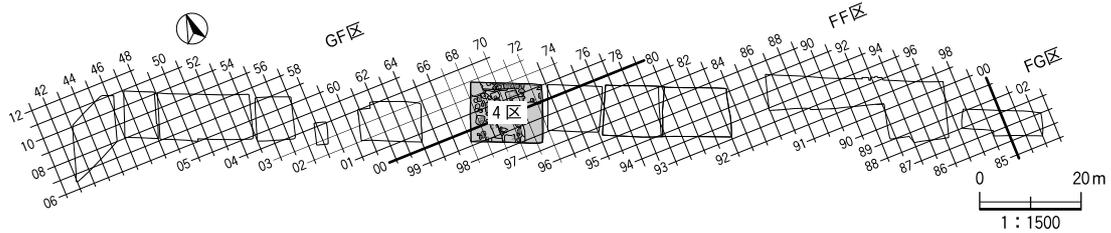
3区出土遺物

第18図 第4次調査2・3区出土遺物

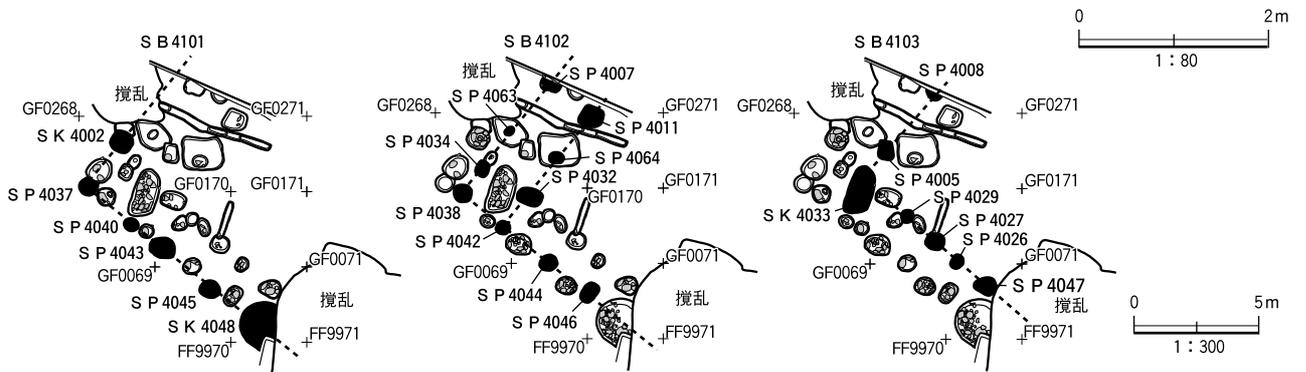
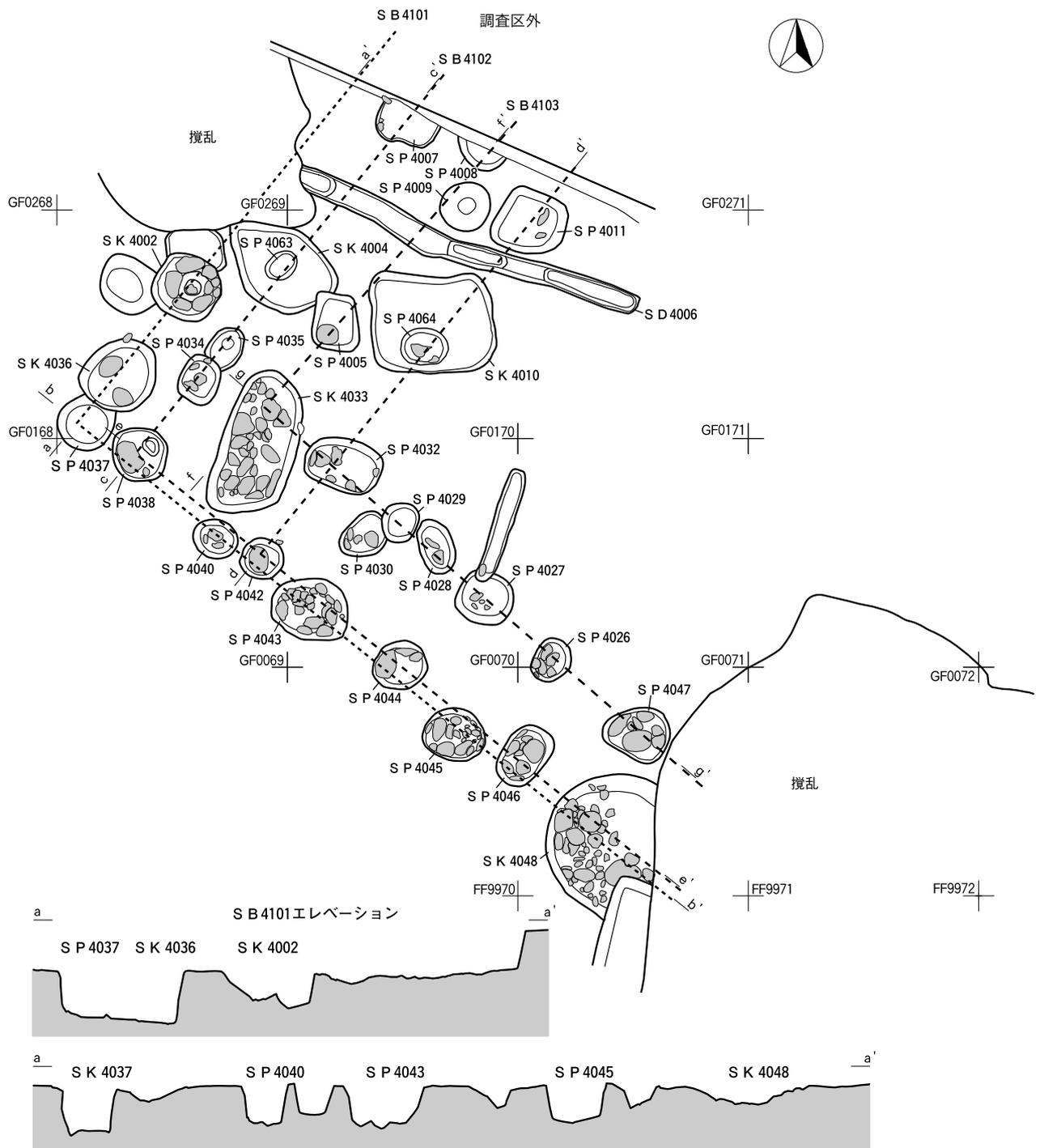


**基本層序**

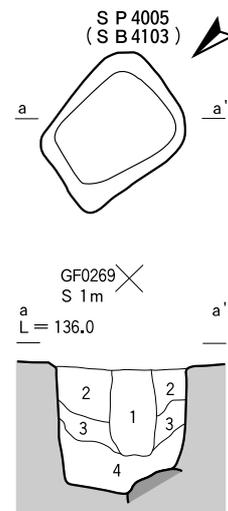
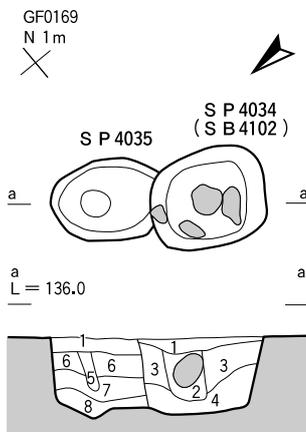
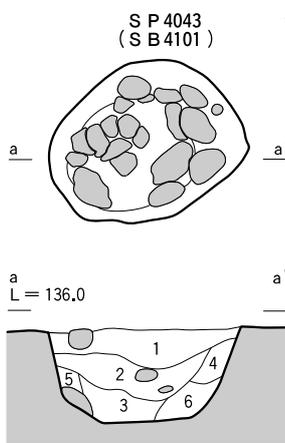
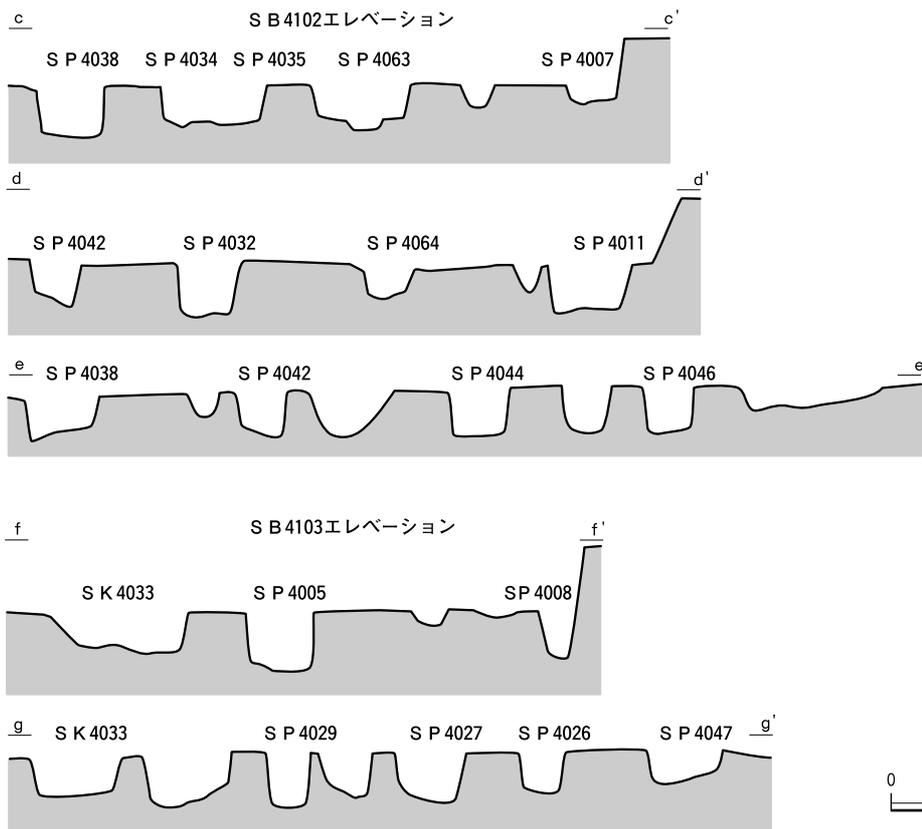
- I. 10YR3/1黒褐色シルト 碎石、炭化物含む。
- II. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土、粗砂少量含む。
- III. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土、多量含む。
- V. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト含む。
- VI. 10YR3/2黒褐色シルト。



第19図 第4次調査4区全体図・層序



第20図 第4次調査4区遺構(1)



**SP 4043**

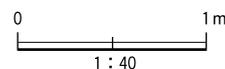
1. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、細砂少量含む、かたくしまる。
2. 10YR3/2黒褐色シルト 褐シルト含む、小礫、炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/1黒色シルト 褐シルト少量含む、かたくしまる。
4. 10YR3/1黒褐色シルト 褐シルト少量含む、かたくしまる。
5. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト、細砂含む、かたくしまる。
6. 10YR2/1黒色シルト 粘性あり、かたくしまる。

**SP 4034**

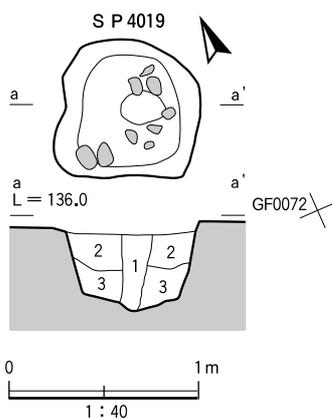
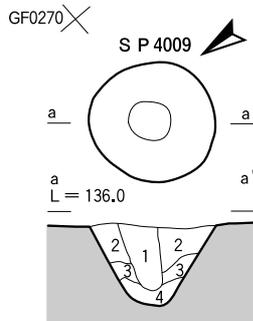
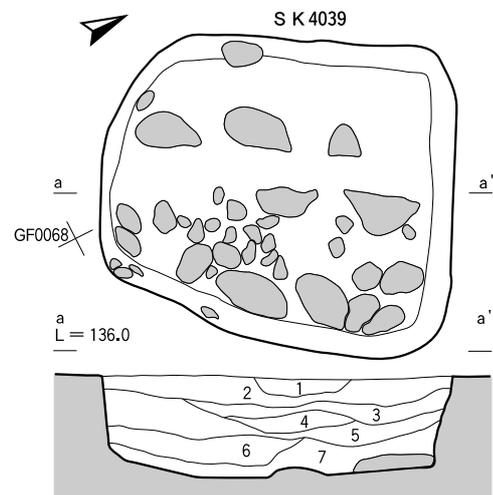
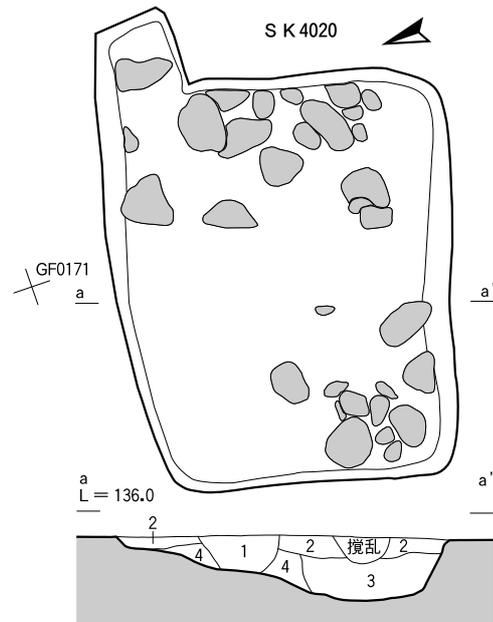
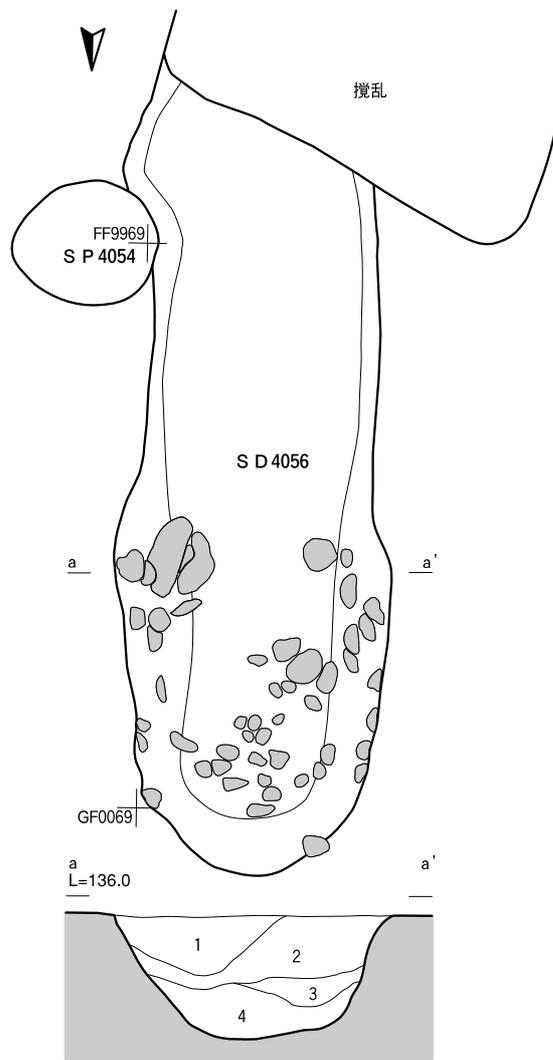
1. 10YR3/4暗褐色シルト 炭化物含む、かたくしまる。
2. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性あり、かたくしまる。
3. 10YR2/3黒褐色シルト かたくしまる、炭化物わずかに含む。
4. 10YR3/2黒褐色シルト かたくしまる。
5. 10YR2/3黒褐色シルト かたくしまる。
6. 10YR2/2黒褐色シルト かたくしまる。
7. 10YR3/2黒褐色シルト かたくしまる。
8. 10YR3/1黒褐色シルト かたくしまる。

**SP 4005**

1. 10YR3/3暗褐色シルト 褐シルト粒状に含む、炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
2. 10YR3/2黒褐色シルト 褐シルト粒状に含む、炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
3. 10YR3/4暗褐色シルト 褐シルト多量に含む、炭化物、焼土含む、かたくしまる。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト含む、かたくしまる。



第21図 第4次調査4区遺構(2)



**S D 4056**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物多量に含み、粗砂含む、やわらかいがしまる。
2. 10YR3/1黒褐色シルト 礫多量含み、焼土、炭化物わずかに含む、粘性あり、かたくしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト、酸化鉄含む、かたくしまる。
4. 10YR3/3暗褐色シルト 酸化鉄、礫多量に含む、粘性あり、かたくしまる。

**S K 4020**

1. 10YR2/3黒褐色シルト 粗砂含む、やわらかいがしまる。
2. 10YR3/3暗褐色シルト 褐シルト含む、やわらかいがしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト含む、粘性あり、やわらかいがしまる。
4. 10YR3/2黒褐色シルト 褐シルト含む、かたくしまる。

**S K 4039**

1. 10YR2/1黒色細砂 褐シルト少量含む、やわらかいがしまる。
2. 10YR3/2黒褐色シルト 酸化鉄少量含む、かたくしまる。
3. 10YR3/4暗褐色シルト 酸化鉄含む、かたくしまる。
4. 10YR2/1黒色シルト 褐砂多量に含む、かたくしまる。
5. 10YR2/3黒褐色シルト 酸化鉄多量に含む、かたくしまる。
6. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト少量含む、かたくしまる。
7. 10YR3/3黒褐色シルト 褐シルト少量含む、かたくしまる。

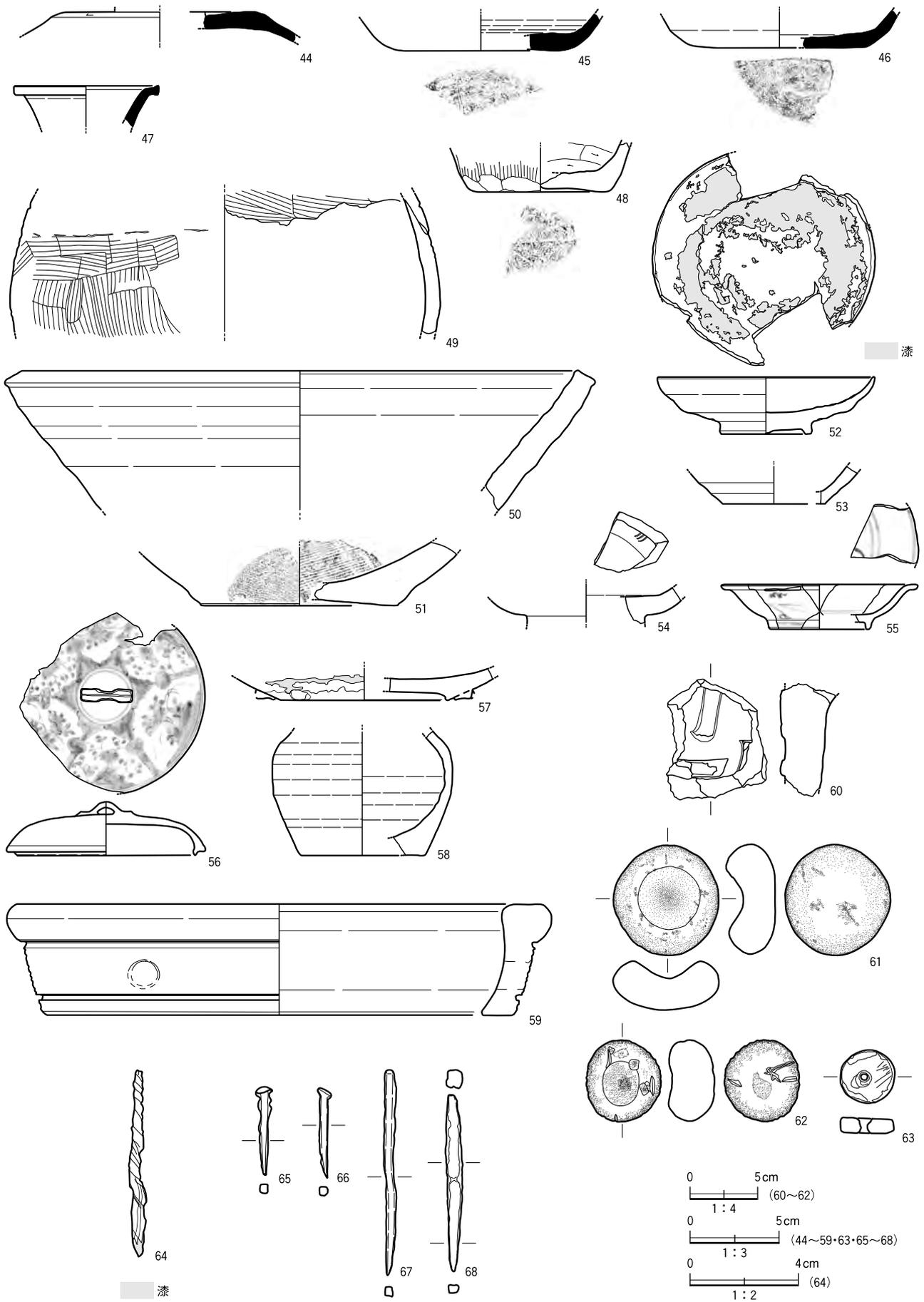
**S P 4009**

1. 10YR3/3暗褐色シルト 炭化物、焼土わずかに含む、かたくしまる。
2. 10YR3/4暗褐色シルト 炭化物わずかに含む、かたくしまる。
3. 10YR3/2黒褐色シルト かたくしまる、焼土わずかに含む。
4. 10YR2/2黒褐色シルト かたくしまる、褐シルトまざる、粘性あり。

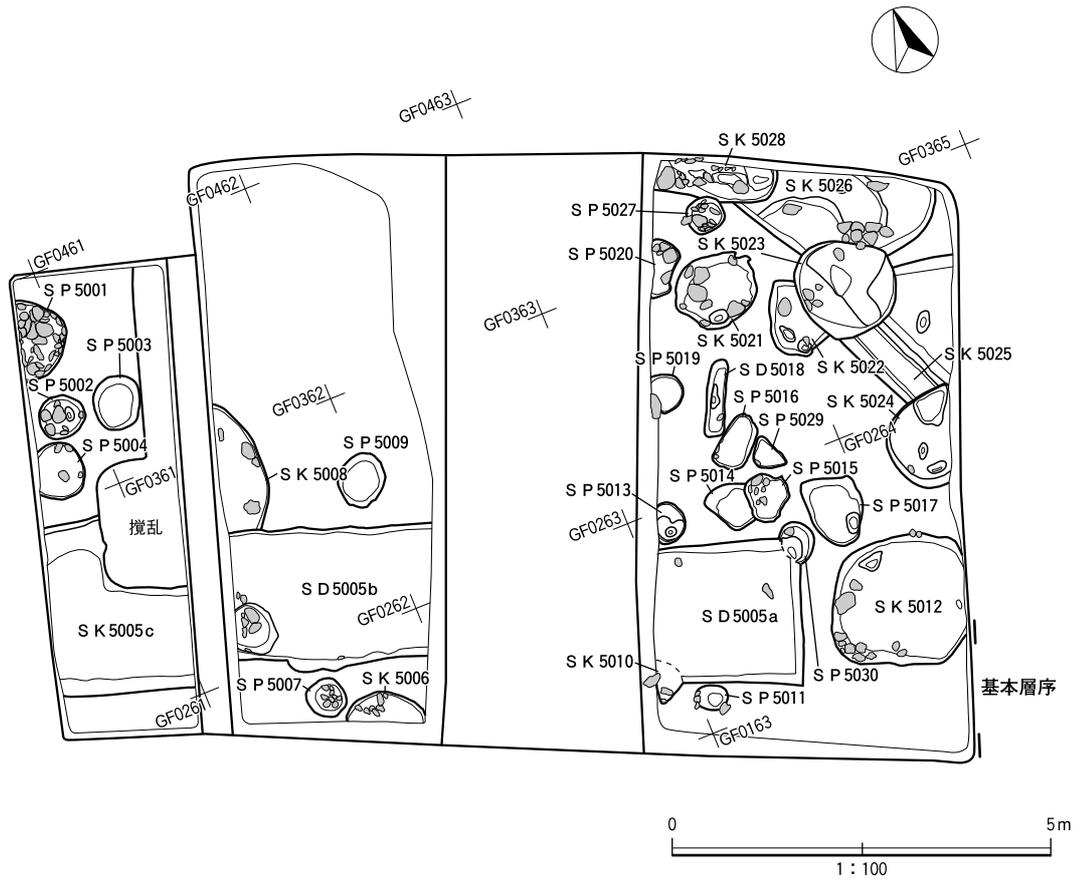
**S P 4019**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト含む、かたくしまる。
2. 10YR2/3黒褐色シルト 褐シルト、炭化物含む、かたくしまる。
3. 10YR3/3暗褐色シルト 褐シルト多量に含む、やわらかいがしまる。

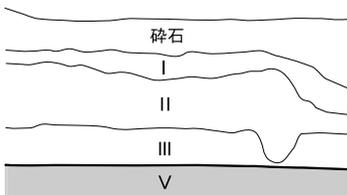
第22図 第4次調査4区遺構(3)



第23図 第4次調査4区出土遺物

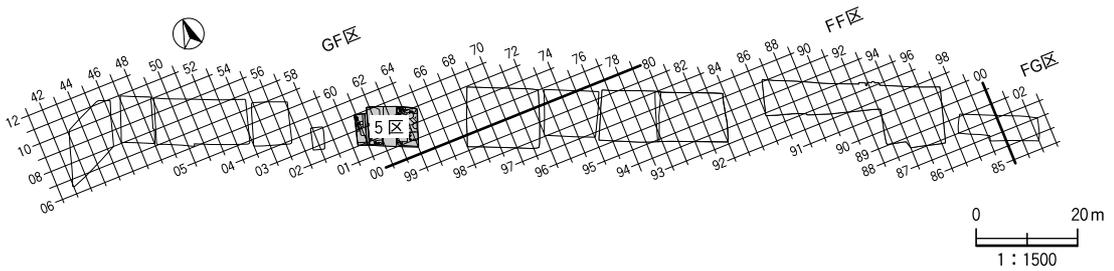
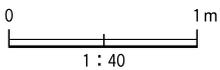


L = 137.0

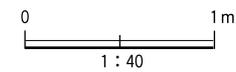
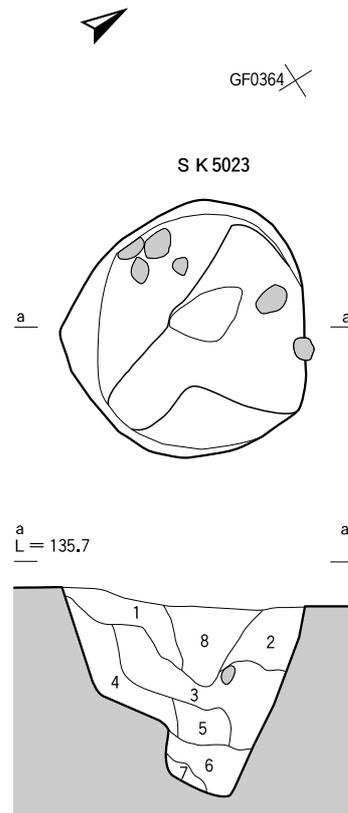
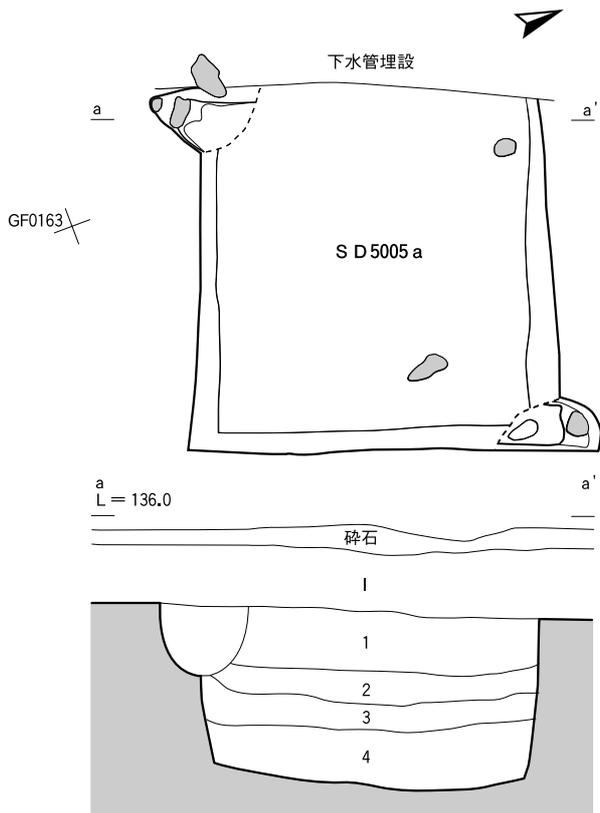


**基本層序**

- I. 10YR2/1黒色シルト 礫、粗砂、酸化鉄、油分含む、かたくしまる。
- II. 10YR2/2黒褐色シルト 粗砂、礫、炭化物含む、かたくしまる。
- III. 10YR3/2黒褐色シルト 褐シルト、粗砂、酸化鉄含む、やわらかいがしまる。
- V. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト、粗砂、酸化鉄含む、かたくしまる。



第24図 第4次調査5区全体図・層序

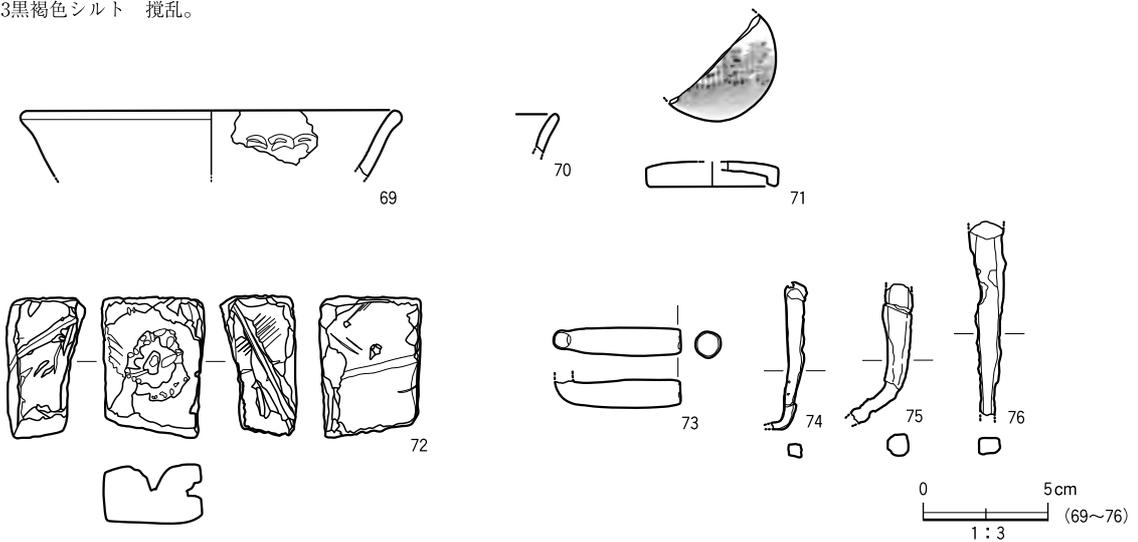


**S D 5005 a**

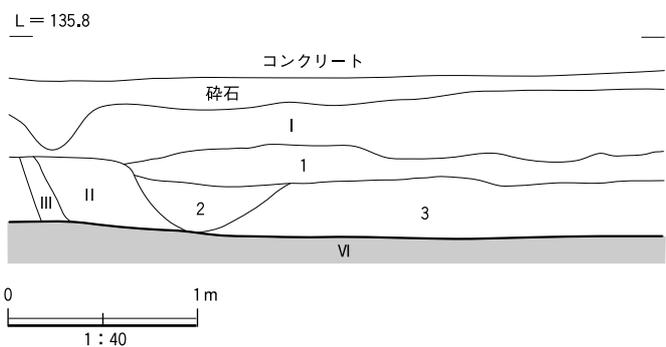
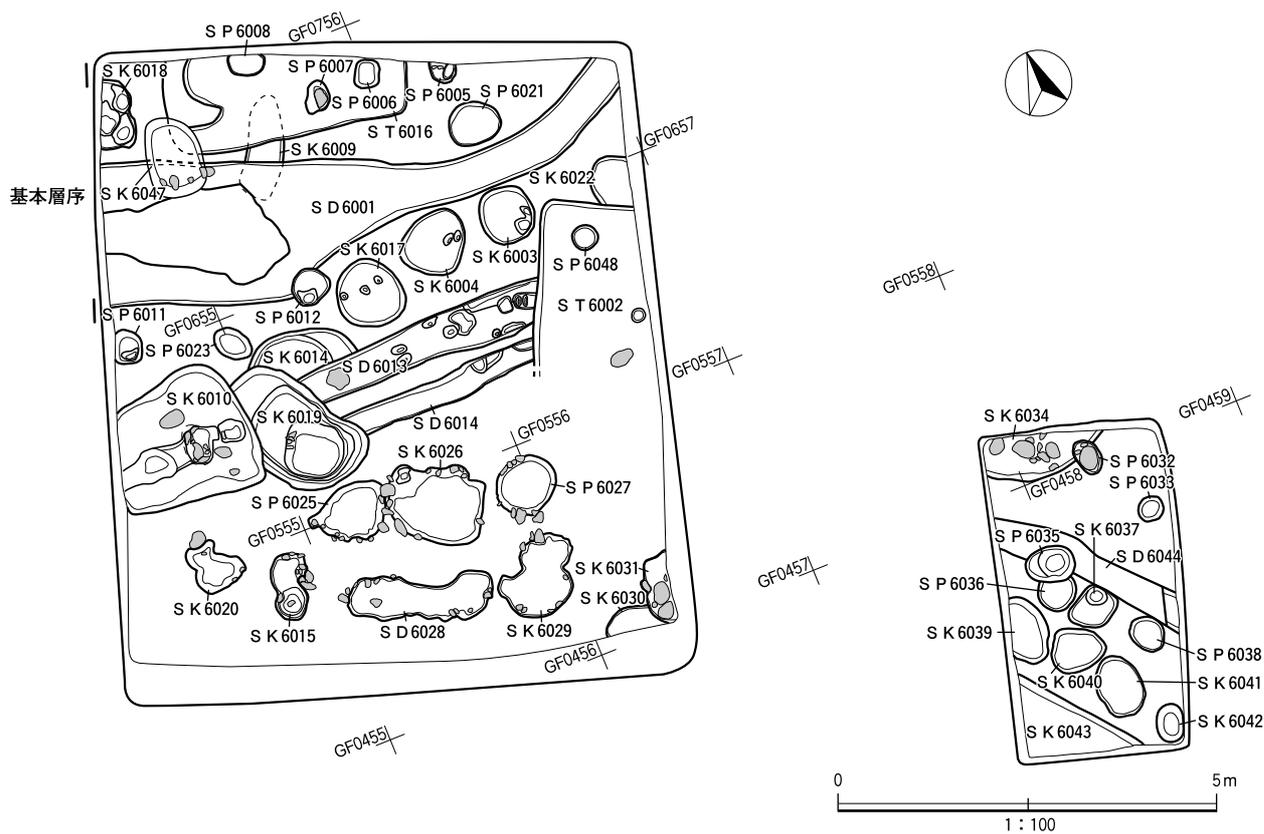
1. 10YR3/3暗褐色シルト 褐シルト、炭化物、小礫わずかに含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト、炭化物、小礫わずかに含む、かたくしまる、粘性あり。
3. 10YR2/3黒褐色シルト 褐シルト、炭化物わずかに含む、かたくしまる、粘性わずかにあり。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、小礫含む、かたくしまる。

**S K 5023**

1. 10YR3/2黒褐色シルト 黒色シルト、礫少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/1黒色シルト 黒褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/1黒色シルト 黒褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 黒色シルト、酸化鉄含む、かたくしまる。
5. 10YR2/1黒色シルト 黒褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
6. 10YR2/3黒褐色シルト 黒色シルト少量含む、かたくしまる。
7. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
8. 10YR2/3黒褐色シルト 攪乱。

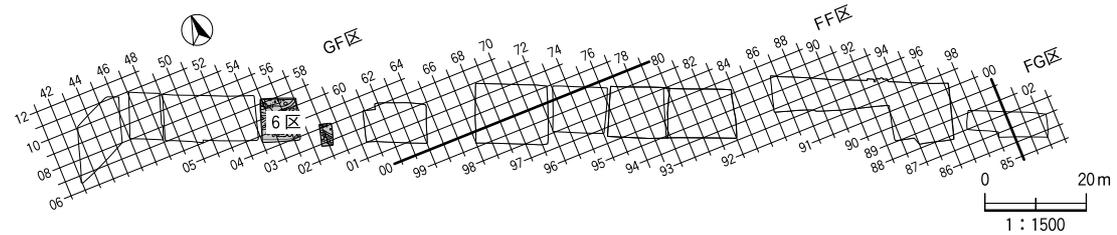


第25図 第4次調査5区遺構・出土遺物

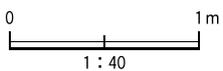
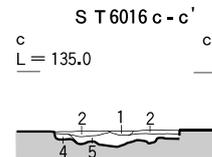
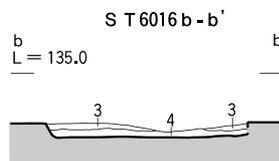
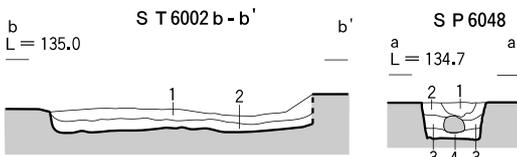
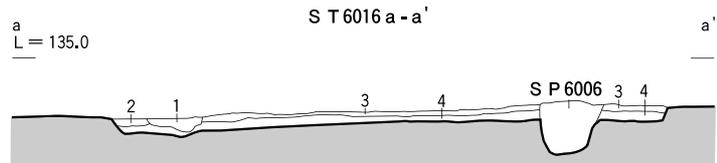
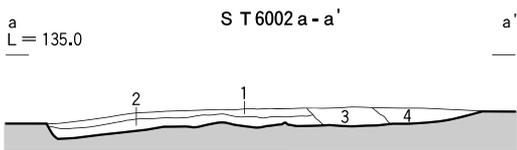
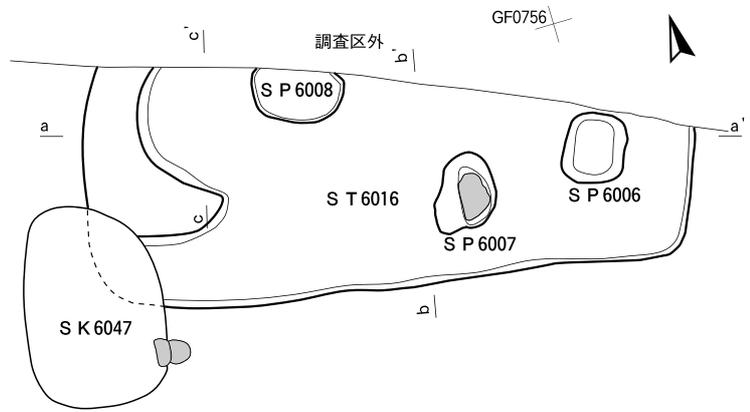
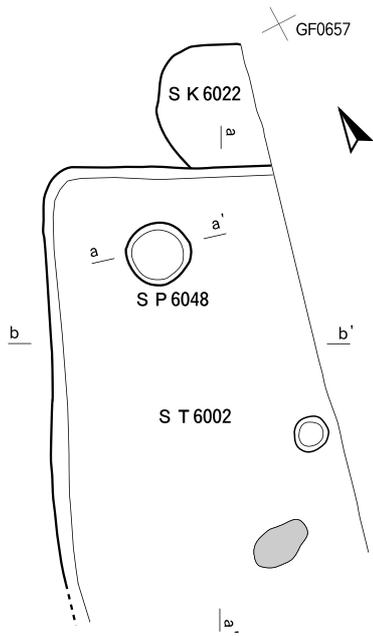


**基本層序**

- I. 10YR3/2黒褐色シルト 小礫少量、褐シルト、炭化物含む、かたくしまる。
- II. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物多量、褐シルト含む、かたくしまる。
- III. 10YR3/2黒褐色シルト 褐シルト多量に含む、やわらかいがしまる。
- 1. 10YR2/1黒色シルト 炭化物含む、やわらかいがしまる。S D6001覆土。
- 2. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、褐シルト含む、かたくしまる。S D6001覆土。
- 3. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物少量含む、やわらかいがしまる。S D6001覆土。
- VI. 10YR3/1黒褐色シルト 褐シルト含む、やわらかいがしまる。



第26図 第4次調査6区全体図・層序



#### S T 6002

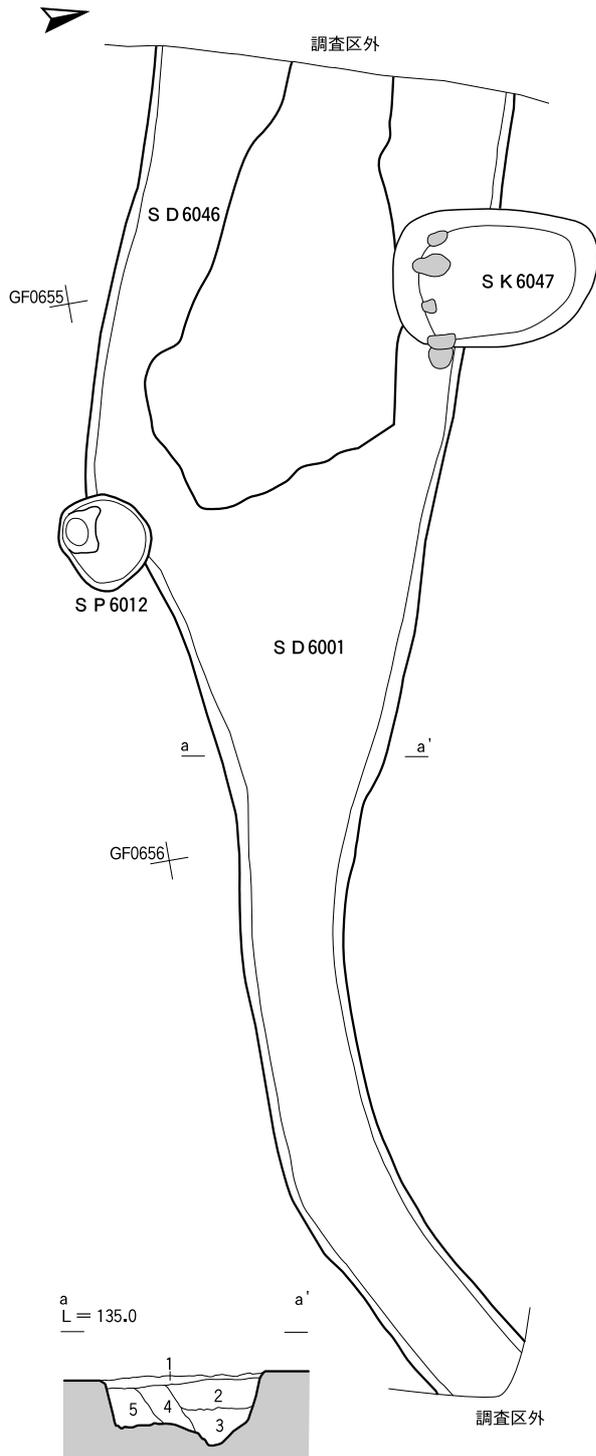
1. 10YR2/1黒色シルト 焼土、黄褐色粒、土器少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物少量、黄褐色シルト粒多量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 焼土多量、土器含む、かたくしまる。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト、酸化鉄含む、攪乱か。

#### S P 6048

1. 10YR2/2黒褐色シルト 焼土、斑状に少量混入。
2. 10YR2/3黒褐色シルト 黄褐色シルト粒多量含む、やわらかいがしまっている。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 10YR3/3暗褐色シルト少量含む。
4. 10YR3/3暗褐色シルト 10YR2/2黒褐色シルトを含む。

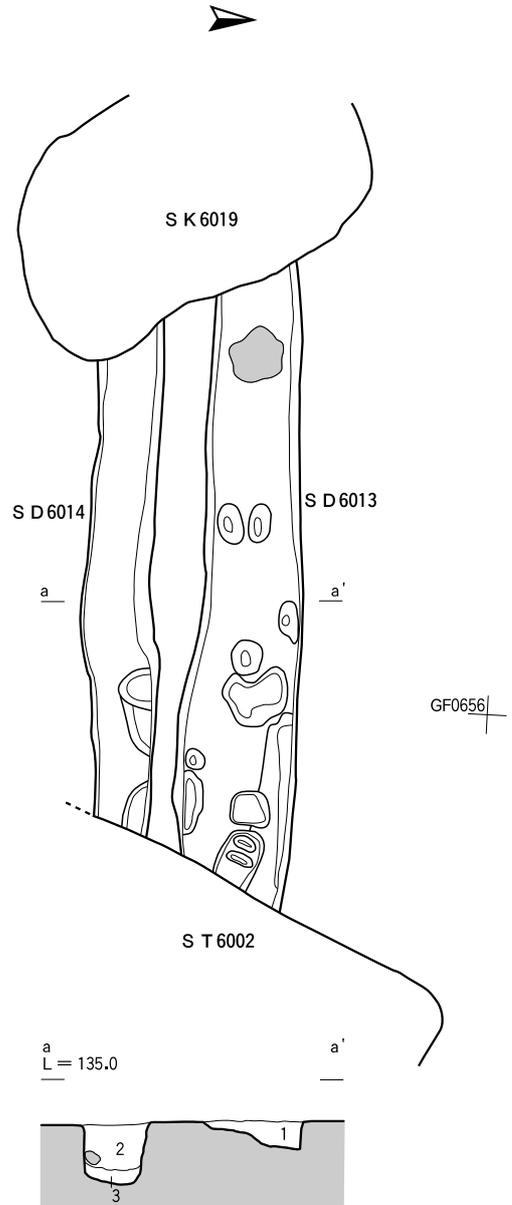
#### S T 6016

1. 10YR2/1黒色シルト 焼土多量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/3黒褐色シルト 黄褐色シルト粒多量含む、やわらかいがしまっている。
3. 10YR3/2黒褐色シルト 黄褐色シルト粒多量含む、かたくしまる。
4. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 黒褐色シルト多量含む、かたくしまる、貼り床。
5. 10YR2/3黒褐色シルト 黄褐色シルト粒少量含む、やわらかい。



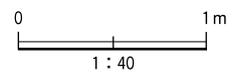
**S D 6001**

1. 10 YR 2/2 黒褐色シルト 暗褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。
2. 10 YR 3/2 黒褐色シルト 炭化物、黄褐色シルト少量含む、かたくしまる。
3. 10 YR 4/3 にぶい黄褐色シルト 黒褐色シルト多量含む、やわらかいがしまっている。
4. 10 YR 2/3 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。
5. 10 YR 2/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト少量含む、かたくしまる。

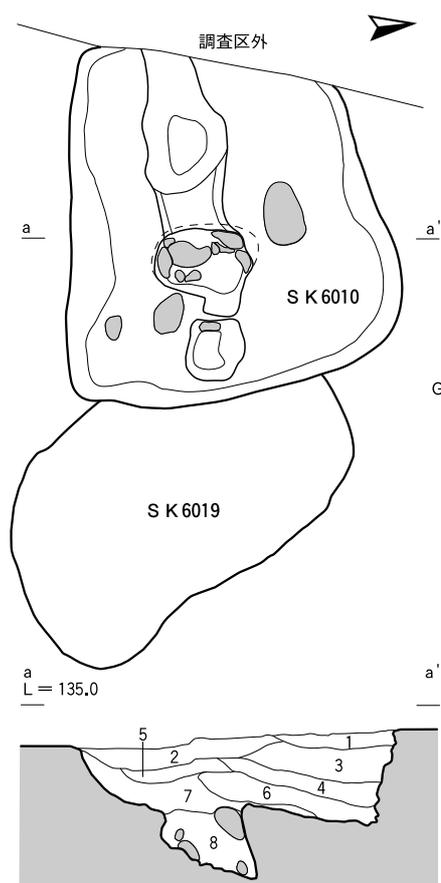


**S D 6013・6014**

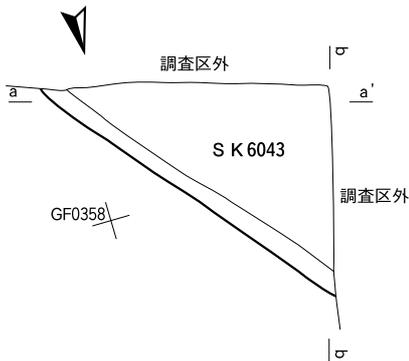
1. 10 YR 2/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト含む、やわらかいがしまっている。
2. 10 YR 2/1 黒色シルト 小礫、粗砂少量含む、かたくしまる。
3. 10 YR 2/1 黒色シルト 黄褐色シルト少量含む、やわらかいがしまっている。



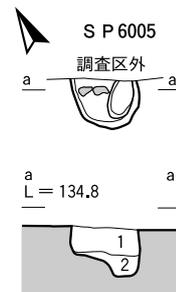
第28図 第4次調査6区遺構(2)



GF0655



GF0756



**S K 6010**

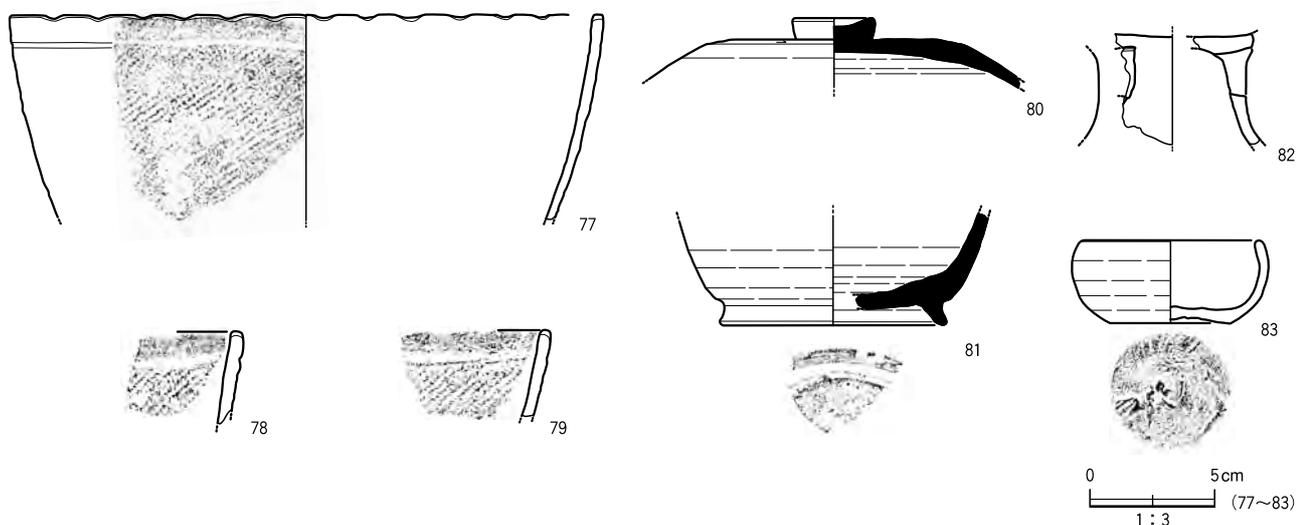
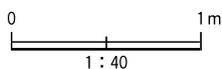
1. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルト粒状に含む、かたくしまる。
2. 10YR2/1黒色シルト 褐シルトごく少量含む、やわらかいがしまる。
3. 10YR2/3黒褐色シルト 褐シルト多量に含む、かたくしまる。
4. 10YR3/3暗褐色シルト 黒褐シルト多量含む、やわらかいがしまる。
5. 10YR2/2黒褐色シルト 褐シルトごく少量含む、かたくしまる。
6. 10YR2/1黒色シルト 褐シルト多量に含む、やわらかいがしまる。
7. 10YR2/3黒褐色シルト 褐シルト多量に含む、やわらかいがしまる。
8. 10YR4/2灰黄褐色砂 褐砂多量に含む、やわらかいがしまる。

**S K 6043**

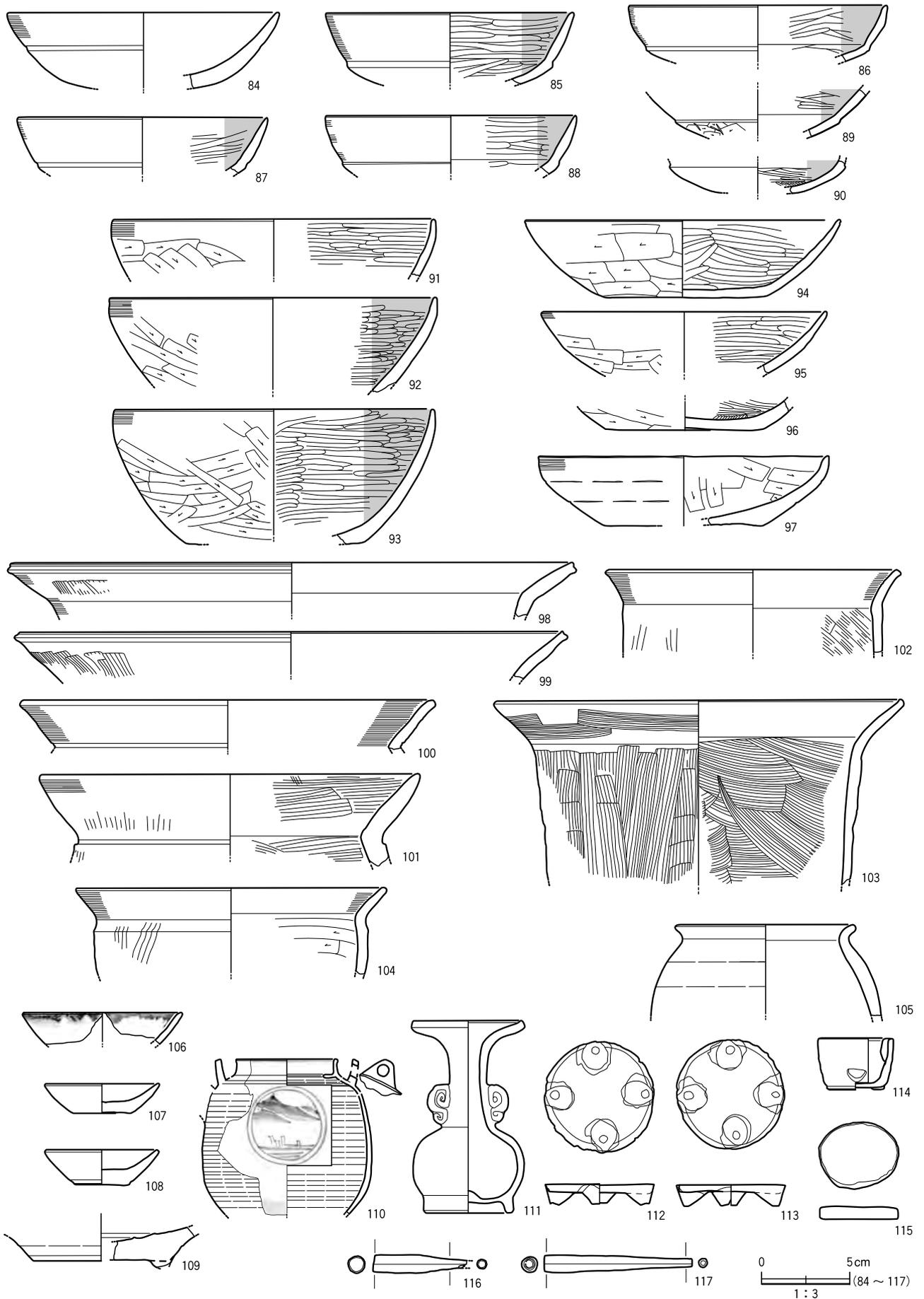
1. 10YR2/2黒褐色シルト 土器片、暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/3黒褐色シルト 暗褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルトブロック少量含む、弱粘性、かたくしまる。

**S P 6005**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 黄褐色粒多量含む、かたくしまる。
2. 10YR3/2黒褐色シルト 黄褐色シルト多量含む、かたくしまる。

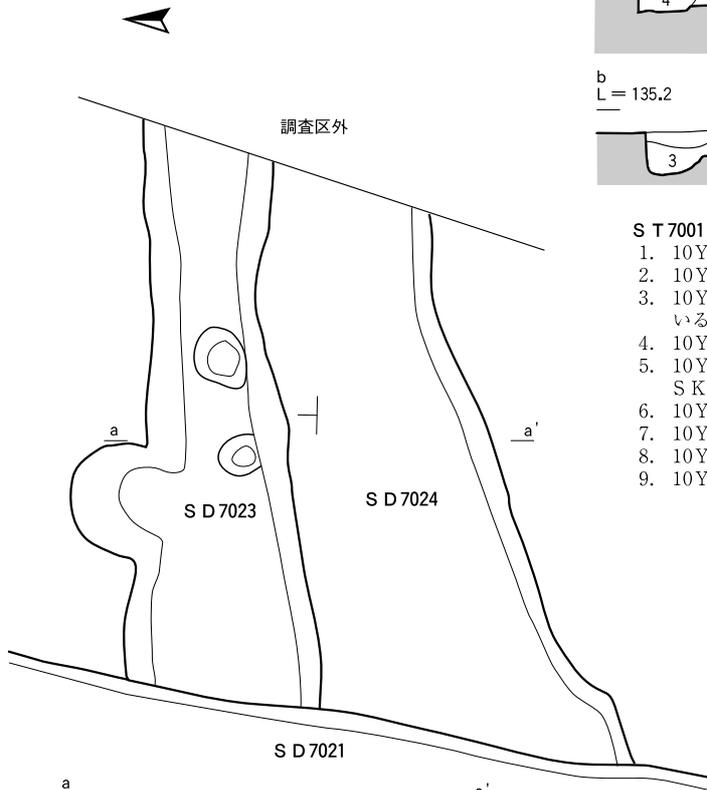
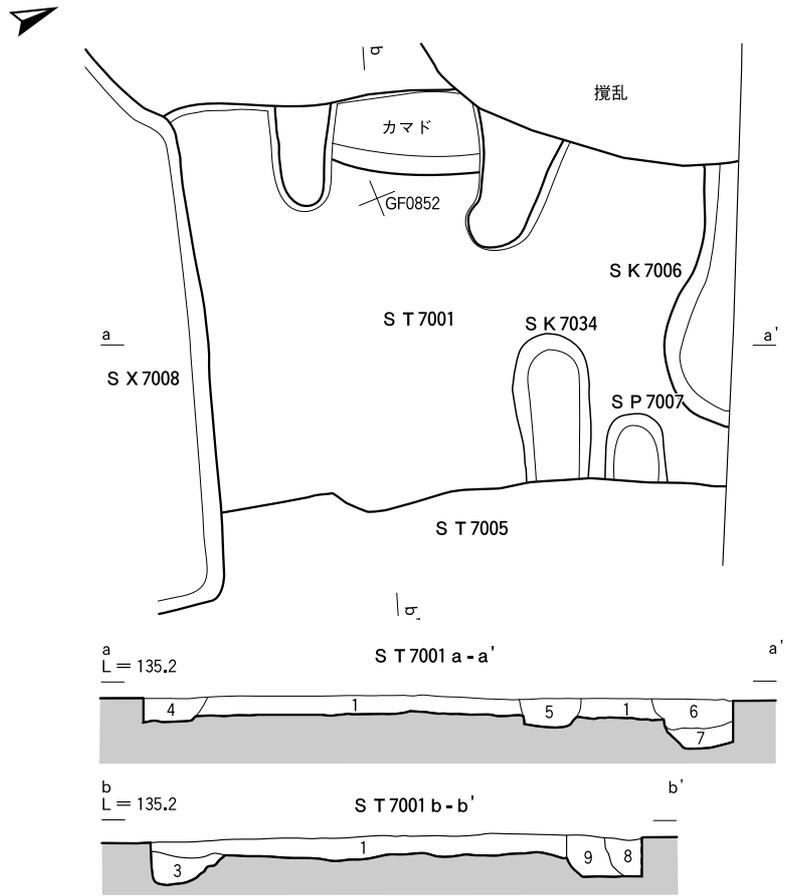


第29図 第4次調査6区遺構(3)・出土遺物(1)



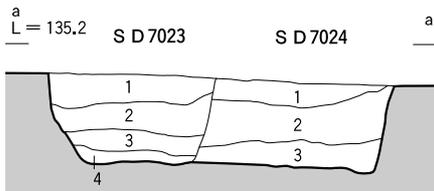
第30図 第4次調査6区出土遺物(2)





**S T 7001**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト、細砂少量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、やわらかいがしまっている。
4. 10YR2/3黒褐色シルト 暗褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。
5. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト多量含む、しまりない。  
S K 7034覆土。
6. 10YR3/2黒褐色シルト 炭化物、焼土粒多量含む。S K 7006覆土。
7. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土粒多量含む。S K 7006覆土。
8. 10YR3/2黒褐色シルト 小礫、褐灰シルト多量含む、かたくしまる。
9. 10YR2/2黒褐色シルト 酸化鉄、暗褐色粒多量含む、かたくしまる。

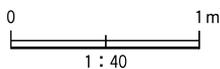


**S D 7023**

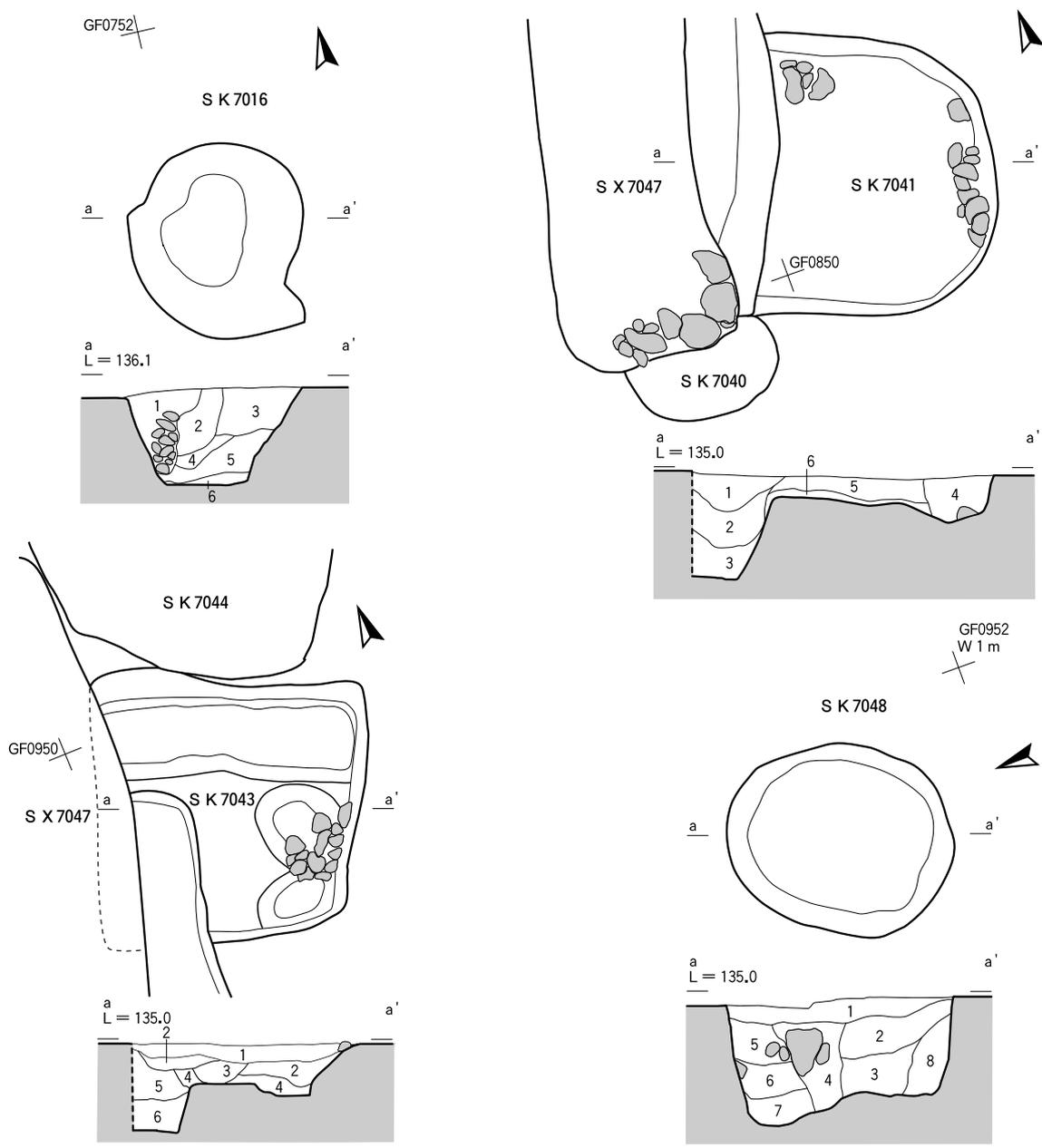
1. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/3黒褐色シルト 焼土、黄褐色シルト粒少量含む。
3. 10YR2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト多量含む。
4. 10YR3/2黒褐色シルト 暗褐色シルト粒含む、やわらかいがしまっている。

**S D 7024**

1. 10YR2/1黒色シルト 炭化物少量含む。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 焼土、炭化物含む。
3. 10YR3/2黒褐色シルト 焼土、炭化物、暗褐色シルト含む。



第32図 第4次調査7区遺構(1)



**S K 7016**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 焼土、礫含む、しまりなくもろい。
2. 10YR2/1黒色シルト 焼土、粗砂含む、かたくしまる。
3. 10YR2/1黒色シルト 暗褐色シルト少量含む、弱い粘性、かたくしまる。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
5. 10YR2/2黒褐色シルト 黄褐色シルト多量含む、かたくしまる。
6. 10YR3/4暗褐色シルト 黄褐色シルトブロック多量含む、かたくしまる。

**S K 7043**

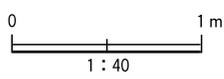
1. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、礫含む。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土、暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/1黒色シルト 暗褐色シルト多量含む、かたくしまる。
4. 10YR3/3暗褐色シルト 黒褐色シルト少量含む、やわらかいがしまっている。
5. 10YR3/2黒褐色シルト 暗褐色シルト多量含む、かたくしまる。
6. 10YR3/2黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。

**S K 7041**

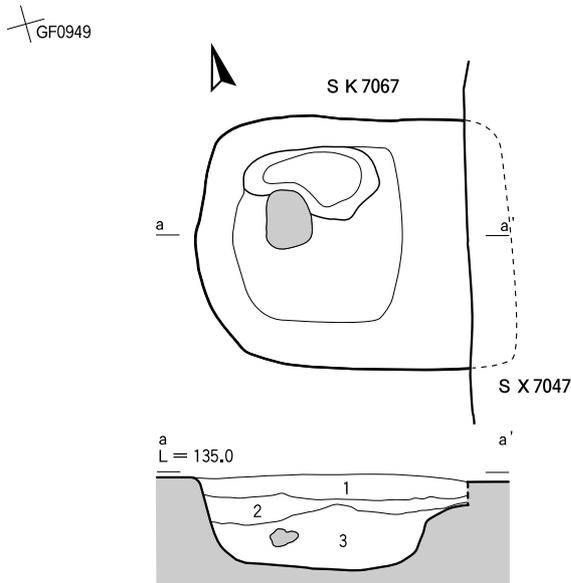
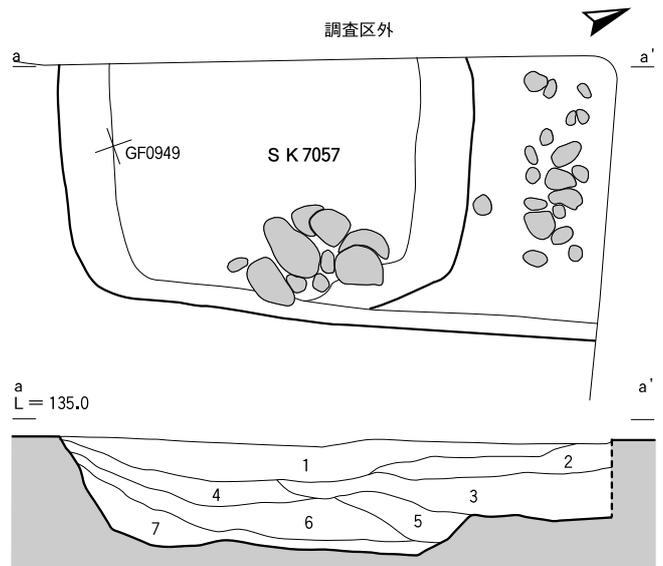
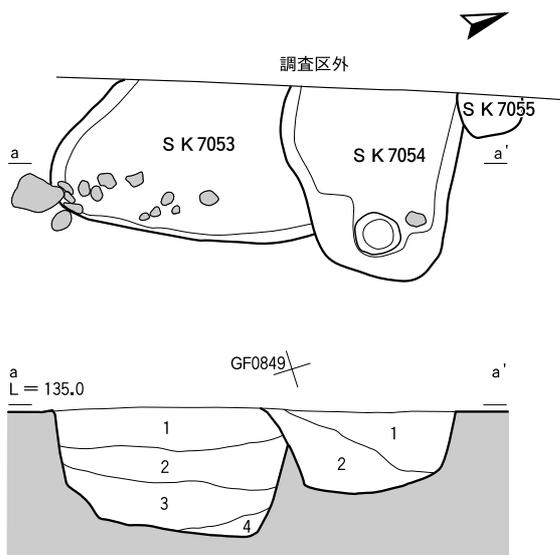
1. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物少量含む、やわらかくしまりない。
3. 10YR3/2黒褐色シルト やわらかいがしまっている。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物少量、10 cm大の礫多量含む、もろい。
5. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物少量、暗褐色シルト多量含む、かたくしまる。
6. 10YR3/2黒褐色シルト 黄褐色シルト多量含む、かたくしまる。

**S K 7048**

1. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土多量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト、粗砂含む、かたくしまる。
3. 10YR2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト、黄褐色シルト少量含む、やわらかい。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト、大礫含む、かたくしまる。
5. 10YR2/2黒褐色シルト 焼土粒少量含む、かたくしまる。
6. 10YR2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
7. 10YR2/3黒褐色シルト 黄褐色シルト多量含む、かたくしまる。
8. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。



第33図 第4次調査7区遺構(2)



**S K 7053**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物多量含む、焼土少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物少量含む、やわらかいがしまっている。
3. 10YR2/1黒色シルト 粗砂含む、やわらかくしまらない。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物少量含む、やわらかい。

**S K 7054**

1. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土多量含む、かたくしまる。

**S K 7057**

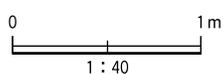
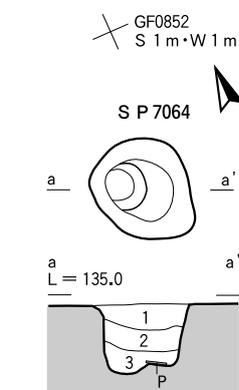
1. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物少量含む、しまりなくやわらかい。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト、褐色砂少量含む、かたくしまる。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物少量含む、かたくしまる。
5. 10YR2/3黒褐色シルト 褐色砂多量含む、しまりない。
6. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト粒少量含む。
7. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト多量含む、かたくしまる。

**S K 7067**

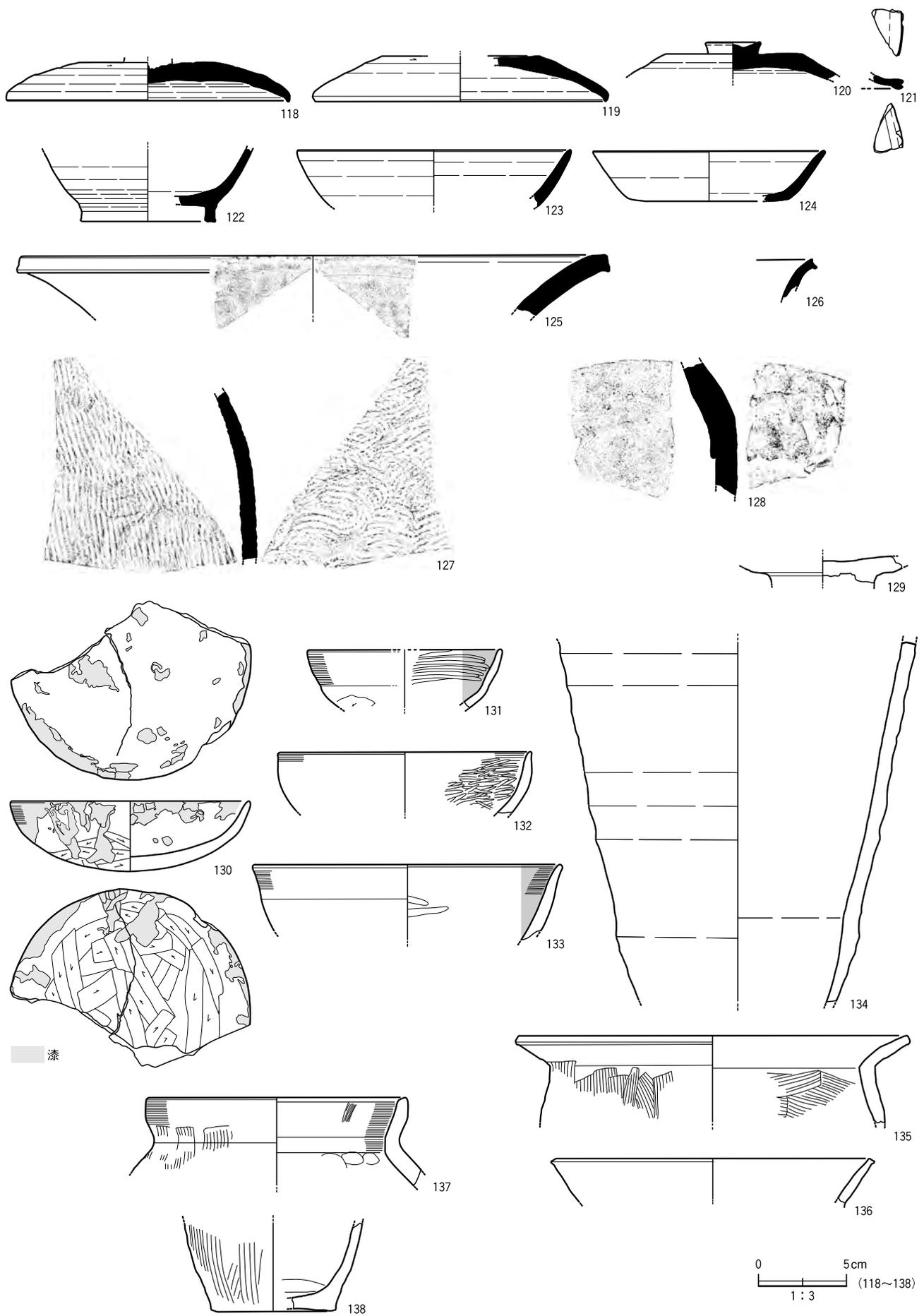
1. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土、粗砂多量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土、暗褐色シルト含む、かたくしまる。
3. 10YR3/2黒褐色シルト 炭化物少量、黄褐色シルト多量含む、やわらかいがしまっている。

**S P 7064**

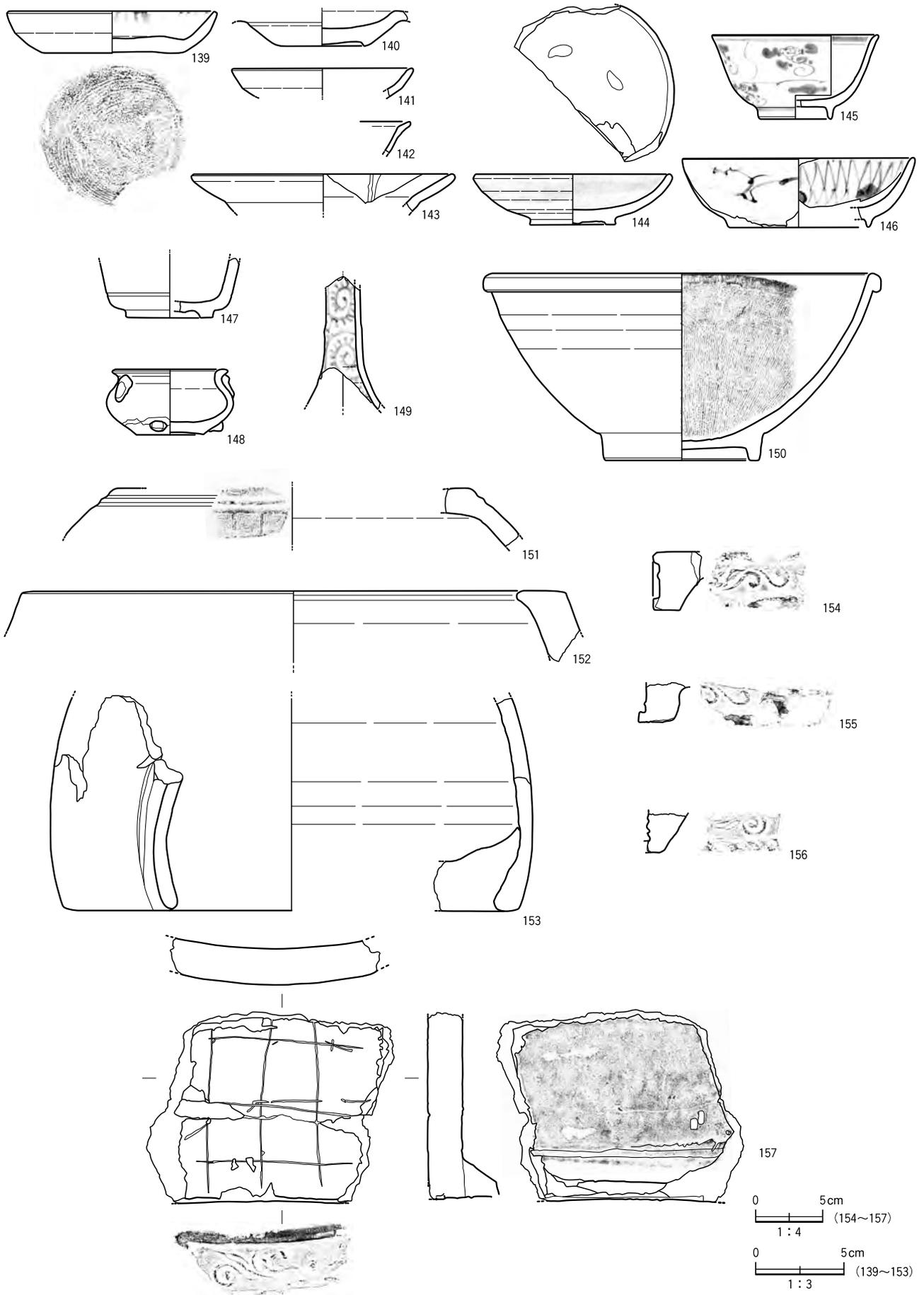
1. 10YR2/1黒色シルト 暗褐色シルト少量含む、やわらかいがしまっている。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色シルト粒多量含む、かたくしまる。
3. 10YR3/2黒褐色シルト 暗褐色シルト粒少量含む、かたくしまる。



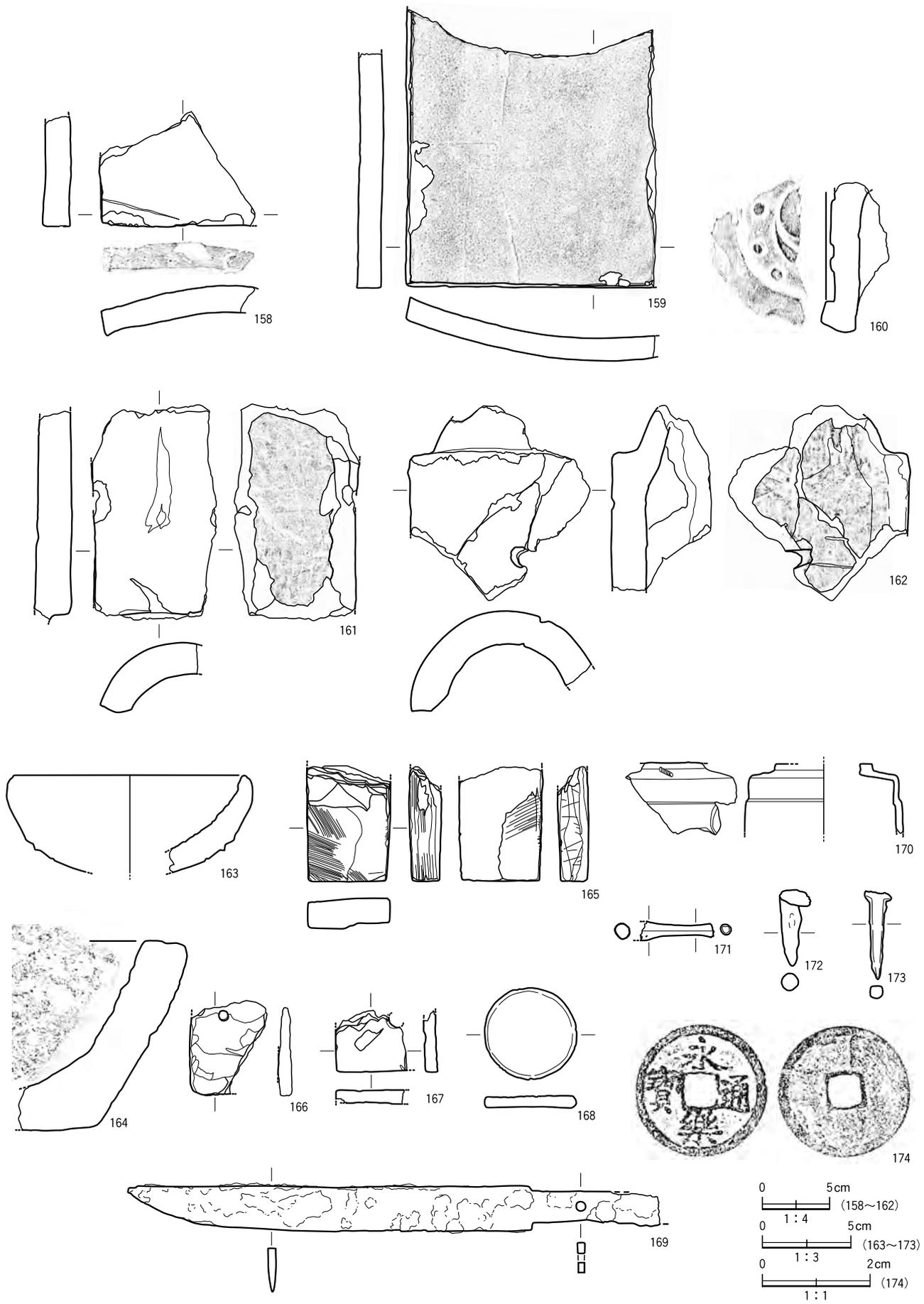
第34図 第4次調査7区遺構(3)



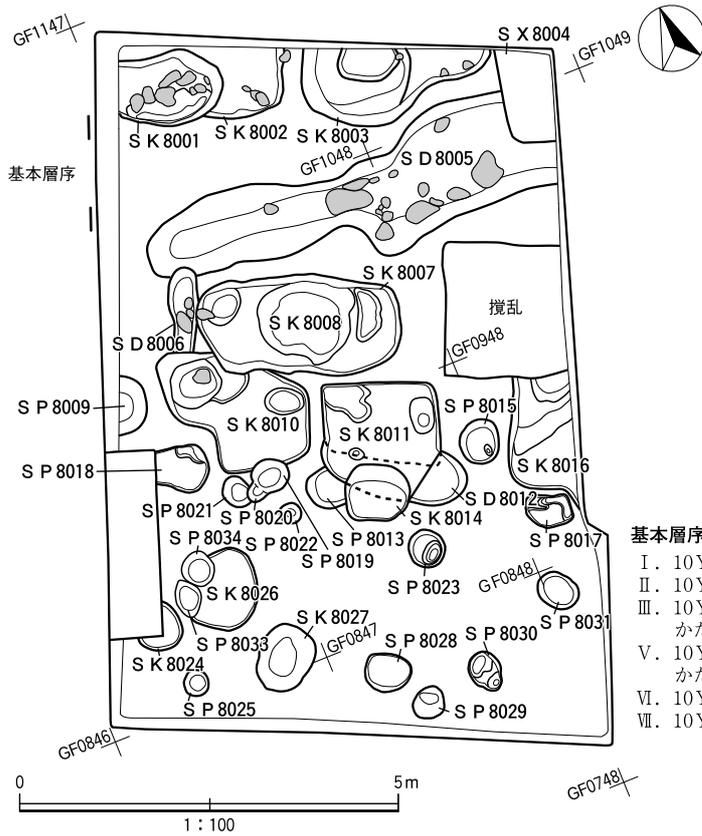
第35図 第4次調査7区出土遺物(1)



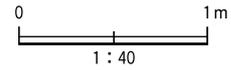
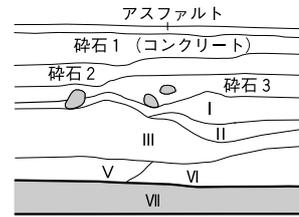
第36図 第4次調査7区出土遺物(2)



第37図 第4次調査7区出土遺物(3)

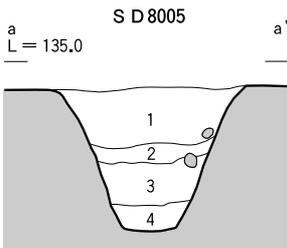
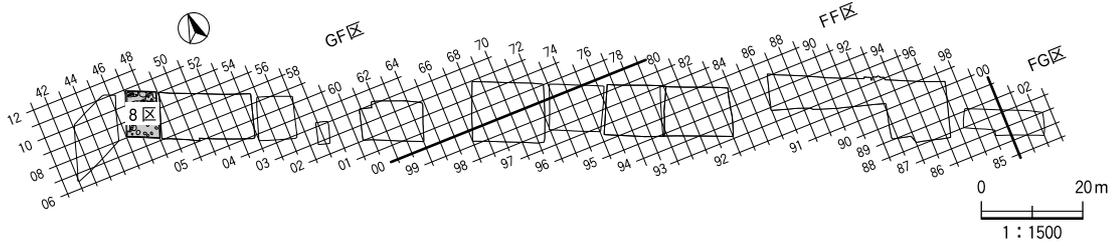


L = 136.0



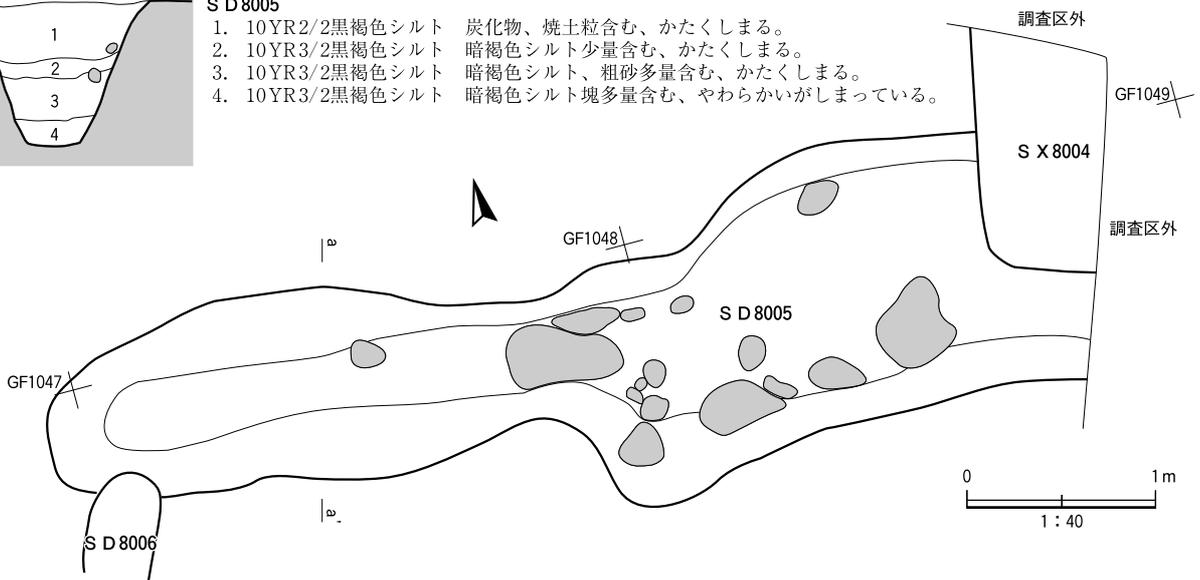
**基本層序**

- I. 10YR2/1 黒色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
- II. 10YR3/2 黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
- III. 10YR2/3 黒褐色シルト 炭化物、焼土少量、小礫、粗砂含む、かたくしまる。
- V. 10YR3/3 暗褐色粗砂 黒褐色シルト多量、炭化物少量含む、かたくしまる。
- VI. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
- VII. 10YR2/3 黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。

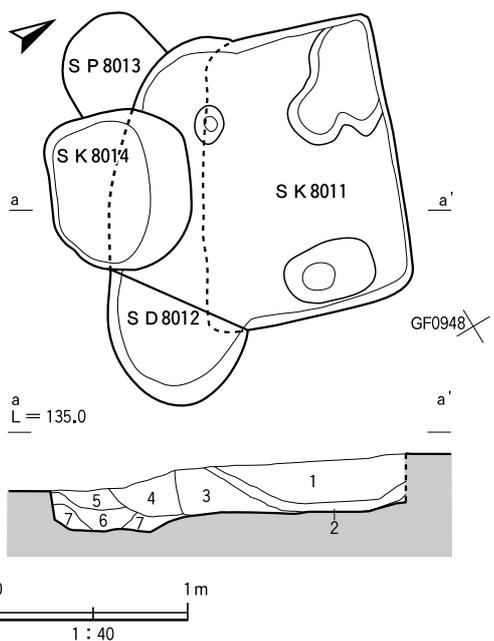
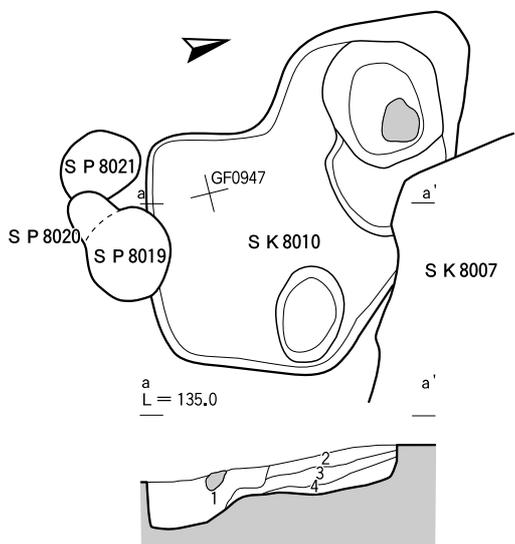
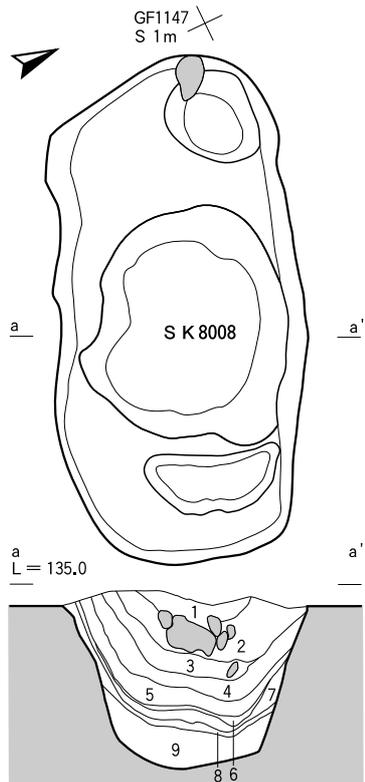
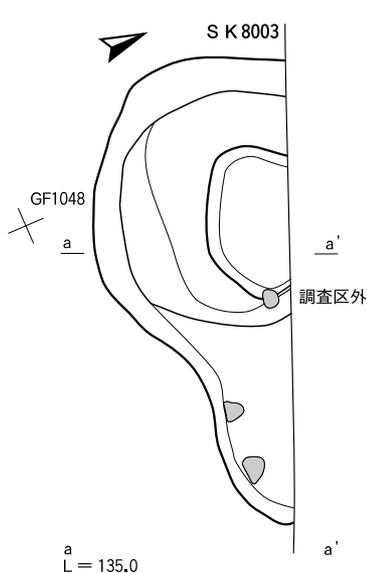
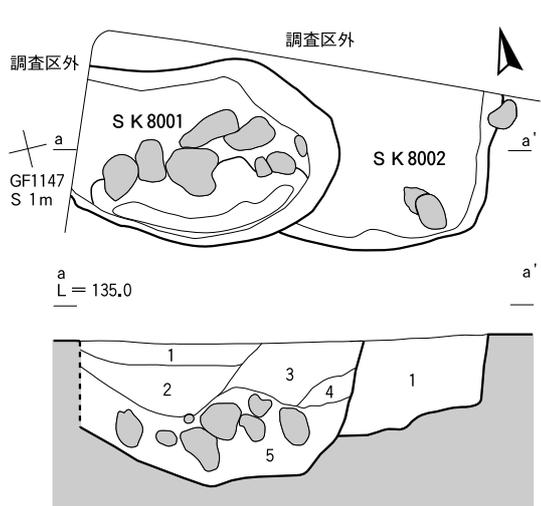


**S D 8005**

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化物、焼土粒含む、かたくしまる。
- 2. 10YR3/2 黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
- 3. 10YR3/2 黒褐色シルト 暗褐色シルト、粗砂多量含む、かたくしまる。
- 4. 10YR3/2 黒褐色シルト 暗褐色シルト塊多量含む、やわらかいがしまっている。



第38図 第4次調査8区全体図・層序・遺構(1)



**S K 8001**

1. 10 YR 2/1黒色シルト 炭化物多量、焼土少量含む、しまりない。
2. 10 YR 2/2黒褐色シルト 焼土粒少量含む、やわらかくしまりない。
3. 10 YR 2/2黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
4. 10 YR 2/2黒褐色シルト 褐色細砂多量含む、かたくしまる。
5. 10 YR 3/2黒褐色シルト 大礫多量含む、やわらかいがしまっている。

**S K 8002**

1. 10 YR 2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土粒少量含む、かたくしまる。

**S K 8003**

1. 10 YR 2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
2. 10 YR 3/2黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
3. 10 YR 2/2黒褐色シルト 炭化物多量、焼土少量含む、やわらかいがしまっている。
4. 10 YR 2/3黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト含む、やわらかくしまりない。

**S K 8008**

1. 10 YR 3/2黒褐色シルト 炭化物少量含む、かたくしまる。
2. 10 YR 2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土多量含む、かたくしまる。
3. 10 YR 3/2黒褐色シルト 焼土、褐色砂多量含む、褐色砂の層が入る。やわらかいがしまっている。
4. 10 YR 2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土含む、かたくしまる。
5. 10 YR 4/2灰黄褐色砂 黒褐色シルト少量含む、やわらかいがしまっている。
6. 10 YR 1.7/1黒色炭層 暗褐色シルト少量含む、やわらかくもろい。
7. 10 YR 6/2灰黄褐色シルト 暗褐色シルトと灰を縞状に含む、やわらかい、粒。
8. 10 YR 3/4暗褐色シルト 黒褐色シルトを縞状に含む、やわらかいがしまっている。
9. 10 YR 2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土含む、かたくしまる。

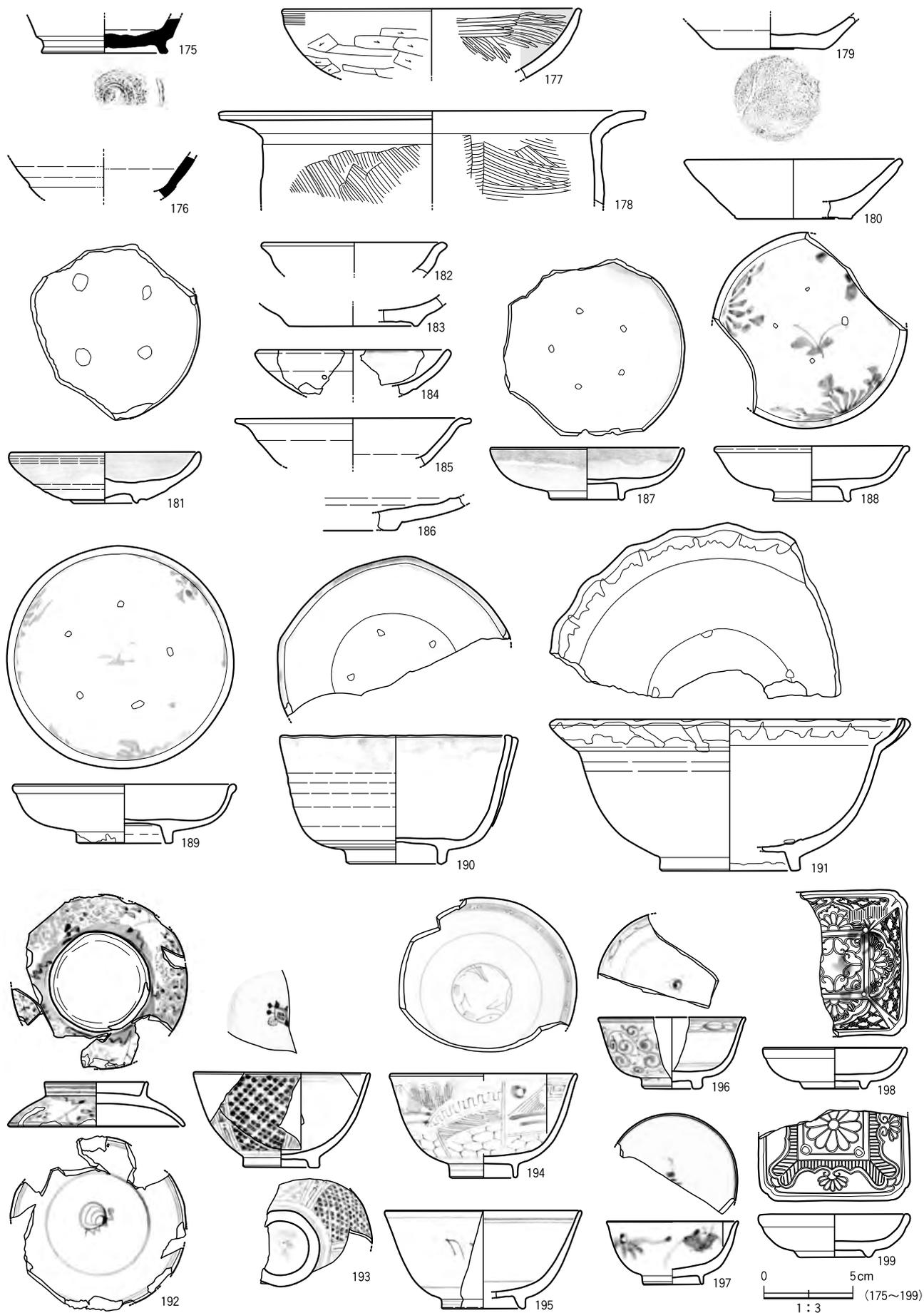
**S K 8010**

1. 10 YR 2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土粒多量含む、かたくしまる。
2. 10 YR 2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土粒少量含む、かたくしまる。
3. 10 YR 2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
4. 10 YR 2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト塊多量含む、かたくしまる。

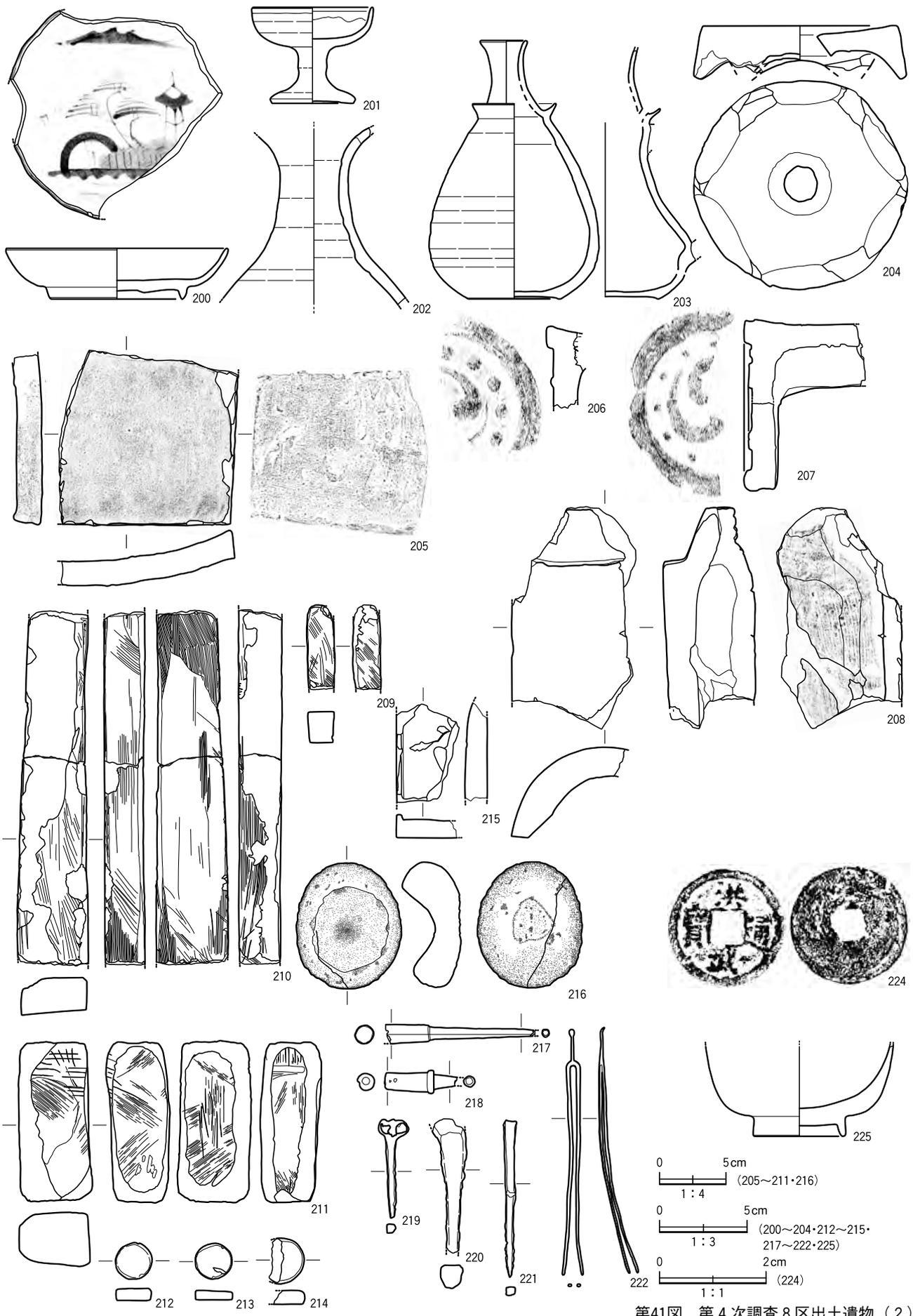
**S K 8011・S D 8012・S P 8013**

1. 10 YR 2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土粒含む、かたくしまる。
2. 10 YR 3/3暗褐色シルト 黒褐色シルト少量含む、かたくしまる。
3. 10 YR 2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、やわらかいがしまっている。
4. 10 YR 2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土粒多量含む、かたくしまる。
5. 10 YR 2/3黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、かたくしまる。
6. 10 YR 3/3暗褐色シルト 褐色シルト塊多量含む、かたくしまる。
7. 10 YR 3/2黒褐色シルト 暗褐色シルト少量含む、やわらかいがしまっている。
8. 10 YR 2/2黒褐色シルト 炭化物、暗褐色シルト含む、かたくしまる。
9. 10 YR 3/2黒褐色シルト 炭化物、焼土含む、かたくしまる。

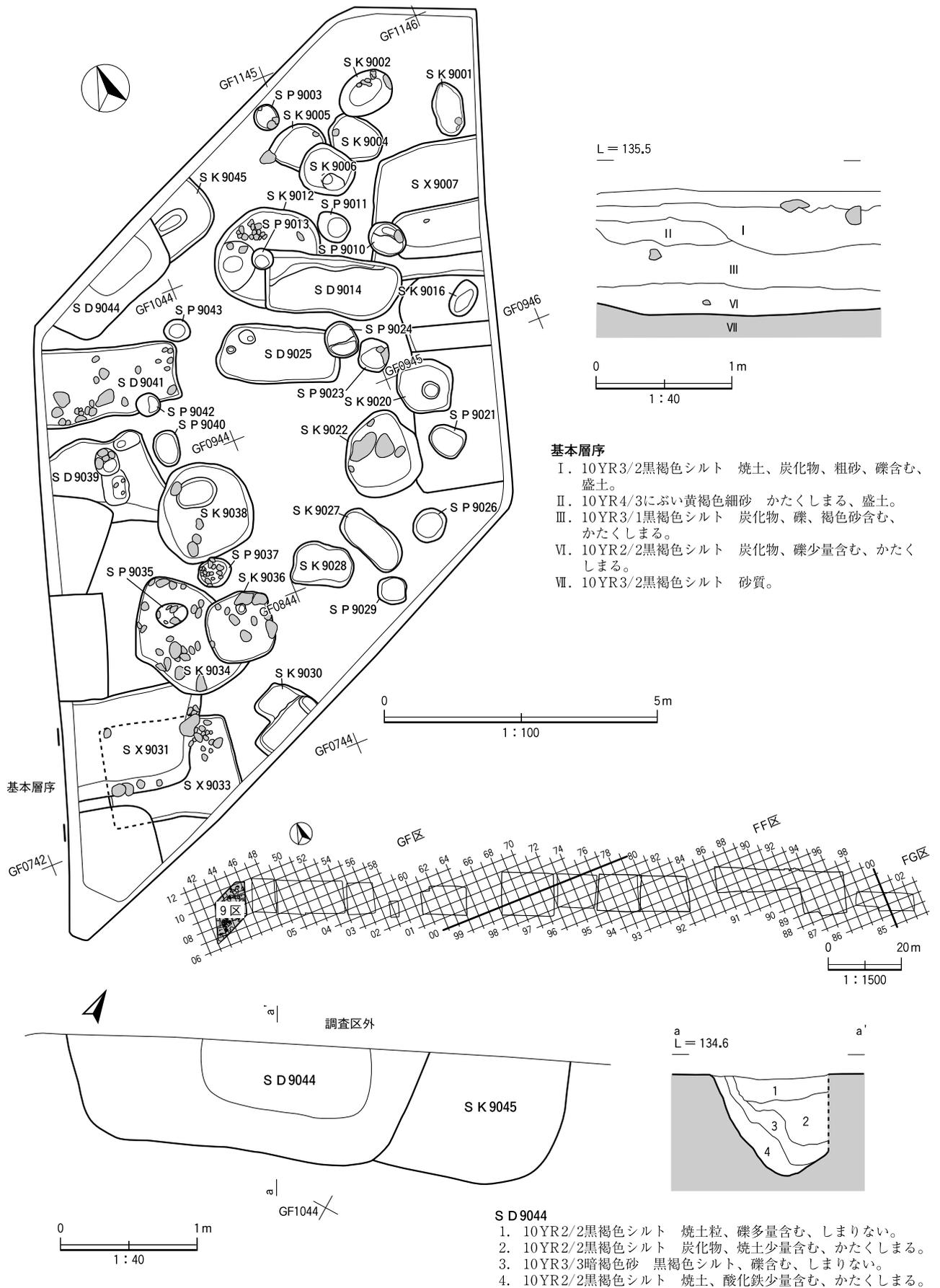
第39図 第4次調査8区遺構(2)



第40図 第4次調査8区出土遺物(1)

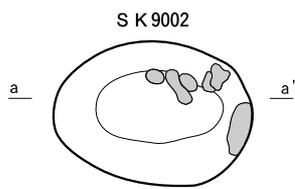


第41図 第4次調査8区出土遺物(2)

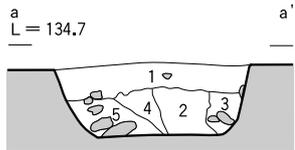


第42図 第4次調査9区全体図・層序・遺構(1)

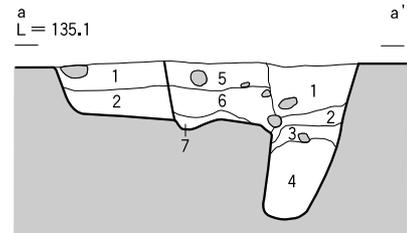
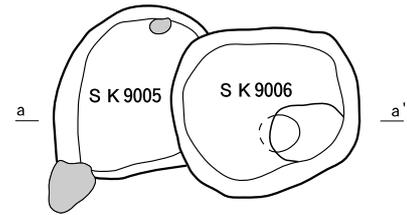
GF1145



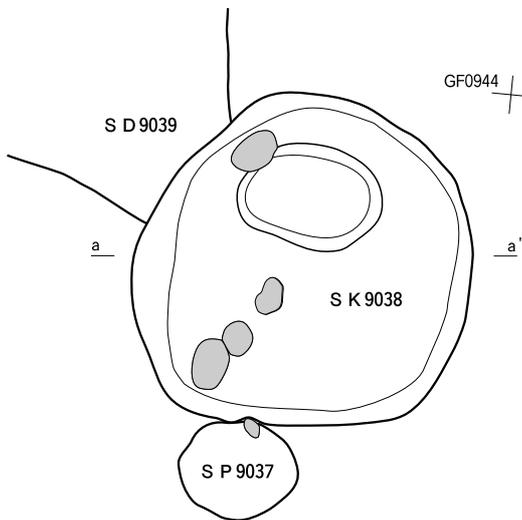
GF1146



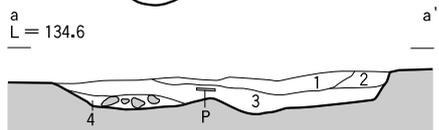
L = 134.7



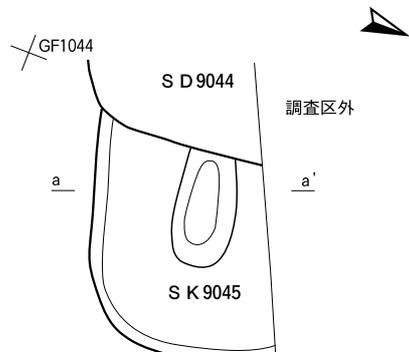
L = 135.1



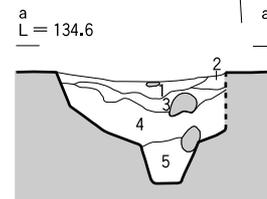
GF0944



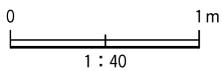
L = 134.6



調査区外



L = 134.6



**S K 9002**

1. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 褐色粗砂、小礫多量含む、しまりない。
3. 10YR3/2黒褐色シルト 褐色砂少量含む、かたくしまる。
4. 10YR2/3黒褐色砂 黒褐色シルト、小礫多量含む、しまりない。
5. 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂、礫多量含む、しまりない。

**S K 9038**

1. 10YR3/1黒褐色砂 炭化物、礫含む。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土含む、かたくしまる。
3. 10YR2/1黒色シルト 炭化物多量含む、やわらかい。
4. 10YR3/1黒褐色シルト 暗褐色シルト多量含む、かたくしまる。

**S K 9005**

1. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、褐色砂少量含む、かたくしまる。
2. 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂含む、しまりない。

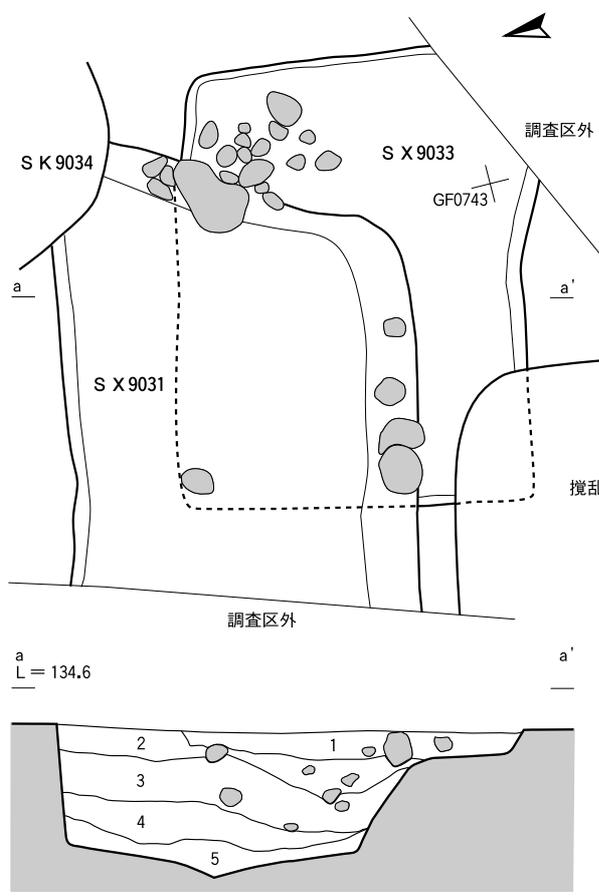
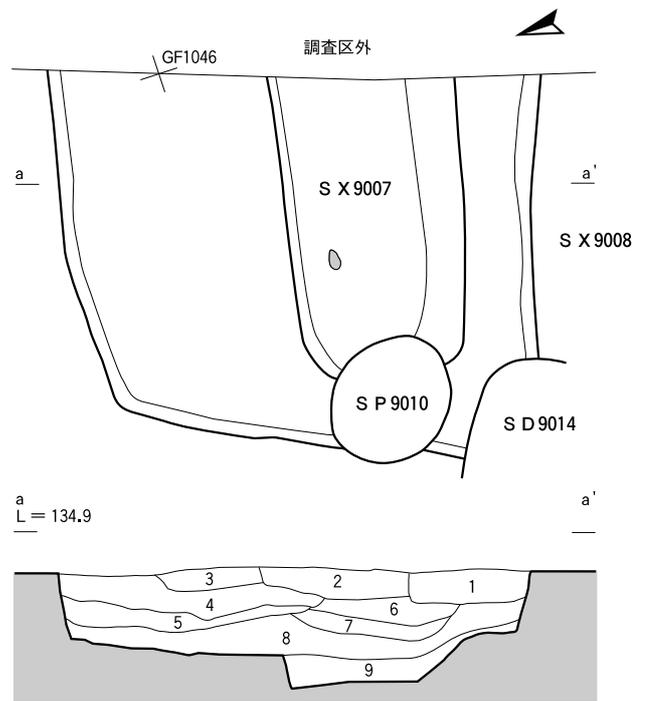
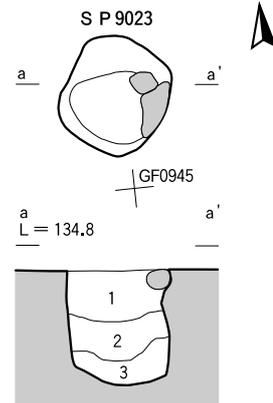
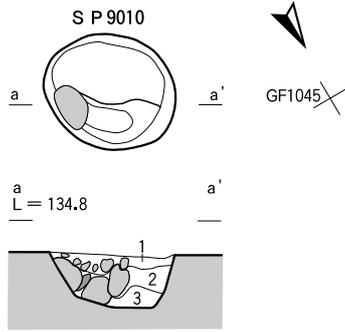
**S K 9006**

1. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
2. 10YR3/2黒褐色シルト 褐色砂多量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂少量含む。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 礫含む、しまりない。
5. 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土含む、かたくしまる。
6. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、褐色砂少量含む、かたくしまる。
7. 10YR2/2黒褐色砂 黒褐色シルト含む、かたくしまる。

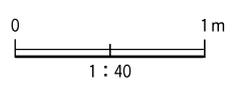
**S K 9045**

1. 10YR2/1黒色シルト 炭化物、焼土粒多量含む。
2. 10YR2/1黒色シルト 焼土粒少量含む、かたくしまる。
3. 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂少量含む、かたくしまる。
4. 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、粗砂、小礫少量含む、かたくしまる。
5. 10YR2/2黒褐色シルト 暗褐色砂多量含む。

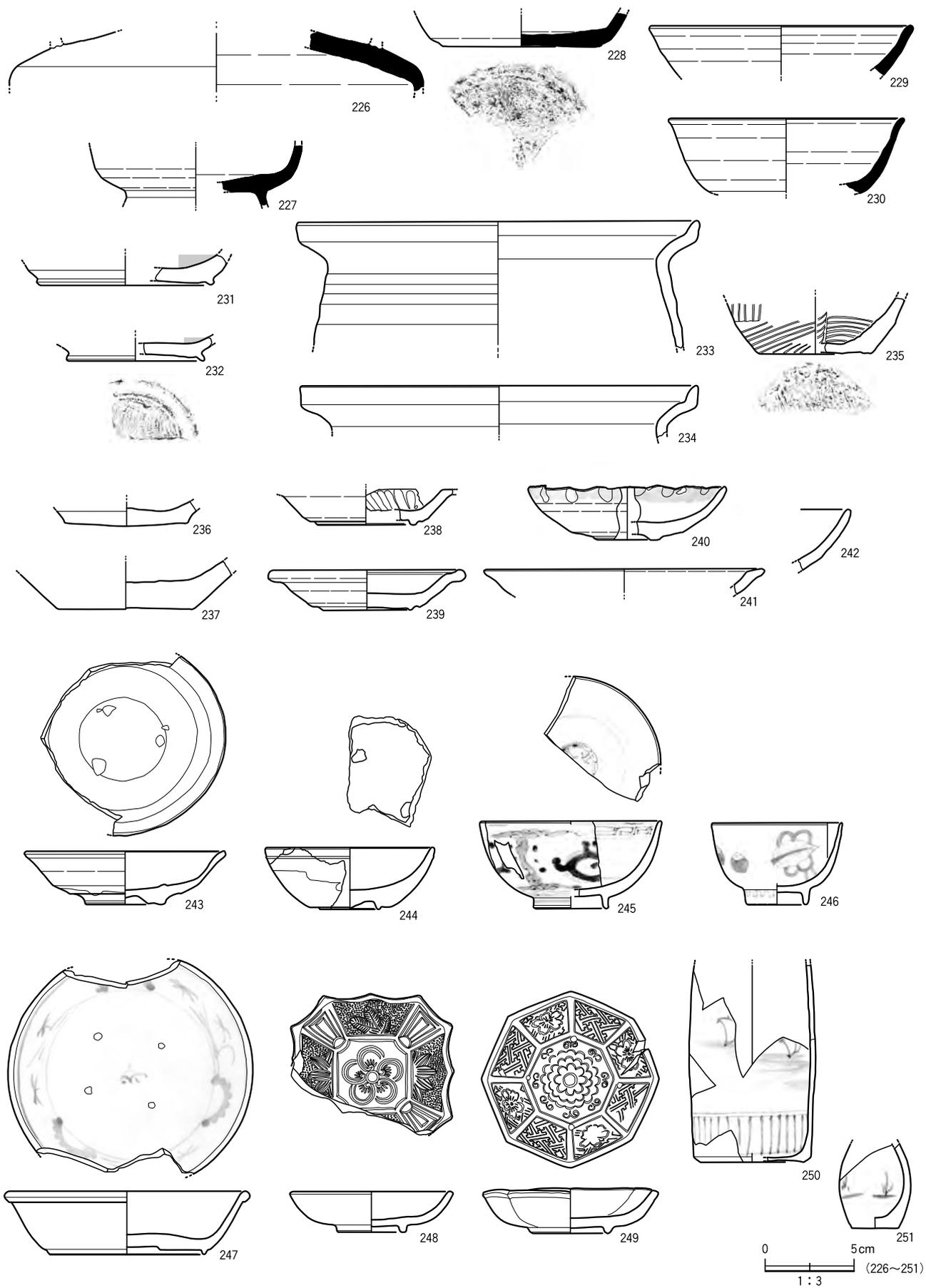
第43図 第4次調査9区遺構(2)



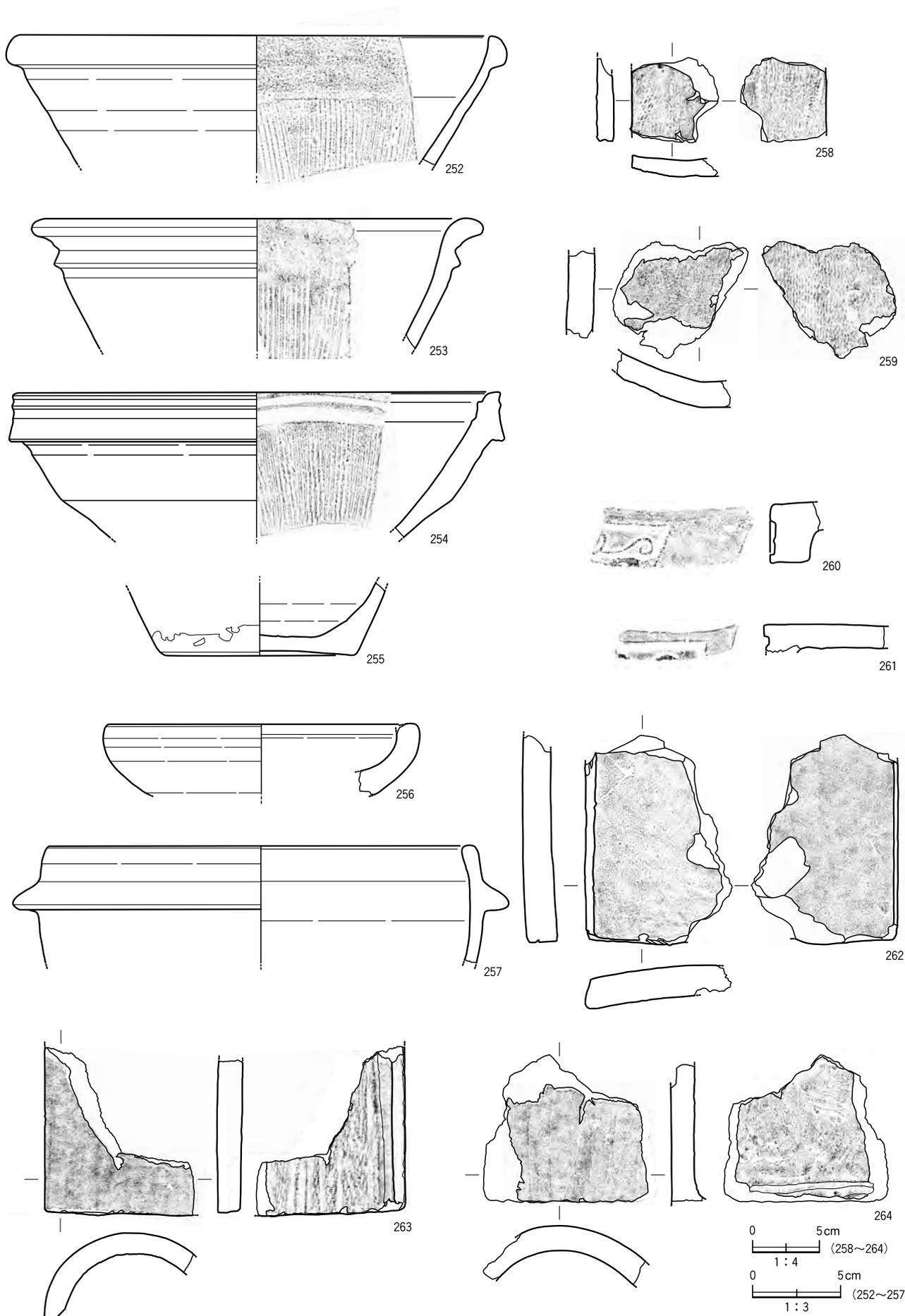
- SP9010**
- 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土、礫多量含む。
  - 10YR2/3黒褐色シルト 褐色砂含む、かたくしまる。
  - 10YR2/2黒褐色シルト 弱い粘性、やわらかい。
- SP9023**
- 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
  - 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物少量含む、かたくしまる。
  - 10YR3/2黒褐色細砂 黒褐色シルト含む、かたくしまる。
- SX9007**
- 10YR3/1黒褐色シルト 黄褐シルト、礫含む、かたくしまる。
  - 10YR3/2黒褐色砂 酸化鉄、礫少量含む、かたくしまる。
  - 10YR4/1褐灰色シルト 粗砂、炭化物少量含む、かたくしまる。
  - 10YR3/1黒褐色シルト 粗砂、炭化物含む、かたくしまる。
  - 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物少量含む、かたくしまる。
  - 10YR3/1黒褐色シルト 粗砂、焼土、酸化鉄含む、かたくしまる。
  - 10YR2/2黒褐色シルト 粗砂、炭化物、酸化鉄少量含む、かたくしまる。
  - 10YR2/2黒褐色シルト 粗砂、焼土含む、かたくしまる。
  - 10YR3/3暗褐色シルト 黄褐砂含む、かたくしまる。
- SX9031・9033**
- 10YR2/3黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、かたくしまる。
  - 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土含む、かたくしまる。
  - 10YR2/1黒色シルト 炭化物、焼土塊多量含む、やわらかい。
  - 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物、焼土少量含む、やわらかい。
  - 10YR2/2黒褐色シルト 褐色砂含む、やわらかい。



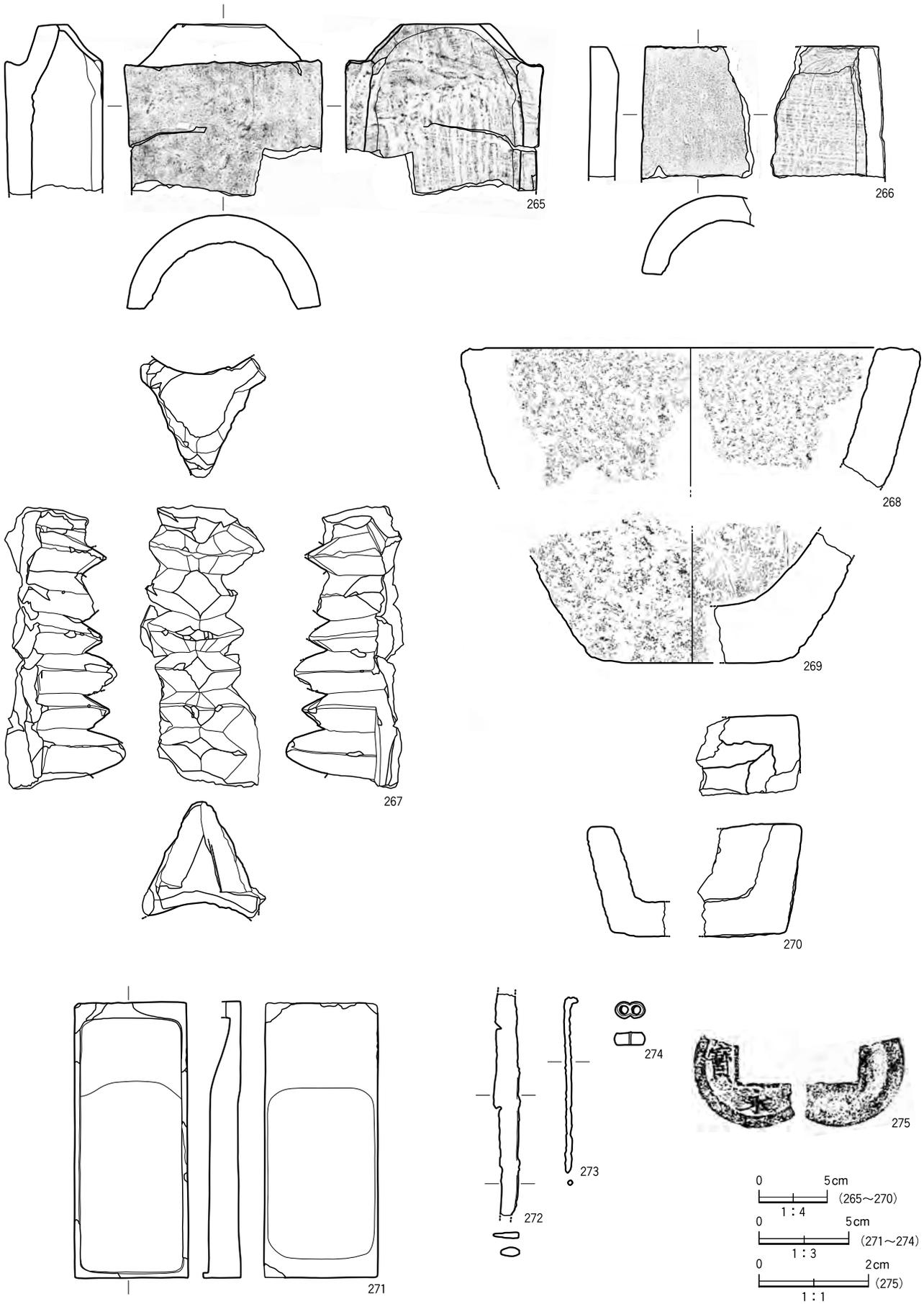
第44図 第4次調査9区遺構(3)



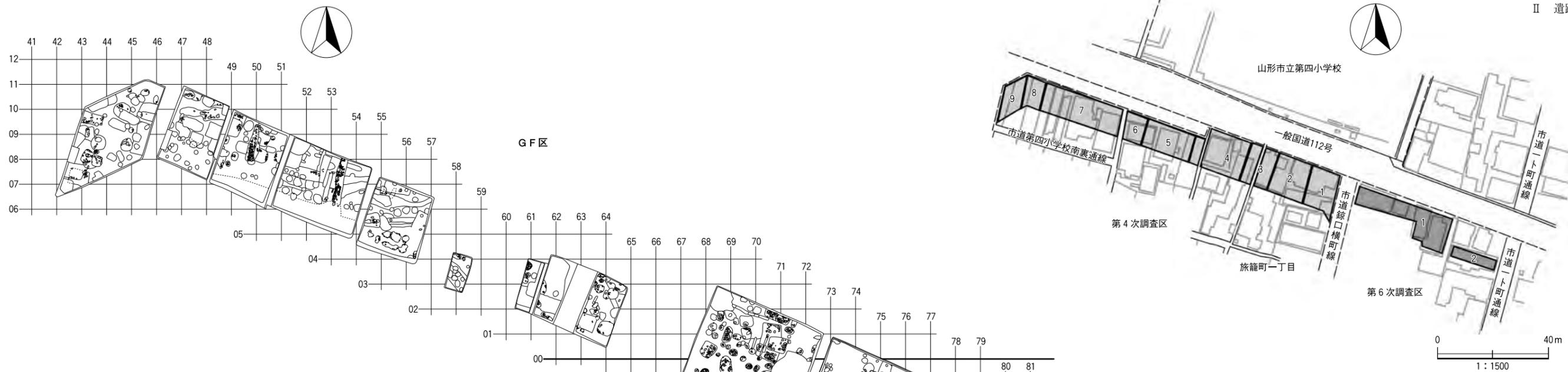
第45図 第4次調査9区出土遺物(1)



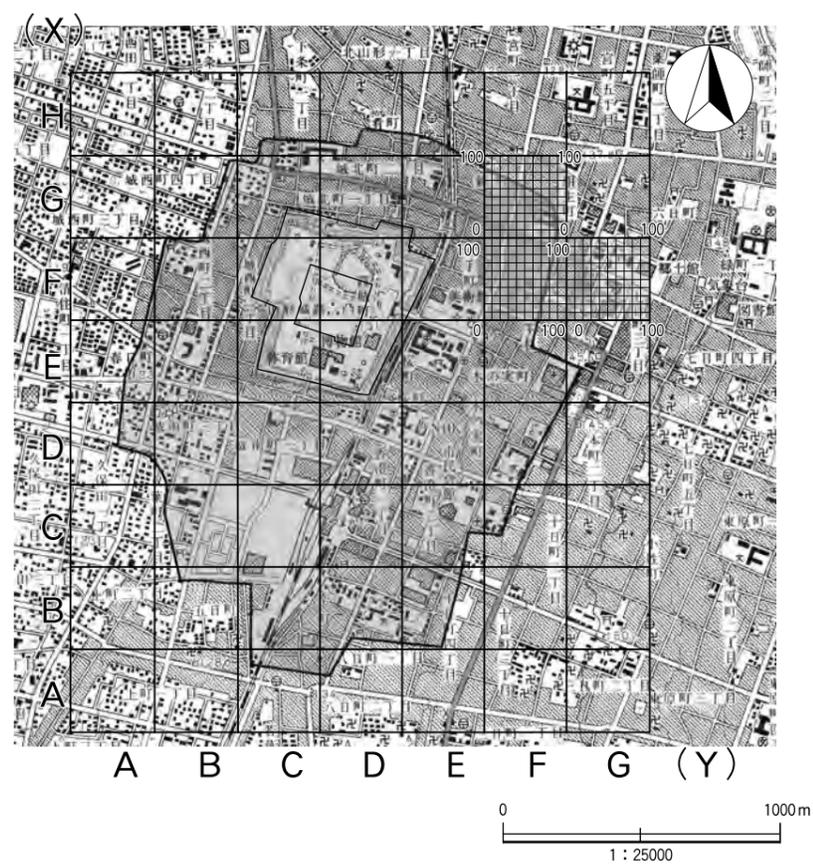
第46図 第4次調査9区出土遺物(2)



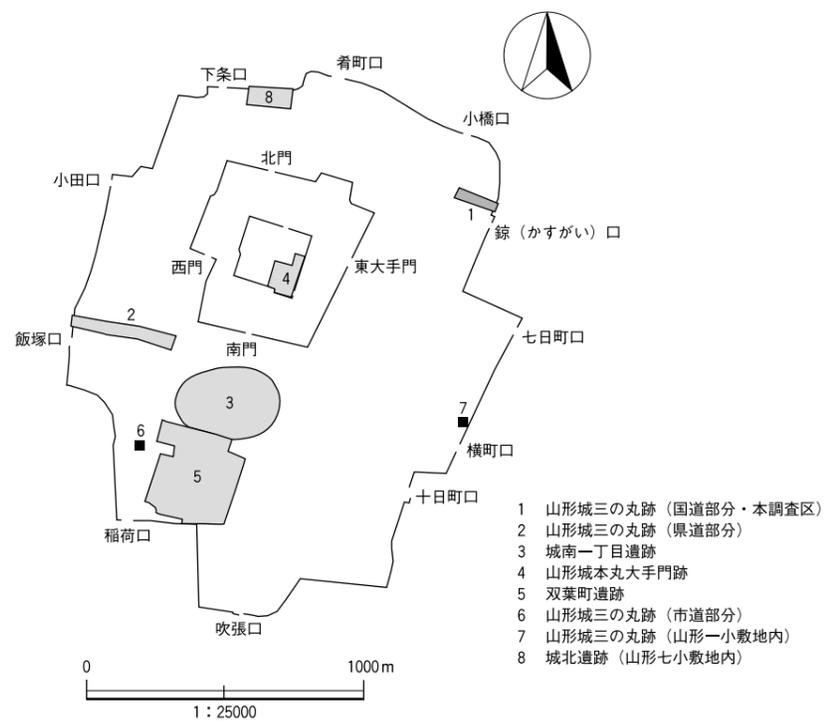
第47図 第4次調査9区出土遺物(3)



第6図 調査区概要図

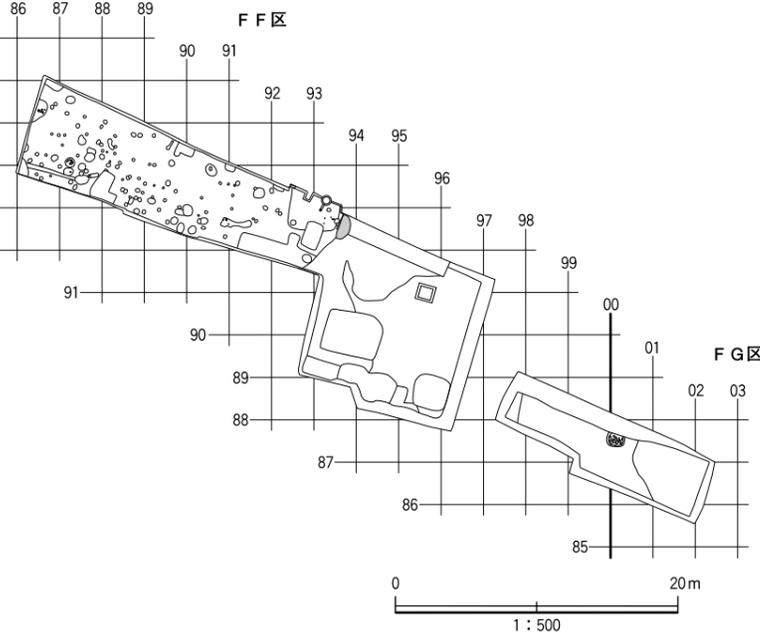


第5図 大グリッド設定図

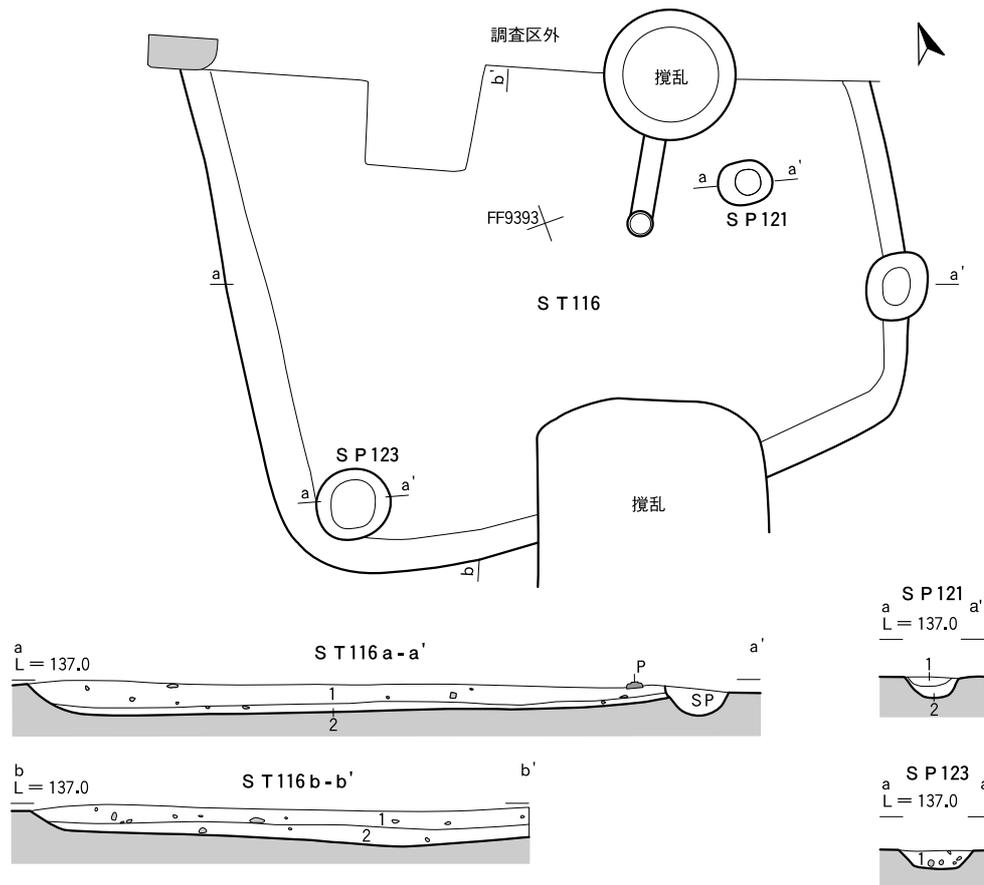


第4図 山形城虎口および遺跡配置図

- 1 山形城三の丸跡(国道部分・本調査区)
- 2 山形城三の丸跡(県道部分)
- 3 城南一丁目遺跡
- 4 山形城本丸大手門跡
- 5 双葉町遺跡
- 6 山形城三の丸跡(市道部分)
- 7 山形城三の丸跡(山形一小敷地内)
- 8 城北遺跡(山形七小敷地内)



第3図 遺構配置図



**S T 116**

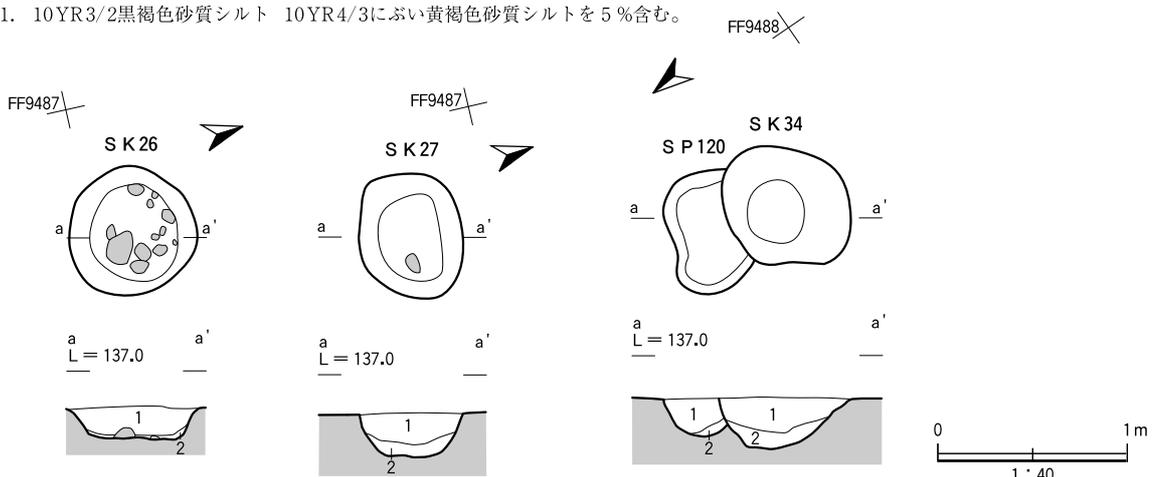
1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを5%含む、礫を含む。
2. 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを30%含む、礫を含む。

**S P 121**

1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを5%含む。
2. 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを5%含む。

**S P 123**

1. 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを5%含む。



**S K 26**

1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%含む。
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/1黒褐色砂質シルトを5%含む

**S K 27**

1. 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを20%含む。
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/1黒褐色砂質シルトを3%含む。

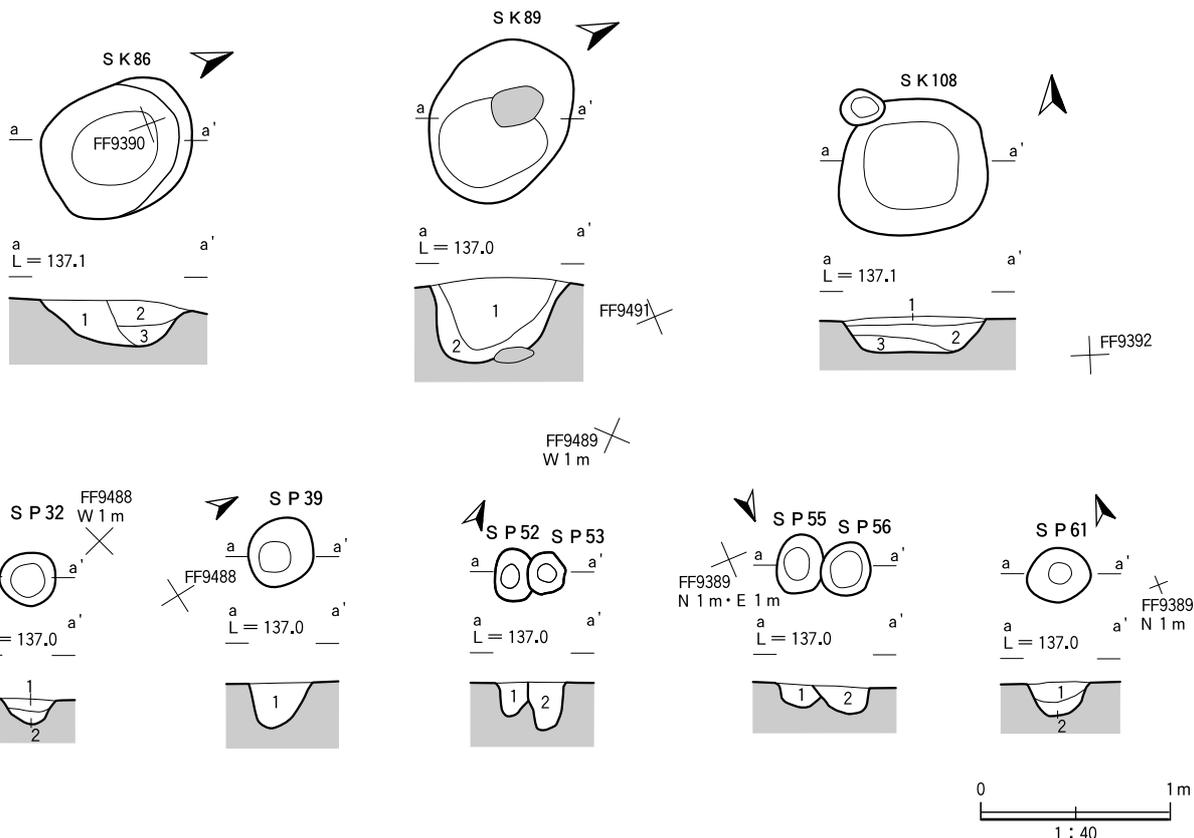
**S K 34**

1. 10YR3/2黒褐色砂質シルト。
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/2黒褐色砂質シルトを10%含む。

**S P 120**

1. 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%含む。
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/2黒褐色砂質シルトを3%含む。

第49図 第6次調査1区遺構(1)



**SK86**

- 10YR3/1黒褐色砂質シルト。
- 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを20%含む。
- 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを15%含む。

**SK89**

- 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを3%含む。
- 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/1黒褐色砂質シルトを20%含む。

**SK108**

- 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを2%含む。
- 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを15%含む。
- 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/1黒褐色砂質シルトを3%含む。

**SP32**

- 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%含む。
- 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 10YR3/2黒褐色砂質シルトを5%含む。

**SP39**

- 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%含む。

**SP52・53**

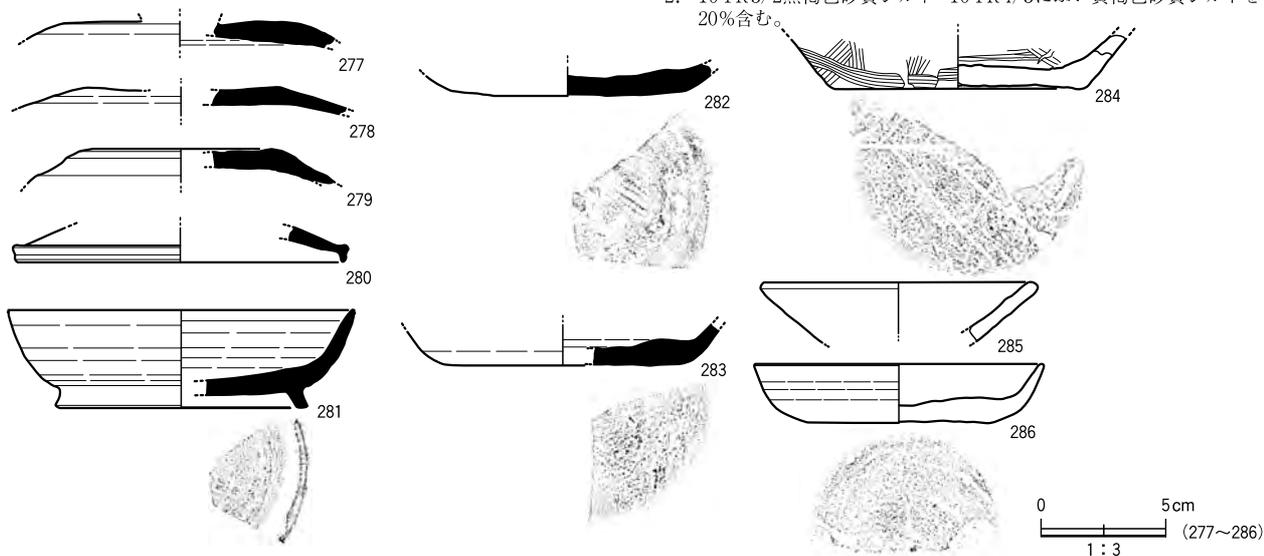
- 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト。
- 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%含む。

**SP55・56**

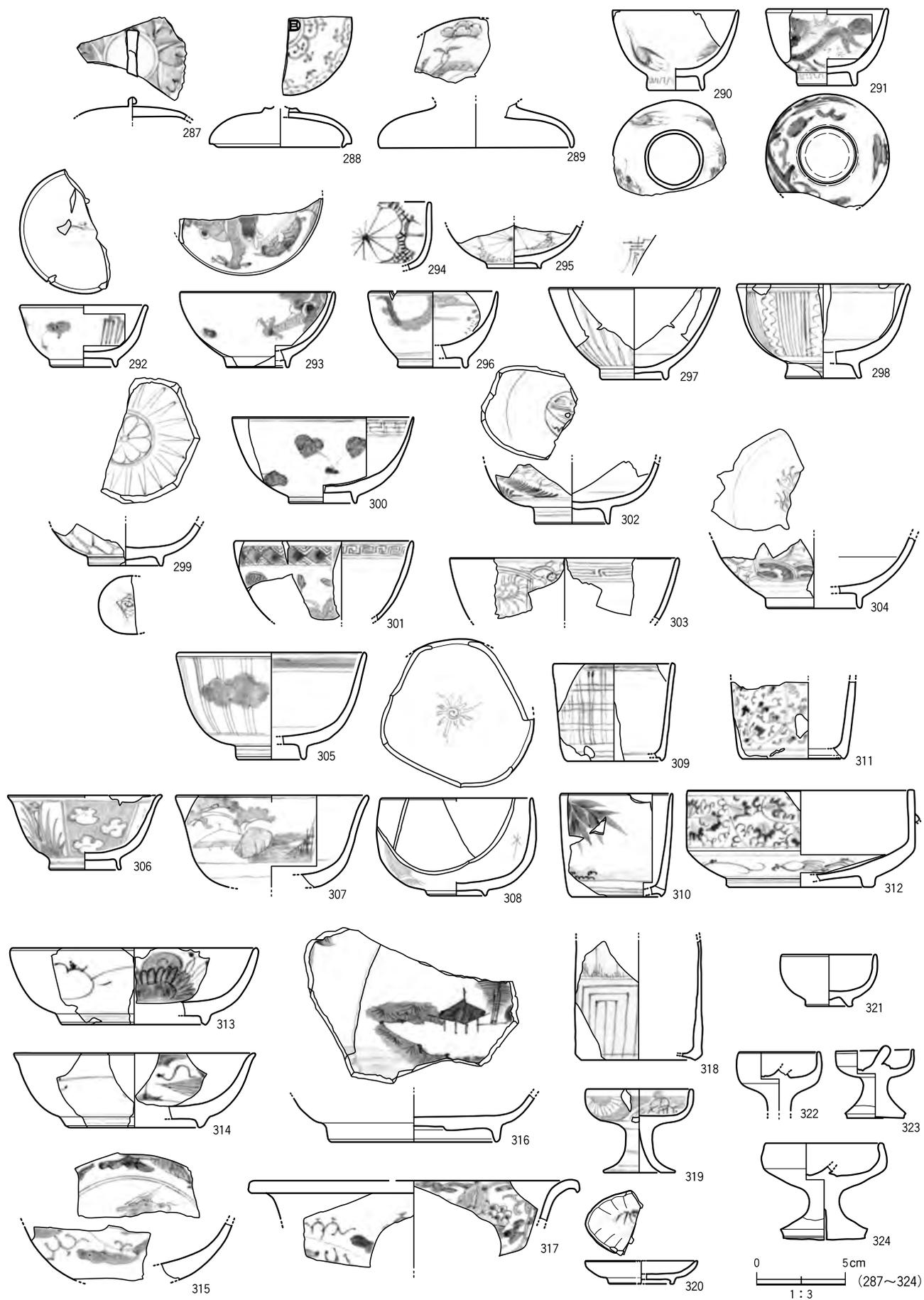
- 10YR3/1黒褐色砂質シルト。
- 10YR3/3暗褐色砂質シルト 10YR4/4褐色砂質シルトを20%含む。

**SP61**

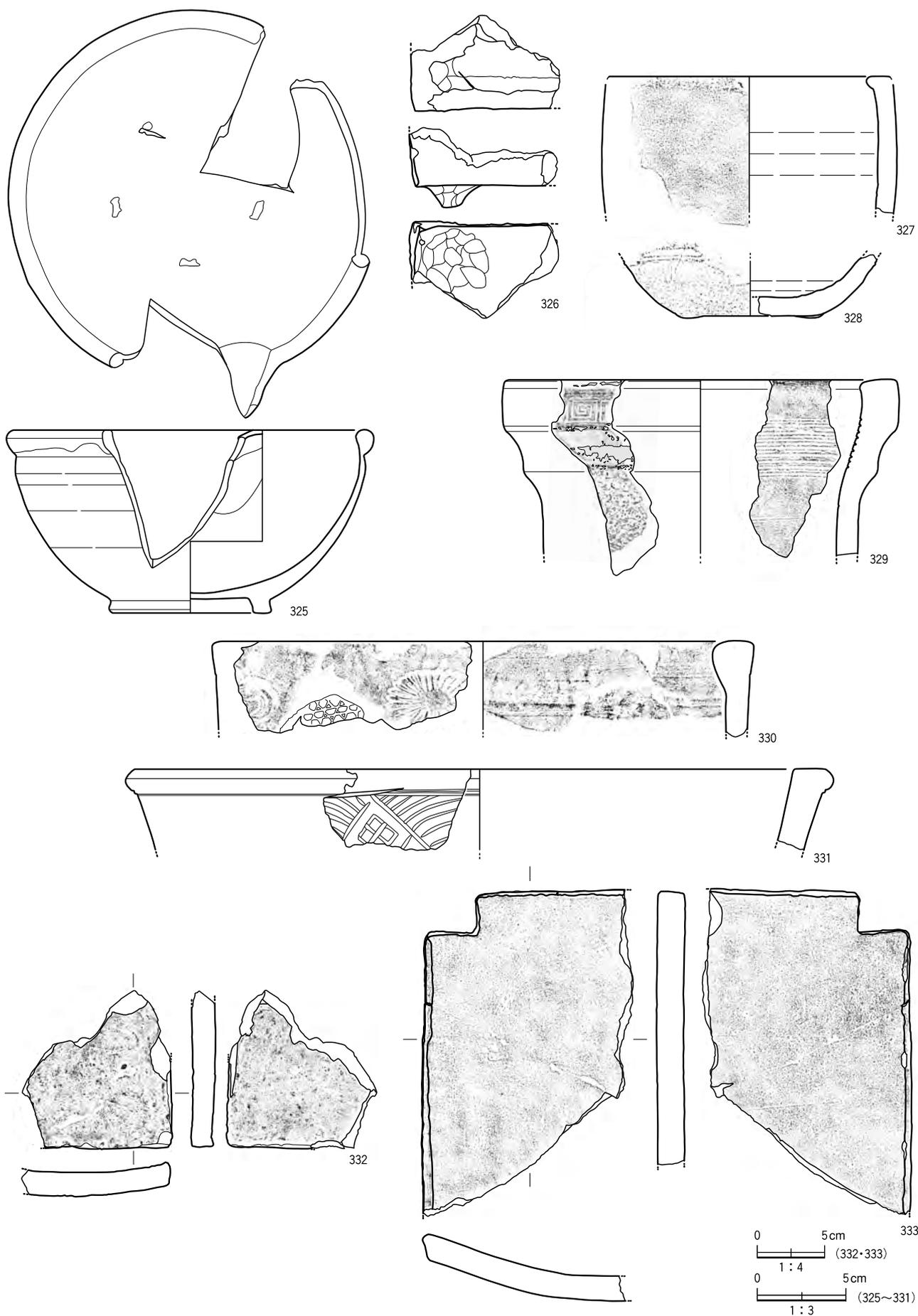
- 10YR3/1黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを10%含む。
- 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを20%含む。



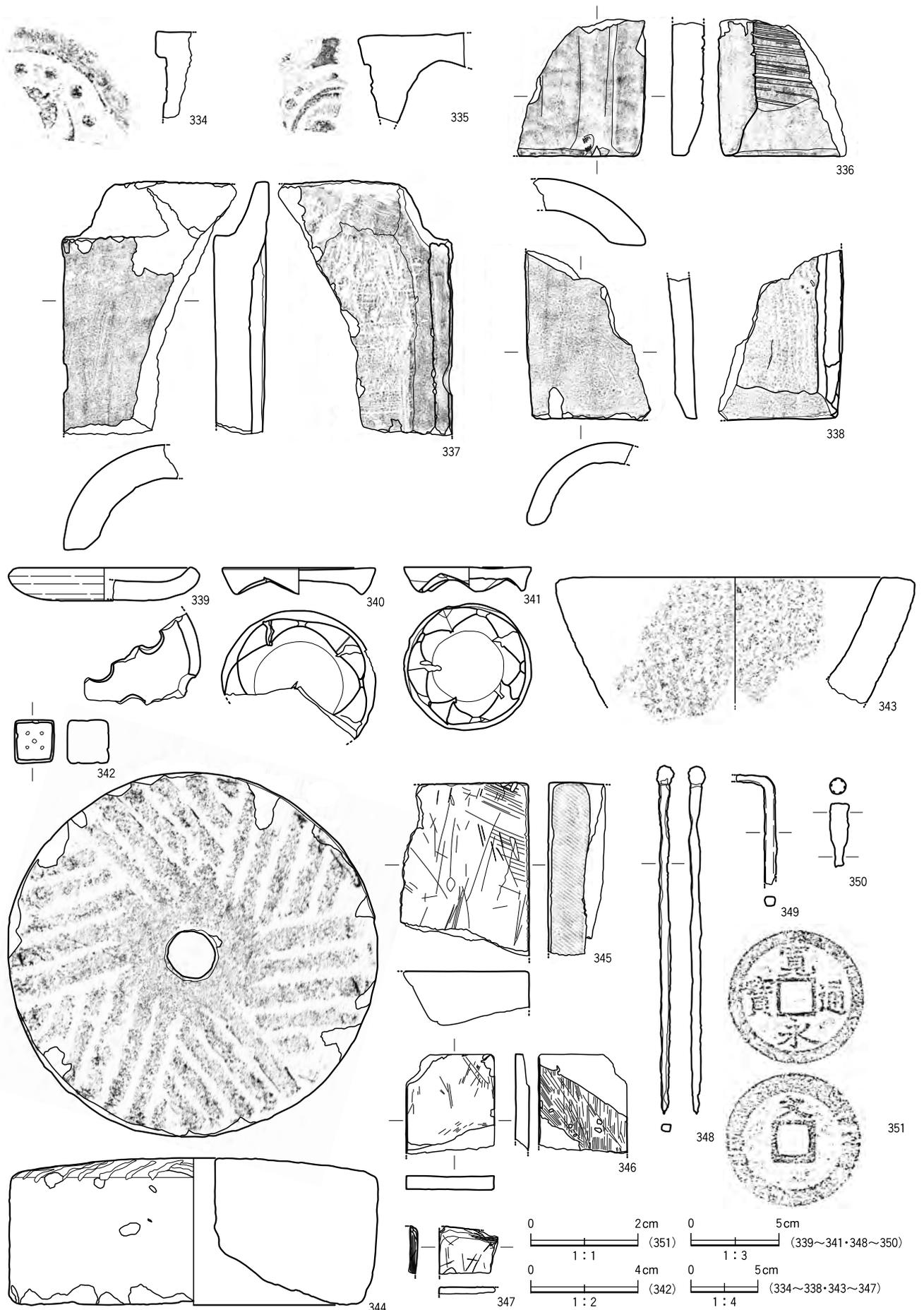
第50図 第6次調査1区遺構(2)・出土遺物(1)



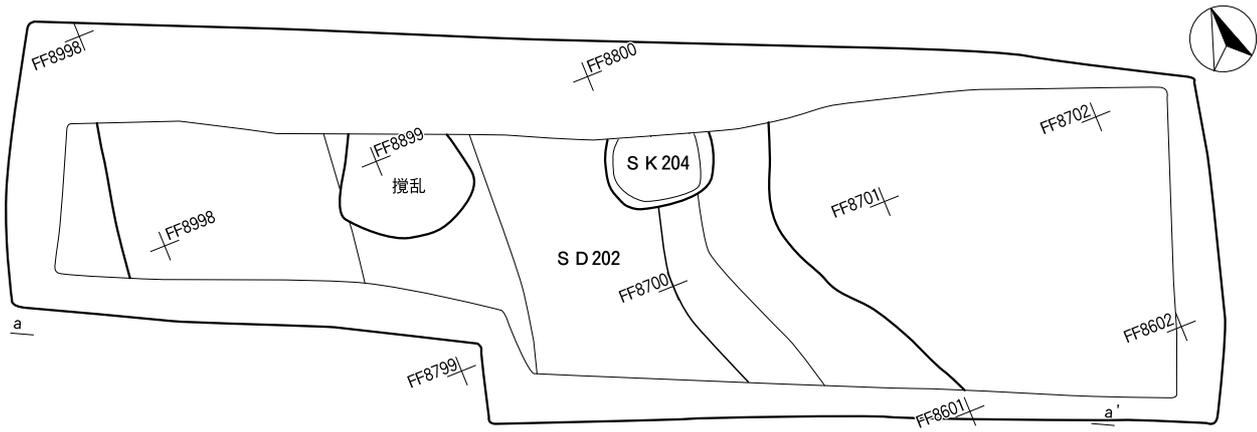
第51図 第6次調査1区出土遺物(2)



第52図 第6次調査1区出土遺物(3)

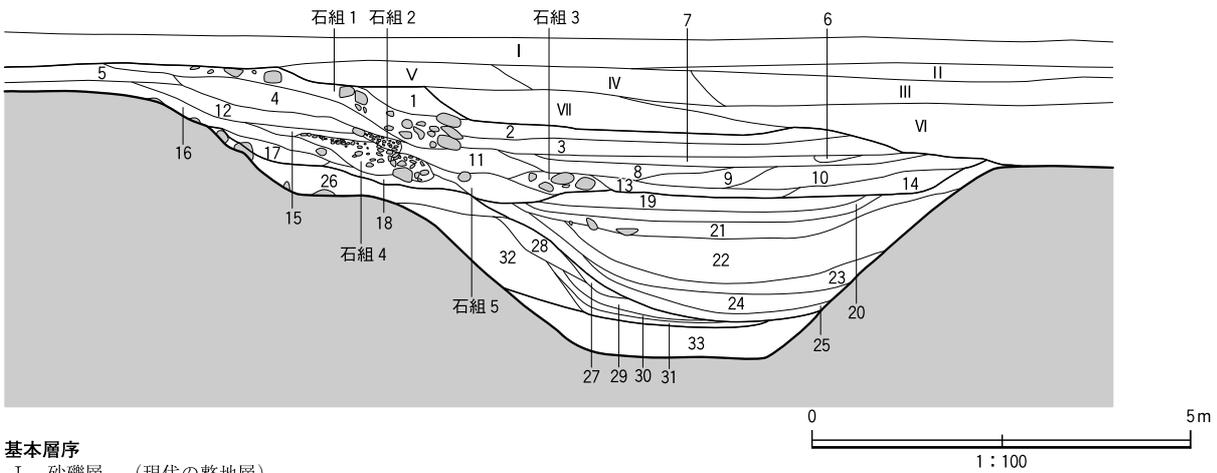


第53図 第6次調査1区出土遺物(4)



a  
L = 139.0

a'

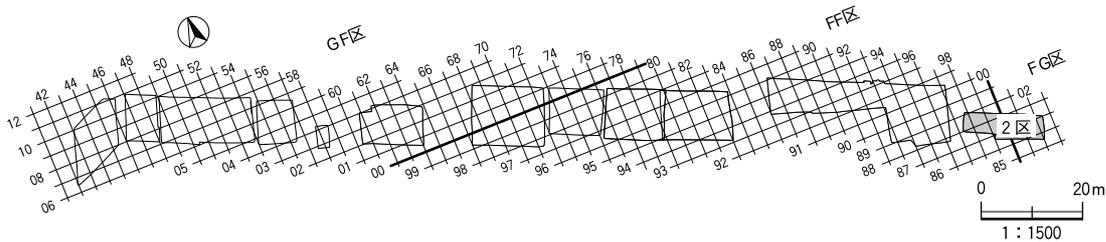


**基本層序**

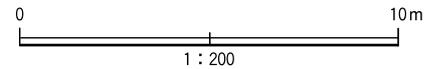
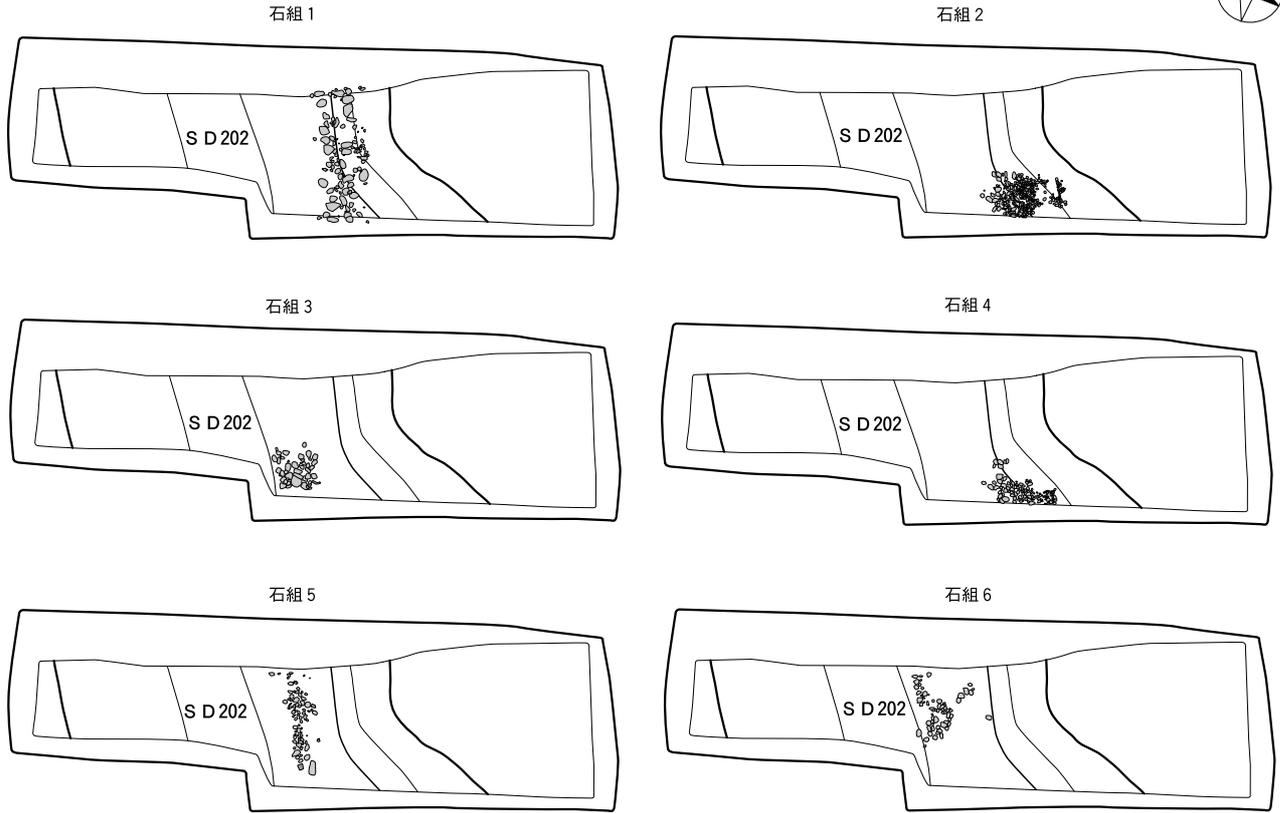
- I. 砂礫層。(現代の整地層)
- II. 10YR3/2黒褐色シルト 廃材等含む。(現代の整地層)
- III. 10YR3/1黒褐色シルト。(現代の整地層)
- IV. 10YR4/2灰黄褐色シルト 小礫、炭化物を含む。(現代の整地層)
- V. 10YR3/1黒褐色シルト 小礫を含む。炭化物を多量に含む。(火事後の整地層か)
- VI. 礫層。大型の礫を多量に含む。
- VII. 炭化物層。(火事後の整地層か)

**S D 202**

- |   |   |
|---|---|
| 1. 10YR3/3暗褐色シルト 礫を含む。                  | 18. 10YR4/1褐灰色シルト 10YR5/2灰黄褐色粘質シルトを20%含む。 |
| 2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 礫を含む。               | 19. 2.5Y7/3浅黄色粗砂。                         |
| 3. 10YR3/2黒褐色シルト 礫を含む。                  | 20. 2.5Y6/3にぶい黄色粗砂 礫、遺物を含む。               |
| 4. 10YR3/2黒褐色シルト。                       | 21. 10YR5/1褐灰色粘質シルト。                      |
| 5. 10YR3/1黒褐色シルト 炭化物を含む。                | 22. 2.5Y7/3浅黄色砂。                          |
| 6. 10YR4/2灰黄褐色シルト 炭化物を多量に含む。            | 23. 10YR5/1褐灰色粘質土。                        |
| 7. 10YR4/2灰黄褐色シルト。                      | 24. 2.5Y6/1黄灰色砂。                          |
| 8. 10YR4/2灰黄褐色シルト 粘土のブロック含む。            | 25. 2.5Y6/4にぶい黄色砂 10YR5/1褐灰色シルトを带状に含む。    |
| 9. 10YR3/2黒褐色シルト。                       | 26. 10YR4/2灰黄褐色砂質土。                       |
| 10. 10YR4/2灰黄褐色シルト 砂を含む。                | 27. 10YR6/4にぶい黄橙色粗砂。                      |
| 11. 10YR3/3暗褐色シルト 炭化粒を含む。               | 28. 10YR5/4にぶい黄橙色粗砂 大型の礫を含む。              |
| 12. 10YR3/2黒褐色シルト 炭化粒を含む。               | 29. 2.5Y6/2灰黄色砂。                          |
| 13. 10YR5/2灰黄褐色シルト 炭化粒を含む。              | 30. 2.5Y5/1黄灰色砂。                          |
| 14. 10YR5/2灰黄褐色シルト。                     | 31. 2.5Y6/1黄灰色砂。                          |
| 15. 10YR3/3暗褐色シルト。                      | 32. 2.5Y6/2灰黄色粗砂 大型の礫を含む。                 |
| 16. 10YR3/1黒褐色シルト 10YR4/2灰黄褐色シルトを20%含む。 | 33. N1.5/0黒色粘質土。                          |
| 17. 10YR3/2黒褐色シルト。                      |   |

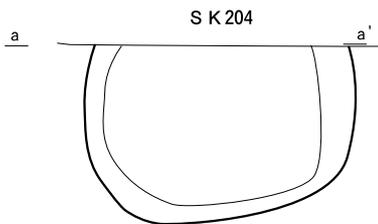


第54図 第6次調査2区全体図・層序・遺構(1)

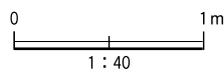
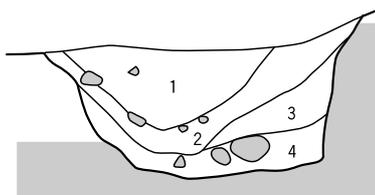


S D 202 堀跡 石組 1 ~ 6

FF8800



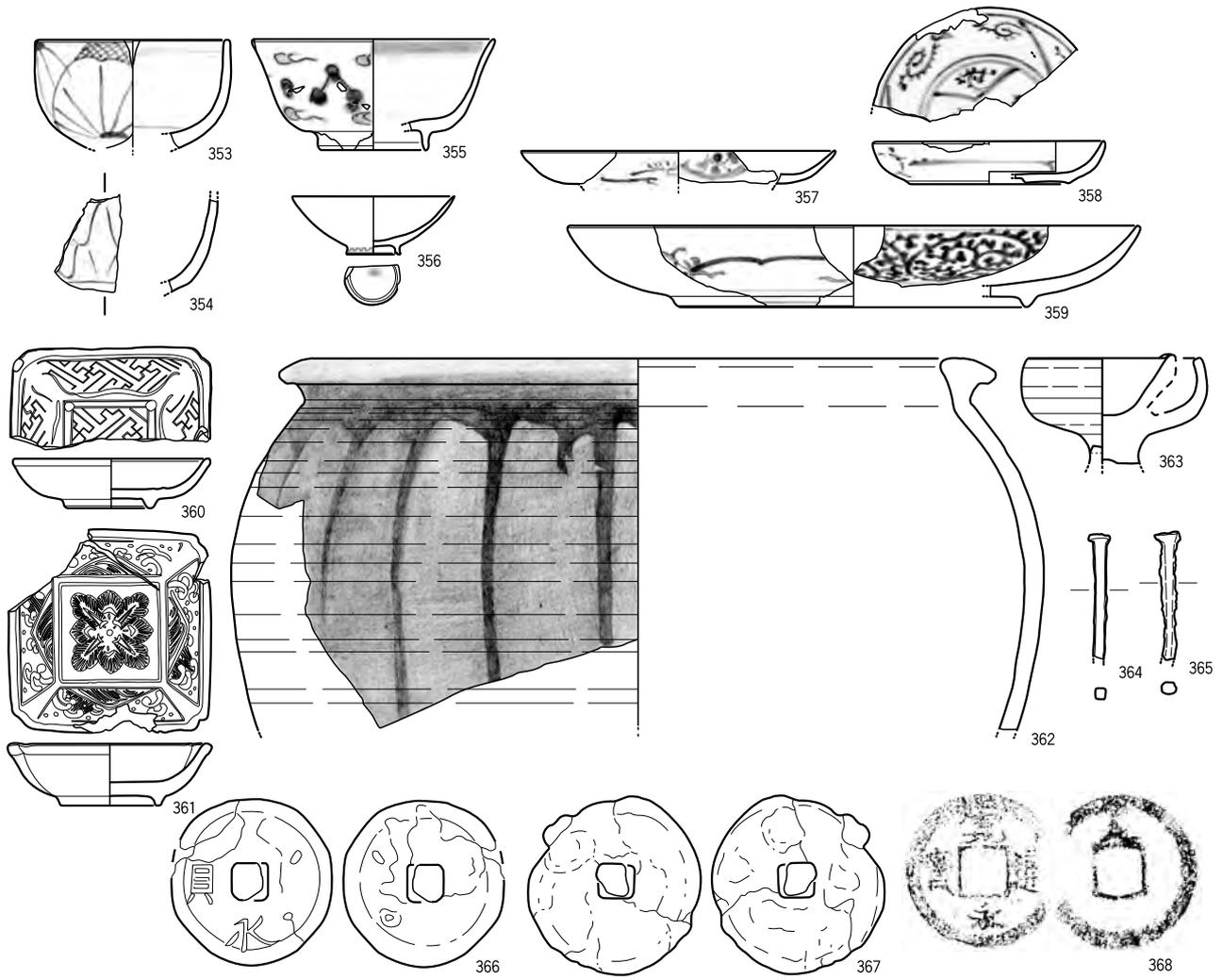
a  
L = 137.0 a'



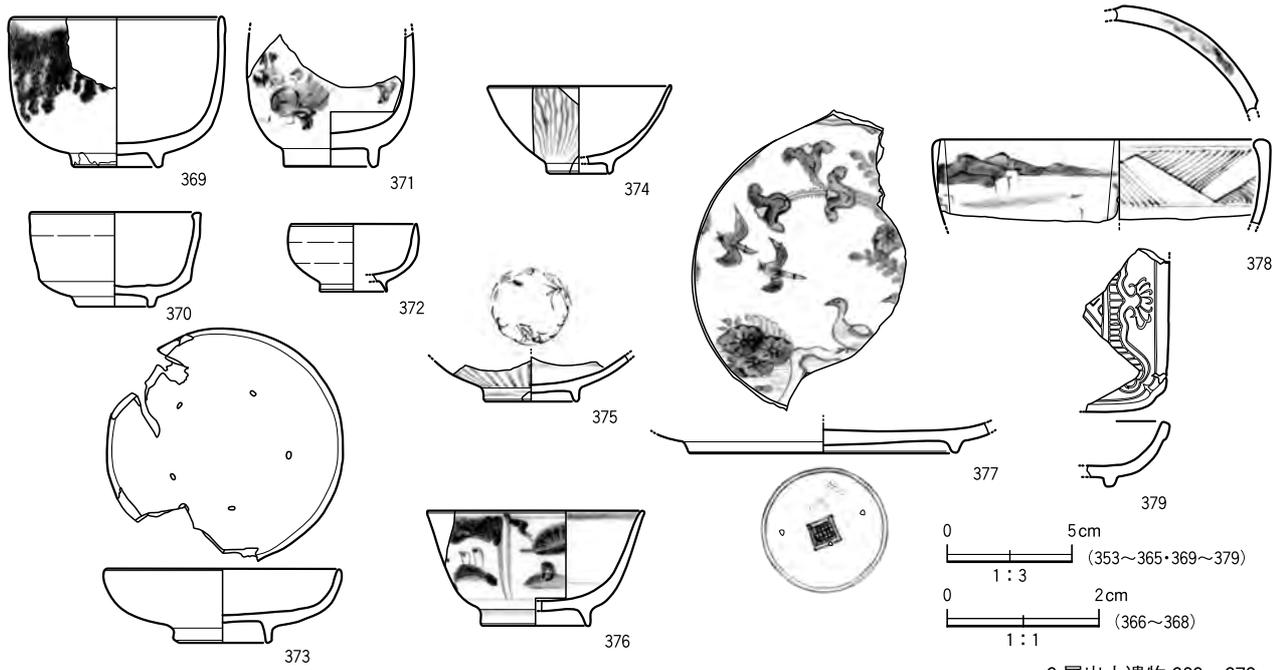
**S K 204**

1. 10YR4/1 褐灰色シルト 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトのブロックを含む。
2. 10YR1.7/1 黒色粘質シルト。
3. 10YR4/1 褐灰色シルト。
4. 10YR3/1 黒褐色粘質土 礫を含む。

第55図 第6次調査2区遺構(2)

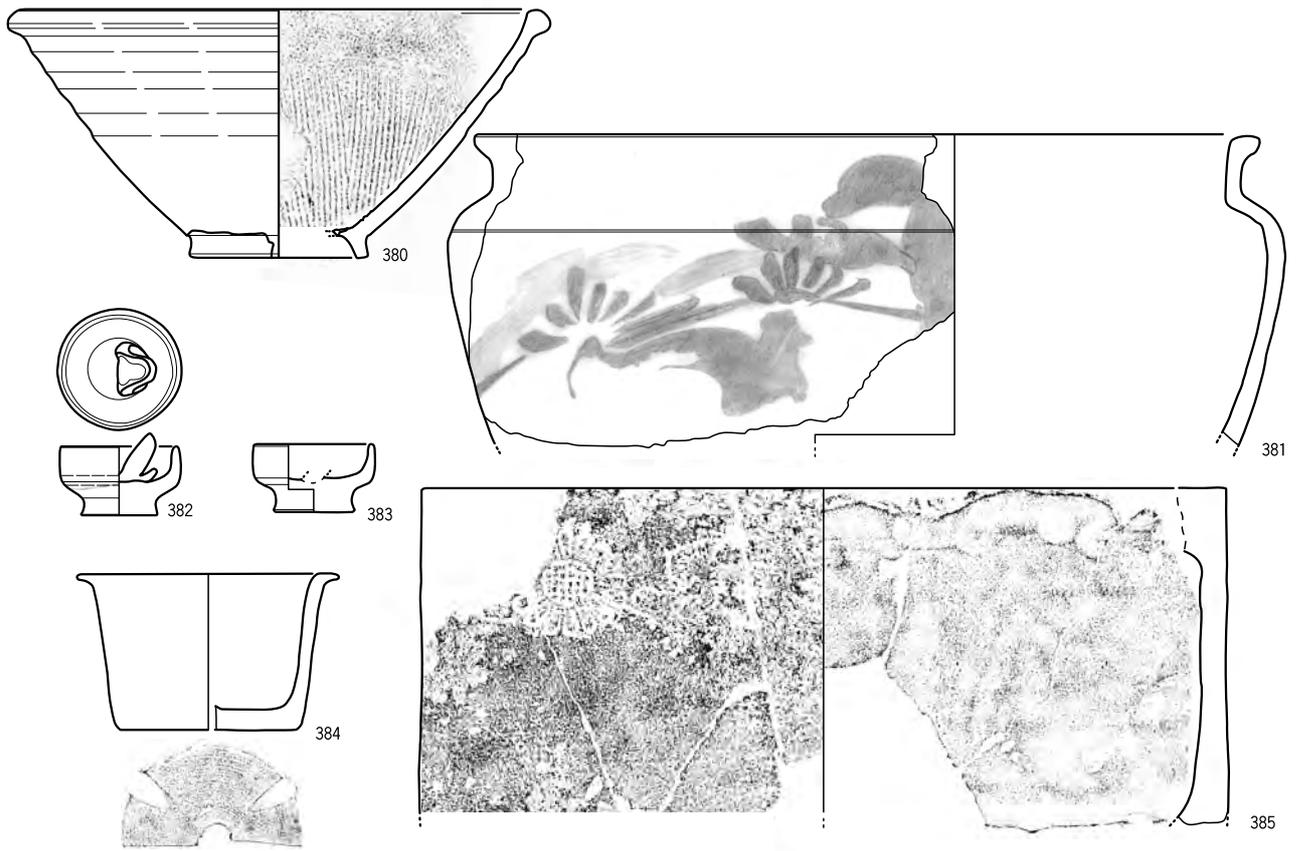


2層出土遺物 353~368

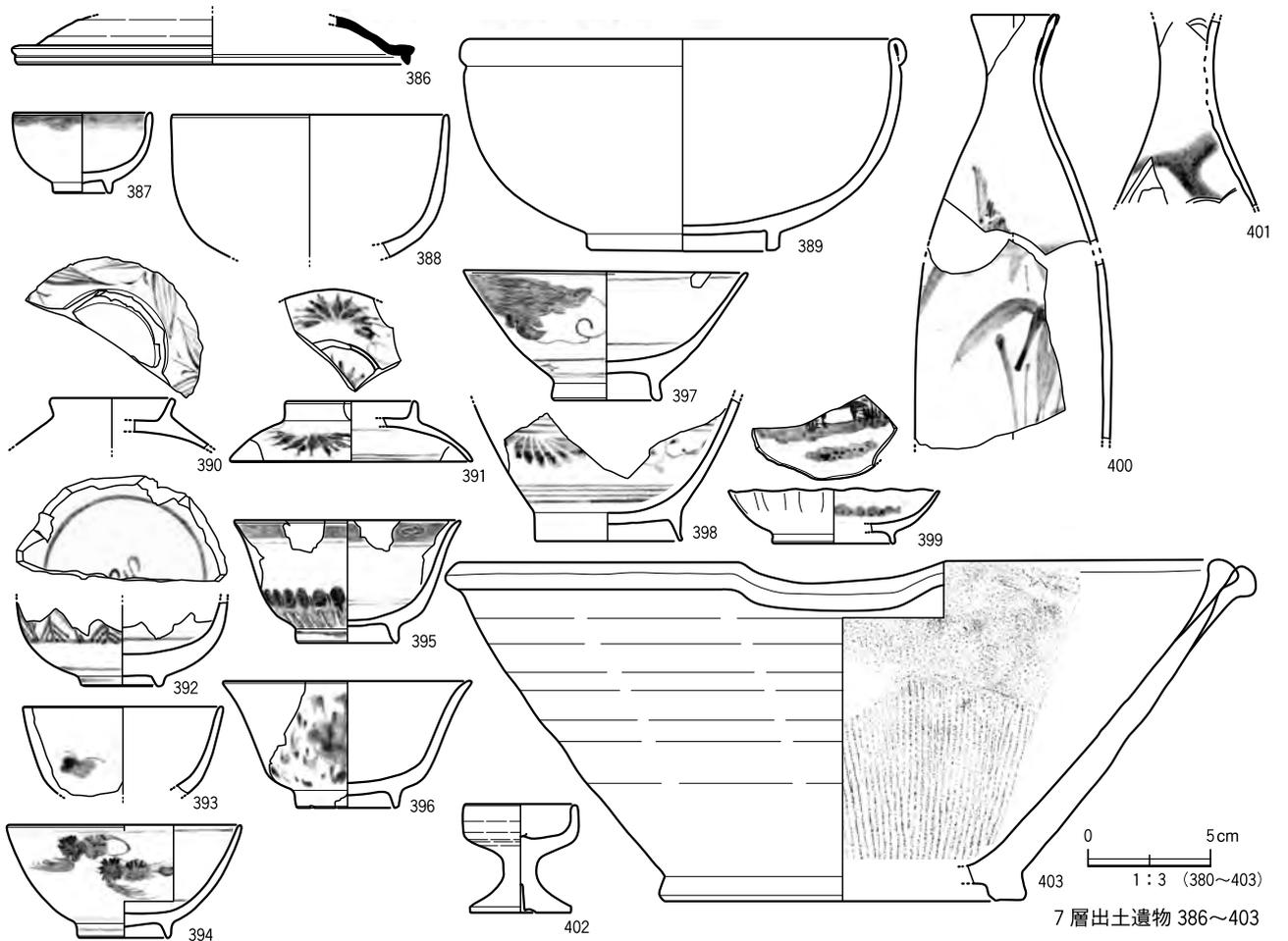


3層出土遺物 369~379

第56図 第6次調査2区出土遺物(1)

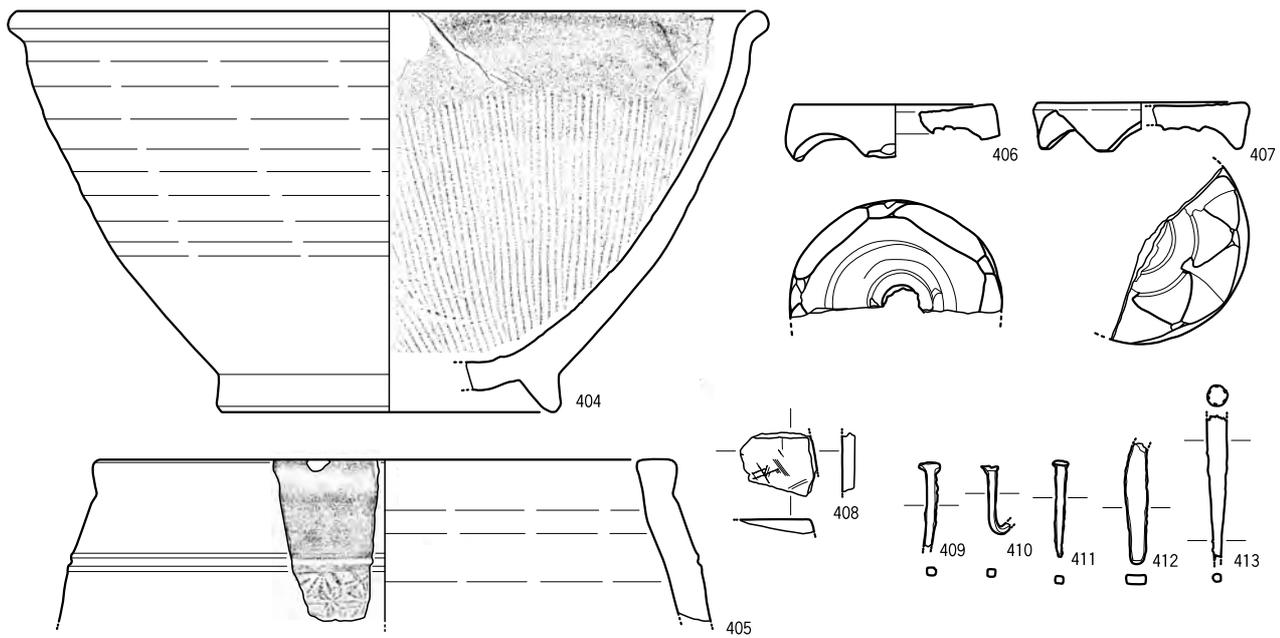


3層出土遺物 380~385

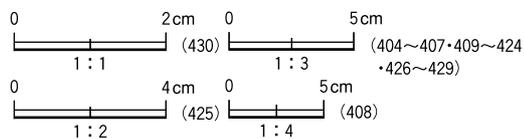
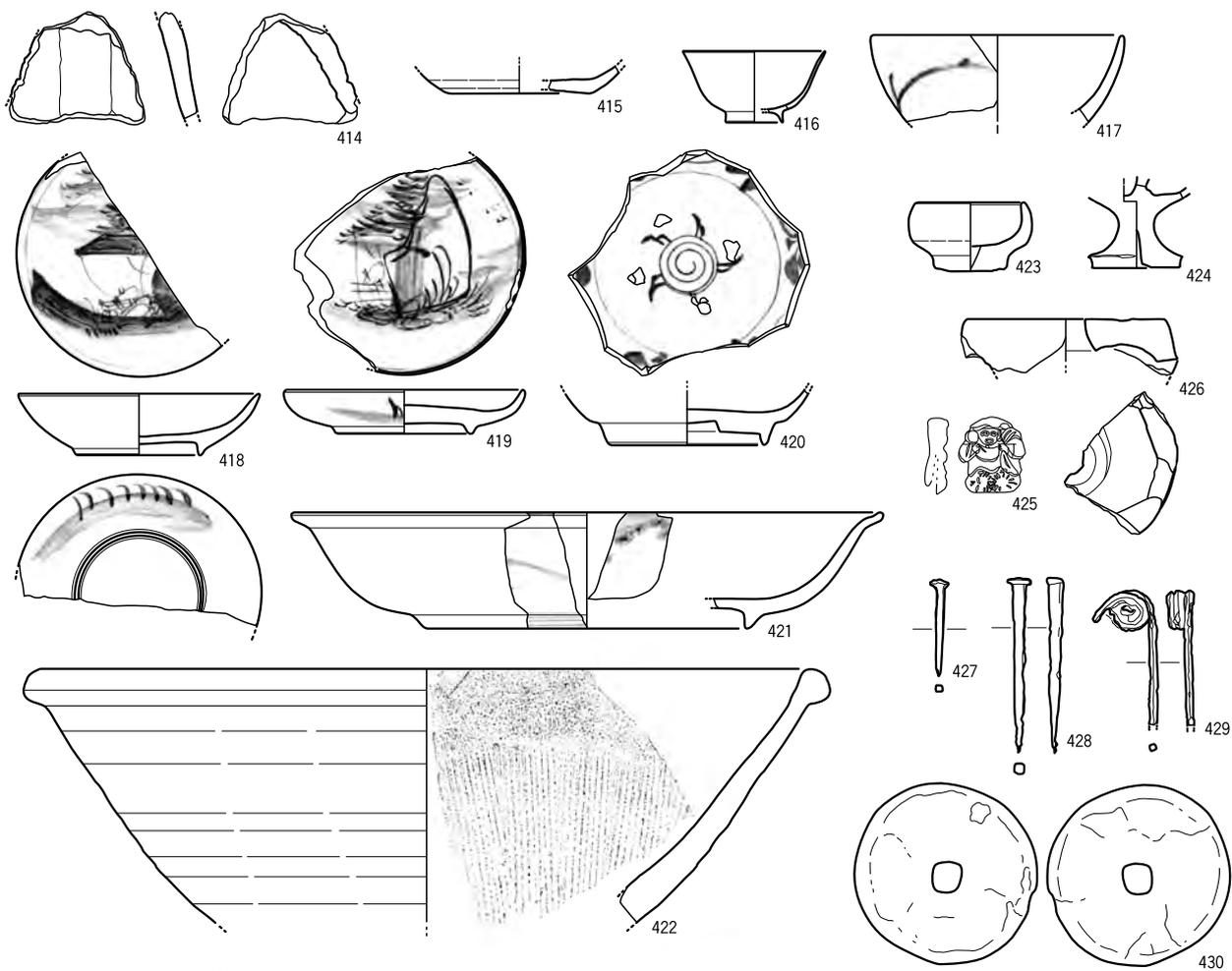


7層出土遺物 386~403

第57図 第6次調査2区出土遺物(2)

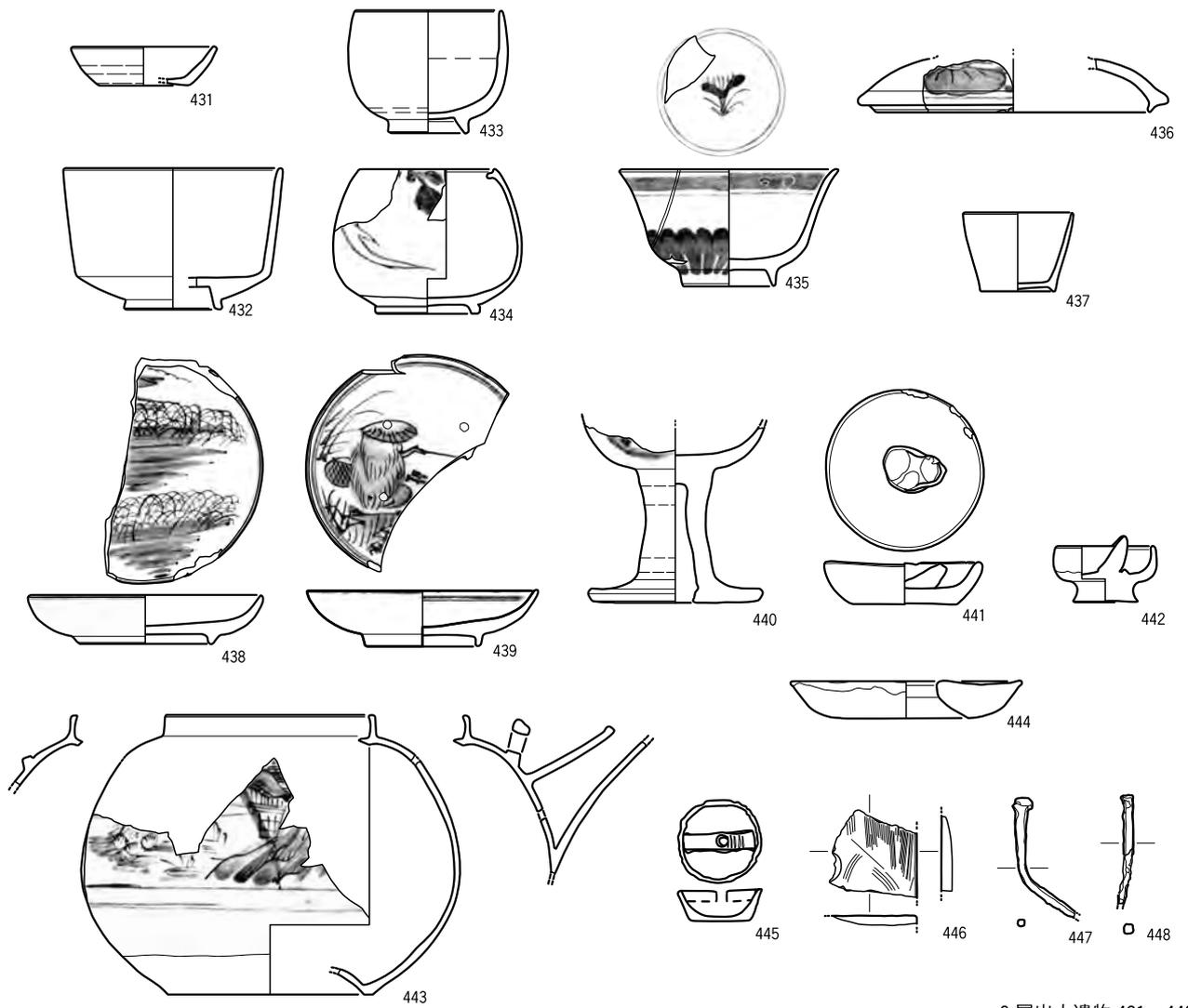


7層出土遺物 404~413

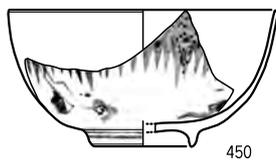
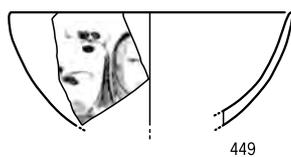


8層出土遺物 414~430

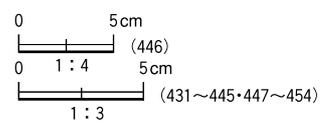
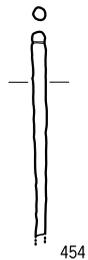
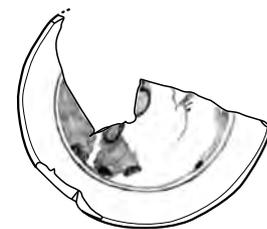
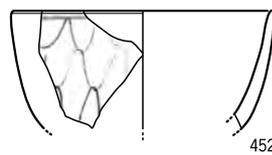
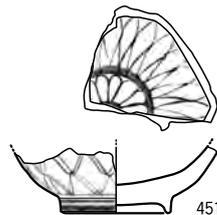
第58図 第6次調査2区出土遺物(3)



9層出土遺物 431~448

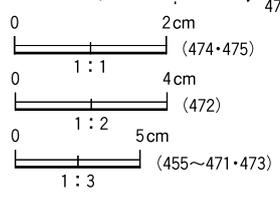
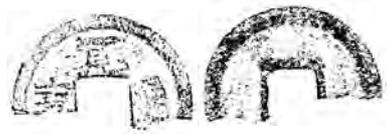
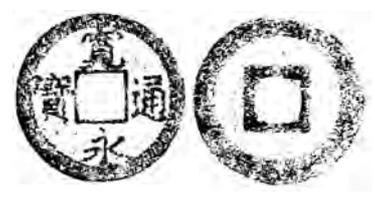
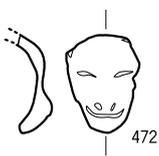
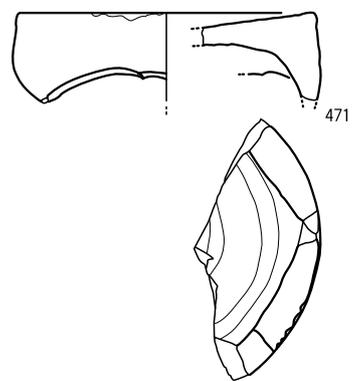
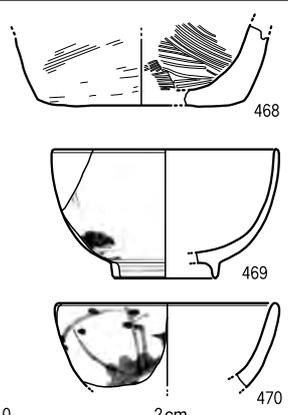
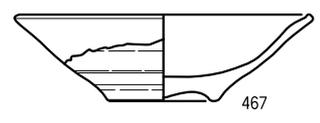
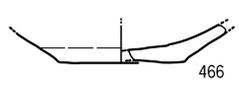
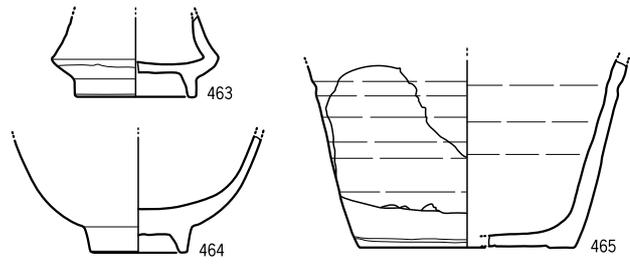
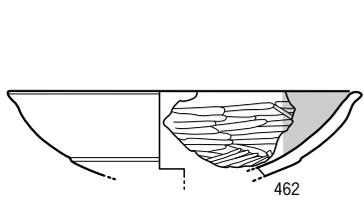
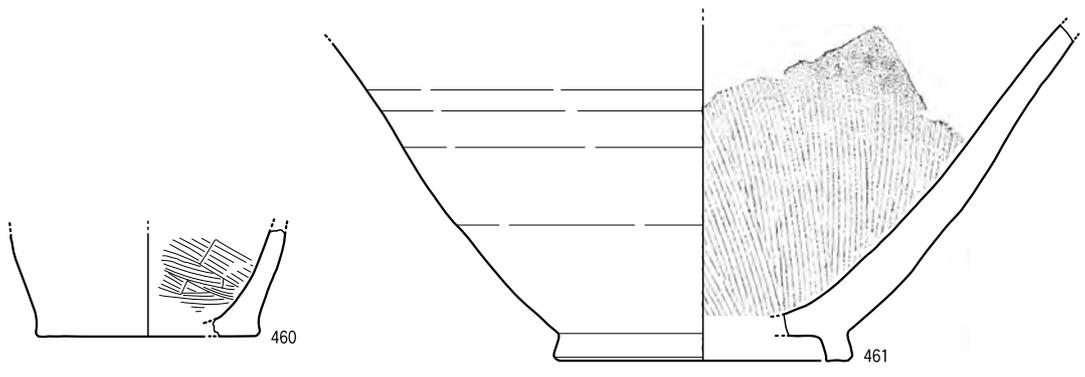
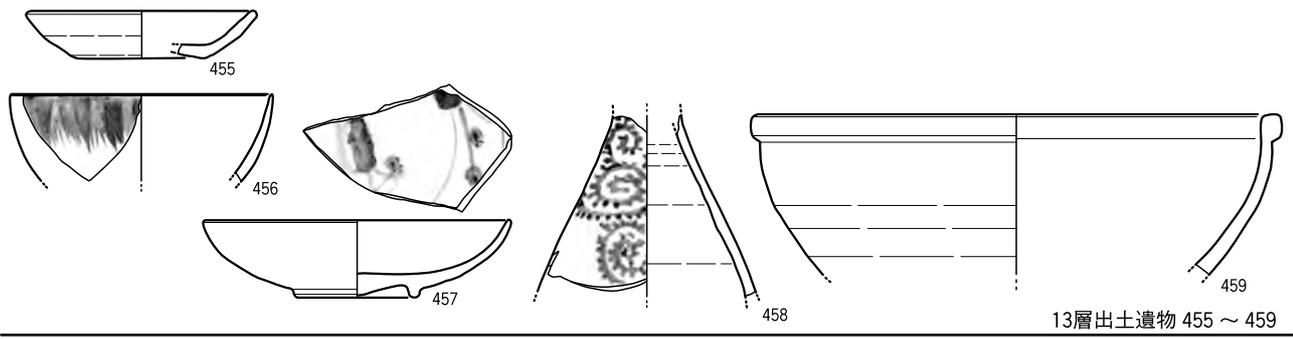


10層出土遺物 449・450



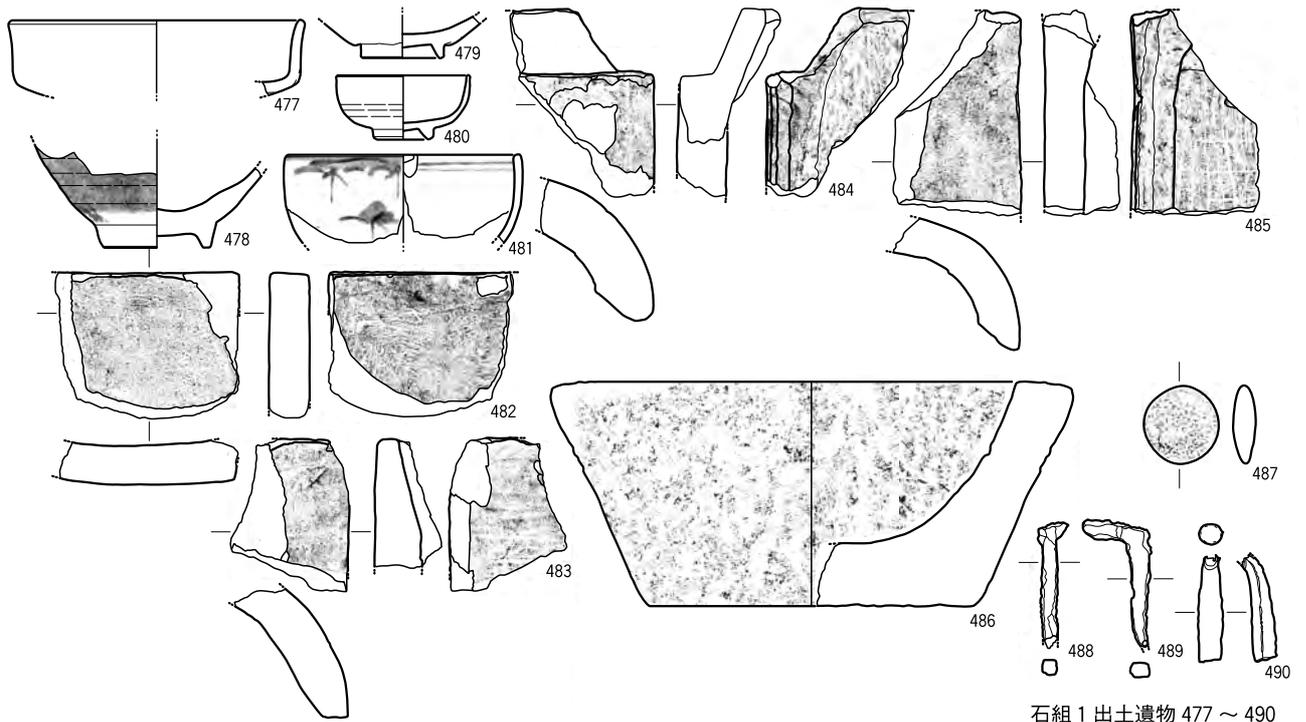
11層出土遺物 451~454

第59図 第6次調査2区出土遺物(4)

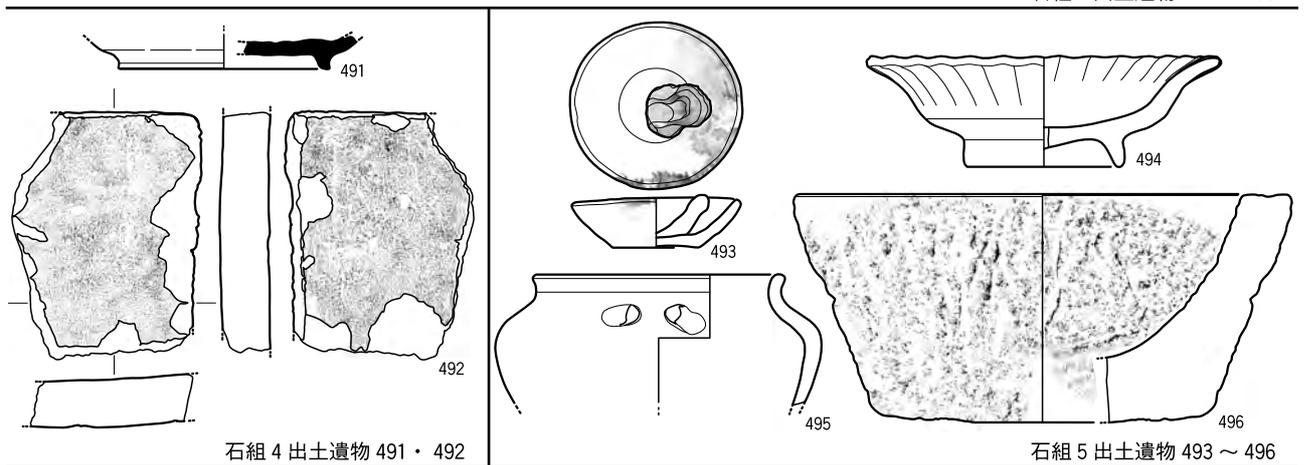


層不明出土遺物 468 ~ 475

第60図 第6次調査2区出土遺物(5)

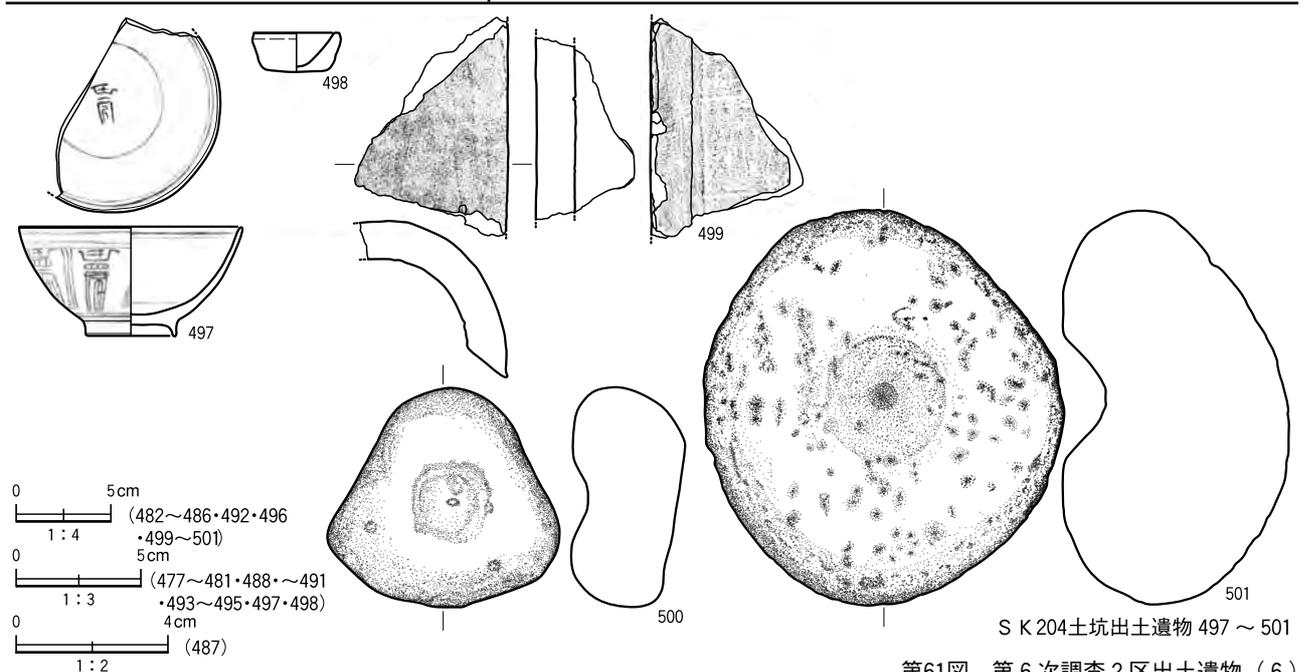


石組 1 出土遺物 477 ~ 490



石組 4 出土遺物 491・492

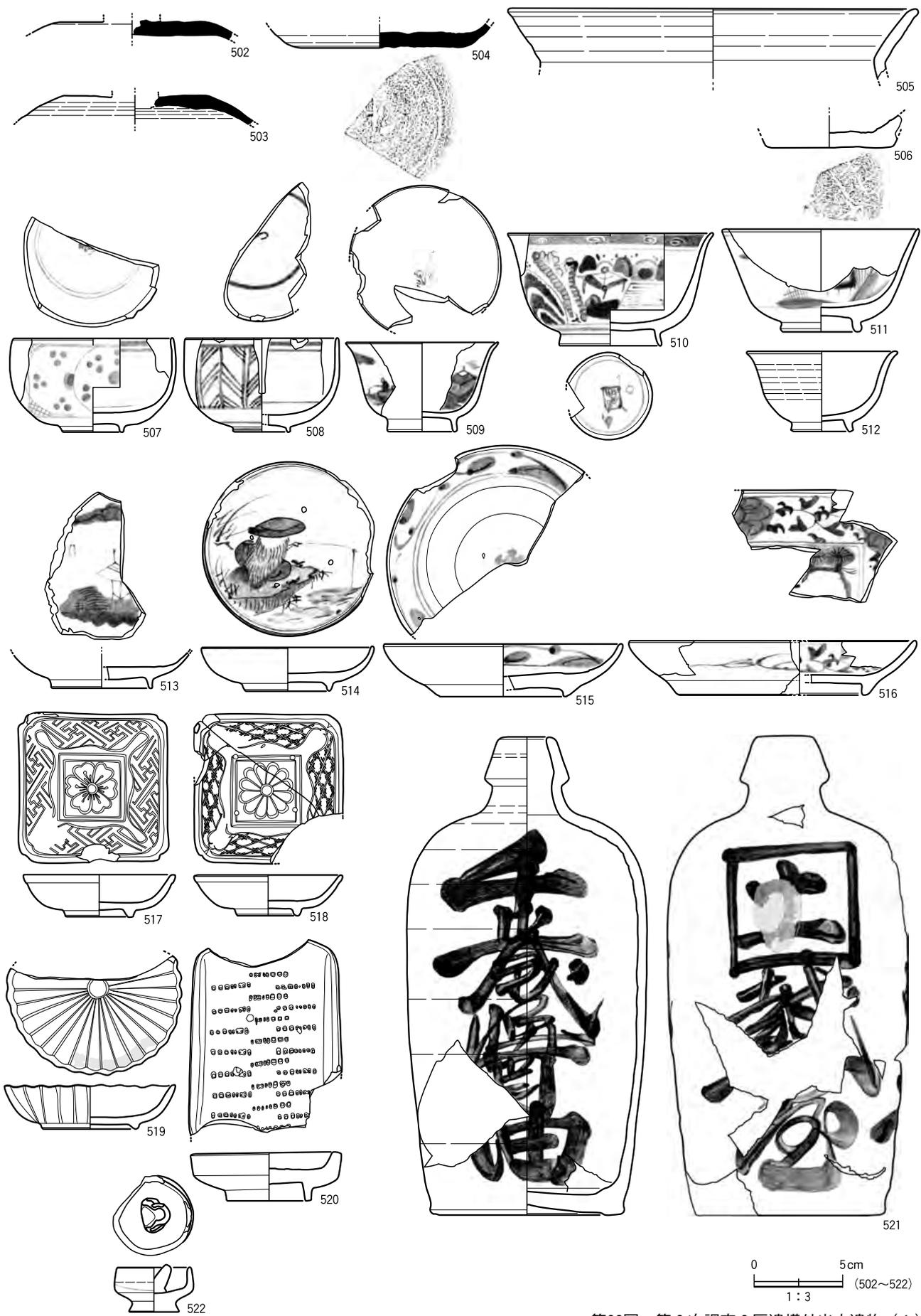
石組 5 出土遺物 493 ~ 496



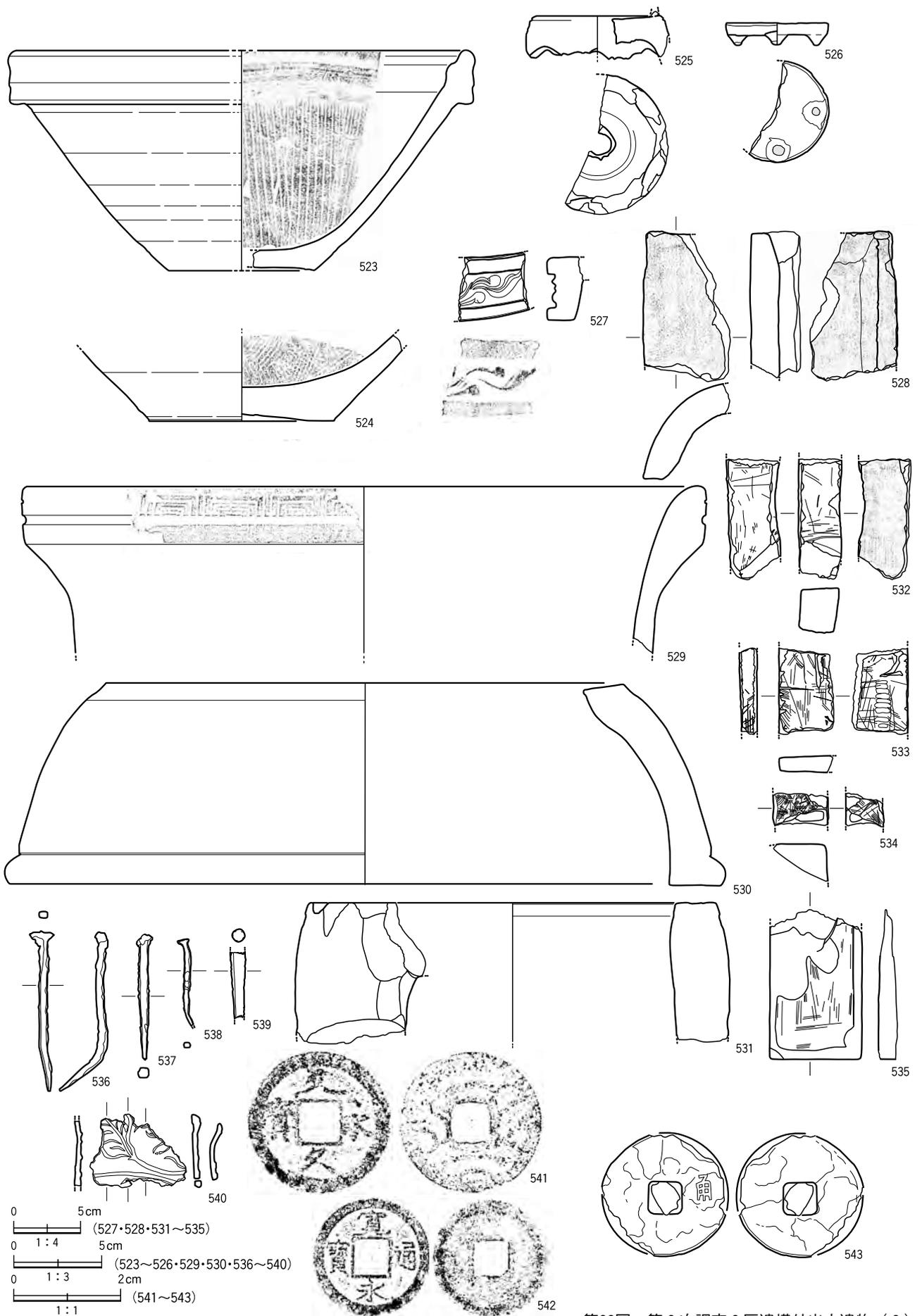
0 5cm  
1 : 4  
5cm  
(482~486・492・496  
・499~501)  
0 5cm  
1 : 3  
4cm  
(477~481・488・~491  
・493~495・497・498)  
0 4cm  
1 : 2  
(487)

S K 204土坑出土遺物 497 ~ 501

第61図 第6次調査2区出土遺物(6)



第62図 第6次調査2区遺構外出土遺物(1)



第63図 第6次調査2区遺構外出土遺物(2)

表5 遺物観察表

番号	種別	器種	区	出土地点	胎土色調	釉色調(表面色調)	口径	底径	器高	器厚	備考
1	須恵器	坏蓋	1区	S P1059 F2	5Y5/1 灰		165		22	4	7C末~8C初
2	須恵器	高台坏	1区	S D1004 F1	7.5Y5/1 灰			88		6	8C後~9C初
3	須恵器	坏	1区	F F9080 Ⅲ層	5Y5/1 灰			92		7	8C後~9C初
4	須恵器	甕	1区	東側 Ⅲ層	7.5Y R4/1 褐灰		368			6	波状文
5	須恵器	甕	1区	S D1026 F1	7.5Y5/1 灰				10		8C後~9C初 波状文
6	土師器	甕	1区	西側 Ⅲ層	5Y R5/6 明赤褐		100		6		8C前
7	土師器	甕	1区	S K1010 F3	5Y R6/6 橙			60		9	木葉痕
8	土師器	坏	1区	S P1061 F1	10Y R7/4 にぶい黄橙		144	100	8	32	8C前 関東系か
9	青磁	碗	1区	S K1010 F2	5Y7/1 灰白	5Y6/3 オリーブ黄	170			5	13C 中国産 鎗蓮弁文
10	陶器	皿	1区	F F9780 Ⅲ層	5Y R6/4 にぶい橙	5Y8/1 灰白	128	47.5	26	5	16C末 肥前
11	磁器	蓋(段重)	1区	F F9483 I層	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	78			4	19C前 肥前
12	磁器	皿	1区	S D1038 F1	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	80	52	17	3.5	中国産 青花 角皿
13	磁器	皿	1区	Ⅱ層	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	82	37	25	4	19C 瀬戸美濃 型打
14	磁器	皿	1区	F F9483 I層	N8/0 灰白	透明釉(2.5G Y8/1 灰白)	83	37	22	4	19C 瀬戸美濃 型打
15	瓦	平瓦	1区	S X1055	2.5Y6/2 灰黄	N6/0 灰					20 黒瓦
16	瓦	平瓦	1区	S K1040 F1	2.5Y8/2 灰白	N5/0 灰		280(幅)		17	黒瓦
17	金属製品	釘	1区	S K1010 F3			104(長)	14(幅)		15	
18	金属製品	釘	1区	S X1055 F3			96(長)	16(幅)		7	
19	金属製品	銭	1区	粗掘			25(縦)	25(横)		1	宣徳通宝
20	須恵器	甕	2区	S X2069 F1	5Y5/2 灰オリーブ					11	8C
21	土師器	坏	2区	S P2061 F1	7.5Y R6/6 橙					6	8C前 内黒 有段
22	土師器	甕	2区	Ⅳ層	7.5Y R7/4 にぶい橙			80		7	木葉痕
23	陶器	皿	2区	F F9878 Ⅳ層	2.5Y5/1 黄灰	5Y6/3 オリーブ黄	114			5.5	16C 瀬戸美濃 折縁
24	陶器	皿	2区	S X2054 F1	2.5Y R6/4 にぶい橙	2.5Y6/1 黄灰	108	50	28	5	16C末 肥前
25	陶器	碗	2区	S D2024 F2	2.5Y R7/2 灰黄	2.5Y R3/2 黒褐				6	中国産か 天目
26	磁器	碗	2区	S X2069 F1	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	108	38	58.5	4	在地
27	陶器	不明	2区	S P2003 F1						11	
28	石製品	円盤状有孔石製品	2区	Ⅳ層						10	
29	金属製品	煙管	2区	Ⅳ層			84(長)	10(幅)			
30	金属製品	釘	2区	S X2054 F1			46(長)	14(幅)		5	
31	金属製品	銭	2区	S P2053 F1			24(縦)	24(横)		1	熙寧元宝
32	金属製品	銭	2区	S X2054 F1			23(縦)	23(横)		1	永楽通宝
33	須恵器	坏蓋	3区	S K3049 F3	2.5Y5/2 明灰黄					8	
34	須恵器	甕	3区	S D3035 F1	7.5Y5/1 灰					11	35.36と同一個体か
35	須恵器	甕	3区	S D3035 F2	5Y5/1 灰					10	34.36と同一個体か
36	須恵器	甕	3区	S D3035 F1	N4/1 灰					10	34.35と同一個体か
37	土師器	高台坏	3区	S K3049 F1	5Y R6/6 橙			66		6	9C前期 内黒
38	土師器	坏	3区	S K3049 F2	10Y R6/4 にぶい黄橙		132			6	8C前~中 内黒
39	かわらけ	灯明皿	3区	Ⅳ層	10Y R7/3 にぶい黄橙		100	50	32	6	付着物
40	かわらけ	灯明皿	3区	S K3050 F1	10Y R7/3 にぶい黄橙		100			5	付着物
41	陶器	皿	3区	S K3046 F2	10Y R7/1 灰白	2.5Y6/2 黄灰	101			5	16C末~17C 肥前
42	青磁	香炉	3区	F F9774 Ⅲ層	2.5Y7/1 灰白	10G Y7/1 明緑灰				5	17C後~18C前 肥前
43	金属製品	銭	3区	S D3035 F1							14枚癒着 永楽通宝
44	須恵器	坏蓋	4区	V層	2.5Y6/1 黄灰					7	8C中
45	須恵器	坏	4区	S P4034 F2	5Y5/1 灰			90		5	8C中
46	須恵器	坏	4区	S K4048 F1	2.5Y R6/3 にぶい黄			100		6	8C中
47	須恵器	瓶	4区	S P4009 F1	2.5Y5/1 黄灰		80			4	
48	土師器	甕	4区	V層	10Y R6/4 にぶい黄橙			74		7	木葉痕
49	土師器	甕	4区	S P4019	10Y R7/4 にぶい黄橙					8	8C前
50	瓷器系陶器	鉢	4区	S K4039 F3	2.5Y5/1 黄灰		310		14.5		
51	須恵器系陶器	播鉢	4区	S K4039 F3	5Y5/1 灰			106		16	13~14C
52	陶器	皿	4区	S K4053 F2	5Y R6/4 にぶい橙	2.5Y8/2 灰白	120	50	32	5.5	17C初頭 肥前 漆付着
53	陶器	碗	4区	S P4043 F2	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y3/2 黒褐		57	5		16C後 瀬戸美濃 天目
54	青磁	碗	4区	S D4056 F3	10Y R6/3 にぶい黄橙	5Y6/3 オリーブ黄				10	13C 中国産
55	磁器	皿	4区	S D4005 F2	10Y8/1 灰白	透明釉(10G Y8/1 明緑灰)	109	55	25	3	15~16C 中国産 青花
56	磁器	蓋(段重)	4区	V層	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	98		30	4.5	肥前
57	陶器	鍋	4区	XO	2.5Y R5/3 にぶい赤褐	10Y3/2 オリーブ黒		92		7	在地
58	陶器	瓶	4区	S D4056 F1	10Y R7/3 にぶい黄橙	7.5Y R2/2 黒褐		70		6	肥前
59	瓦質土器	器台形土製品	4区	V層	10Y R5/1 褐灰	5Y5/1 灰	292	158	62	15	
60	瓦	軒丸瓦	4区	V層	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y5/1 黄灰				30	「山」黒瓦
61	石製品		4区	V層			82(縦)	77(横)		36	中央凹
62	石製品		4区	S K4020 F2			60(縦)	55(横)		34	中央凹
63	石製品	円盤状有孔石製品	4区	S K4012			30(縦)	30(横)		8	
64	紙	漆漚	4区	S D4056 F1			69(長)	5(幅)			
65	金属製品	釘	4区	V層			50(長)	4.5(幅)			
66	金属製品	釘	4区	S K4002 F1			51(長)	3(幅)			
67	金属製品	釘	4区	V層			115(長)	3(幅)			
68	金属製品	棒状鉄製品	4区	S K4053 F1			99(長)	5.5(幅)			
69	青磁	碗	5区	S D5005 F4	5Y6/1 灰	7.5Y6/2 灰オリーブ	151			5	15~16C 中国産
70	青磁	碗	5区	Ⅱ層	7.5Y7/1 灰白	7.5G Y6/1 緑灰				4	15~16C 中国産
71	陶磁器	合子	5区	Ⅱ層	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	50		10	4	肥前
72	石製品	砥石	5区	S K5023 F2	2.5Y7/3 浅黄			40(幅)		30	中砥
73	金属製品	煙管	5区	東壁Ⅱ層			50(長)	12(幅)			
74	金属製品	釘	5区	S K5024 F1			59.5(長)	9(幅)		5	
75	金属製品	釘	5区	S D5005 F4				8(幅)		8.5	
76	金属製品	釘	5区	S D5005 F3				8(幅)		6	
77	縄文土器	深鉢	6区	S K6019 F1	10Y R5/4 にぶい黄褐		234			4	縄文後期
78	縄文土器	深鉢	6区	S K6010 F3	10Y R6/4 にぶい黄橙					5	縄文後期
79	縄文土器	深鉢	6区	S D6014 F1	10Y R6/4 にぶい黄橙					5	縄文後期
80	須恵器	坏蓋	6区	S D6001 F1	2.5Y7/2 灰黄					8	8C前
81	須恵器	高台坏	6区	S K6019 F2	2.5Y6/1 黄灰			88		7	8C前
82	土師器	高坏	6区	S T6002 F1	7.5Y R7/6 橙					7	内黒
83	土師器	鉢	6区	S K6019 F3	10Y R7/3 にぶい黄橙		70	48	33	4	
84	土師器	坏	6区	S D6001 F1	7.5Y R7/6 橙		152			8	8C前 有段
85	土師器	坏	6区	S T6016 F1	10Y R7/4 にぶい黄橙		138			4	8C前 内黒 有段
86	土師器	坏	6区	S K6034 F1	10Y R7/4 にぶい黄橙		142			4	8C前 内黒 有段
87	土師器	坏	6区	S T6016 F1	2.5Y7/4 浅黄		140			4	8C前 内黒 有段
88	土師器	坏	6区	S D6046 F6	10Y R6/4 にぶい黄橙		140			5	8C前 内黒 有段
89	土師器	坏	6区	S P6005 F1	10Y R6/4 にぶい黄橙					5	8C前 内黒 有段
90	土師器	坏	6区	S K6009 F1	10Y R7/4 にぶい黄橙					5	8C前 内黒 有段
91	土師器	坏	6区	G F0654 I層	10Y R6/4 にぶい黄橙		180			5	8C前
92	土師器	坏	6区	G F0654 Ⅲ層	10Y R6/3 にぶい黄橙		206			6	8C前 内黒

番号	種別	器種	区	出土地点	胎土色調	釉色調(表面色調)	口径	底径	器高	器厚	備考
93	土師器	坏	6区	S D6001 F1	2.5Y7/4 浅黄		177	100	76	6	8C前~中 内黒
94	土師器	坏	6区	S D6001 F1	10Y R7/3 にぶい黄橙		174	90	44	5	8C前
95	土師器	坏	6区	S D6001 F1	10Y R7/4 にぶい黄橙		158			5	8C前
96	土師器	坏	6区	S D6001 F1	7.5Y R6/6 にぶい橙			88		8	8C前
97	土師器	坏	6区	S D6001 F1	10Y R7/4 にぶい黄橙		162	90	40	7	8C前 木葉痕
98	土師器	長胴甕	6区	S P6036 F1	5Y R7/6 橙		314			8	8C前
99	土師器	長胴甕	6区	Ⅲ層	7.5Y R7/6 橙		304			7	8C前
100	土師器	長胴甕	6区	S K6043 F1	7.5Y R6/4 にぶい橙		230			5.5	8C前
101	土師器	長胴甕	6区	S K6043 F1	10Y R7/4 にぶい黄橙		210			10	8C前
102	土師器	長胴甕	6区	Ⅲ層	7.5Y R7/4 にぶい橙		160			5	8C前
103	土師器	長胴甕	6区	E K6048 F2	7.5Y R6/4 にぶい橙		226			6	8C前
104	土師器	甕	6区	S D6001 F1	7.5Y R7/3 にぶい橙		170			5	8C前
105	陶器	甕	6区	S D6001 F1	7.5Y R7/6 橙		98			8	
106	かわらけ	皿	6区	S K6024 F1	10Y R7/3 にぶい黄橙		90			3.5	付着物
107	かわらけ	皿	6区	S K6019 F2	5Y R7/6 橙		64	32	16.5	6	
108	かわらけ	皿	6区	S K6019 F2	5Y R7/6 橙		64	30	20.5	6	
109	陶器	香炉か	6区	G F0654 Ⅲ層	7.5Y R6/3 にぶい褐	7.5Y4/3 暗オリーブ		76		7	
110	陶器	土瓶	6区	S K6019 F1	7.5Y R6/4 にぶい橙	10Y R5/4 にぶい黄褐	56			2	在地
111	青磁	仏花瓶	6区	Ⅲ層	N8/0 灰白	5G7/1 明緑灰	62	48	108.5	4	19C後
112	陶器	焼台	6区	S K6019			62		11.5	5	
113	陶器	焼台	6区	Ⅲ層			60		12	4	
114	土製品	ミニチュア	6区	S K6019 F3			40	30	29	4.5	七輪
115	石製品	円盤状石製品	6区	Ⅲ層			38(縦)	45(横)		7	
116	金属製品	煙管	6区	S K6031 F1			52(長)	10(幅)			
117	金属製品	煙管	6区	Ⅲ層			83(長)	10(幅)			木部残
118	須恵器	坏蓋	7区	S P7064 F3	2.5Y5/2 暗灰黄		158			7	8C前
119	須恵器	坏蓋	7区	S D7022 F2	2.5Y5/1 黄灰		163			6	9C前
120	須恵器	坏蓋	7区	S P7062 F1	5Y5/1 灰					8	9C前
121	須恵器	坏蓋	7区	S P7049 F2	5Y5/1 灰					4	
122	須恵器	高台坏	7区	S X7047 F1	5Y6/2 灰オリーブ					5	8C前
123	須恵器	坏	7区	S K7057 F3	7.5Y5/1 灰		152			4	8C前
124	須恵器	坏	7区	S K7057 F1	5Y5/1 灰		128	75	26.5	3.5	9C前
125	須恵器	甕	7区	Ⅱ層	10Y R5/2 灰黄褐		326			11	
126	須恵器	瓶	7区	S K7054 F1	7.5Y5/1 灰					4	
127	須恵器	甕	7区	G F0654 Ⅴ層	5Y4/1 灰					7	8C前
128	須恵器	横瓶	7区	S T7001 F1	N4/1 灰					12	9C末
129	土師器	高坏	7区	G F0754 Ⅴ層	2.5Y7/4 浅黄					8	
130	土師器	坏	7区	G F0754 S D7032 F Ⅲ	10Y R7/4 にぶい黄橙		134		40	7	8C前 関東系か 漆付着
131	土師器	坏	7区	S D7022 F2	2.5Y5/2 暗灰黄					4	内黒 有段
132	土師器	坏	7区	G F0654 Ⅴ層	10Y R6/4 にぶい黄橙				140	6	
133	土師器	坏	7区	S D7024 F3	10Y R8/4 浅黄橙				172	6	内黒
134	土師器	長胴甕	7区	G F0753 Ⅴ層	7.5Y R5/3 にぶい褐					8	
135	土師器	長胴甕	7区	S P7061 F1	7.5Y R6/6 橙		218			7	
136	土師器	長胴甕	7区	S D7022 F2	5Y R6/6 橙		176			6	
137	土師器	甕	7区	G F0653 S D7042 F Ⅱ	2.5Y5/1 黄灰		145			9	8C
138	土師器	甕	7区	G F0752 Ⅴ層	10Y R7/4 にぶい黄橙			70		7	木葉痕
139	かわらけ	灯明皿	7区	G F0752 Ⅴ層	7.5Y R7/6 橙		119	77		6	付着物
140	陶器	皿	7区	S X7047 F1	2.5Y7/1 灰白	7.5Y4/3 暗オリーブ		48		7	17C 瀬戸美濃 折縁
141	陶器	皿	7区	S K7053 F3	2.5Y6/2 灰黄	5Y6/4 オリーブ黄	102			4	16C後 瀬戸美濃
142	陶器	皿	7区	G F8750 Ⅱ層	5Y5/1 灰	5Y5/2 灰オリーブ				3	17C~18C初 肥前
143	陶器	向付	7区	G F0850 Ⅱ層	7.5Y R5/3 にぶい褐	10Y R5/2 灰黄褐	146			5	17C~18C初 肥前
144	陶器	皿	7区	S K7043 F1	2.5Y7/2 灰黄	5Y6/3 オリーブ黄	110	48	28.5	5	16C末 肥前
145	磁器	碗	7区	G F0651 Ⅱ層	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	92	40	47.5	3	19C 瀬戸美濃
146	磁器	皿	7区	Ⅲ層	N8/0 灰白	透明釉(5GY8/1 灰白)	130	78	39	6	18C後 肥前
147	陶器	瓶	7区	S K7048 F2	2.5Y6/1 黄灰	5Y6/3 オリーブ黄		48		6	肥前
148	陶器	香炉	7区	G F0652 Ⅱ層	5Y5/1 灰	10Y7/1 灰白	65	37.5	37	4	在地
149	磁器	仏花瓶	7区	Ⅱ層	5Y8/1 灰白	5Y7/1 灰白				3	19C 肥前
150	陶器	播鉢	7区	S K7016 F1	7.5Y R5/3 にぶい褐	5Y R4/2 灰褐	214	85	105.5	7	在地
151	瓦質土器	火鉢	7区	Ⅱ層	N3/0 暗灰					10	17C
152	瓦質土器	火鉢	7区	S K7041 F3	N4/0 灰		256			21	
153	瓦質土器	七輪	7区	G F0651 Ⅱ層	N1.5/0 黒			254		9	
154	瓦	軒平瓦	7区	S X7047 F1	5Y6/1 灰	N5/0 灰					黒瓦 唐草文
155	瓦	軒平瓦	7区	G F0849	5Y6/1 灰	N4/0 灰					黒瓦 唐草文
156	瓦	軒平瓦	7区	S X7047 F1	5Y7/1 灰白	5Y4/1 灰					黒瓦 唐草文
157	瓦	軒平瓦	7区	S K7046 F1	2.5Y6/1 黄灰	N5/0 灰				25	黒瓦 唐草文
158	瓦	平瓦	7区	S K7017 F2	5Y6/1 灰	N5/0 灰				20	黒瓦
159	瓦	平瓦	7区	Ⅱ層	2.5Y R5/6 明赤褐	5Y R4/1 褐灰				17	赤瓦
160	瓦	軒丸瓦	7区	S X7047 F1	2.5Y7/1 灰白	N5/0 灰					黒瓦 連珠三巴文
161	瓦	丸瓦	7区	X O	5Y7/1 灰白	N3/0 暗灰				25	黒瓦
162	瓦	丸瓦	7区	S X7047 F1	2.5Y6/2 灰黄	7.5Y5/1 灰				25	黒瓦
163	土製品	取瓶	7区	Ⅱ層			130			15	
164	石製品	石鉢	7区	S K7017 F2					160	25	
165	石製品	砥石	7区	S X7047 F1	10Y5/1 灰			45(幅)		17	中砥
166	石製品	温石	7区	S X7047 F1						7.5	
167	石製品	温石	7区	S X7047 F1						7	
168	石製品	円盤状石製品	7区	Ⅱ層			51(縦)	51(横)		11	16C末~17C前
169	金属製品	刀剣	7区	G F0754 Ⅴ層			295(長)	25(幅)		4.5	
170	金属製品	不明	7区	S D7024 F2			54			4	
171	金属製品	煙管	7区	Ⅱ層				11(幅)			
172	金属製品	釘	7区	S X7008 F1			43(長)				
173	金属製品	釘	7区	S T7003 F1(E L7032)			50(長)	7(幅)			
174	金属製品	銭	7区	S K7057 F1			25(縦)	25(横)			
175	須恵器	高台坏	8区	S K8008 ベルト F8	5Y5/1 灰			68		6	永楽通宝
176	須恵器	坏	8区	S K8007 F1	5Y5/1 灰					4	8C後 有段
177	土師器	坏	8区	S K8011 F1	10Y R6/4 にぶい黄橙		164			6	8C前~中 内黒
178	土師器	長胴甕	8区	G F0946 Ⅴ層	7.5Y R5/3 にぶい褐		238			5	
179	土師器	坏	8区	Ⅲ層	7.5Y R7/6 橙			60		7.5	9C中
180	かわらけ	皿	8区	S K8008 F7	7.5Y R7/3 にぶい橙		120	64	33.5	7	
181	陶器	皿	8区	S D8006 F2	7.5Y R7/4 にぶい橙	5Y6/1 灰	106	36	28.5	6	16C末 肥前
182	陶器	皿	8区	S D8012 F1	2.5Y6/2 灰黄	7.5Y7/1 灰白	103			5	16C~17C末 瀬戸美濃 志野
183	陶器	皿	8区	S K8002 F1	2.5Y6/2 灰黄	7.5Y8/1 灰白		70		6	瀬戸美濃 志野
184	陶器	皿	8区	S K8001 F1	10Y R5/1 褐灰	2.5Y5/2 暗灰黄	104			4.5	肥前

番号	種別	器種	区	出土地点	胎土色調	釉色調(表面色調)	口径	底径	器高	器厚	備考
185	陶器	皿	8区	S K8007 F1	2.5Y7/1 灰白	10Y7/1 灰白	130			4	17C前 肥前 溝緑
186	陶器	碗	8区	S K8003 F2	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y2/1 黒				8	17C前 瀬戸美濃 織部
187	陶器	皿	8区	S K8004 F2	7.5Y7/1 灰白	10Y7/1 灰白	106	20	39	3	在地
188	陶器	皿	8区	S K8004 F1	5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	108	41	31	4	会津本郷か
189	陶器	皿	8区	S K8004 F1	5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	124	51	33	3	会津本郷か
190	陶器	碗	8区	S K8004 F1	5Y7/1 灰白	5G Y8/1 灰白	138	50	71	4	19C 在地
191	陶器	鉢	8区	S K8004 F1	5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	194	75	85	5	18C後
192	磁器	蓋	8区	S K8004 F2	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	98	57	25	4	18C中 肥前
193	磁器	碗	8区	II層	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	98	42	53	3	肥前 焼継
194	磁器	碗	8区	II層	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	103	36	58.5	3.5	19C中 瀬戸美濃
195	磁器	碗	8区	S K8004 F2	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	108	45	55	4.5	在地
196	磁器	碗	8区	S K8004 F1	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	82	33	40	3	19C 瀬戸美濃
197	磁器	碗	8区	S K8004 F1	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	73	32	36	4	19C 瀬戸美濃
198	磁器	皿	8区	S K8004 F1	5Y8/1 灰白	透明釉(7.5Y8/1 灰白)	78	34	23	3.5	在地 型打
199	磁器	皿	8区	S K8004 F1	N8/0 灰白	10G Y8/1 明緑灰	84	40	24	5	在地 型打
200	磁器	皿	8区	S K8004 F1	7.5Y8/1 灰白	5G Y8/1 灰白	124	74	29	3	18C後 肥前
201	陶器	仏飯器	8区	S K8004 F2	7.5Y7/1 灰白	5G Y8/1 灰白	67	46	54.5	5	会津本郷か
202	陶器	瓶	8区	S K8001(F)	5Y6/1 灰白	5Y8/1 灰白				5	17C前 肥前
203	陶器	油徳利	8区	S K8004 F2	2.5Y6/2 灰黄	7.5Y R4/3 褐	27	54	147	7	在地
204	陶器	焼台	8区	攪乱			120(縦)	120(横)	30	11	
205	瓦	平瓦	8区	S K8004 F2	2.5Y4/1 黄灰	10R5/2 灰赤				19	赤瓦
206	瓦	軒丸瓦	8区	攪乱	N7/0 灰白	7.5Y4/1 灰					黒瓦 連珠三巴文
207	瓦	軒丸瓦	8区	III層	N5/0 灰	2.5Y R3/3 暗赤褐				18	黒瓦 連珠三巴文
208	瓦	丸瓦	8区	S D8006 F1	7.5Y R7/3 にぶい橙	2.5Y5/1 黄灰				25	黒瓦
209	石製品	砥石	8区	S K8004 F1	7.5Y7/2 灰白		65(長)	21(幅)		24	風間 中砥
210	石製品	砥石	8区	S K8004 F1	7.5Y7/2 灰白		268(長)	54(幅)		27	風間 中砥
211	石製品	砥石	8区	S K8008 F6	10Y8/1 灰白		122(長)	54(幅)		43	中砥
212	石製品	円盤状石製品	8区	S K8003 F2			20(縦)	20(横)		7	基石か
213	石製品	円盤状石製品	8区	S K8010 F2			20(縦)	20(横)		5	基石か
214	石製品	円盤状石製品	8区	G F0946 III層			25(縦)			8	基石か
215	石製品	硯	8区	S D8005 F1						12	
216	石製品		8区	S K8008 F2			95(縦)	78(横)		42	中央凹
217	金属製品	煙管	8区	S K8008 F6			84(長)	11(幅)			
218	金属製品	煙管	8区	S K8008 F6				11(幅)			
219	金属製品	釘	8区	S K8007 F6			56(長)	17(幅)		4	
220	金属製品	釘	8区	S D8005 F2				9(幅)		9	
221	金属製品	釘	8区	S K8008 F4			90(長)	5(幅)		5	
222	金属製品	簪	8区	S K8004 F1			139(長)	7(幅)		1.8	
223	金属製品	銭	8区	S D8012 F1			25(縦)	25(横)		2	写真のみ
224	金属製品	銭	8区	S K8004 F1			22(縦)	22(横)		1	洪武通宝
225	木製品	漆器碗	8区	G F0747 III層				52		10	
226	須恵器	壺	9区	S K9022 F1	2.5Y7/1 灰白					10	8C
227	須恵器	高台坏	9区	S P9023 F2	10Y R6/3 にぶい黄橙					6	8C中～後
228	須恵器	坏	9区	S D9044 F1	5Y6/1 灰			84		5	8C中～後
229	須恵器	坏	9区	S D9017 F2	7.5Y R5/1 褐灰		142			4	9C中～後
230	須恵器	坏	9区	S K9022 F1	5Y5/1 灰		128			5	9C中～後
231	土師器	高台坏	9区	S K9012 F1	7.5Y R7/4 にぶい橙			96		9	9C後 内黒
232	土師器	高台坏	9区	S K9022 F1	7.5Y R7/4 にぶい橙			76		6	9C後 内黒
233	土師器	長胴甕	9区	I層	10Y R6/3 にぶい黄橙		222			6	9C中～後
234	土師器	長胴甕	9区	S K9002 F2	7.5Y R6/6 橙		218			6	9C中～後
235	土師器	長胴甕	9区	S K9005 F3	10Y R5/2 灰黄褐		62			8	9C後 網代痕
236	かわらけ	皿	9区	S K9038 F1	7.5Y R7/4 にぶい橙		69			7	
237	かわらけ	皿	9区	S D9032 F2	7.5Y R8/4 浅黄橙		76			14	
238	陶器	皿	9区	S X9033 F1	10Y R6/1 褐灰	5Y6/3 オリーブ黄		54		5	16C後 瀬戸美濃 折縁
239	陶器	皿	9区	S P9010	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/3 浅黄	110	50	22.5	6	16C後 瀬戸美濃 折縁
240	陶器	皿	9区	攪乱	10Y R6/3 にぶい黄橙	5Y8/1 灰白	110	36	30	5	16C末 肥前
241	陶器	向付	9区	S P9010 F2	10Y R7/4 にぶい黄橙	2.5Y7/1 灰白	156			5	16C末～17C 肥前
242	陶器	皿	9区	S K9045 F1	2.5Y7/1 灰白	5Y6/2 灰オリーブ				5	18C前 肥前
243	陶器	皿	9区	S K9045	5Y5/1 灰	5Y5/2 灰オリーブ	110	45	30	4	18C前 肥前
244	陶器	皿	9区	S K9038 F1	7.5Y R5/3 にぶい褐	7.5Y6/2 灰オリーブ	92	33.5	35	6	16C末 肥前
245	磁器	碗	9区	III層	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	100	42	49	5	19C 瀬戸美濃
246	磁器	碗	9区	S K9088 F1	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	71	32	46	4	19C 瀬戸美濃
247	磁器	皿	9区	S K9038 F1	10Y R7/2 にぶい黄橙	5G Y8/1 灰白	131	85	36.5	4	在地
248	磁器	皿	9区	III層	N8/0 灰白	5G Y8/1 灰白	91	37	22	4	19C 瀬戸美濃 型打
249	磁器	皿	9区	VI層	N8/0 灰白	7.5Y8/1 灰白	98	42	26	5	19C 瀬戸美濃 型打
250	磁器	徳利	9区	S K9038 F1	7.5Y8/1 灰白	5G Y8/1 灰白		57		3	19C 瀬戸美濃
251	磁器	徳利か	9区	S K9038 F1	N8/0 灰白	5G Y8/1 灰白		26		4	瀬戸美濃
252	陶器	播鉢	9区	I層	5Y5/1 灰	7.5Y R4/2 灰褐	266			7	在地
253	陶器	播鉢	9区	I層	5Y4/1 灰	7.5Y R5/2 灰褐	236			8	在地
254	陶器	播鉢	9区	I層	10Y R4/1 褐灰	7.5Y R4/1 褐灰	270			14.5	17C前 肥前
255	陶器	甕	9区	S K9038 F1	7.5Y R6/1 褐灰	5Y4/4 暗オリーブ		106		8	在地か
256	瓦質土器	鉢	9区	S X9033 F1	7.5Y5/1 灰		172			13	
257	瓦質土器	羽釜	9区	南側看板	5Y4/1 灰		230			9	
258	瓦	平瓦	9区	S K9007 F2	7.5Y6/1 灰	2.5Y5/1 黄灰				12	古代 布目瓦
259	瓦	平瓦	9区	S P9023 F2	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄				20	古代 布目瓦
260	瓦	軒平瓦	9区	III層	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰					黒瓦
261	瓦	軒平瓦	9区	III層	5Y R6/6 橙	2.5Y R4/2 灰赤				17	赤瓦
262	瓦	平瓦	9区	III層	5Y6/1 灰	N5/0 灰				23	黒瓦
263	瓦	丸瓦	9区	III層	N6/0 灰	N4/0 灰				18	黒瓦
264	瓦	丸瓦	9区	III層	5Y6/1 灰	N4/0 灰				19	黒瓦
265	瓦	丸瓦	9区	III層	N4/0 灰	10R2/2 極暗赤褐				20	赤瓦
266	瓦	丸瓦	9区	III層	2.5Y4/1 黄灰	10R3/2 暗赤褐				21	赤瓦
267	瓦	裝飾瓦	9区	III層	5Y7/1 灰白	N5/0 灰					黒瓦
268	石製品	石鉢	9区	II層			335			34	
269	石製品	石鉢	9区	S K9045 F1				140		34	
270	石製品	石鉢	9区	S X9033 F3					82	24	
271	石製品	硯	9区	III層							
272	金属製品	刀子	9区	S X9009 F3			153(長)	62(幅)	20		
273	金属製品	釘	9区	S K9020 F1			97(長)	3(幅)			
274	金属製品	環状金属製品	9区	S X9033 F1			9(長)	17(幅)		7	
275	金属製品	銭	9区	G F0743 III層			23(縦)	23(横)		1	寛永通宝か
276	金属製品	不明	9区	S X9009							写真のみ

番号	種別	器種	区	出土地点	胎土色調	釉色調(表面色調)	口径	底径	器高	器厚	備考
277	須恵器	蓋	1区	粗掘	N5/0 灰					8	8C前
278	須恵器	蓋	1区	粗掘	5Y6/1 灰					5	8C前
279	須恵器	蓋	1区	F F 9193 G	N5/0 灰					5	8C前
280	須恵器	蓋	1区	F F 8599 トレンチ	7.5Y5/1 灰		128			5	8C前
281	須恵器	高台坏	1区	S T 116	N6/0 灰		137	100	39	5	8C前
282	須恵器	坏	1区	F F 8401 トレンチ	2.5Y7/2 灰黄			92		6.5	8C前
283	須恵器	坏	1区	S T 116	7.5Y6/1 灰			92		5	8C前
284	土師器	甕	1区	粗掘	7.5Y R 7/4 にぶい橙			98		8	木葉痕
285	かわらけ	灯明皿	1区	F F 9094	10Y R 6/4 にぶい黄橙		110			5	付着物
286	かわらけ	灯明皿	1区	粗掘	10Y R 7/4 にぶい黄橙		113	74	23.5	5	付着物
287	磁器	蓋(段重)	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)				3	19C前 肥前
288	磁器	蓋(段重)	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	79		22	3	19C前 肥前
289	磁器	蓋	1区	F F 8994 G	5Y8/1 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	108			3	19C前 肥前
290	磁器	碗	1区	粗掘	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	70	30	45	4.5	19C 瀬戸美濃
291	磁器	碗	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	76	32	43	5	19C前 肥前
292	磁器	碗	1区	F F 8893 G	2.5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	70	36	35	4.5	在 地
293	磁器	碗	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	86	84	42.5	3	18C前 肥前
294	磁器	碗	1区	F F 8894	5Y8/1 灰白	透明釉(10Y8/1 灰白)	100			3	18C後 肥前
295	磁器	碗	1区	粗掘	2.5Y8/1 灰白	透明釉(N8/0 灰白)		30		4	19C初 肥前
296	磁器	碗	1区	F F 8994 G	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	72	38	43	5.5	19C 瀬戸美濃
297	磁器	碗	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	95	36	51.5	3	18C後 肥前
298	磁器	碗	1区	F F 8894 G	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	96	41	53	6	19C中 肥前
299	磁器	碗	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)		40		4.5	18C前 肥前
300	磁器	碗	1区	F F 8795 G	7.5Y8/1 灰白	透明釉(10Y8/1 灰白)	150	37	48	3	19C 瀬戸美濃
301	磁器	碗	1区	F F 8894 G	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	98			3	19C 瀬戸美濃
302	磁器	碗	1区	F F 8894 G	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)		40		5	19C前 肥前
303	磁器	碗	1区	F F 8894 G	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	127			3	19C前 肥前
304	磁器	碗	1区	F F 9093	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)		52		4	19C前 肥前
305	磁器	碗	1区	粗掘	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	106	36	60	4	19C 瀬戸美濃
306	磁器	碗	1区	F F 9193 G	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	86	39	42	5	19C 瀬戸美濃
307	磁器	碗	1区	粗掘	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	108			5	19C 瀬戸美濃
308	磁器	碗	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	84	32	55	5	18C末~19C初 肥前
309	磁器	猪口	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	68	54	55	4	19C前 肥前
310	磁器	猪口	1区	F F 9094	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	62	30	58	3	19C前 肥前
311	磁器	猪口	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	57			5	18C後 肥前
312	磁器	鉢	1区	F F 8794 G	7.5Y8/1 灰白	透明釉(10G Y8/1 明緑灰)	126	80	54.5	7	18C後 肥前
313	磁器	皿	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	138	80	43	6	18C後~19C前 肥前
314	磁器	皿	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(2.5G Y8/1 灰白)	134	72	42	6	18C後~19C前 肥前
315	磁器	鉢	1区	F F 9093	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)				4	19C前 肥前 焼付 317と同一
316	磁器	皿	1区	粗掘	N8/0 灰白	5Y8/1 灰白		92		5	19C前 肥前
317	磁器	鉢	1区	F F 9093	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	184			4	19C前 肥前 焼付 315と同一
318	磁器	徳利	1区	F F 8894 G	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)		62		4	19C 瀬戸美濃
319	磁器	仏飯器	1区	粗掘	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	60	40	47	3	19C 瀬戸美濃
320	磁器	皿	1区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(5Y8/1 灰白)			13	3	在 地
321	磁器	小坏	1区	F F 8794 G	7.5Y8/1 灰白	5G Y8/1 灰白	53	25	19	5	在 地
322	陶器	乗燭	1区	F F 8893 G	2.5Y7/3 浅黄	7.5Y R 3/3 暗褐色	45			3	
323	陶器	乗燭	1区	F F 8894 G	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y R 4/3 褐	44	32	40.5	5	
324	陶器	乗燭	1区	F F 8894	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y R 3/4 暗褐色	66	45	54.5	5	
325	陶器	片口鉢	1区	粗掘	2.5Y6/1 黄灰	10Y7/2 灰白	204	87	102.5	6	在 地
326	瓦質土器	火鉢か	1区	F F 8894 G	7.5Y R 7/4 にぶい橙					13	
327	瓦質土器	火鉢	1区	粗掘	10Y R 6/3 にぶい黄橙	N3/0 暗灰	156			10	
328	瓦質土器	火鉢	1区	粗掘	10Y R 6/3 にぶい黄橙	5Y4/1 灰		84		19	
329	瓦質土器	香炉か	1区	粗掘	10Y R 5/3 にぶい黄褐	5Y2/1 黒	220			12	
330	瓦質土器	火鉢	1区	粗掘	7.5Y R 7/4 にぶい橙	5Y4/1 灰	300			12	
331	瓦質土器	火鉢	1区	粗掘	2.5Y5/2 暗灰黄	5Y4/1 灰	384			15	
332	瓦	平瓦	1区	F F 8894	5Y7/1 灰白	7.5Y5/1 灰				16	黒瓦
333	瓦	平瓦	1区	粗掘	5Y R 5/6 明赤褐	2.5Y R 4/2 灰赤				19.5	赤瓦
334	瓦	軒丸瓦	1区	F F 8994	2.5Y6/2 灰黄	5Y2/1 黒					黒瓦 連珠三巴文
335	瓦	軒丸瓦	1区	粗掘	2.5Y6/1 黄灰	N5/0 灰					黒瓦 連珠三巴文
336	瓦	丸瓦	1区	F F 8894	2.5Y6/2 灰黄	N5/0 灰				23	黒瓦
337	瓦	丸瓦	1区	F F 8893 G	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/1 黄灰				27	黒瓦
338	瓦	丸瓦	1区	粗掘	N4/0 灰	5Y R 4/2 灰褐				15	赤瓦
339	陶器	不明	1区	F F 9289	10Y R 6/3 にぶい黄橙		107	48	18.5	9	
340	陶器	焼台	1区	粗掘	5Y R 5/4 にぶい赤褐		86		15		
341	陶器	焼台	1区	F F 9488	7.5Y5/3 にぶい褐		71			8	
342	土製品	養子	1区	粗掘	10Y R 7/4 にぶい黄橙				5	5	
343	石製品	石鉢	1区	F F 9094 G			268			30	
344	石製品	石白	1区	粗掘			275		111		
345	石製品	砥石	1区	粗掘	5Y7/2 灰白					40	近代 風間 中砥
346	石製品	砥石	1区	粗掘	2.5G Y5/1 オリーブ灰			66(幅)		10	風間 中砥
347	石製品	砥石	1区	F F 8895 G	5Y5/2 灰オリーブ						風間 仕上げ砥
348	金属製品	火箸	1区	粗掘			196(長)	5(幅)			
349	金属製品	鏝	1区	粗掘				4(幅)		4	
350	金属製品	煙管	1区	粗掘			36(長)	11(幅)			
351	金属製品	銭	1区	X O			25(縦)	25(横)		1	寛永通宝
352	金属製品	銭	1区	S K 98			25(縦)	25(横)		1	写真のみ
353	磁器	碗	2区	S D 202 2層	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	80			5	18C後 肥前
354	磁器	碗	2区	S D 202 2層	5Y8/1 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)				5	18C後 肥前
355	磁器	碗	2区	S D 202 2層 F F 8599	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	101	44	47	4	19C 瀬戸美濃
356	磁器	小坏	2区	S D 202 2層	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	68	23	24.5	2.5	19C 瀬戸美濃
357	磁器	皿	2区	S D 202 2層 F F 8599	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	132			3	肥前
358	磁器	皿	2区	S D 202 2層	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	96	66	18	3	18C後 肥前
359	磁器	皿	2区	S D 202 2層	5Y8/1 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	240	146	34.5	5	18C後 肥前
360	磁器	皿	2区	S D 202 2層	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	82	36	21	3.5	19C 瀬戸美濃 型打
361	磁器	皿	2区	S D 202 2層	N8/0 灰白	透明釉(10G Y8/1 明緑灰)	86	42	26	5	19C 瀬戸美濃 型打
362	陶器	甕	2区	S D 202 2層	5Y7/1 灰白	7.5Y R 3/3 暗褐	300			8	在 地
363	陶器	乗燭	2区	S D 202 2層 F F 8599	5Y7/1 灰白	10Y R 3/4 暗褐	72			5	在 地
364	金属製品	釘	2区	S D 202 2層 F F 8499 G				4.5(幅)			
365	金属製品	釘	2区	S D 202 2層 F F 8499 G				5.5(幅)		5	
366	金属製品	銭	2区	S D 202 2層 F F 8499 G			25(縦)	25(横)			寛永通宝 鉄銭
367	金属製品	銭	2区	S D 202 2層 F F 8599 G			24(縦)	24(横)			鉄銭
368	金属製品	銭	2区	S D 202 2層			22(縦)	22(横)		1	寛永通宝

番号	種別	器種	区	出土地点	胎土色調	釉色調(表面色調)	口径	底径	器高	器厚	備考	
369	陶器	碗	2区	S D202 3層 F F8598	2.5Y8/2 灰白	10Y R8/2 灰白	83	34	60	3	18C 前 大堀相馬	
370	陶器	香炉	2区	S D202 3層 F F8599G	2.5Y7/1 灰白	7.5G Y8/1 明緑灰	68	30	38	3	大堀相馬	
371	陶器	碗	2区	S D202 3層 F F8598	2.5Y8/2 灰白	5Y8/1 灰白		35		4	在地	
372	陶器	小坏	2区	S D202 3層 F F8599G	2.5Y7/1 灰白	透明釉(2.5G Y8/1 灰白)	50	27	27	3	18C 後 大堀相馬	
373	陶器	皿	2区	S D202 3層 F F8598G	5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白	94	36	29.5	4	在地	
374	磁器	碗	2区	S D202 3層 F F8599G	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	73	26	35	4	19C 瀬戸美濃	
375	磁器	碗	2区	S D202 3層 F F8598G	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)			36		3	19C 前 肥前
376	磁器	碗	2区	S D202 3層 F F8598G	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	86	42	46	4	19C 瀬戸美濃	
377	磁器	皿	2区	S D202 3層 F F8599	5Y8/1 灰白	透明釉(N8/0 灰白)		105		5	肥前「一ト」	
378	磁器	鉢	2区	S D202 3層 F F8598	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	132	3.5			肥前	
379	磁器	皿	2区	S D202 3層 F F8598G	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)			26	4	19C 瀬戸美濃 型打	
380	陶器	播鉢	2区	S D202 3層 F F8598	10Y R7/3 にぶい黄橙	5Y R5/2 灰褐	214	70	99	7	在地	
381	陶器	甕	2区	S D202 3層 F F8599G	2.5Y R6/4 にぶい橙	2.5Y8/2 灰白	310			7	17~18C 肥前 二彩唐津	
382	陶器	乗燗	2区	S D202 3層	2.5Y6/1 黄灰	10Y R3/3 暗褐	46	30	27.5	4.5	在地	
383	陶器	乗燗	2区	S D202 3層 F F8598	10Y R8/3 浅黄橙	5Y R4/2 灰褐	46	30	27	3	在地	
384	陶器	植木鉢	2区	S D202 3層 F F8598	2.5Y6/1 黄灰	5Y R3/2 暗赤褐	104	70	62	5	在地	
385	瓦質土器	火鉢か	2区	S D202 3層 F F8598	7.5Y R6/4 にぶい橙	5Y4/1 灰	318				10	
386	須恵器	蓋	2区	S D202 7層 F F8599	2.5Y6/1 黄灰		150				3	
387	陶器	小坏	2区	S D202 7層	5Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白	56	24	32.5	3	大堀相馬	
388	陶器	碗	2区	S D202 7層 F F8598	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 淡黄	112			5	18C 肥前	
389	陶器	鉢	2区	S D202 7層	5Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白	173	74	85.5	4.5	在地	
390	磁器	蓋	2区	S D202 7層 F F8599	5Y8/1 灰白	透明釉(6G Y8/1 灰白)				3	18C 中 肥前	
391	磁器	蓋	2区	S D202 7層 F F8698	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	98		24.5	3	18C 中 肥前	
392	磁器	碗	2区	S D202 7層 F F8599	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)		31		9	19C 前 肥前	
393	磁器	碗	2区	S D202 7層 F F8698	5Y8/1 灰白	透明釉(10Y8/1 灰白)	79			3	18C 前 肥前	
394	磁器	碗	2区	S D202 7層	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	94	38	46	3.5	19C 瀬戸美濃	
395	磁器	碗	2区	S D202 7層 F F8598	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	92	40	50	3	19C 瀬戸美濃	
396	磁器	碗	2区	S D202 7層 F F8598	5Y8/1 灰白	透明釉(2.5G Y8/1 灰白)	100	42	51.5	3.5	在地	
397	磁器	碗	2区	S D202 7層 F F8598	7.5Y8/1 灰白	N8/0 灰白	114	44	52	3.5	在地	
398	磁器	碗	2区	S D202 7層 F F8599	5Y8/1 灰白	5G Y8/1 灰白		58		3	18C 後 肥前 広東碗	
399	磁器	皿	2区	S D202 7層 F F8698	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	85	50	21.5	2	19C 前 肥前	
400	磁器	德利	2区	S D202 7層 F F8599	5Y8/1 灰白	透明釉(7.5Y8/1 灰白)	33			3.5	在地	
401	陶器	德利	2区	S D202 7層 F F8598	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白				3	大堀相馬	
402	陶器	乗燗	2区	S D202 7層 F F8599	10Y R7/4 にぶい黄橙	7.5Y R3/3 暗褐	45	41	44	5	在地	
403	陶器	播鉢	2区	S D202 7層 F F8599	2.5Y6/1 黄灰	7.5Y R3/3 暗褐	318	14.5	13.7	11	在地	
404	陶器	播鉢	2区	S D202 7層 F F8599	5Y7/1 灰白	7.5Y R3/3 暗褐	300	130	160	11	在地	
405	土師質土器	火鉢か	2区	S D202 7層	7.5Y R7/6 橙		228			12.5		
406	陶器	焼台	2区	S D202 7層 F F8599G	7.5Y6/1 灰		80		22			
407	陶器	焼台	2区	S D202 7層	5Y R5/4 にぶい赤褐		85		20			
408	石製品	砥石	2区	S D202 7層 F F8599G	2.5Y7/3 浅黄						仕上げ砥	
409	金属製品	釘	2区	S D202 7層 F F8499G					3(幅)		3	
410	金属製品	釘	2区	S D202 7層 F F8599G					3(幅)		3	
411	金属製品	釘	2区	S D202 7層 F F8599G					3(幅)		3	
412	金属製品	筒状金属製品	2区	S D202 7層 F F8599G					8(幅)		3	
413	金属製品	煙管	2区	S D202 7層 F F8598G					8(幅)			
414	土師器	高坏	2区	S D202 8層 F F8599G	7.5Y R8/4 浅黄橙						6	
415	かわらけ	皿	2区	S D202 8層 F F8599G	2.5Y6/2 灰黄			56			4	
416	磁器	小坏	2区	S D202 8層 F F8599G	N8/0 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	58	25	29	1	19C 瀬戸美濃	
417	磁器	碗	2区	S D202 8層	7.5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y7/1 暗オリーブ灰)	100			4	肥前	
418	磁器	皿	2区	S D202 8層	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	98	25	25	4	19C 瀬戸美濃	
419	磁器	皿	2区	S D202 8層	N7/0 灰白	透明釉(10Y7/1 灰白)	97	54	18	3.5	在地	
420	磁器	皿	2区	S D202 8層	5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	62			6	在地	
421	磁器	鉢	2区	S D202 8層	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	238	130	47	5.5	肥前	
422	陶器	播鉢	2区	S D202 8層	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y R3/3 暗褐	310			10	在地	
423	陶器	乗燗	2区	S D202 8層	5Y6/1 灰	7.5Y R3/4 暗褐	44	28	28	5	在地	
424	陶器	乗燗	2区	S D202 8層	5Y6/1 灰	10Y R3/4 暗褐		35		4	在地	
425	土製品	泥面子	2区	S D202 8層 F F8599G	7.5Y R6/4 にぶい橙		20(縦)	19(横)		5	大黒天	
426	陶器	焼台	2区	S D202 8層 F F8599G	2.5Y7/2 灰黄		80					
427	金属製品	釘	2区	S D202 8層 F F8599G			39(長)	2.8(幅)		2.5		
428	金属製品	釘	2区	S D202 8層 F F8599G			70(長)	3(幅)		3		
429	金属製品	不明	2区	S D202 8層 F F8599G				2.5(幅)		2.5		
430	金属製品	銭	2区	S D202 8層 F F8599G			23(縦)	23(横)			鉄銭	
431	かわらけ	皿	2区	S D202 9層 F F8599	5Y R6/6 橙		60	40	17	2.5		
432	陶器	碗	2区	S D202 9層	2.5Y8/3 浅黄	7.5Y R2/1 黒	92	40	61	3.5	瀬戸美濃	
433	陶器	碗	2区	S D202 9層	2.5Y7/1 灰白	7.5Y8/2 灰白	62	31	52.5	4	大堀相馬	
434	陶器	蓋物	2区	S D202 9層	10Y R7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	57	43	62	2	大堀相馬	
435	磁器	碗	2区	S D202 9層	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	94	40	50	4	19C 瀬戸美濃 焼継	
436	磁器	蓋(段重)	2区	S D202 9層 F F8599G	N8/0 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	116			4.5	19前 肥前	
437	磁器	猪口	2区	S D202 9層	5Y8/1 灰白	透明釉(10Y8/1 灰白)	48	32	34	3	肥前	
438	磁器	皿	2区	S D202 9層	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	100	54	21	5	19C 瀬戸美濃	
439	磁器	皿	2区	S D202 9層	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	98	48	24	3	在地	
440	磁器	仏飯器	2区	S D202 9層 F F8599	5Y8/1 灰白	透明釉(7.5G Y8/1 明緑灰)	74			5	肥前	
441	陶器	乗燗	2区	S D202 9層 トレンチ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y2/1 黒	67	46	19	4.5	在地	
442	陶器	乗燗	2区	S D202 9層	5Y7/1 灰白	10Y R3/3 暗褐	41	26	24	3	在地	
443	陶器	土瓶	2区	S D202 9層 F F8599	5Y7/1 灰白	5Y8/2 灰白	88	87	120	3	益子	
444	陶器	焼台	2区	S D202 9層 F F8599	7.5Y R7/4 にぶい橙		98		15			
445	土製品	ミニチュア	2区	S D202 9層	10Y R8/2 灰白		36	26	14	2		
446	石製品	砥石	2区	S D202 9層	10Y5/1 灰						風間 仕上げ砥	
447	金属製品	釘	2区	S D202 9層 F F8599G				3(幅)		3		
448	金属製品	釘	2区	S D202 9層 F F8599G				4(幅)		4		
449	磁器	碗	2区	S D202 10層	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	112			3	18C 前 肥前	
450	磁器	碗	2区	S D202 10層	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	160	40	54.5	2.5	18C 前 肥前	
451	磁器	碗	2区	S D202 11層 F F8599G	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)		41		7	18C 前 肥前	
452	磁器	碗	2区	S D202 11層	5Y7/1 灰白	透明釉(5G Y7/1 暗オリーブ灰)	104			5	17C 後 肥前	
453	磁器	皿	2区	S D202 11層	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y7/1 暗オリーブ灰)	98	70	21	4	18C 後 肥前	
454	金属製品	火箸	2区	S D202 11層 F F8599G						5		
455	かわらけ	皿	2区	S D202 13層 F F8599	5Y R6/6 橙		90	48	29	4	肥前	
456	磁器	碗	2区	S D202 13層 F F8599	7.5Y8/1 灰白	透明釉(10Y8/1 灰白)	104			4	肥前	
457	陶器	皿	2区	S D202 13層 F F8599	7.5Y R6/4 にぶい橙	7.5Y R6/2 灰褐	120	48	31	3.5	在地	
458	磁器	德利	2区	S D202 13層 F F8599	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)				4	19C 肥前	
459	陶器	鉢	2区	S D202 13層 F F8599	7.5Y R5/3 にぶい褐	10Y R2/2 黒褐	206			5	在地	
460	土師器	甕	2区	S D202 15層 F F8500	7.5Y R6/4 にぶい橙			86		7.5		

番号	種別	器種	区	出土地点	胎土色調	釉色調(表面色調)	口径	底径	器高	器厚	備考
461	陶器	播鉢	2区	S D202 15層 F F8599	5Y6/1 灰	10Y R3/4 暗褐			114	15	在地
462	土師器	坏	2区	S D202 17層 F F8500	10Y R6/3 におい黄橙		140			5	8C前 内黒 有段
463	陶器	瓶	2区	S D202 19層 F F8599	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y2/1 黒		48		4	在地
464	陶器	碗	2区	S D202 19層 F F8698	2.5Y7/1 灰白	7.5Y2/1 黒		37		3.5	在地
465	陶器	瓶	2区	S D202 19層 F F8599	2.5Y8/2 灰白	10Y R3/4 暗褐		85		5	19C 瀬戸美濃
466	かわらけ	皿	2区	S D202 20層 F F8599	10Y R7/3 におい黄橙			50		5	
467	陶器	皿	2区	S D202 22層 F F8599	10Y R6/3 におい黄橙	2.5Y6/3 におい黄	118	42		4	16C末~17C初 肥前
468	土師器	甕	2区	S D202 トレンチ	5Y8/1 灰白			80		9	
469	磁器	碗	2区	S D202 トレンチ	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	90	40	51.5	2.5	19C前 肥前
470	磁器	碗	2区	S D202 トレンチ	10Y7/1 灰白	透明釉(10Y7/1 灰白)	86			5	19C前 肥前
471	陶器	焼台	2区	S D202	5Y6/1 灰			117		36	
472	土製品	泥面子	2区	S D202 F F8599	7.5Y R8/3 浅黄橙		26(縦)	19(横)		2	狐
473	金属製品	毛抜き	2区	S D202 トレンチ			64(長)	6(幅)		1	
474	金属製品	銭	2区	S D202			23(縦)	23(横)		1	寛永通宝
475	金属製品	銭	2区	S D202			23(縦)	23(横)		1	寛永通宝
476	金属製品	銭	2区	S D202			23(縦)	23(横)		1	寛永通宝 鉄銭 写真のみ
477	陶器	向付	2区	S D202 石組1	2.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	117			4	肥前
478	陶器	碗	2区	S D202 石組1	7.5Y R6/4 におい橙	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	42			8	17C 肥前
479	陶器	碗	2区	S D202 石組1	2.5Y6/1 黄灰	2.5G Y8/1 灰白		33		5.5	18C 大堀相馬
480	陶器	小坏	2区	S D202 石組1	2.5Y6/1 黄灰	10Y7/1 灰白	52	20	25.5	3	18C 大堀相馬
481	磁器	碗	2区	S D202 石組1	5Y8/1 灰白	透明釉(N8/0 灰白)	94			3	18C後 肥前
482	瓦	平瓦	2区	S D202 石組1	5Y5/1 灰	N5/0 灰				21	黒瓦
483	瓦	丸瓦	2区	S D202 石組1	5Y6/1 灰	N4/0 灰				24	黒瓦
484	瓦	丸瓦	2区	S D202 石組1	7.5Y6/1 灰	N5/0 灰				28	黒瓦
485	瓦	丸瓦	2区	S D202 石組1	5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰				21.5	黒瓦
486	石製品	石鉢	2区	S D202 石組1			273	170	119.5	30	
487	土製品	泥面子	2区	S D202 石組1	7.5Y R6/4 におい橙		19.5(縦)	21(横)		7	おはじき
488	金属製品	釘	2区	S D202 石組1				4(幅)		5	
489	金属製品	錠	2区	S D202 石組1				7(幅)		6	
490	金属製品	煙管	2区	S D202 石組1				10(幅)			
491	須恵器	高台坏	2区	S D202 石組4	5Y5/1 灰			83		5	8C前
492	瓦	平瓦	2区	S D202 石組4	2.5Y7/1 灰白	5Y4/1 灰				26	黒瓦
493	かわらけ	乗褥	2区	S D202 石組5 F F8599	10Y R7/4 におい黄橙		68	34	20	4	
494	陶器	甕	2区	S D202 石組5 F F8599	5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	140	62	44	7	16~17C 瀬戸美濃 志野
495	陶器	甕	2区	S D202 石組5	2.5Y8/2 灰白	10Y R3/3 暗褐	100			7	17C前 瀬戸美濃 四耳壺
496	石製品	石鉢	2区	S D202 石組5			260	175	121.5	34	
497	磁器	碗	2区	S K204 F F8500	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	88	36	43.5	3	19C初 肥前
498	土製品	ミニチュア	2区	S K204	10Y R8/4 浅黄橙		35	24	15.5	6	
499	瓦	丸瓦	2区	S K204	N6/0 灰	N5/0 灰				20	黒瓦
500	石製品		2区	S K204			116.5(縦)	122(横)		59	中央凹
501	石製品		2区	S K204			190(縦)	210(横)		119	中央凹
502	須恵器	蓋	2区	F F8598	5Y5/1 灰					8	8C前
503	須恵器	蓋	2区	F F8500 トレンチ	2.5Y6/1 黄灰					4	8C前
504	須恵器	坏	2区	粗掘	N6/0 灰			90		8	8C
505	土師器	長胴甕	2区	粗掘	7.5Y R6/6 橙		224			6.5	
506	土師器	甕	2区	F F8698 トレンチ	10Y R7/4 におい黄橙			70		8	木葉痕
507	磁器	碗	2区	粗掘	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	90	34	52.5	4	18C後 肥前
508	磁器	碗	2区	粗掘	N8/0 灰白	透明釉(10G Y8/1 明緑灰)	86	32	52.5	3	18C後 肥前
509	磁器	碗	2区	粗掘	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	85	38	50	3	19C 瀬戸美濃
510	磁器	碗	2区	F F8894 G	N8/0 灰白	N8/0 灰白	114	58	63	4	19C 瀬戸美濃
511	磁器	碗	2区	F F8794 G	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	110	43	52.5	3.5	在地
512	陶器	碗	2区	粗掘	2.5Y7/2 灰黄	5Y7/2 灰白	84	32	45	4	19C前 大堀相馬
513	磁器	皿	2区	F F8500 トレンチ	N8/0 灰白	透明釉(10Y8/1 灰白)		56		4	肥前
514	磁器	皿	2区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	96	46	25	5	在地
515	磁器	皿	2区	粗掘	5Y8/1 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	134	70	29.5	5	18C後 肥前
516	磁器	皿	2区	粗掘	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)			30.5	4	肥前 角皿
517	磁器	皿	2区	粗掘	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	84	38	23.5	4	19C 瀬戸美濃 型打
518	磁器	皿	2区	粗掘	N8/0 灰白	透明釉(5G Y8/1 灰白)	79	34	23	4	19C 瀬戸美濃 型打
519	磁器	皿	2区	粗掘	5Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白	95	52	24.5	4	19C 瀬戸美濃 型打
520	陶器	卸皿	2区	粗掘	5Y R6/6 橙	7.5Y R3/3 暗褐	84	47	27	7	在地
521	陶器	徳利	2区	粗掘	10Y R6/1 褐灰	透明釉(5G Y8/1 灰白)	26	180	268	5	在地 醬油徳利
522	陶器	乗褥	2区	粗掘	5Y6/1 灰	10Y R3/2 黒褐	40	28	25	4	
523	陶器	播鉢	2区	F F9194 G	2.5Y R5/4 におい赤褐	2.5Y R5/3 におい赤褐	(256)	(81)		10	関西系
524	陶器	播鉢	2区	粗掘	5Y5/1 灰			104		10	肥前
525	陶器	焼台	2区	粗掘	2.5Y5/2 暗灰黄		78				
526	陶器	焼台	2区	粗掘	5Y R5/3 におい赤褐		58		13		釉付着
527	瓦	軒平瓦	2区	粗掘	7.5Y R6/6 橙	10R4/2 灰赤				22	赤瓦
528	瓦	丸瓦	2区	F F8600 G	N5/0 灰	N3/0 暗灰				22	黒瓦
529	瓦質土器	火鉢か	2区	粗掘	10Y R6/2 灰黄褐	5Y3/1 オリーブ黒	380			11	
530	瓦質土器	五徳か	2区	粗掘	7.5Y R6/4 におい橙	10Y R1.7/1 黒	400	290	114	20	
531	石製品	不明	2区	粗掘			304			40	
532	石製品	砥石	2区	X O	10Y5/1 灰			28(幅)		33	風間 中砥
533	石製品	砥石	2区	F F8599 G	10Y R6/2 灰黄褐					13	風間 中砥
534	石製品	砥石	2区	F F8895 G	10Y R4/3 におい黄橙			40(幅)			中砥
535	石製品	硯	2区	F F8699 4層				69(幅)		14	
536	金属製品	釘	2区	F F8500 G トレンチ			90(長)	4(幅)		3	
537	金属製品	釘	2区	F F8598 G			71(長)	5.5(幅)		5.5	
538	金属製品	釘	2区	攪乱			5(長)	3.5(幅)		3	
539	金属製品	煙管	2区	F F8599 G				8(幅)			
540	金属製品	装飾金具	2区	粗掘						3	
541	金属製品	銭	2区	X O			27(縦)	27(横)		1	文久永宝
542	金属製品	銭	2区	X O			22(縦)	22(横)		1	寛永通宝
543	金属製品	銭	2区	粗掘			27(縦)	27(横)			鉄銭

